

昭和十年

小間物化粧品鑑

附藥品·雜貨



肌のアレ止め・日ヤケ止め・化粧下として

クラブ美身クリーム



常に化粧品界の
最前線に立つ……

クラブ乳液・美の素石鹼

コールドクリーム・刷白粉

頬紅・口紅・ポマード

クラブキニーネから……

新しい時代の化粧と

流行の美が生れます



近代的明朗美をつくる

クラブは き白粉

ブラク磨歯

連鎖整髮料·千代田

日本最高基準品

千代田シヤンパー
 千代田トニツク
 純椿千代田香油
 千代田ポマド



千代田整髮料本舖
 株式會社山岸商店

東京市豐島區池袋一丁目七八六·電話大(86)三三〇番

昭和十年

小間物化粧品乘鑑

附藥品・雜貨



序

近代産業の線上に重要部門を占め、居然たるその勢力とともに、業界日本^本の建設に邁進しつゝあるわが小間物化粧品業界は、近代機構を取りてより既に半世紀の歴史を有するにも拘らず、文献の以て倚る可きもの寔に寥寥。爲めにその複雑多岐なる生産、販賣戦線の姿を明確に把握することの容易ならざるは、業界人の久しく遺憾とした處であつた。

機關新聞としての使命を業界に擔ふわが社は、多年その缺を補はむが爲めに、慘澹たる苦心をひそめ、具さにその計畫を進めつゝある中、昨年漸くその機會を得て實現を見るに至つたのは、即ち此の年鑑である。年鑑の目的とする處は、言ふまでもなく、明確鮮明なる業界の縮圖として、業界人をして業界の過去に稽へ、現有勢力に則らしめ、以て市場の活躍に備へしめむとするにある。然かも是れを編むことの至難なる、固より一朝一夕にしてよくす可きの業ではない。

今十年版は、悉くその内容を改め、その材料を新にして更らに加ふるに領域を藥品、雜貨に擴め、正にその一步を進め得たるを信ずるも、尙未だ業界の期待に副はざる處多かる可きを虞る。切に今後に於ける業界の協力後援に待つてその完成を期せむとする所以である。

昭和十年一月一日

東京小間物化粧品商報社

緒言

一、昭和十年版の業界年鑑は、その題名を改め「小間物化粧品年鑑」と稱することにした。

一、十年版年鑑の内容は、悉く新規に材料を蒐集したるものにして、前年版より踏襲したものは、たゞ單に法令法規中の一部、及び届書々式の類のみ、他は一切、新しく調査を仕直したのみである。

一、十年版年鑑の體系は、昨年分とその機構を同じうするも、今年からは新たに「藥品・藥業」「荒物・雜貨」の二部門を加へ、都合左の十五項目とした。

業界一年史 組合團體 商品商店
生産販賣 廣告宣傳 海外業界
博覽會展覽會 清遊視察 服飾流行
法規法令 資料統計 人事人物
藥品藥業 荒物雜貨 業界便覽

一、各部門の配列は必ずしも、前年の通りではなく、またその部門中からも他の部門へ移したるものもある。例へば

『出張員一覽』は「人事人物」から「組合團體」へ
『會議所議員一覽』は「人事人物」から「組合團體」へ

『昭和九年特賣一覽』は「清遊旅行」から「生産販賣」へ

以上の如くである。尙「商品史」中の「荒物、雜貨、薰香界」に關する分は、新たに設けた「荒物雜貨」の部へ移した。然し「業界諸團體」中に於ける荒物關係團體だけを一纏めにしてこれも「荒物雜貨」中へ移す可きであつたにも拘らず、これは分割し得なかつた。

一、今年新たに設けたものとしては、「全國組合一年史」がある。これは簡單ながら各地組合に對してその報告を求めたものである。それから「業界の生産販賣制度」「海外進出地圖」「全國旅館案内」その他がある。前年にあつて今年これを採用しなかつたもの主なるは如左。

「統制値段一覽」

「賣藥部外品取締規則各府縣施行細則」

「營業收益稅」以下の各稅法

一、全國各地に於ける業界組合、商報社、商工會議所府縣衛生課、各個人商店等々に、照會を發してその回答を求めたるは左の通りである。その調査の方法及び基準。

A、「業界職員錄」

六大都市の著名同業店に照會してその報告を求めむ

B、「業界人名辭典」

全國主要都市の業界有力者、全商店の重役、支配人、部長級、東京組合員、各地商報主幹、幹部社員等五千名に對して照會した。尙、昨年登載したると雖も、今年の新規照會に對して回答なきものは掲載しない。

C、「工場一覽」

全國著名の製造本舖及び東京組合員、但、今年は職工使用數十名以上の工場に制限した。

D、「出張員一覽」

東京組合員中の一部份。

E、「全國組合一覽」

全國の各組合に直接照會を發するの外、各都市の商工會議所及び人口一萬以上の町役場に依頼して調査した。

F、「全國商業組合一覽」

商工省の調査に據る。

G、「業界の諸團體」

全國各地の組合及び商報社に委囑して調査したる

もの基準とした。

一、「賣藥部外品」は、警視廳及び他の五大都市の各府縣警察部に依頼するの外、直接同業者へ照會したる處、部外品に非ざる「化粧品」を報告されたものも尠ならず、その整理に多大の困難を感じたるも、かくする外にこの調査の方法は見出せなかつた。

一、印刷の工程上、相變らず苦心を要したものは統計表の組方である。随つてその入れ方の爲めに體裁を壞した處も尠あるまい。

一、「藥品藥業」及び「荒物雜貨」の部門は、今年初めて設置したものであるだけに、調査甚しく杜撰を極めたると、且つその爲めに多くの頁を割くことが出来なかつた爲め、勢ひその不完全を免かれなかつたことは慚愧に堪へない。

一、編纂上、昨年と全然その方針を一變したのは、人名、團體等の配列の基準である。これは昨年版には「いろは」別としたが、今後は「五十音順」を採用することにその原則を定め、尙、府縣の順序も、内務省慣用の行政区劃順に據らずして地理的標準に據ることに一定した。

一、調査期日の明記を要するものは、それらの項目に於いて明示してあるから、こゝには一々列挙しない。

一、「業界職員錄」「業界人名辭典」等々の期日に遅れた回答は、追補としてその末尾に附することにした。

一、編纂部からの照會及び調査依頼等に對してその回答を寄せ、資料を與へられたる多數の業界人及び業界の組合諸團體、商報社、並びに業界外に於ける内務省、商工省、大藏省、特許局、統計局、東京府市商工課、商工獎勵館、警視廳、各府縣衛生係、東京及び各地商工會議所、實業組合聯合會、東京日日新聞社、商店界社等々の甚大なる援助に對しては厚く感謝の意を表する。

小間物化粧品年鑑目次

序

緒言

業界一年史

昭和九年の業界回顧	一
同業組合の全国的強化運動	二
東京卸商業組合の解消問題	三
解消後の新團體	四
商權擁護運動	五
石鹼界の問題	五
風水禍の問題	七
三組合の聲明	八
化粧品課税問題	九
貴石關稅問題	九
鉛白禁止問題	一〇
滿洲關稅問題	一〇
滿鐵運賃問題	二二
組合・團體	二三
全國業界の鳥瞰圖	二三
全國組合の沿革現勢	二四
商業組合及工業組合府縣別一覽	二七
全國組合一年史	二八
昭和九年中設立の新しき團體	三三
業界の諸團體	三三
全國會議所議員一覽	三三
全國業界組合一覽	三三
組合役員選舉	三三
組合中心の諸問題	三三
業界關係全國商業組合一覽	三三

目次

商品・商店

全國業界機關新聞一覽	三三
商報社の一年	三三
輸出組合一覽	三三
輸出組合の沿革	三三
商品・商店	三七
昭和九年業界商品史	三七
化粧品石鹼界の趨勢	三六
多難の洗濯石鹼界	三六
白粉の趨勢	三六
齒磨界の一年	三六
クリーム界の回顧 1	三六
クリーム界の回顧 2	三六
ポマードの一年	三六
香水の傾向	三六
昭和九年の香油界	三六
化粧水の傾向	三六
シャンプーの發達	三六
香料界の一年	三六
婦人服飾品の傾向	三六
婦人頭飾品の一年	三六
貴金屬・裝身具	三六
洋裝雜貨の流行	三七
袋物界の回顧	三七
平穩な髻形界	三七
セルロイドの趨勢	三七
化粧品原料界	三七
昭和九年特賣一覽	三七
昭和九年新製品一覽	三七
地方出張員一覽	三七
値段改正一覽	三七

生産・販賣

商店一年史	三八
業界工場一覽	三八
各販賣團體の一年	三八
化粧品一齊検査の成績	三八
列國特許實用新案出願及登録	三八
皇室に關する文字の取締使用標準	三八
賣藥部外品一覽	三八
生産・販賣	三五
昭和九年の生産販賣界	三五
業界の機構解説	三五
業界の販賣制度	三五
化粧品小間物製造及販賣高(東京組合)	三五
化粧品製造及販賣高(大阪組合)	三五
石鹼製造數量及價格(東京石鹼組合)	三五
昭和七年ゴム製品生産販賣高(東京ゴム組合)	三五
鉛白の販賣一年延期	三五
東京市の業界品販賣線展望	三五
帝都市場の一年	三五
昭和九年度中販賣制度改正	三五
昭和九年度中販賣制度改正	三五
海外貿易・海外業界	三五
業界日本の海外進出	三五
歐米の業界大觀	三五
歐米の香粧品界	三五
海外主要商工會議所一覽	三五
世界の香粧品界	三五
世界の石鹼工業	三五
世界のゴム工業界	三五
米國清淨協會のアウトライン	三五
世界のセルロイド工業	三五
海外各地からの本邦品取引照會	三五
羅尼亞への業界輸出品許可制度	三五

五

ライプツヒ見本市の反響……………二四
 主要業界品貿易國別表……………二五
 業界品輸出入年表……………二六
 海外取引案内……………二六
 業界品輸出入月表……………二八
 米國に於ける化粧品消費量……………二八
 粉白粉消費量……………二八
 クリーム消費量……………二九
 薬店の化粧品販賣高……………二九
 化粧品の雑誌廣告費……………三〇
 米國化粧品會社新聞廣告費統計……………三〇
 クリーム及びローション雑誌廣告費……………三一
 世界に於ける有名化粧品及香料製造會社一覽……………三三
 各國對日貿易狀勢……………三五
 各國石鹼統計表……………二六
 各國石鹼生產高及消費高……………二六
 外國洗濯石鹼分析表……………二六
 外國雜誌一覽……………二六
 本邦石鹼輸出高表……………二七
 蚊取線香燐寸輸出高……………二七
 海外業界組合……………二七
 海外商品陳列館一覽……………二八
 商工省貿易通信員アドレス一覽……………二八
 外國行小間物化粧品運賃表……………三〇
 燐寸の對米輸出……………三〇
 中華民國業界品輸入稅率……………三〇
 重要輸出品に石鹼指定……………三一
 海外輸出品取扱回漕店一覽……………三一
 日本船の寄港する世界重要港……………三三
 滿洲の頁……………三三
 滿洲の全貌……………三三
 滿洲國業界品輸入稅率……………三四
 滿洲の產業界一瞥……………三四
 滿洲に於ける東京商品……………三六

滿洲の業界……………三六
 北滿の業界……………三七
 滿洲人の嗜好……………三八
 滿洲國主要國別輸出入額……………三九
 滿洲に於ける宣傳の種々相……………三九
 滿洲の小間物化粧品藥種雜貨商……………四〇
 東京業界品對滿輸出高……………四〇
 滿洲輸入組合……………四〇
 滿蒙輸出組合に關する資料……………四〇
 東京滿蒙輸出組合員……………四〇
 滿洲の貿易商……………四一
 滿洲華商……………四一
 關東州輸入業界品數量及價額國別表……………四一
 哈爾濱商陳列館一覽……………四一
 日滿電報の料金改正……………四一
 關東州滿鐵附屬地主要聲邑人口一覽表……………四一
 滿洲商標各國登錄數……………四一
 見本市の回顧……………四二
 博覽會に現はれたる業界品發達の跡……………四二
 昭和九年の博覽會展覽會及見本市……………四二
 博覽會一覽……………四二
 國際見本市覺書……………四三
 博覽會ニュース……………四三
 廣告界の回顧……………四五
 昭和九年の業界宣傳廣告界……………四五
 新聞廣告に於ける化粧品地位……………五七
 雜誌廣告に於ける化粧品傾向……………六一
 昭和九年の店舗改装傾向……………六三
 昭和九年に於ける各本舖廣告宣傳一覽……………六四
 A 愛用者に對するもの……………六四

博覽會・展覽會・見本市

廣告・宣傳

B 販賣店に對する廣告宣傳……………六六
 業界關係廣告團體……………六六
 昭和九年中業界品新聞廣告品種別行數表……………六六
 マネキン發達史……………六七
 懸賞又は景品附販賣の方法……………七二
 業界の著作・出版……………七四
 廣告及販賣研究の參考書……………七五
 宣傳廣告日記……………七六
 廣告用品材料店……………七九
 廣告物取締法施行細則……………八〇
 視察・清遊・旅行……………八一
 業界清遊の傾向……………八一
 清遊地方別表……………八二
 日本風景案内……………八三
 全國清遊地旅館案内……………八三
 團體の清遊視察……………八七
 清遊觀劇一覽……………八八
 旅行の相談……………九〇
 美容・服飾・流行……………九一
 昭和九年の流行界回顧……………九二
 昭和九年の美容を語る……………九四
 美容界の問題……………九六
 美容界の一年……………九六
 東京女子美容術組合一覽……………九六
 東都美容家一覽……………九七
 資料・統計……………九八
 業界品の歴史……………九八
 各業界品の工業的觀察……………一〇三
 世界各國の貿易調節施設……………一〇三
 石鹼の規格統一案成る……………一〇六
 特許出願登錄月計表……………一〇七

商標出願登録月計表……………三〇七
 實用新案出願登録月計表……………三〇八
 意匠出願登録月計表……………三〇八
 特許各府縣別出願登録月計表……………三〇九
 商標各府縣別出願登録月計表……………三一一
 實用新案府縣別出願登録月計表……………三一二
 意匠並類似意匠各府縣別出願登録月計表……………三二五

法規・法令

重要物産同業組合法……………三七
 重要物産同業組合法施行規則……………三二八
 重要物産同業組合法第十條の四第三項の規定に依る重要輸出品の種類……………三三一
 重要物産同業組合及同聯合會の取扱に關する件……………三三一
 同業組合準則……………三三三
 賣藥部外品取締規則……………三三三
 賣藥部外品取締規則各廳府縣別の施行細則……………三三四
 化粧品取締規則……………三三七
 懸賞抽籤販賣取締規則……………三三八
 毒物刷物營業取締規則……………三三〇
 御肖像に關する取締……………三三〇

人事・人物

業界職員録……………三三一
 業界人名辭典……………三三七
 業界公人私人……………三三九
 業界日記……………三三六

藥業・藥品

藥業界の領域擴大……………三三九
 賣藥の變遷史……………三三九
 藥業界の諸問題……………三三〇
 藥品貿易の現勢……………三三〇
 藥業界の一年……………三三一

目次

藥品關係業者系統一覽……………三三三
 小賣藥業界の現狀……………三三三
 東京・賣藥關係組合……………三三三
 大阪・藥業關係組合……………三三三
 藥業關係・團體一覽……………三三三
 各府縣藥劑師會……………三三四
 東京藥業組合役員一覽……………三三四
 藥品關係・官廳系統……………三三四
 藥業關係新聞社一覽……………三三五
 全國藥業者統計……………三三五
 藥品生產統計……………三三六
 藥品生產額……………三三六
 英國對日藥品類輸出入額……………三三六
 東京藥業組合價格協定品目……………三三六
 藥劑師登錄件數……………三三七
 東京府下學校藥劑師數……………三三七
 藥業關係諸屆書式……………三三七
 藥品標準用語……………三三九
 藥業間屋界の市場勢力……………三五〇
 賣藥請賣開業案内……………三五一
 產業別人口……………三五二
 化粧品宣傳文用語注意……………三五二

荒物・雜貨

荒物市場の展望……………三五三
 燐寸……………三五三
 線香……………三五四
 蚊取線香……………三五四
 布海苔……………三五四
 蠟燭……………三五五
 懷爐灰……………三五五
 東子……………三五五
 荒物業界の取引制度……………三五六
 荒物關係本舖一覽……………三五六

業界便覽

荒物業界の組合及團體……………三五七
 荒物界の諸團體……………三五八
 景氣から見た九年の荒物界……………三五九
 荒物間屋一覽……………三五九
 燐寸生產統計……………三六〇
 業界關係の屆書々式……………三六一
 商標登録出願心得……………三六一
 商品見本託送上の注意……………三六二
 愛用者懸賞外函の郵稅……………三六六
 內國郵便……………三六六
 郵便爲替……………三六八
 電信・電話……………三六八
 旅客航空輸送賃金……………三六九
 鐵道案内……………三六九
 東京小間物化粧品商報社案内……………三七〇

小間物化粧品 年鑑廣告索引

〔昭和十年版〕

特 殊 画

レイト化粧品 裏表紙
 クラブ化粧品 裏見返し
 ウテナ化粧品 裏見返し
 千代田整髮料 裏見返し裏

グ ラ ビ ア 画

頭飾品装身具雜貨卸商
 ライオン商磨
 御園化粧品
 花王石鹼
 庄慶香油
 オリヂナル化粧品
 石鹼製造
 アモンパバヤ
 ミツワ家庭薬
 ミツワ家庭薬
 アデカ石鹼
 墨染ボマード
 ヘチマコロン
 ライオン石鹼
 モンコロ洗粉
 ビタオロ化粧品
 井筒美髮料
 ランランボマード
 サンキスクリーム
 ループ化粧品
 香料
 メヌマボマード
 中外化粧品卸商
 オシドリ椿香油
 柳屋ボマード
 月の友五百番香水

平尾 贊平商店
 中山 太陽堂
 久保 政吉商店
 山岸 商店
 宮本 庄七商店
 小林 商店
 伊東胡蝶園
 花王石鹼本舖長瀬商會
 庄慶 商店
 安藤井筒堂
 芳誠舎石鹼製造所
 杉田 商店
 丸見屋 商店
 同
 旭電化工業株式会社
 小川 潮華園
 天野 源七商店
 ライオン石鹼株式会社
 モンコロ洗粉本舖
 松浦商店化粧品課
 井筒屋 香油店
 福田 號 商店
 サンキス化粧品本舖
 播金 商店
 宮坂 商店
 井田 京榮堂
 田中花玉堂
 井上太兵衛商店
 柳屋 本店
 月の友 化粧園

マスタークリーム
 カガシ化粧品
 千歳元結・三祐香
 香料
 ベジリン香水
 香料
 明色美顔化粧品
 ホマレ石鹼
 ゴサマーヘアネット
 かもじ・雷形問屋
 舶來かすがいかう
 ニード洗粉
 金 鶴 石 鹼
 化粧品問屋
 玉からす
 化粧品の製造
 ラブミー化粧品
 内外化粧品問屋
 イワヤシヤンブ
 アイデアル化粧品
 鶴之卵石鹼
 婦人小間物装身具卸商
 ぎんやなぎ洗粉
 函カツビー・クール化粧品
 化粧品問屋
 モダンシヤンブ
 小間物化粧品問屋
 婦人小間物問屋
 香料
 化粧パフ製造
 資生堂化粧品

化粧品問屋
 二葉ボマード
 婦人小間物問屋
 コールドリアン

普 通 画

尙美堂
 カガシ化粧品本舖
 三勇商店
 小川商店
 リーガル商會
 永廣堂
 桃谷順天館
 福島東洋舎
 ゴサマー本舖
 ヤマキ商會
 小椋商會
 田中善株式會社
 鶴屋商店
 松井號支店
 三好梅壽堂
 山田屋化粧品製造所
 奧住商店
 桑原生堂
 高橋東洋會
 淺井石鹼店
 萬新商會
 平松商會
 田端豐香園
 益屋商店
 森本支店
 森本支店
 曾田政治商店
 河合商店
 資生堂

山口豐永堂
 葵香本店
 飛川商店
 巴里院

忠勇ハブラシ
 セルロイド問屋
 鶴之卵ボマード
 化粧品石鹼問屋
 フリン白粉
 ラノリンコールドクリーム
 化粧品原料
 正清齒刷子小揚枝
 小柳スマート髮洗粉
 香料
 理容館化粧品
 ヤエツバキボマード
 シヤイン化粧品
 香料
 カイロ印ホワイトオイル
 タマゴシヤンブ
 小町紅コンバクト
 半煉の仁丹
 仁丹齒磨
 龜の子東子
 荒物海草乾物問屋
 石鹼化粧品問屋
 スチルマン・フレツタル
 石鹼容器製造
 ビウラ
 荒物問屋
 敷島香
 ヘルロイド雜貨問屋
 カンフォレット
 ウツマキ石鹼
 百万弗シヤンブ
 婚禮用頭飾品製造
 伊豆椿ボマード
 かのこ・手柄卸商
 マークリーム
 石鹼容器製造
 丸善ベーターム
 オチナイ櫛

井阪支店
 三浦督治商店
 高原芳高堂
 大山勇次郎商店
 磯野化學研究所
 クレオ研究所
 三和以字壽商店
 寺内喜榮堂
 柳佐吉商店
 長谷川藤太郎商店
 理容會館
 三友商會
 石塚福治商店
 早川市太郎商店
 同本舖
 美香園
 羽根田作兵衛商店
 森下博化粧品課
 同
 西尾正左衛門商店
 駒木銀三郎商店
 脇田盛眞堂
 河田商店
 井上小四郎本店
 啓芳堂
 津川安正堂
 荻村龜太郎商店
 飯塚芳次郎商店
 近磯商店
 木下商店
 時田商店頭飾部
 大觀彩芳園
 松尾合名會社
 守屋合名會社
 丸善株式會社
 オチナイ櫛本舖

亞鉛華	堺化學工業株式會社	丸竹兄弟商店	オリヤマ化粧品水	河合照香堂
すじらん後毛止	天野利助商店	ユニオン商店	あせ知らず	徳田商店
齒刷牙雜貨問屋	鳥飼商店	テーシー商會	かめぶし	沙見商店
キヨス石鹼	川野立志堂	山田進歩堂	久能木石鹼	久能木本店
小問物問屋	後町禎一商店	三共株式會社	香料	小林健次郎商店
洋品雜貨小問物製造	吉川伊三商店	松本伊兵衛商店	化粧品問屋	塚田合名會社
香料	篠崎四郎商店	白澤商店	バルナス洋髪みの	ヤマキ會社
相馬石鹼	相馬帝國社	ハリウッド美容室	金鶴香水	金鶴香水株式會社
ホーカー石鹼	ホーカー石鹼製造所	三原助九郎商店	小問物雜貨卸	中津屋本店
お染椿香油	井ノ内製油所	萬善商店	小問物問屋	中造玉初堂
サクラマルセル石鹼	サクラ石鹼製造所	早川定雄商店	線香問屋	鈴木アイロン製作所
化粧品問屋	柳下商店	佐藤精香舍	カーリングアイロン	中澤共盛堂
頭飾品雜貨卸	丸新	遠藤香料店	タカト髪洗粉	アサ啓商店
メザマン石鹼	大野金城堂	畑中庄九郎商店	丈長根掛	森末商店
貴金屬小問物卸	野澤屋商店	堺屋商店	握り止櫛	徳永保之助商店
洋裝飾品卸商	北村八郎商店	三美研究所	齒刷牙雜貨卸	堀田印刷所
ミモサシヤンブー	増澤化粧品部	小林安太郎商店	レットルペーパー	金井五郎兵衛
化粧品石鹼問屋	千本木彌八商店	今井商店	喫煙具一式	風間商店
六榮會	茂木化粧品合資會社	篠崎 ^{イニキ} 造株式會社	金壽小問物	伊庭屋
小問物雜貨卸商	杉田貞治商店	關口次朗商店	洋髮挾製造	伊庭屋
七曜會	木屋芳兵衛本店	上州屋商店	蠟	酒原市太郎商店
石鹼化粧品問屋	柳屋商會	中村本店	化粧品製造	林儀次商店
太陽印粉石鹼	ウエルス商會	木勢喜之助商店	化粧品製造	カオリノミセ
クモ印美髮料	油脂石鹼工業株式會社	武子花香堂	化粧品製造	ラモナー化粧品
バケツ印粉石鹼	村田繁治郎商店	金美堂本店	化粧品製造	高砂香料株式會社
内外化粧品卸	東洋美術工業所	成和商會	化粧品製造	尾崎精蘭園
化粧品用パフ製造	清水英一郎商店	山吉商會	化粧品製造	高橋謙治商店
セルロイド洋髮櫛製造	岡本信太郎商店	眞田佳一商店	化粧品製造	井田松太郎商店
コテイ化粧品	若松屋支店	池田暢一商店	化粧品製造	近藤善彦商店
頭飾品小問物問屋	大嶋屋本店	石井啓三郎商店	化粧品製造	林三郎商店
流行袋物卸商	三葉商會	村山勸商店	化粧品製造	丸治商店
クロバレーモンクリーム	奥山石鹼工場	小森敬三商店	化粧品製造	朝井清輔商店
松竹石鹼	鹽崎アダム園	柳澤恒吉商店	化粧品製造	宮佐商店
アダマまゆげみ錠	福井屋商店	星徳藏商店	化粧品製造	川原香油店
化粧品雜貨問屋	大橋大吉東京店	鈴木清一郎商店	化粧品製造	今西敦治商店
鼈甲小問物卸商	ゼネラル金屬製作所	三浦啓司商店	化粧品製造	洗光堂
化粧品容器製造			化粧品製造	十三屋櫛店
			化粧品製造	橋本硝子製作所
			化粧品製造	大和ゴム製作所

TRADE MARK



主要製品

- 指環部
- 婦人洋装服飾部
クリップ・パツクル・ベルト
腕環・ブローチ・ネックレス
- フランスダイヤ部
- 特選雜貨部
化粧容器・新文具
趣味の小物類・金屬雜貨
- 帶留部
- 髪飾品部

總て弊店 流通行 案研 究部 部の 創作の による

總て弊店 獨特 工專 製の出 による

總て他店 と趣を 異にす 特色あ る製 品

東京本店
 振替口座東京一〇一〇番
 電話二七〇二番
 東京都本橋區馬喰町三丁目

大阪本店
 振替口座大阪三三三番
 電話八三二番
 大阪府南區順慶町二丁目

宮本庄七商店

イラ

理想的齒磨の製出には、
純良なる原料



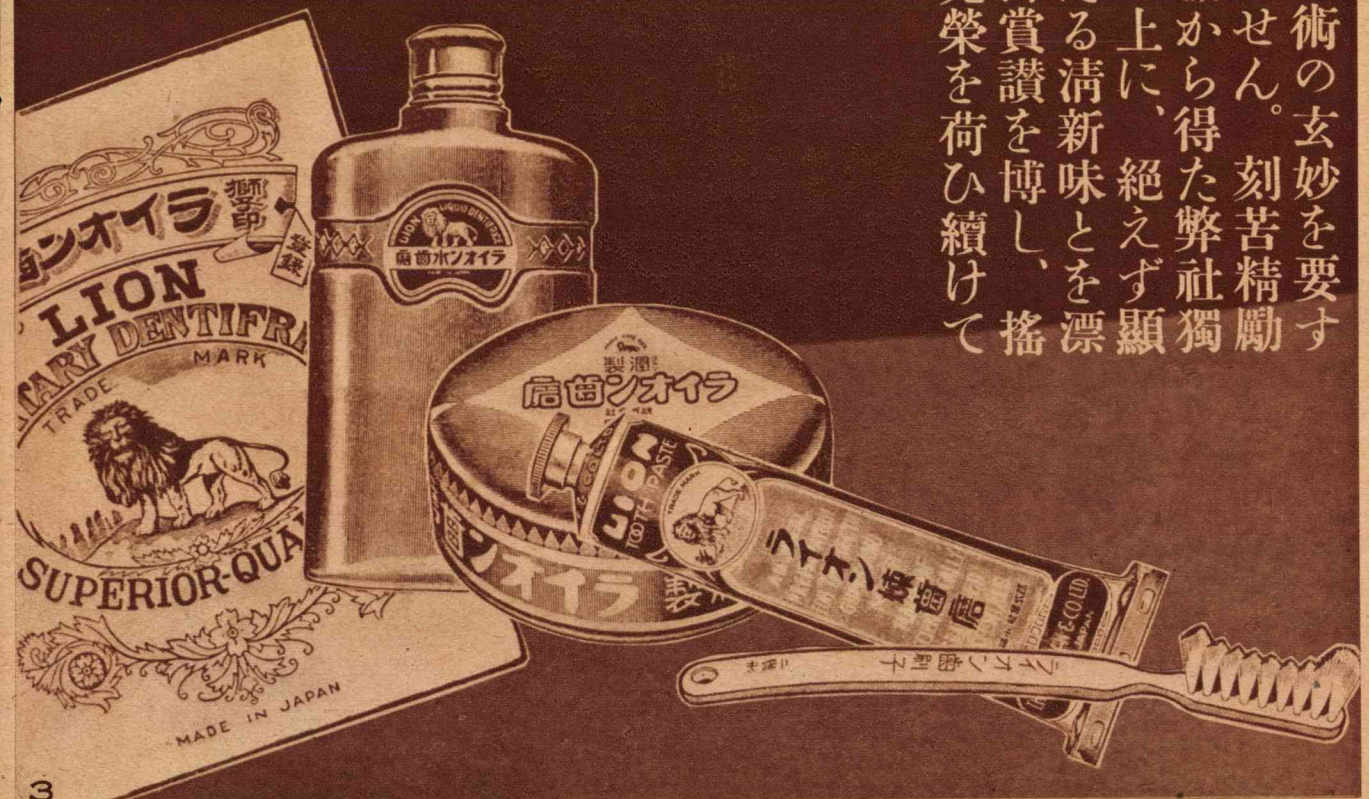
ライオン齒磨本鋪

株式會社 小林商店

東京・大阪・名古屋

オニ歯磨

の外に、洗煉された技術の玄妙を要するは申す迄も御座いませぬ。刻苦精勵三十有餘年に亘る體驗から得た弊社獨得の技術は、其製品の上に、絶えず顯著なる創造性と潑刺たる清新味とを漂はして、常に江湖の御賞讃を博し、搖ぎなき最優秀品たる光榮を荷ひ續けてをります。



進む！
進む！
品質卓絶の
一路！





私の生活の一つの歡び。
御園クレームで快く保てる愛の肌。
 片岡千恵蔵



輕装...
御園つほみ白粉・肌色・黄肌色で
 卒直に自然に現はす個性美！
 そこに味はひよき調和を見出します。
 水ノ江瀧子

御園白粉



明るさを求める近代生活には、**御園チタニウム白粉**
 での明朗美こそユニツクな美しさです。
 市川春代



スクリン化粧から、ステーヂ化粧に遷つてから切實に必
 要を感じ出した**白粉下御園のつほみ**。
 夏川静江



いつも私は**白粉下御園のつほみ**を引いて艶麗な化粧美
 を誇るのです。
 飯塚敏子

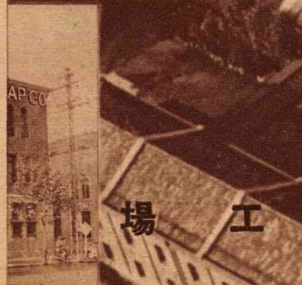
花王石鹼株式

長瀬商會は良品廉價を信條とし
 創業以來四十餘年製品に眞心を
 籠めることに終始一貫して参り
 ました 花王石鹼を初め各種の
 製品は總てその良心的な所産に
 外なりません 昭和九年油脂新
 工場の擴張と共に石鹼工場とし



花王石鹼株式會社 長瀬商會

本支出張工
 店所所場
 東大朝滿東
 京阪鮮洲京
 市市京國市
 日西城新向
 本區府京島
 橋立永清區
 區賣樂和吾
 馬堀町街端
 喰北二一町
 町通丁一東
 二丁目九一
 丁丁五の丁
 目目七A目



會商瀨長社會

て東洋第一の規模と設備を愈々
 充實 全機能を發揮し 大量生
 産の實とソープラインの完璧と
 を期してをります 茲に永年の
 御顧脊を感謝すると共に何卒今
 後共宜敷御指導御聲援を賜はり
 度く願上奉ります



製 椿 芳

香 佳 絶

庄 慶

香

油



庄 慶 ポ マー ド
 シ ョー ケ イ ク リー ム
 庄 慶 シ ャ ン プ
 シ ョー ケ イ チ ャ ッ ク
 庄 慶 洋 髪 美 粧 香 油
 庄 慶 養 毛 ト ニ ッ ク



店 商 慶 庄 會 社 式 舖 本

幌 札 ・ 臺 仙 ・ 京 東

業界一年史

昭和九年の業界回顧

昭和九年の業界に、回顧の一瞥を與ふるの時、眞つ先にその指を屈しなければならぬのは、東京化粧品商業組合の解消問題であらう。蓋し此の問題こそは複雑多岐な一踏を辿つた此の年の業界に、最も重大な波瀾を残して行つたばかりではなく、中小商工業者の生きる唯一の道として信ぜられた商業組合の存在に、解き難き多くの疑問を投げかけた問題であつたからである。即ち價格統制の大業、遂ひに成らずして組合解消の非運に遭遇したる主たるその原因が、もと是れ第九條の發動に期待し得ざるに至つたが爲めであるに徴すれば、少くとも統制事業に對する場合、商業組合法の無力、頼むに足らざることが知らるゝと同時に、帝都に於ける卸業者の嘗めたる此の苦盃が、業界今後の動向に、何を齎らずかは、注意に値ひする處であらう。

化粧品課税問題は、此年に於いてもまた業界を脅かすこと夥しきものがあつた。岡田内閣の出現とともに高橋財政をそのまゝに踏襲せる藤井蔵相は、その豫算編成に際して一度び軍部の強硬なる要求に遇ふや、遂ひに就任當初の公約を擲ち、増税斷行の決意を抱くに至つた。而して幾多の紆餘曲折を経たるの後、閣議もまた是れを承認するに至つたのである。然しその臨時利得税の中には業界品を含まざること、後に明白になつたけれども、一時は増税の聲とともに化粧品もまた課税の對象物たる可しとの杞憂が、可成り強く業界を支配したことは疑ひない。然しながらその一面には社會情勢の變化に伴ひ、課税問題に對する業界人の心理的變化もまた見免がすことの出来ない事實であらう。

更らに滿洲國關稅問題に對しては、前年來の懸案でもあり、且つその全面的改正の期近しとの情報を得たる東京、大阪兩組合に於いては、此の機逸す可からずとして起ち、現地工作の必要からその代表を滿洲に派遣することに決したるも、何れも待機の姿勢のまゝ年末となつたが、業界の滿洲進出を阻む關稅障壁の撤廢に對しては、切にその努力に期待せざるを得ない。その他業界關係の問題としては、貴石關稅の改正運動に次ぐに同業組合の強化運動の如きもまた此の年に於ける重要問題として、業界よりも協力、若くはその應援にそれぞれ努力を與へた處であつた。就中大阪に開かれた同業組合の全國大會の如きは、業界勢力が、その指導中心となれるかの感があつたのは、蓋し會心の極みであつたと言へやう。

昭和九年はその一年を通じて天災的事變多く、函館の大火、北陸の水害、關西の風水禍、東北の冷害等々、業界としても直接、間接の損害多きを免かれず、消費方面の疲弊は販賣界にも尠からざる打撃を與へたことと思はれる。關西の風水禍に於いては濡れ荷引換問題等をも惹起するに至つた。然かも年迫るに隨ひ、販賣市場に於ける無統制状態はいよゝゝその深刻を加へ、何處までも多難に終始した一年ではあつた。然し光りには既に前にある。禍ひの九年を送つて福ひの十年を迎へたのである。此の年の業界をしてより多幸ならしむると否とは、一に繫つて全業界の協力にあり、努力にあることと言ふまでもあるまい。

例言

一、「業界一年史」は、過去一年間に起れる業界の諸問題中、その主要なるもののみを問題別に取扱ひ、以て業界の趨勢、動向を知るに備へむとしたものである。

二、過去一年と言ふは、九年版年鑑以後、即ち昭和八年十二月一日より同九年十一月三十日に至る間を指すものである。

三、問題は原則として總て全業界的のもののみに限れるも、業界に關係ありと思惟せる一般的問題或は地方的問題にして必要ありと認めたるものは、之れを採録することにした。

四、「業界一年史」の材料は、主として全国各地の商報に據りたるも、業界外の問題に關しては、東西の日刊新聞に求め、或は關係各方面の材料によつて之れを補足するに努めた點も尠くはない。

五、前年よりの繼續的問題に就いては、多少その經過を明らかにするに努めたるも、若しそれその詳細に至つては九年版の「業界年鑑」を参照せられ度い。

同業組合の全

國的強化運動

同業組合の強化運動は、昭和九年に於いて一層その熾烈を極め、輿論の力は遂に最も強大なる運動形態を以つて現はるゝに至つた。即ち十一月四・五日の兩日、大阪に開かれたる同業組合全國大會がそれである。同業組合の強化運動とは抑も何を指すものか、由來その團結力に乏しといはるゝ商工業者を驅つて全國的大衆運動にまで進出せしめた動因は、果して奈

邊にあるか。それを説くには少なくともわが國に於ける經濟界の情勢、並びにその機構、及び商工政策にも言及するの要あるけれども、然し端的にこれを表現すれば、資本主義日本の跋扈に歸することが出来るであらう。勿論非常意識の重壓もあり、農村の疲弊による購買力の減退もその近因をなして居るには相違あるまいけれども、資本の對立による競争の激化は、中小商工業者をして今日の窮狀に陥らしめた最大の原因といふことが出来るであらう。

然るに彼等中小商工業者に許されたる唯一の團結、同業組合の組織力には甚だ疑はしいものがあり、例へば彼等の窮狀を救ふ何等の方策をも與へられないばかりではなく、權益擁護の爲めに圖るとしても、動もすれば法律的に甚だ無力を感ずることが多い。それは無論重要物産同業組合法の不備を意味するものであるにも拘らず、これが監督指導の立場にある政府當局は、何等の考慮をもめぐらさずとせず、小賣商店の巨款といふも、低利資金の融通といふも、畢竟懸聲の外の何物でもない。全國の組合が相呼應して必死その運動に努めた次官通牒撤廢の如きも、僅かに新次官通牒を以つて一時を糊塗せるが如く、中小商工業者彼等自身の手を以つてしては、何一つ闘ひ奪ることが能はなかつたと言ふのが、今日に於ける同業組合の姿である。然かも政府は、商業組合及び工業組合にのみ厚くして同業組合に對しては、殆どその存在を無視するが如き態度に出づるは、畢竟時局匡救の對症療法としては商業組合に如くはなしとする過信に基づくものに外ならざる可しと雖も、此の誤謬が却つて同業組合の強化運動に刺撃を與へたことは、紛れもない事實であつた。

大阪中の島中央公會堂にその氣勢を擧げた全國同業組合大會は、中山太一氏をその理事長とする大阪商工同業組合聯盟主催の下に、全国各地より一千四百の代表者參加、先づその更生、強化を策するとともに組合

法の改正促進に對する宣言を發表した。

宣言

邦家産業界の現狀に鑑み、われ等全國商工業關係同業組合一同は、本大會を機とし益々その結束を固め、機能發揮に協力するとともに政府當局に對し現行法規の圓滑なる運用並びに關係組合法の適當なる改正斷行を要望して官民一致、産業報國の大目的達成に邁進せむことを期す

右宣言す

次に、參加各組合より提出の議案を委員會に附して討議を行ひ、十有八項に亘る決議事項を決定、これを政府當局に建議することに定め、主催地大阪外二府三縣、三十名の實行委員を擧げ、中山太一氏を委員長として今後に於ける一切の行動に當らしめることに一決最後に左の決議を可決した。

決議

吾人は全國同業組合大會の宣言、決議事項の實現に協力して商工立國の國是に資せむことを期す

一、商工關係組合の根本方策確立の件

同業組合、商業組合、工業組合、輸出組合の各組合は現在に於いて對立的の弊に陥り之れが機能を失ふ現狀に鑑み、宜しく同業組合を母體として緊密なる關係を保持し、相互協力の下に機能を發揮し、完全なる統制力を具備せしむるやう現行法規の適當なる運用を希望するとともに必要に應じ、之れに伴ふ關係組合法規の改正を要望す。

二、現行法規改正並に運用に關する件

一、同業組合法第四條を改正し同業組合設置區内に於いて組合員と同一の業を營む者は、組合より通知に依り當然組合員となる旨規定し、且組合設置の地域内に於いて營業所を置かざるものと雖も、その地區内に於いて組合員と同一の業を營むものは、當該組合の統制に服すべき旨規定せられ度し

二、同業組合法第四條但書を削除すること

三、行政區域の變更に伴ふ地區の變更に關し重要物産同業組合法施行規則第二十一條第二項に左の但書を加

ふること

但し行政區域の變更に伴ふ地區の變更に就いては編入又は削除せらるべき區域に屬する組合員たるべき者、又は組合員の同意を要せず
四、價格協定の認可に際し商工省への打合せを廢し名實ともに地方長官に一任せられたること
五、同業組合の検査權を尊重し検査を統一せらるるやう要望すること

一、重要物産同業組合法第十條の次に左の一條を規定すること
産業若くは營業上の弊害を豫防し、又は矯正する爲特に必要と認むるときは、行政官廳は同業組合に對し、検査その他必要な取締若くは制限を命ずることを得
二、工業組合法第八條、商業組合法第九條に左の但書を附すること
但し同業組合に於いて當該商品に對し検査その他統制規定ある場合、その他の組合員に對しては此の限にあらす

三、輸出組合法第九條に左の但書を附すること
同業組合に於いて検査規定ある場合商品検査に限りその組合員に對しては此の限りにあらす
六、同業組合法第十條第二項を獨立條項とし趣旨を明確ならしむること
七、同業組合の經費及過怠金の徴收は國稅徵收法に準據し得る規定を設くること
八、同業組合法中に組合員間の商事紛議を調停する權能の附與條項を設くること

九、同業組合に生産統制權を賦與すること
一〇、主務省及監督官廳に於いて同業組合の地域内に於ける業界生産統計を完全ならしむべき方途に付考究せられたること
一一、工業組合に附與する工業の利益偏重的統制は之れを是正せられたること
一二、同業組合の設置ある地域に於ける商業組合、工業組合の構成分子たる業者の資格の有無に付地方官廳は當該同業組合に諮問せられたること
一三、同業組合の設置認可を容易ならしむること
一四、官公署に對する改廢業届出書類は總べて同業組

合を經由するやうその取扱手續を改正せられたること

一五、同業組合の爲本省並びに地方廳に於いて専任の監督官を設けられたること
一六、同業組合に於いて行ふ組合員の福利増進に對する共同施設に付特別の保護を與へられたること
一七、組合事業に對し國庫補助金の交付を要望すること

一八、特許局に於ける新たな特許、實用新案、商標、意匠の登録をなすに際し公知公用に屬するものなりや否や、若くは既得權者の利益を侵害すべき危険ありや否やに付明白なるものの外、當該關係事業に關する同業組合の全國聯合會ある場合は、該聯合會に、然らざる場合は重要關係地の同業組合に諮問して意見を徴する制度とせられ度し、又若し右の制度不可能なる場合は商事調停法の商事調停委員の例に倣ひ、當業者より適任者を選定し委員に擧げその意見を徴することとせられたること

此の年に於ける同業組合強化運動の記録としては、日本實業組合聯合會の動きをも忘れてはならない。即ち日本實業聯合會は二月二十一日、定時組合を開催してその決議により「重要物産同業組合法第十二條第二項を獨立條文とする改正法律案を議會に提案せられむことを望む」陳情書及び「商業組合法中第九條の發動を組合員外のものにも適用せよ」との建議書を各關係當局に提出せるをはじめ、全國十有六の實業組合聯合會に諮問案を發して、その回答を取纏め、本格的救済案の確立に努めた。

東京卸商業組合の解消問題

「全部の同業をその傘下にあつめ、全部の業界をその統制下に置く」

此の意氣、此の氣魄、此の理想の下に、全國業界に率先してその營業統制を全部の業界に布いた東京化粧卸商業組合である。然かもその價格統制が實施せられてより、いまだ僅かに一年を待たずして早くもその統制陣に一大異變を生ずるともに、組合の機能停止を見るの己むなきに至るや、遂ひにその總會が組合の解消を決議するに至つたのは、洵に己むを得ざる事情によるとは言ひながらも、そのスタートの餘りに壯であつただけに、その成否に多大の關心を持つてゐた業界、並びに關係各方面に深刻な衝動を與へたのは、言ふまでもあるまい。

先驅者の行く可き道は、常に荊棘の道であるとは言ひながらも、千辛撓ゆまず、萬難屈せず、以つて取引の合理化、營業の正常化に必死の努力を誓ひ、産業日本の建直しに一路邁進を期した卸商業組合が、その大きな期待の前に、餘りにも脆き崩壊のあとを辿つたのは、そも／＼何に原因するか、その由つて來る處を知るには、經過の一般を詳かにするの捷きに如くはあるまい。

昭和八年九月二十日、協定に參加せる十七本舖の製品に對して統制を布くや、全部の同業緊張、業界の黎明、漸く至れるかを思はしめた。而して二百有餘の全組合員が互ひに相戒めて統制に服しつゝあつたにも拘らず、濫賣小賣店の系統調査から端なくも二三の違反者が發見された。即ち組合では同年十一月十七日組合の統制品を統制値段以下で濫賣する小賣業者へ統制品の供給を爲す組合員は違約行爲と認む。

以上の緊急通牒を一般組合員に發して濫賣小賣店への糧道を絶ち、業界の肅正を圖るとともに、嚴重な制裁を科することとなつた。而して越えて十九日には更に左の如き指令が發せられた。

一、定款第六十八條の違約處分を斷行した場合でも、その處分は公表しない方針であつた、然るに

今後は初犯者と雖も、假籍なく過怠金徴収の上、これを公表すること。

二、統制品の現金取引に於いては取引先商店、品名、単價、數量、金額、取引月日を明記したる傳票を發行、正本を取引先へ、副本を保存すること。

組合首脳部では統制力の強化を圖る可く、あらゆる努力をその爲めに試み、情の重きものに對しては遂ひに制裁權の即時發動によりて取引停止の處分に附する等、取締りのいよ／＼峻嚴を極むるに隨ひ、一方、濫賣に味を占めたる不正業者は、法網を滑ることすまます巧妙を得る能はざるが爲めに、如何とも策の施しやうがなく、轉、統制の難きを思はしむること頻りであつた。かうなると首脳部必死の工作も、容易にその効なく、不正業者の跳梁は目を逐うて傍若無人を極め、彼等の黒き手が次第に全部の業界を荒しまくるに及び、統制規定の下、嚴としてその正道を守りつゝある組合員をして、脅威を感じしめ、遂ひに手も足も出ないと言つたやうな状態に陥らしむるに至つた。是に於いてか問題が、とう／＼組合の存廢が議せられるまでに發展した。

昭和九年六月四日、最初にして最後の組合總會が、上野の精養軒に開かれた。今や存廢の岐路に立つ組合の運命は、果して何うなるか、會するもの二百。非常な緊張裡に、神保理事長開會を宣するや、此の日、監督官廳たる東京府より臨席せる小笠事務官登壇、劈頭一場の訓辭を與へ、業界の正常なる發展は、同業者の協力にのみよる、諸君は須らく獨自の見解によつて冷靜なる判断を愈らず、今日及び明日の業界の爲めに考へ、慎重に善處せよと力説してその反省を求めた。蓋し東京府としては第一次監督の地位にある關係上、わけてもお膝下の組合が有終の美を齊す能はずして解散するに於いては、成長途上にある商業組合の發達にも影響す可しといふ、商工省の意も多分に動いたものと

思はしく、その前から組合首脳部に對して、屢々忠言を試み、その善處を要望されたのであつたけれども、然し大勢は如何ともし難く、その豫備工作も、遂ひに功を奏するに至らずして、最後の幕切れとなつた。

即ち、此の日の第四號議案「組合の存廢に關する根本方針決定の件」が上提されるや、満場寂として一語なく、息詰まるが如き數分の沈黙は、異常なる重壓感とともに名狀し難き全員の心理状態を物語るもの、如く、解消必至の狀態の面前には、最早可否の討議を要せざるまでに緊迫せる空氣が漂ふかに思はれたが、議長よりこの賛否を満場に問ふこと再三にして、僅かに「異議なし」の聲あり、議長の悲痛なる解散宣告とともに、わが東京化粧品卸商業組合には、遂ひにその終焉の日が來たのであつた。

「願れば昭和八年二月二十三日、全都の化粧品卸業者が、燃ゆるが如き希望と、努力によつて結成せられた帝都の卸商業組合は、價格の協定統制を實現することによつて業界の正しき繁榮を招来す可しといふ理想の下に、大きな期待を懸けられたにも拘らず、同年九月二十日、眞に業界の歴史的事業と言はれた統制の實施後、僅かに十ヶ月に滿たすに短命な、餘りにも短命な一生を終つたのは、全く別項の理由に基づくものであるが、それは昔に獨り帝都業界の悲しむべき出来ごとたるのみならず、實に全業界に残された重大な課題として考究する可き緊要切實な問題といふ可きであらう。」

當時のわが商報は、かく結論をつけてその報道を結び、統制の大業、遂ひに成らなかつた理由として、神保理事長より説明されたる第四號議案の提案理由を加へて居る。その要旨に曰く

わが卸商業組合の生命的事業である營業統制に就いては、組合機關の一切を動員して眞に晝夜兼行、不斷の努力を傾注して來たにも拘らず、今日の如き情勢を見るに至つたことは、吾々役員としても、深く遺憾に存する次第であるが、今日までの苦き經驗を顧みると、この理由として左の諸點を擧げること

が出來ると思ふ。

一、もと／＼多數の本舖が全國の市場を指して供給競争を續けて居り、その生産に於いては自由放任となつて居る化粧品業界に於いて、即ちその源を放任しながら、中流に於いて統制を試みむとすることは、非常に強力なる官權の援助でもあるに非ざる限りは實行不可能である。

二、然るに現行商業組合法は任意加入制であるから、組合區域内でも、組合員以外の同業者が濫賣をしても、組合の統制力は及ばず、商業組合法第九條による監督官廳の命令權發動も、現業の寶刀として妄りに扱いて貰はれないと言ふ現状では、見ず／＼その實害を傍觀するの外はない。

三、違約行爲の方法が餘りに複雑多岐に亘り、隱蔽に易く、摘發に難く、脱法行爲の巧みなものが跳梁する爲めに、正業者は漸次顧客を蠶食せらるゝの非運に陥りつゝあり、然かもこれが調査の徹底を期することは、限りある經費と努力とを以てしては、到底堪へ得る處ではない。

解消後の新團體

帝都の化粧品卸業界は、卸商業組合の解消によつて營にその統制陣營が崩れたのみではない。統制陣營の崩壊とともに卸、問屋業者の聯絡を保つ組織線が、全くばらばら／＼に干切られて了つたのである。隨つて化粧品卸商同盟會以來持續せられ來つた處の大同團結も、遂ひにその尊き歴史を失ふの已むなきに至つたのである。卸業界は正に混戦、亂戰の狀態である、其處に残されたものはたゞ不安の外のものでもない。遽かに失はれたるその業界機構に對して、最も不便を感じたものは何人であつたか、それは勿論卸、問屋業者そのものであつた。互ひに離れて見ると、第一に業界全體の情勢を把握するに困難である。隨つてその營業方針の立方にも尠なからざる支障を感ずる。本舖、小賣兩者の間に立つ配給機關をして、何時までも無統制の狀

態にあらしめること、實に同業者の權益擁護のためのみならず、全業界の信用に對しても、不利益であると言ふことが、痛感せらるゝに至つた。

其處へ現れたのは、東京化粧品卸商研究會の設立問題であつた。昭和九年七月二十日、同業組合の事務所にかつたその創立協議會に参加したのは

田中吉兵衛氏 神保文太郎氏 金高良助氏 葉滿田芳兵衛氏 桑原啓造氏 千本木彌八氏 川野喜四郎氏 塚田合名會社 中原久太郎氏 脇田盛宣堂氏 福島郡雄氏 松浦嘉七氏 山口竹次郎氏 芹田林藏氏

以上の十六名であつた。桑原啓造氏、起つて團體組織に關してその趣意を述べ、金高良助氏の指名により、田中吉兵衛氏を推して議長とした。いよく協議會に入るや、滿場一致を以つてその設立に賛意を表した。續いて會則の制定、役員の選舉が行かれた。かくして立ちどころにその成立を見るに至つたのである。選ばれた幹部は

幹事長 金高良助氏
幹事 田中吉兵衛氏
同 葉滿田芳兵衛氏
同 桑原啓造氏
同 神保文太郎氏
同 千本木彌八氏

以上の如く、卸商業組合の解消後、四十餘日にして再び卸業者の團體が、帝都の業界に結成されたのである。然し此の新らしき研究會は、帝都卸業界の主力のみを以て會員とせる、言はゞ中樞機關であり、新會員の入會を決するにも、全會員の無記名投票によるといふ規約もある程であるから、その門戸は何人にも自由に開かれ難く見ざるけれども、然し行く／＼は卸業界の中堅を迎へてその擴大強化を圖るに相違あるまいから、商業組合の前身化粧品卸商同盟會の組織とや、その趣きを異にして居る點が、却つて統制ある團體としてその威力を發揮し得るであらうと見られる。何れに

せよ、商業組合解消の日、神保理事長が壇上から呼びかけた「商業組合は解消するとも、同業者間に結ばれた温たかい業界愛は解消するものではない」といふ、悲痛なその言葉が、かくも早く實現するに至つたのは業界の爲めに慶びとし度い。

商權擁護運動

「商權を護れ」の旗印を掲げつゝ、産業組合の排撃に必死となつて居る所謂反産運動は、昭和九年の劈頭、全國農村産業組合協會がその總會を東京に開催、三百名の各地代表をあつめて反産運動打倒の氣勢を擧げ、いよく／＼商工業者との正面衝突を辭せざるの態度が明白となるや、その挑戦に刺撃された全日本商權擁護聯盟では、即ちこれに對應して起ち、一月二十五日常任委員會を日本商工會議所に開いてその方略を定め、翌二十六日、時を移さずして貴衆兩院の關係議員二十名を東京會館に招待、反産運動に就いての説明を試み、更らに兩院に對して建議案を提出せるをけじめ、全國的の輿論を喚起するために、二月初旬より中旬にかけて全國四十三支部加盟の商工團體を動員して反産運動の徹底に努め、二月二十三日を期して全國支部代表者協議會を東京に開催、目的貫徹の爲めに積極的に邁進奮闘する處があつた。

商權擁護運動は、既に久しき歴史を有するけれども産業組合に對する反産運動の強化を圖るため、日本商工會議所を中心にして、全國の商工團體を叫合して全日本聯盟を結成したのは昭和八年十一月二十四日のことである。爾來大都市に在りては産業組合の爲めに狭撃せられたもの、ある小賣店救済の爲めに、その運動を續け來つたものであるが、政府の保護政策によりて今日の發達を見たる産業組合の基礎は、今や牢牢として抜く可からざるものがあり、背後には多數農民の支持がある

から、反産の目的を達するは蓋し前途遠慮と思はれる。日本商工會議所の依田主事け語る――。

「化粧品關係では、既に石鹼が全購聯の手で製造され配給されて居ります、品物の種類が限られて居る間は大きく脅威を感じませんが、これが全面的に擴げられて來ると、商工業者に興へる打撃は著しく大きなものとなります。産業組合は政府から低利資金の融通を受け、新らしく工場を設備する場合には、その設備に要する處の設備費や職員費用の半額は補助されるのでありますから、どし／＼事業を擴げて行くことは容易であります。それ故、そのやうな特典を廢止せよといふことを吾々は主張するのであります。購買組合では屢々景品附宣傳賣出しをやりますが、それなぞは純然たる商行爲であつて産業組合の埒外に踏出したものです。これ等も排撃の目標として絶えず運動の強化に努めて居ります。」

石鹼界の問題

A. 硬化油統制解消

石鹼界に於ける昭和九年もまた波瀾重疊を極めた一年であつた。就中、種々なる問題の醸し出されたその中に於いて、最も錯綜せる問題として、硬化油統制を繞る各種の工作であらう。今その混み入つた經過の荒筋を叙するに先立ち、結論から述べてかゝる。即ち昭和六年より向ふ三年間を一期と定め、重要産業統制法による統制組合として設立された日本硬化油同業會は、此の年九月を以つてその期限の満つるを待ち、爾後昭和十二年九月までの三年間、統制法より離脱して單に私的の協調機關として存續することに決定した。それに對しては商工省でも證議の上、その自發的離脱を認め、遂ひに是れを許容するに至つたので、過去三年間、統制法の適用下にあつた硬化油も、再び自主的統制の舊態に復するに至つたのである。然らば何

が硬化油の統制をして解消に導いたか、それは此の年二月二十八日、東京石鹼二十日會の名を以て廢せられた「硬化油製造業に關する統制協定の取消を要求す」といふ、長文の聲明書にその端を發して居る。二十日會は東京石鹼製造組合の有志より成る有力團體であるだけに、その聲明は全業界に可成りの反響を齎らしたものと見られる。而してその運動の目標としたのは何か、當時委員の一人はわれ等に語る

吾々の主張は統制法そのものに反對するのではなく、現在統制に参加してゐる硬化油業者が、吾々中小石鹼業者には統制値段で高價な原料を賣りつけて居るのに、一方兼業者は統制外の安價な原料によつて吾々の地盤を蠶食して來る。此の大資本家擁護の不合理なる統制の方法に反對して居るのである。統制を解消した結果の自由競争の下にあつて大資本に、中小石鹼業者が壓倒されて行くならば、それも已むを得ざることであるが、現在の如く大資本の石鹼業者に法の力を籍して、吾々中小石鹼業者を脅かすが如き統制には、飽くまで反對せざるを得ない。商工省當局をして言はしむれば、先づ工業組合を作つて大資本家に當り、然る後統制法第三條の適用を求めるのが順序であるとするだらうが、石鹼特に化粧石鹼界に於いて工業組合を作ること、昨年の洗濯石鹼統制の失敗に鑑みても、實現不可能なことと吾々としても、工業組合を作る意志はなく、統制解消によつて石鹼界を自由競争の下に置くことを主張する――

その意嚮以て知る可しである。二十日會の運動は商工省への陳情に及び、更らに委員として保々、杉ノ原兩氏を西下せしめ、名古屋、大阪の同業者を説かしめた處、名古屋側は即座に参加合流することに決したるも、大阪側は「いまだ東京程、石鹼生地の進出を見ざる爲め、化粧石鹼業者が硬化油統制による兼業者の重壓を感じ居らず、且つ統制解消によりて硬化油單業者の石鹼界進出ともならば、却つて兼業者の増加を見るの虞れあり」との理由の下に、容易に同ぜず、寧ろ東

京にも石鹼工業組合を設立するを急務とすべしとの議論もあり、一時意見の對立を見たるも、その後大阪側的情勢にも變化あり、四月七日、大阪石鹼工業組合の總會席上

硬化油統制の缺陷を矯正し併せて石鹼兼營問題の解決を期す、若し成らざれば硬化油統制の解消を期す

以上の如き決議を見るに至つた。かくして四月二十四日の熱海に於ける全國石鹼製造業聯合會第九回大會となるや、東京、名古屋の兩組合より各個に提案せる統制解消の議題を中心に、意見を闘はしたる後「不合理なる硬化油統制の解消を期す」といふ、九州組合よりの動議成立を見るに至つて此の問題は、滿場一致を以て可決した。

實に以上の如き経緯を有せる硬化油統制解消問題であつた。それが硬化油業者を自身自身が、自から統制法離脱の一策に出でたるに就いては、種々の觀測が行はれ居るも、畢竟、統制法による統制組合設立の當初期待せるものと、現實の結果については聊か異なるものあり、この統制外に表はれたる二三のアウトサイダーについては、何等の拘束力なく、法的制約は加盟業者をして自縛自縛の結果ともなり、これによるの利益は漸次喪失されつゝあるの觀ある處へ、中小石鹼業者側の解消運動もその刺激となつて、此の擧に出でたるものと見られる。然して今後の統制は、共販會社を中心として、製産制限等の比率問題には一切觸れず、たゞ價格のみの協定を行ふこととなつたので、各單業者はいづれも、石鹼兼業の計畫をすゝめ、兼業者は、更らに石鹼部を擴張して、硬化油の自給自足を目指すに至つた。故に今春以後の洗濯石鹼界は非常なる混戦を演ずべく、その動向こそは注意に値ひする處であらう。一方、二十日會を中心とする東京の石鹼業者は、硬化油同業會の解消により、その今春來の目的は達した

るかの如くに、見えるもの、硬化油統制解消の原因は全く他に出でたるものであり、共販會社による大資本トラストは依然として存在するので、これが狀勢を見越して先づ七月、四十名の参加者を得て、東京石鹼購買組合を設立した。而して續いてこれが強力化を期して、工業組合を設立すべく準備をすゝめつゝあつたが、これが中心となるべき大會社側が、實際に工業組合の必要を感じざるために、再在年末に及び、一時その前途を危ぶまれたが、花王、ミツワ、合同、旭電

スマトラ東海岸州の輸入本邦品 (單位語)

品目單位	一九三二年				一九三三年			
	本邦より輸入		當州總輸入		本邦より輸入		當州總輸入	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
化粧石鹼 疋	—	—	60.766	50.002	30.748	7.677	112.698	61.156
洗濯石鹼 //	—	—	408.352	85.064	54.376	4.909	450.593	81.874
賣藥類 //	—	—	136.952	197.842	2.632	5.054	160.324	203.646
煉乳 //	—	—	1,287.688	578.438	6.425	2.458	1,229.734	475.857

スマトラ西海岸州輸入本邦品 (單位語)

品目單位	一九三一年		一九三二年		一九三三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
化粧石鹼 疋	—	—	—	—	41.572	11.484

石鹼界の國際問題として、日印會商及び日蘭會商中に含まれた雜貨關稅問

題がある。その雜貨の名に於いて扱はるゝ處の業界品としては、洗濯石鹼がその主なるもので、最近の輸出統計に現はれた處によれば

以上の如く、必ずしも驚く可く程の數量には非ざるも、然し各國が何れも日本商品を怖れて關稅の障壁を高め、競うてこれを阻むに急なるの時、南洋進出に懸けられた日本商品の使命は、最も重要な役割をわが輸出貿易上にとめるものである。然るにわれに取りては絶好の市場、英印及びボルネオ東南部を中心に西にはスマトラ、東にはセレベス、南方にはジャバを有つ廣大な關印が、またもやその門戸を固くしてわれ等の締め出しを圖るに於いては、漸くその足場を得た若き日本の南洋發展は、忽ちにして轉落の一路を辿るの外はない。

然かもその重大會商中、日印會商は漸く決裂を免かれたとは言へ、實施されたその離貨關稅は最高三二五%、最低のものとも雖も九五%といふ禁止的高率である。これを業界品に見るに化粧石鹼に於いては從來の從價三五%が一躍一三五%。洗濯石鹼は二五%から八〇%に引上げられるに至つた。是に於いてか大阪石鹼同業組合の松原組長は、春元、播磨の兩氏及び硬化油業者側の大橋氏等とともに上京、東京石鹼製造同業組合の相馬組長以下と協力提携の上、一月九日、商工省を訪ひ、吉野次官、竹内工務局長等と會見、苦境に立てる當業者の立場を述べ、意見書を提出したが、印度に於ける石鹼輸入年額は八百萬留比、その中日本からの輸出が昭和八年度が四五十萬圓、九年が百萬圓内外、總體の約一割にしか當らない日本品に斯くも高率關稅を課するのは、將來の進展に恐怖を抱ける英國の禁止的政策に外ならないわけで、當業者の熱烈な陳情も策の施す餘地なく、そのまゝに葬られて了つた。

更らに一方日蘭會商に就いては、既に接衝半歲に及ぶるも、波瀾曲折、蘭印側が過當なる砂糖問題を持出

すに及び遂ひに決裂を危ぶまれつゝも、今尙僅かに一縷の命脈を保てるが如きも、今後の形勢に至つては容易に逆轉し難い。

更らに三月には、わが南洋委任統治地たる南洋諸島より輸入するコブラ課稅運動に反對して東京石鹼組合及び花王石鹼本舖長瀬商會では各別に陳情を行ひ、八月には、東京石鹼組台では、大豆硬化石鹼輸入並びに大豆油戻稅に關する陳情を各方面に對して行ひ、この年に於ける石鹼界の對外的問題は、關稅引下げ及び關稅徹廢運動に終始したのであつた。

風水禍の問題

昭和九年は、業界に取りても災厄の年であつた。春には北海の烈風、劫火を伴うて函館全市を焦土に歸せしめ、秋には稀有の颶風が、關西一帯にその猛威を逞しうした。何れも慘狀、眼を蔽はしむるものがある中にも、函館では罹災同業者のみても四百五十名を算した。關西の風水禍に至つては、その被害が大阪を中心として十數縣に及び、死傷算なしとさへ報ぜられた。

東京組合に於いては、その何れに對しても、時を移さず全組合員の義氣同情に訴へて、極力救援の實を擧ぐるに努めた。蓋し業界人は業界人を救へ！の立前により、博大なる業界の隣人愛に訴へたのである。即ち函館に對してはその義金三千三百九十二圓、これを函館小間物化粧品卸商組合、函館和洋小間物組合に託してその分配を一任した處、兩組合に於いては全罹災同業者に對して一店金七圓五十錢也を分配せられたとの報告があつた。更らに關西風水禍に對しては、あつまる處の義金四千圓、これを左の如く配分して罹災同業者への慰問の資に充てた。

- 二、三〇〇圓 大阪府
- 三〇〇〇 京都府

三五〇圓	兵庫縣
一〇〇〇〇	奈良縣
二五〇〇〇	岡山縣
一〇〇〇〇	和歌山縣
一〇〇〇〇	滋賀縣
一〇〇〇〇	鳥取縣
一五〇〇〇	徳島縣
一〇〇〇〇	高知縣
一〇〇〇〇	香川縣
五〇〇〇〇	岐阜縣
計四、〇〇圓	

以上の配分に就いては、業界の組合、當該縣廳、義金を取扱ひつゝある地方新聞社等の中へ、便宜委託してその處置に一任した。

關西の風水禍に伴ふ業界の損害中、新らしく起つた問題に濡れ荷引換への問題がある。これはその中心地とも言ふ可き大阪の本舖及びこれに呼應して起つた東京の各本舖の絶大なる同情の餘に出でたる善後處置であつた。即ち東西の各本舖とも此の未曾有の大災禍に對しては、多大の同情を惜まず、就中その罹災地の復興を速かならしむる上からも、能ふ限りの救援運動を進め、その再建に協力するの必要ありといふに意見の一致を見るに至つた。就中東京に於ける化粧品本舖十日會に於いては、臨時會を招集して協議を重ねたる結果、今次の風水害による水損品に對しては、その申出により補償を行ふことに一決、これを大阪側に通知すると同時に、左の如き共同聲明、並びに補償條項を發表した。

去る九月二十一日、突として關西地方に襲來せる猛颶風は、大阪を中心として各方面に未曾有の災害を齎らし殊に颶風による高潮の來襲は、海岸地域に二重の災害を醸し候は全く酸鼻の極にして、その大災厄は關東大震災に劣らざる經濟的打撃と存被候。此の不慮の災害に遭難せられたる被害者各位に對しては、萬腔の同情を捧げ申候とともに、殊にわが

同業罹災者各位に對しては、一層衷心より御同情申上候處に有之候

十日會各本舖に於いても、それ〴〵本支店又は工場等被害地に有し居候關係上、是亦相當の被害を相受け居候も、業界共存共榮の上より、此際罹災販賣店各位とともに一日も速かなる復興を期し以つて商都大阪を中心として關西各方面の商賈を恢復して非常時期にある國家經濟と産業の上に貢獻致し度くと存じ一大犠牲を忍び、當面の災厄に善處す可く熟議の結果、本會員等誠意を披瀝して販賣店各位の經濟的災厄を幾分にも縮少し將來の進展を期せしめられ候やう、過去に於ける一切の慣例を棄て、今回に限り特に左記の申合せを相決し申候
勿論業界に於ける一般商習慣上、被害商品に對する御取換又は御補償等一切の責任は無之候へども、非常時に際し總てを超越して業界共存共榮の大義に立脚して考慮したる罹災商品御補償の上に採りたる誠意と犠牲とに對して只管御諒察の程奉翼上候。此の機に於いて罹災御販賣店各位並びに御同業各位に對して重ねて衷心御見舞ひ申上候

化粧品本舖十日會

罹災商品御補償申合

- 一、罹災商品に對する御補償は、災害品十個に對し二個乃至五個の割合と御承知願上候
但御補償の災害商品は全部本舖に於いて破毀、又は適當に處分致すべく候に付御諒承願上候
- 二、罹災商品は一個又は一袋一瓶毎に原型保有のものに限り申候
- 三、罹災商品御補償御申出は九月二十一日の風水害によつて御被害相受けさせられたる地域の方々に限り申候
- 四、罹災商品御補償の御申出は凡て從來の御仕入先を経て御申出願上候
- 五、罹災商品は補償の御申出に對しては、總て現品を以て御提供可申上、御入帳の儀は御斷り申上候
- 六、罹災商品御補償の御申出に對する運賃は、片道御負擔のことに願上候
- 七、罹災商品御補償の送達は極力迅速を旨として取運び可申候へども、此際のこととて多少の遅延は御諒承願上候

八、罹災商品御補償の御申出期限は十月二十日迄のことに願上候
右の各項は非常災害に際し特に取定めたるものにつ今回限りの特定と御承知願上候、以上

三組合の聲明

地方業界に於ける組合、團體からの寄附や、援助の要求は、實に業界多年の慣例とは言ひながら、寧ろ憂ふ可き業界の宿弊として心あるもの、懇縮に値ひする處であつた。例へば組合の總會、新年宴會、若くは店員慰安會、運動會をはじめ、特殊の賣出し等の催しに際しては、殆ど恒例のやうに、寄附後援が求められた。求められた本舖、問屋としては業界の發展を助長せしめるといふ意味から、事情の許す限りはこれに應ずるの慣例となつて来たが、業界の發展に伴ひ、同業團體の組織は町村にまでも及び、その數の夥しきを加へ來れる爲め、到底その一々の要求には應じ切れざるの狀態となつて来た。のみならず、それが年々ともに悪弊を生み、多くの團體中には、本舖からの寄附を見越して之れを豫算に繰入れそれによつて新年宴會や、花見遊山の費用にまでも充當せられるの事實さへも見らるゝに至つた。是に於いてか本舖折角の奉仕も、却つて業界を毒するのみにして聊かの益をも胎さなといふ實狀に鑑み、化粧品本舖十日會では昭和八年の夏、全會一致の決議を以つて寄附辭退の聲明を發表してより以來、嚴に「その趣旨の何たるに拘らず、一律にお断はります」といふ決議の主旨の斷行に努めつゝあるは、今や殆く業界の知る處となつて居るであらう。

然るにその年十二月、東京小間物化粧品卸商同業組合、大阪化粧品同業組合、大阪小間物卸商同業組合は、互ひに申合せ、三團體連名の下に、左の如き共同

聲明を全國の各組合に向けて發した。

拜啓、向寒の砌、貴組合各位益々御清榮に涉せられ候段、業界のため慶賀此事に奉存候、次に下名各組合等毎々各別の御愛顧を蒙り居候段、厚く御禮申上候

陳者、從來各地業界に於ける組合の總會、新年宴會、運動會、特殊の賣出し等、種々の御催しに際しては、下名各組合員等に對して御寄附後援等仰せつけられ候ことも屢々有之、下名各組合員等も亦業界奉仕の意味を以てそれ〴〵の方法により、事情の許す限り聊か微力を致し來り候處、晩近急速なる業界の發展に伴ひ、その數夥しきを加へ候のみならず事業の御計畫も年々大規模と相成候爲め、隨つて此の種の御申越しも頗みに増加し然かもその御趣旨の寔に結構にして御賛同申上げ度きものも多々有之候へども、全國多數團體に對して一々その御意志に副ふことは、固より限りある下名各組合員等の方を以てしては、到底堪ゆる處に無之、折角の御希望に對しても御満足を圖ること相叶はざるの狀態と相成候に就いては、洵に遺憾ながら爾今、何れの御團體に對しても、その御趣旨の如何に拘らず、右様の御申込みは一律に御辭退申上ぐることに、各組合役員會の決議を以つて固く申合せ、即時實行すること、相成候間、何卒微衷御賢察の上、將來一層の御懇情垂れ賜はり度く茲に右御願ひ旁々得貴意申候、敬具

以上の共同聲明は勿論、三組合獨自の立場からなされたものではあるけれども、自然十日會の主張を一層強化せしむるに、與つて力あるわけて、その文中にもあるが如く中央、地方、何れの團體を問はず、一切の寄附行爲には固くこれを謝絶することに決議の上、三組合の間にもその實行上、遺憾なきを期することに申合せが取交はされたのである。斯くして業界多年の宿弊を救ひ、他方依存の思想を一掃するとともに、刻下の非常時に際して、業界を擧げて自力更生への一途に邁進することになつたのは、業界の慶びとして迎へられた處であつた。

全く實行し得ざる重税の賦課に在りといふも不當に非ず、剩へ寶石の如く國際的商品にしてその價ひ高く、容積の少にして携帶に便なるものは、その通關に際して動もすれば取締りの適正を期し難きに拘らず、是れが防止に關しては何等適切の方法を講ずることなくして、徒らに當業者の不安を増大せしめて顧みざること、久しきに亘るは、實に不可解の事實なりと言はざる可からず。是に於いてか、寶石の十割關稅を撤廢して舊稅率に還元せしめ、以て何人も安んじて通關せしむるの方法を講ずれば、吾國に於ける寶石の價格も自から國際的平衡を保ち、不正輸入の跡を絶ち、われ等當業者の希望して已まざるが如く、業界何れも安心して此の國際的商品を取扱ひ國法に委遵せるの商道を行ふに至る可きは、われ等の固く信じて疑はざる處也。

即ち帝都に於ける關係組合の下に、同志を全國の業界に求め、十割關稅の改正を政府に要望してその目的の貫徹に努め、以て是れが達成を期せむとする所以也。

寶石關稅改正同盟會

改正同盟會は、東京貴金屬製造同業組合を中心として東京、大阪、名古屋、神戸等々の關係組合が參加、結成したものである。わが東京小間物化粧品卸商同業組合もまたその運動に一臂の力を與へ、その目的の達成に援助したことは言ふまでもないが、かくしてその運動は貴衆兩院に對して請願書を提出せるを始めとして大藏、商工の各大臣にも陳情せる外、東京商工會議所に於いては議員板倉安兵衛氏の斡旋により、東京實業組合聯合會に於いては松田幸治郎、宮本庄七、細沼淺四郎氏等の斡旋によりて何れも應援運動の爲めに起ち、會議所では大藏、商工兩大臣に建議書を提出するに至つた。

鉛白禁止問題

その製造は昭和八年十二月末日、その販賣は同九年

十二月末日、何づれもその日を最後の期間として禁止せらるゝの運命に逢着した全國の含鉛白粉製造業者は、その爲めに父祖傳來の家業を失ふのみならず、此の不況時に直面してその轉業も容易ならざる爲め、今や生活の脅威をさへ感じつゝあるの非境に立ち、然かもその禁止延期の請願運動を續くること、既に連年に及ぶも、更らにその反響なく、容易に目的を達する能はざる中に、空しく昭和九年を迎ふるや、警視廳では一月八日、都下の鉛白業者二十七名を衛生部に招いて含鉛白粉の現在所有高及びその評價々格の届出を命ずる等、早くも禁止の準備工作に入れる爲め、業者としてはその製造も全く不可能の状態に陥れるのみならず、いよ／＼最後の一年を剩すのみとなつたので一層の焦躁を感ぜざるものゝ如く、東西相呼應して屢々代表を内務省に出頭せしめ、その緩和を求めたるも、内務省としては既に發令を見たるの今日、今更考慮の餘地なしとして業者の希望は容れらるゝ處とならなかつたが、然し製造禁止の爲めに生業を失ひ、遽かに轉業の途なき同業者の窮狀に對しては、多大の同情を寄せ、その轉向に就いては極力、助力を惜まざる旨を言明して居るのに力を得、業者者それ自身としても、今後の方針に關して研究を重ね、その更生を圖り度しとの意圖の下に、前年の秋、東京に於ける業者者によつて結成された白粉化粧品製造組合準備會を中心に、着々としてその研究を進めつゝあつたが、一方、東京及び大阪兩白粉商組合を主體とする全國含鉛白粉業組合聯合會では、これまでの蹉跌にも敢て屈することなく、尙その望みを捨てずして、いよ／＼最後の一押しを試むべく、東京外池五郎三郎、大阪神田莊治郎の兩代表は、内務省を訪問、請願書を提出したる上、更らに口頭を以つて業者者一同が、年内に賣盡す可き製品の販路も既に絶たれたる爲め、製造に投じたる資金の回收は停頓の外なく、今や手持品を眺めて呆然自失の窮狀

に陥れるの立場を述べ、轉業準備工作をなし得る期間の延長を嘆願して引取つたが、此の問題に對しては衛生當局の好意ある工作が期待された處、果せるかな、十二月八日附の官報を以て省令第三十五號「明治三十三年内務省令第十七號有害性著色染料取締規則中改正の件」を公布、昭和十年十二月三十日までその販賣禁止期限を延期せらるゝことに決定した。當局は此の延期期間中に於いて當業者の轉向を完了せしめるの意圖であることは言ふまでもない。

滿洲關稅問題

滿洲國に於ける現行の輸入關稅は、張家政權時代の排日的高率關稅をそのまゝに踏襲したものである。隨つてその稅率は一九三一年一月一日、時の南京政府が日貨排斥を目的として定めたものであるから、如何にその不合理なものであるかは説くまでもあるまい。然し—現在の滿洲國としては關稅收入が一國歳入の七割を占め、國費の大部分がその收入を以つて支辨されつゝあるの現狀にある處から、關稅の改正を行ふに於いては、國家の財政收入に一大影響を與ふるの虞れあるに鑑み、容易にその改正を肯せずして今日に至つたのである。たゞその間、昭和八年七月十九日を以つて一部の改正が發表されたけれども、それは勿論根本的のものではなく、その品目もたゞ僅かに四十餘種に過ぎざる暫定的のものであつた。

その中に

- 第九類 蠟燭 石鹼油 蠟及油脂類
- 稅番四九九 家庭用洗濯石鹼從價一割

以上の如き業界品が含まれてあつた。これはその前年の十二月十五日、東京組合から改正の陳情をした頭飾品、裝身具、化粧品、齒磨、石鹼等々の各種目中、他の大部分の要望は遂ひに容れらるゝ處とはならな

つたけれども、僅かに第九類のみがその改正を見たのである。然しながら東京組合としては、断じてかゝる姑息的な改正に甘むす可きてはなく、況や相互依存の關係にある日滿兩國の親善提携は、専ら日滿經濟プロツクの確立にありと信ぜらるゝの時、兩國の貿易進展に一大障害を與へつゝある關稅障壁を除くゝの急なるは、何人も信じて疑はざる處である。此の意味からしても東京組合をはじめ、全業界の改正要望はいよゝゝその熾烈を極めつゝあるの折柄、滿洲國では恰かも昭和十年を期して全般的の改正を行ふ可く、日本政府の諒解を得てその準備に著手したとの情報を得るや、待機の姿勢にあつた東西の兩組合では、此の機逸す可からずとして起ち、東京組合は昭和九年九月十五日、滿洲國關稅及び滿鐵運賃問題委員會を開催、委員長小林富次郎氏以下の各委員が出席の上、改正要望の根本方針並びに實行運動に關しての協議を遂げたるをはじめ、屢々委員會を開催してその成案を得るや、大阪組合と呼應してその準備工作を進め、且つ問題の重要性に鑑み、從來の如く單に一片の陳情書を郵送するのみにては到底滿洲國當局を動かす難きを思ひ、東西業界より代表者を派遣して大連、奉天、新京等々に於ける在滿實業團體の協力應援を求め、直接滿洲國政府當局と折衝の上、極力目的の貫徹に邁進することに一決した。尙此の問題に關しては、大阪に於ける石鹼製造業者もまた現行稅率の適正ならざるを痛感して起ち、化粧石鹼三割、洗濯石鹼一割の高率關稅は、日本商品の滿洲進出を阻み、隨つて石鹼工業今日の繁榮に脅威を與ふるものなりとの見地から、大阪石鹼同業組合では組長松原一郎氏及び三輪乙五郎、吉田久四郎、吉田實次郎、世戸清の五氏を代表として派遣するに決定。五氏は東京大阪兩組合よりも一歩先に、十月十五日を以て神戸出帆、目指す石鹼關稅の改訂に萬全を期して渡

滿洲國關稅改正に關する陳情書

貴國建國三、四年、康徳新政の下、國礎愈々安固、國政益々伸張、今や近代國家としての施設機構殆ど備はらざるはなく、一路王道政治の完成に邁進せられつゝあるは、接壤友邦の民としてその協和親善を念願とするの外、亦他意なき吾等に取りては、眞に慶祝に堪へざる處に之候

然るに貴國の現行輸入稅法は、張家政權時代の關稅法を殆どそのまゝに繼續せられたるものに有之、固より建國勦業の際既に已むを得ざるに出でたるの方策とは存候へども實施後既に三年、今や貴國の財政的基礎も漸く確立を見たるの今日、貴我兩國相互依存の大局に鑑み、關稅に於いても日滿經濟プロツクの完成に百尺竿頭一步を進めらる可きの秋と存候是れを弊組合員等の製造輸出する處の石鹼、化粧品、頭飾品、雜貨等の上に見るに、本來是等の商品は全く日常必需品に非ざれば、文化的必要にしては輸入の保健衛生並に整容上にも朝夕缺く可からざる處のものに有之候處、現行の關稅率を以てしては輸入意の如くならざる爲め貴國內に於ける市場の賣價を昂騰せしめ、當に五族民衆の生活に影響する處尠からざるのみならず、その保健衛生思想の普及にも多大の支障を與へつゝあるは、友邦當業者として遺憾に堪へざる處に有之候。開くが如くむば、貴國內に於いても當業界關係品に就いては、關稅低下の希望あり、各主要經濟團體よりも既に意見の開陳ありしやに傳へられ、吾等とその見る處を同じうするは寔に偶然に非ずと存候

申すまでもなく貴我兩國は是れ唇齒輔車の國、共存共榮の大業に則るも、われ等日本の當業者には有無相通する處、産業の大道自か開かば、兩國民の幸福、是れに過ぎざるべきを思ひ、常に品質の優秀にして價格の低廉なる商品を供給することゝを以て日滿親善の上に貢獻する所以なりと信するものに有之、依つてこゝに當業界品に對する貴國關稅改正に就いての御參考迄に具體的希望を左に陳情仕候に就いては、此際是非とも兩國當業者の立場を御明察の上、貴國關稅の御改正に一大英斷を下され度く萬望の至りに堪へず、敢て衷情を披瀝して閣下の御清鑑

を仰ぎ奉る所以に御座候
右謹而陳情候也
昭和九年 月 日
東京小間物化粧品卸商同業組合
組長 小林富次郎

滿洲國關稅現行稅率
當組合希望率對比表

稅番	品名	單位	現行稅率	當組合希望率
四四九	家庭用及洗濯用石鹼	紫色班	一〇%	五%
イ	大量包裝、棒狀並ビニ二ケ		一〇%	五%
イ	量ガ實量ヨリ又ハ一個ノ重量セオチスヨ		一〇%	五%
イ	リシナカラザル時ハ重量ニ依ル		一〇%	五%
イ	ソノ他		一〇%	五%
五〇〇	化粧用又ハ製糖アルモノ		三〇%	一〇%
六〇九	珊瑚、琥珀、琥珀甲、眞正又は模造		一五%	一〇%
イ	及同製品		一五%	一〇%
イ	未加工品		四〇%	二〇%
イ	ソノ他		四〇%	二〇%
六三三	寶石及裝飾品		四〇%	二〇%
イ	眞珠、金剛石、ソノ他寶石		四〇%	二〇%
イ	(眞正又は模造)ニテ裝飾シタルモノ		四〇%	二〇%
イ	別號ニ掲ゲザル製身用及ビ		三〇%	一五%
イ	家庭用裝飾品		三〇%	一五%
イ	美爪器具一式又ハ部分品、		三〇%	一五%
イ	白粉刷毛又ハ函、化粧用品		三〇%	一五%
六三七	函		三〇%	一〇%
六三三	コスメチツク、導刺用石鹼		三〇%	一〇%
イ	化粧クリーム、煉齒磨、タルカム、ソノ他化粧粉、頭		三〇%	一〇%
イ	髮強壯劑及ソノ他總テノ頭		三〇%	一〇%
イ	髮、口、齒牙又ハ皮膚用品		三〇%	一〇%
六四三	香水		三〇%	一〇%
イ	化粧用器具、櫛、刷毛等		三〇%	一〇%
イ	高級品		三〇%	一五%
イ	ソノ他		三〇%	一〇%

組 合 團 體

全國業界の鳥瞰圖

全國の業界には果して幾千の同業者ありやは、常にわれ等業界人の考へる問題ではあるけれども、然しながらそれを知ることは甚だ容易ならざるの問題であるだけに、今日までの業界には、以て據る可き何等の調査も行はれてゐない。試みに内閣統計局の職業別統計に見ても、化粧品製造業者は化學工業の部門に、問屋や一般小賣商は「物品販賣業」の中に包含せられて居るから、それ以上の細別的には一切不明である。尤も製造業者及び問屋方面だけの調査ならば、絶對至難の業とはしましけれども、小問物化粧品小賣商の一切を計算に入れての正確な數を知ることは、現在の處、先づ不可能に庶幾しと見てよからう。

然らば中央に於ける製造本舖や配給機關である處の問屋業者は、一體何を目標としてその生産に隨ひ、何の據る處あつてその販賣に于與して居るかに至つては、甚だ難解な問題ではある。然し例へば絶對正確ならずとも、其處にはまたそれ〴〵の方針や目安はあるものと解せられる。例へば全國に於ける同業組合、商業組合の如きも、確かにその目安となすべきもの一つではあり、これ等の業界團體の存在によつて業界の分野を考へることも、正しく出來得るのである、われ等の業界年鑑に掲載する處の全國組合は、主として人口二萬以上の都市——多少の例外はある——に就いて調査したものであるから、これを以てその全部を盡したるものと見做すことは、固より許されざるにしても、然し大體の目標はつけ得るに庶幾しと信するものである。然らばこれ等の各組合を通じて見たる業界の機構は何うかと言ふに、先づ數字的に分解すれば

組合種類	組合數	組合員數
業界組合	二六一	一八、四八八
商業組合	五五	七、四五九
計	三一六	二五、九四七

以上の如くである。全國に於ける主要都市の數は——人口二萬以上の町をも入れて現在凡そ一百八十九、一都市の有する組合の數は一・六六%に當るから、組合の組織されてゐない都市といふものゝ、殆ど少ないことは言へるけれども、一都市當りの組合員數僅かに百三十九人強に至つては、多數ある同業者の一部分でしかないことは一見して明白である。實際各組合の個々に亘つて檢討して見ても、例へば名古屋小賣組合の二千三百名、長崎組合の四百名等々は兎も角、その他——卸製造の組合は別として、その地域内の全同業者を網羅してゐると見られる組合は殆どないのである。東京の小賣組合にしてもその組合員八百名足らずといふのは、全都二萬と推算される同業小賣店の二十分の一にも足らざること尙且つ遠い現状にある。大阪にしても、京都にしても、全都的小賣組合の結成は殆ど出來てゐない。

是に於いてか、われ等の推定にして過らば、全國三百十六組合、二萬五千有餘の組合員は、東西に於ける製造本舖をはじめ、各地方の卸問屋、卸小賣業者乃至小賣業者の一部を網羅せるものに過ぎずと見る可きであると思はれる。故にこれ等の同業者以外には尙多數の小賣店があるものと見るのが當然である。だが然しこゝに現はれたる組合及び組合員は、もと〴〵全國業界の主流をなすものであつて、業界は常にこれ等の人々によつて進み、これ等の同業者によつて動くものと見てよからう。して見ればその激湍たる活動に堵けられたる業界の繁榮は、實に健全なる斯業の發達を促すのみに止らず、産業日本の行進にも、大きな貢獻をなす所以であらう。

全國組合の沿革・現勢

全国各地に於ける業界の大勢を知らむと欲すれば、先づその地方に於ける組合の活躍状態を見るに如くはなしとの見地から、昨年はその第一歩として六大都市に於ける同業組合の沿革、現勢等々に就いての報告を求め、以てその勢力、消長を知るに備へた。今年もまたその轍を踏み、六大都市以外の組合を順次、紹介するに決したるも、求めたるその報告材料は、精粗必ずしも相同じからず、擧げたる項目にして答へられたるもあり、答へられざるもありてその取扱ひの劃一を期することは、竟ひに不可能に終つた。

北海道小間物化粧品卸商聯合會

沿革

歐洲戰爭の好景氣から、北海道に於ける化粧品の需用は著しく増加した。かくて好景氣經濟界の一大轉落期後、化粧品販賣に於いても漸く値引競争の出現となりつゝあつた際、全道同業卸商の親睦を厚ふすとも一致協力、濫賣を避け、正しき營業によりてその福利をともしやうと云ふ意志は、各業者の間にも話題にも上るに至つた。

大正十一年十月、レイト化粧料本舗が定山溪温泉に於いて全道の代理店を招いて懇談會を催した。好機到れりとせる一同は、會終了の翌日、聯合會創立會を開いて全員の賛成あり、こゝに目出度くその誕生を見たのである。時の役員は、會長に壽原英太郎氏、副會長に札幌の小六節之助氏、同大澤染次郎氏、小樽の久保與三五郎氏、同松本榮三郎氏、函館西澤音八氏、同加藤文五郎氏、旭川石田万作二氏、同山本龜二郎氏が擧げられた。本會は會員相互の親交を温め、業界の發展

と各自の幸福増進を以て目的とす」を三條に樹て、十五ヶ條の會則を以て全道同業者の未加入者を勸めて三十名の會員を獲得、第二回總會は大正十二年十一月十八日、小樽に於いて開催された。此時函館市に於ける同業者は全部入會拒絶の報告があり、聯合會としては甚だ遺憾の意を表するとともに重ねて入會希望を懇請することゝなつた。

この第二回總會に於ける提出議案は、各地より多くの提出を見、同業卸店としての惱める相互利益擁護の内情に協力せんとしたのである。更らに業界多年の宿望たる機關紙商報發行の議も此時提出された。恰かも當時業界から獨立したる島野一二君が、同じく經營希望を有して居たので、聯合會は之れを島野氏に委して準備を進めしめ、翌年二月紀元の佳節を以て創刊されたのである。かくして聯合會は毎年恒例の總會を開いて業界の正しき發展に貢献し會員も亦親睦を重ねて昭和二年二月、聯合會とは別に北海道化粧品卸商同盟會の設立を見るに至りたるも、その年八月第六回總會の折北海道化粧品卸商同盟會は聯合會に合併することゝなつた。

次いで第七回總會は函館市に於いて開かれ、時恰もクラブ太陽會創立總會と前後したので、函館の同業者とも懇談の上、函館業者全員の入會を見、全道全市及び十二ヶ町の業者を網羅すること百名を突破するに到つたのである。その後再び函館側の退會となり、又化粧品界に於ける業態の變化から退會者を出すに至つたが、設立こゝに滿十三年、堅實なる業者は、よく聯合會の精神を體して今日に及んだのである。

現勢

昭和九年度に於ける會員數は小樽、札幌、旭川、帯廣、釧路、餘市、江別、根室、野毛中の五市四町に於いて三十一名。毎年一回宛總會を開催し目的貫徹に邁進しつゝある。尙九年度は國立公園地帯阿寒湖畔に自然の風景を賞しながら、業界の諸問題に就いての協議を重ねたのであつた。事務所は小樽市住初町二丁目、現在役員氏名如左。

- 會長 小樽 壽原英太郎氏
- 副會長 旭川 岡澤彦太郎氏
- 會計幹事 小樽 松本榮三郎氏
- 幹事 札幌 小泉清一氏
- 同 小樽 本間勸次氏
- 同 釧路 橋本文平氏
- 同 帶廣 莊田徳太氏
- 同 野毛牛 田卷靖司氏
- 書記長 島野一二氏

札幌小間物化粧品卸商組合

札幌組合は大正十五年六月、札幌市内に於ける小間物化粧品業界の有志により、札幌小間物雜貨卸商組合の名によりて生れたのが、此の組合の胎生である。それが昭和四年二月には札幌小間物化粧品雜貨卸商組合

と改稱された。然して更らに同年四月、此の組合を母體として機關新聞札幌小間物化粧品雜貨商報が發行された。その間組合員には多少の異動はあつたけれども、大體最初の顔觸れによつて昭和六年十一月、三度び札幌小間物化粧品卸商組合と改稱、今日に至つた。現在の組合員は十五名、市内の小間物化粧品卸業者の中、最も有力なる業者のみをあつめ、春秋二季には總會を開いて組合の進展を期して居る。昭和九年六月、長谷川四郎氏を組合長に小六秀義氏を副組合長とする札幌小間物化粧品卸商納稅組合を設立してその成績を擧げて居る。現在役員如左。

- 組合長 小泉清一
- 副組合長 金田正清
- 幹事長 長谷川四郎
- 幹事 羽鳥千賀恵
- 同 小六秀義
- 同 小野平次郎
- 同 關根康弘

小樽小間物化粧品卸商組合

明治二十七年、小樽に於ける同業者の組合が、故村住三右衛門氏等發起の下に、卸、小賣合同して小樽小間物商組合が設立されたのである。然るに年々、同業者の數を増すとともに卸商と小賣商の合同では利益關係にも、組合の歩調を一致する上にも、多少の支障を感ずるに至つた處から、大正十二年一月、小樽小間物化粧品卸組合の創立となり、小樽小間物商組合創立三十周年記念會を機として卸商は、その組合から分離したのである。爾來十有二年、組合員二三の移動はあつたが、協力一致、卸商としての共存共榮のために組合

の發達を續け、毎月例會を開いて懇親を深めながら進みつゝある。現在組合員如左。

- 梅屋商店 村住三右衛門
- 新發田屋商店 中山龍太郎
- 原商店 原榮藏
- 喜屋商店 長井廣吉
- 久保商店 久保久治
- 中松合名會社 松本榮三郎
- 憲原商株式會社 壽原英太郎
- 西村石鹼製造所 毛利貢
- 本間商店 西村直敏
- 高森商店 高森市太郎
- 役員 村住三右衛門
- 組合長 本間勤次
- 幹事長 本間勤次

仙臺小間物雜貨商組合

遠く明治二十八年十月の創立にして、既に四十年の歴史を重ねて今日に及んで居る。業界品の運賃遞減問題に端を發して同業結束、組合發祥となつたのである。組合の事業として多くを行はざるも、店員の獎勵慰安會は明治三十八年五月その第一回を開催してより、今尚ほ依然としてこれを續けて居る。初代の組合長は八木久兵衛氏。

創立當時と今日とは、甚しく業界事情を異にする爲め、組合員の業態にも多くの變遷あり、現在組合員中には小間物、化粧品、玩具、洋品、運動具、文房具等の各種の業種を包擁して居る。組合よりは商工會議所議員特選の待遇があり、現に會頭三浦善作氏をはじめ

齋川、西内、奈良氏等の會議所議員を組合員中に有せるが如きは、業界でも異數とする處であらう。

- 組合長 齋川久吉
- 副組合長 櫻井益之助
- 常任幹事 高橋善四郎
- 幹事 西内長治
- 同 大澤晋平
- 同 奈良龍三
- 同 深堀豐治
- 同 遠藤長三郎
- 同 庄司勇太郎
- 同 八木久兵衛
- 同 八木安兵衛
- 同 三浦善作
- 顧問 中村梅三

仙臺化粧品商業組合

價格協定を旗印に、十周年を迎へた仙臺化粧品同業組合が、轉身してその組織を商業組合に改むべく、大澤晋平、村上安之助、高橋藤七氏等が東奔西走、かくして生まれ出たものが此の商業組合である。濫賣都市として然かも三越、藤崎二大百貨店の進出以來、競争激烈を極め、業界混亂、小賣店と何處へ行くときまで考へられた仙臺も、共同仕入、價格協定を目的とした商業組合が成立してからは、殆ど無競争状態に選つたのは喜ぶ可きである。近く低利資金の貸下も實現するであらうから、今後に期待さるゝ處も尠くはない。現在役員如左。

- 理事長 大澤晋平
- 常務理事 村上安之助

京城化粧品組合

沿革

京城府内に於ける化粧品販賣業者が協力一致、以て健全なる業界の發展を期す可く、協定値段を定め、これを嚴守することによりて相互の福利を保護増進しようといふ目的の下に、昭和四年の秋、九月を以て創立されたのが現在の組合である。當時の加入者二百餘名、組合長一名、副組合長二名、會計一名、幹事三十名、——内地人二〇名、鮮人一〇名——の役員を定め、選ばれて初代の組合長となつたのは夏川榮造氏であつた。然し氏は昭和六年十月、大連に引上げたので、その後任として川浪清次氏が推されて組合長に當選。越えて同八年十月の總會に於いて現組合長山本惣三郎氏の當選を見るに至つた。現在組合員は三百名。

事業

その間、昭和五年、京城本町二丁目の京城競賣所の濫賣、並びにその他の濫賣取締に努め、昭和四年以降に於ける各有名品の値段協定實行、昭和七年六月には組合費の徴收上一等より五等までの等級制を定め、同八年十月の總會を期して運動會並びに十年以上勤続の従業員表彰式を舉行、昭和八年一月以來小賣値段の改正を行ひ、同八年九月役員會の決議により、組合運動會並びに總會費を節約して國防献金を實行することに決定、翌日献納せるをはじめ、同九年の夏、南鮮地方の水害に際しては、救助の一端として義金を贈つた。現在役員は昭和八年九月二十四日の改選である。氏名如左。

- 組合長 山本惣三郎
- 副組合長 和信商會
- 同 齋藤藤三郎

組合團體

會計

岡田永治	宮本貞吉
谷口藥店	三浦藥店
日の丸小間物店	阿部藥店
阿部藥店	山本繁次郎
山岸天佑堂	杉本璋太郎
三河屋商店	榮光商會
山口善太郎	第一洋品店
大豐商店	北園庄七
德永商店	宮本千粒堂
西大門藥店	金武植
白石商店	博愛堂藥局
依昌商店	大成百貨店
東仁商店	月本政次郎商店
夏川支店	川浪藥店
三田村商會	文化研究所
愛生堂藥局	

釜山化粧品組合

今を去る十年前即ち大正十四年釜山共榮クラブ會の創立に因を發して同業結束の機運到來、全化粧品の値段協定を目的として組合の組織を見るに至つた。時に昭和四年、爾來全組合員は一致協力、値段問題に關しては堅くこれを守るに努め、目的の遂行に邁進しつゝある。昭和九年度に於いては役員會を開くこと四回、九月には總會に併せ店員慰勞會を開いた。現在役員如左。

- 組合長 西尾角藏
- 副組合長 中江重三郎
- 同 加納功
- 幹事長 水野儀一
- 會計 朝日堂

商業組合及工業組合府縣一覽表

昭和九年十月二十日現在

府縣名	工業組合	商業組合
北海	一	一五
岩手	二〇	二〇
宮城	二〇	二〇
秋田	二〇	二〇
山形	二〇	二〇
福島	二〇	二〇
茨城	二〇	二〇
栃木	二〇	二〇
群馬	二〇	二〇
千葉	二〇	二〇
東京	二〇	二〇
神奈川	二〇	二〇
新潟	二〇	二〇
富山	二〇	二〇
石川	二〇	二〇
福井	二〇	二〇
山梨	二〇	二〇
長野	二〇	二〇
岐阜	二〇	二〇
静岡	二〇	二〇
愛知	二〇	二〇
滋賀	二〇	二〇
京都	二〇	二〇
大阪	二〇	二〇
兵庫	二〇	二〇
奈良	二〇	二〇
和歌山	二〇	二〇
鳥取	二〇	二〇
島根	二〇	二〇
岡山	二〇	二〇
広島	二〇	二〇
徳島	二〇	二〇
香取	二〇	二〇
高松	二〇	二〇
愛媛	二〇	二〇
福岡	二〇	二〇
佐賀	二〇	二〇
長門	二〇	二〇
大分	二〇	二〇
宮崎	二〇	二〇
鹿兒	二〇	二〇
沖鹿	二〇	二〇
計	四六〇	三五四

全國組合一年史

一、昭和九年中に於いて行はれたる全国各地組合の事業概要を収む。

一、材料は總て各組合よりの報告に據る。

一、回答を與へられざる組合多く、締切期日に遅れたるものもまた尠からず、萬遍なく網羅し得ざりしを憾みとする。故にこれを以て全國組合一年史となすは、甚だ當らざるの感あるも、行く行くはその實現を期する處に、われ等の理想を置く。

北海道

北海道小間物化粧品卸商聯合會

八月二十二日、第十三回聯合大會を國立公園阿寒湖畔に開く。▽同二十三日、立公園阿寒湖畔に開く。▽同二十三日、國立公園阿寒地帯の視察を行ふ。

札幌小間物化粧品小賣商組合

一月二十日、第十三回定期總會を開く。▽九月十日、秋期懇親會開催。

小樽香粧品製造組合

一月十五日、總會、次いで新年懇親會を開く。▽二月十五日、事務所に於いて原料材料共同購入に關する協議會を開く。▽五月十五日、花園公園に觀櫻會、十月十日、定山溪温泉鹿の湯クラブに觀楓會開催。

小樽石鹼製造業組合

一月二十三日、迎陽亭に總會、續いて新年懇親會を開く。▽三月十三日、組合長西村喜代登氏逝去。▽四月十三日、小樽石鹼工業組合設立認可あり、小樽石鹼製造組合は七月解散。

函館小間物化粧品卸商組合

二月三日、湯の川梅久に於いて總會開催、出席者十八名、前年度庶務會計報告の後懇親會開催。▽三月二十一日、大火災の爲め組合員の大半類焼、各自復興に努力、組合としての事業その他十月迄中止に決す、尙東京小間物化粧品卸商同業組合、大阪商報社及び大阪北交會、東京第二帽子商組合その他より義捐金の寄贈あり、小間物商組合と共同の上、罹災者への配分を終る。

函館和洋小間物商組合

一月八日、函館湯の川旗亭梅久に恒例新年總會を開く、出席者六十餘名全役員の改選後、庶務會計の報告を終りて新年宴會に移る。▽三月二十一日、大火災により組合員の大半類焼、東京大阪各業界よりの義捐金を受け、組合役員會を開いて組合員に分配するとともに九月迄會の總ての事業中止。

東俱知安商業組合

一月三十日、第一回通常總會開催、運搬事業、金融事業、共同仕入事業、保管

事業、事業施行に關する細則制定の件を附議、滿場一致實行に可決確定、尙記念として月掛貯金の加入獎勵す。▽五月十日、第二回通常總會開催、八年度決算報告その他重要事項を附議す。▽九月、貨物自動車購入、運搬事業を實行中。

岩内洋品小間物商組合

一月、新年總會。▽五月、觀櫻會を開く。▽毎月十九日集合して有名品の値段協定を行ふ。

網走化粧品商組合

一月二十日、總會及び新年會。▽二月十日、幹事懇談會。▽五月二十日、觀櫻會。▽七月二日、安藤井筒堂、由卷商店主催の清遊會。▽八月二十三日、クラブ北陽會主催の清遊會。▽九月五日、觀劇會。▽十月十日、臨時總會。

江別荒物雜貨商組合

一月十五日、總會を旗亭胡月に開く、店員、店主の慰勞の爲め定山溪へ清遊、石狩沿岸へ鮭漁を試む。

東北

弘前小間物商組合

一月十一日、第五十三回總會を開催、第二十八回勸進店員表彰式を擧ぐ。▽六月二十日、第五十四回總會夏期旅行として組合員及び家族の一泊旅行を行ひ、津輕半島北部小泊港及び龍飛燈臺見物、二十一日歸る。

秋田小間物商組合

一月二十三日、秋田商工會議所に於いて

第三十六回定時總會開催、同時に勸進店員表彰式を舉行。▽十月十七日、市外將軍堂遊園地に於いて店員慰安運動會を開く。

秋田荒物商組合

一月二十三日、田中町松茸亭に於いて定時總會を開く。

山形小間物洋品商組合

一月十五日、總會開催、前年度事務報告及び今年度事業計畫その他の協議を行ひ、新年宴會を開く。▽五月九日、十日の兩日に亘りて山形近郊景勝の地にして最上三十三札所第一番の靈場たる若松觀音に參詣、歸路天童温泉に於いて店員慰安會開催。

酒田小間物洋品文具商組合

二月十六日、組合總會を開き組合役員改選を行ふ。▽同日組合店員漸七ヶ年勤續の左記四名の表彰式を行ふ。

丹兵衛店員 豊田清藏、日の出商店員 矢口彌助 伊藤敬助店員 坂上伸江、水戸梅子

六月十七日、自動車にて組合員及び家族慰安の爲め湯の田温泉に慰安會を催す

▽十月七日、商工業組合聯合會主催の従業員慰安會には當組合員の店員各自參加。

鶴岡市小間物商組合

五月三日、組合の總會を公園地又喜知亭に開催。

仙臺化粧品商業組合

昭和八年九月より九年八月までの共同仕入額十一萬圓。▽三月二日、クラブ本舗の提議により小賣價格協定委員會を精

養軒に開催、出席者二十五名。▽四月十八日、仙臺商工會議所に第二回總會を開く、同席上小賣價格協定を行ふ。▽九月六日、ライオン仁丹齒磨本舖提議により價格協定委員會を開盛に開く、出席者二十五名、尙小賣價格協定會は、製産者、販賣者、消費者、官廳、立會の公正價格である。

仙臺小問物雜貨商組合

六月一日、第二十九回店員獎勵會並びに慰安會を松島遊園に開く、十年精勤者二名、七年精勤者十一名、五年精勤者七名表彰。

福島化粧品商業組合

一月二十五日、定期總會を商工會議所に開く。▽四月二十八日、市内信夫公園に組合の觀櫻會開催。

東京

東京小問物化粧品卸商同業組合

昭和八年十二月二十三日、東宮殿下御降誕のお慶びを拜するや、小林組長は廣田理事帶同、宮城坂下門奉拜所に伺候、奉賀の意を表した。▽一月十二日、組合定時總會臨時總會を帝國ホテルに開催、第十四回滿二十年並びに第二十五回滿十年精勤従業員表彰式を擧ぐ、表彰を受けたる者、二十年十四名、十年百五十六名。▽二月十五日、増員役員選舉執行、外池五郎三郎、阪本一郎、株式會社資生堂、久保政吉、株式會社興住商店の五氏當選。▽二月二十日、貴石十割關稅撤廢を期し

組合團體

て結成せられたる貴石關稅改正同盟會に組合も加盟して改正運動を試み、此の日大都市關係業者連署の請願書を貴衆兩院へ提出。▽三月二十三日緊急役員會開催函館市大火災救援方針を定め、後義金三千三百八十二圓を贈る。▽五月二十六日日蘭會商に對する組合の態度決定。▽六月八日、組合生産高及び販賣高調査委員會を開く。▽七月一日、保險部を設け此の日より事業開始。▽七月八日、東京府商工從業者表彰規程に依る滿三十年以上精勤の組合表彰従業員候補者を推薦。▽九月十二日、組合の法律顧問として辯護士法學博士高窪喜八郎、辨理士前特許局長官正四位勳四等中松盛雄の兩氏を囑託

▽九月二十六日、緊急役員會開催、關西風水害見舞方法決定、後に金四千圓を被害各府縣に配分。▽十一月、四、五日、大阪に於ける全國商工同業組合大會に組合代表として小林組長、宮本名譽顧問、葉滿田評議員、廣田理事の四氏出席。▽十一月五日、第五回大禮記念學術講習會開講。同二十三日終了。▽十一月十三日滿洲國關稅及び滿鐵運貨改正に關する陳情書原案確定。▽同、東北凶作地義捐金募集の方針を定む。▽同、昭和十年度組合經費及び賦課金徵收法決定。▽十一月二十日、復興記念橫濱大博覽會組合出品同盟會成る。

東京化粧品卸商業組合

一月八日、上野精養軒に臨時總會を開催、出席者百七十四名。▽六月四日、上野精養軒に總會開催、出席者百七十名、

組合の存廢に關する根本方針決定の件を附議したる處、組合員の總意により遂に組合解散に一決、價格統制即時中止に決した。

東京小問物商同業組合

一、總會を開くこと二回、豫算、決算承認。▽一、第三回表彰式を行ひ、十年以上百十五名、二十年以上十七名の勤績者表彰を行ふ。

東京石鹼組合

一月七日、新年宴會を上野精養軒に開く。

東京香料商組合

一月十一日、總會を福井樓に開き、終つて新年會を開く。▽六月八日、懸案であつた懇親會を兼ねたる旅行會を開催、伊豆の天城山をドライブして蓮臺寺温泉に一泊、翌日は下田を訪ね、歸途大島に遊ぶ。

東京藥物煙草具製造販賣同業組合

一月六日、淺草草津亭に定時總會開催同日第二十六回表彰式を舉行、十年以上勤績従業員八名を表彰。▽十月十九、二十、二十一の三日間、小問物化粧品組合事務所三階に於いて品評會開催。

東京醫形業組合

一月八日、東京商報社に於いて第三十三回定時總會並びに臨時總會開催、前年度業績報告及び同年度に於ける會計報告、役員の変更後、十年勤績従業員七名の表彰式を行ひ、賞状並びに賞品銀時計を贈與、終つて新年宴會を開く。

東京髷人毛商工組合

業界不況の爲め組合費を免除、組合を十區に分ち通信費を徵收して通信事務を假事務所に於いて取扱ふ。

東京洋裝雜貨卸商同業組合

一月二十日、定時總會、新年宴會を開く。▽四月二十三日、店員慰勞會として東京灣汽船丸に便乘、房州保田に上陸鋸山登山、後、保田海岸に地曳網に興じつゝ夕刻歸京。▽五月二十日、定期總會を開く。▽十月二十日、店員修養講演會を實業聯合館に開催、加藤組長の挨拶、慶應大學教授柴田一能氏の講演「人の道」があつた。▽組合員の工業權擁護の爲め實用新案の登録異議申立を爲したるもの四件、無効審判を請求したるもの三件、組合にて實用新案を登録、組合員に對して實施權を許諾したるもの二種。▽十一月五日、特許法改正を關係各省に献白及び陳情した。

東京城西藥種賣化粧品商業組合

二月より九月迄の共同施設取扱高金三萬五千三百七十五圓六十一錢一厘。東京城北藥種賣化粧品商業組合四月一日、事業開始。▽五月二十八日總會開會。

關東

前橋小問物化粧品商組合

一月二十五日、前橋市立川町前橋會館に於て昭和九年度新年組合定時總會開催、出席者三十名、組合員より一ヶ月五十錢宛を積立て、年一回宛旅行を行ふこ

とに決定した。但本年度は當地に於いて陸軍特別大演習舉行、大本營を設けらるゝにより來年度に繰越した。

高崎化粧品雜貨商組合

四月一日、總會開催、組合長金子織衛副組合長木暮彌平、會計國峰辰治三氏の表彰式を行ひ、記念品を贈る。▽八月十一日、小間物玩具袋物商組合を役員總會に於いて高崎化粧品雜貨商組合と改稱、組合長に國峯辰治氏、副組合長に上原菊次郎氏當選。

群馬縣中部化粧品商業組合

九月二十一日、前橋市商工會議所に於いて認可後第一回の臨時總會を開催、左の議案可決。▽一、定款變更の件▽一、統制規定の制定の件▽一、統制委員選任の件▽一、理事及監事改選の件。

沼田小間物化粧品商組合

一月十二日、總會及び新年宴會を開く。▽六月一日、日光、鬼怒川方面旅行を試む。

熊谷化粧品小賣商業組合

一月六日、設立登記。▽一月八日、組合員に定款、統制規程協定値段表を送達同日地區内に於ける組合員に非らずして組合員たる資格を有するものへ、統制規定、協定値段表を添へ組合の統制に從はれ度き旨の通知を發した、施行は一月十日から。▽一月二十八日、通常總會を開催、統制規程の變更を決議した。▽二月十九日、組合員及組合員に非らずして組合員たる資格を有する者に就いて試買を行つた。▽七月七日、臨時總會を開催、

北埼玉郡、南埼玉郡、北葛飾郡の内八町六ヶ村に地區を擴張することに決議した。同日協定價格決定委員會及び信用評定委員會を開く。九月十日、地區擴張に付認可申請を埼玉縣知事に提出。同日統制規程、變更認可申請を埼玉縣知事に提出。一月より十月に至る共同仕入如左。

レイト化粧品	二九三圓九三
クラブ化粧品	三四八圓四八
千代田美髮料	五八七圓八九
御國化粧品	二二二圓九四
合 計	一、四五三圓二四

蕪蒲地方小間物化粧品組合

四月十一日、第二十一回定時總會を開催、優良組合員並びに功勞者の表彰を行ふ、組合員の販賣狀況審査に關しては臨時審査員を派遣、組合員は協力一致協定價格を實行しつゝあり、毎月十五日評議員會を開く。

野田町化粧品組合

四月十七日、野田町清水公園清樂莊に第十六回總會開催、出席者二十二名、岡田組長司會の下に各報告、議事を終りたる後、役員選舉を行ひ、觀櫻會を開く。

厚木化粧品商組合

一月二十一日、第七回定期總會を大手町萬幸に開く。▽組合は常に小賣價格の統制に重點を置き濫賣を未然に防止することに協心努力しつゝあり、尙此の目的を有効ならしむるため、役員以外の主なる店主に参加を求め、組合費以外に積立をなし懇談會を催すこと年に三回。

北 陸

高田小間物化粧品卸組合

新年總會一回、秋季總會一回を開催、別に臨時旅行一回を行ふ。

新發田小間物商組合

一月六日、定時總會開催、規約中一部改正を議決、續いて役員改選凡て重任柏崎百貨同業組合

小千谷小間物同業組合

一月五日、總會及び新年宴會開催、五月十一日、店員慰安觀櫻會を開く。▽六月十六日、組合員一同水上温泉清遊、伊香保温泉一泊、榛名山探勝旅行を試む。

富山市小間物化粧品卸商組合

七月、組合員總出の上、宇奈月温泉に清遊を試む。

富山小間物化粧品小賣商組合

四月十八日、第六回定期總會開催、役員改選を行ふ。▽十一月五日、組合員中有力者三十名飛越線全通を機として出發、下呂温泉一泊、名古屋見物の後、上京、各化粧品本舗の招待を受け、十日歸國。

高岡化粧品小賣商組合

一月十日、第四回役員會を開催、組合事業計畫に付き協議を行ひ、値上製品に關する賣價協定の件を審議した。▽二月十八日、第四回定時總會開催、八年度會計報告承認の件、組合費増額の件を附議したる後、高岡警察署長、名譽顧問廣瀬

林也氏、組合長本間常吉氏等の業界統制に關する講演があつた。▽三月二十二日第九回常任理事會に於いて組合費増額徵集の方法審議、七月十八日、第十回常任理事會、規約一部改正、部長制度適用の件を附議した。▽七月二十一日、第五回役員會を開催、組合狀況報告承認の件。

魚津雜貨小間物商組合

一、總會。▽二、化粧品小賣最低値段協定。三、組合員の爲めに一定の協定額の範圍内に於いて金融斡旋。

金澤雜貨商組合

一月十九日、總會開催、昭和八年度決算報告承認。▽十月二十一日、店員慰安會。

金澤市荒物卸商團體

二月十一日、總會を開く。

武生小間物化粧品組合

二月十日、通常總會を開催、役員選舉定款の改正を行ふ。▽創立二十五周年祝賀會開催、勤績店員滿五年以上の表彰式舉行。

中 部

松本小間物化粧品同業組合

一月二十三日、淺間温泉に於いて總會

開催、役員選挙を行ひ、新年宴会を開く。

岐阜化粧品組合

一月、岐阜税務署より組合員營業收益税に關しての諮問あり、二月二十三日答申書提出。▽二月十六日、中山太一氏夫人告別式、長谷川組合長參列。▽三月二十六日、定期總會を岐阜商工會議所に開會、昭和九年度歳入出豫算並びに賦得徵收方法を議決。▽四月二十六日、組合員營業收益税團體申告終了。

關 荒 物 組 合

一月五日、總會、役員選挙を行ふ。▽一月十日、三州豊川閣へ團體參詣。八月十三日より、五日間納涼賣出しデパート。▽十一月三日、商工祭に参加賣出しを行ふ。

長濱小間物化粧品商組合

一月十日、總會兼新年宴会を長濱町鮎佐樓に開く。六月十日、總會兼懇親會を坂田郡至サツキ園京伊樓に開く。

名古屋小間物卸商組合

一月五日、名古屋ホテルに於いて組合新年宴会、席上第五回十年勤続店員表彰式舉行、受賞者五名。▽四月四日、市外入鹿温泉に於いて春季總會開催、役員改選懇親會。▽十月二日、龜崎望州樓に於いて秋季總會並びに懇親會を開く。

名古屋袋物卸商組合

四月十日、春季定時總會を犬山彩雲閣に開く。大名古屋劇場に恒例の店員慰安觀劇會開催、北勢富田濱に立干綱舉行の筈のところ雨天の爲め變更せるもの。▽十月十日、秋季定時總會を愛知縣龜崎町望州樓に開き役員改選、全部重任。

名古屋香油商組合

一月十日、岐阜縣笠松町、四季の里に新年總會を開き役員改選を行ふ。▽四月六日、中區南園町東館に業界時事に關する協議會を開く。▽十月四日、市内南伏見町の香取に於いて臨時總會開催、明年運動會舉行の件、明春一月十日新年宴会の開催、從來森組合長宅にありし事務所を名古屋小間物化粧品商報社内に變更の件を議決。

名古屋髻商組合

中區富岡町料亭湖月に定時總會を開催、役員改選並びに十一月一日より髻製品二割値上、明年度より組合費の増額徵收實施、從來年一回の總會を春秋二期に改むる件を議決。

名古屋化粧品小賣業組合

三月二十三日、第七回定時總會を名古屋商工會議所に開く。▽十一月三日、中部化粧品小賣商報社と共同主催の下に化粧品愛用者招待映畫と舞踏婚禮美粧大會を開催。

愛西化粧品小賣業組合

二月、舊正月前後を期して歳暮、新春賣出しをなす、八日間。▽四月二十六日總會。▽七月二十一日、統制規程認可、▽九月、舊盆の賣出し八日間。▽十月十五日、組合地方一市二郡に亘り組合事業としてキンシ洗粉七ヶ入を獨占的に直接共同仕入をなすの契約を結び現在實行中。

小牧雜貨組合

四月三日、組合員總會。▽四月十日、

各取引問屋を小牧山に案内して招待會を開く。▽四月二十五日、組合員の婦人旅行、多賀神社參拜。▽十月十九日、組合秋季總會及び茸狩。

半成化粧品小間物商組合

十月十九日、半田常盤館に於いて第八回定期總會を開催、出席者五十五名、協議事項は小賣値段協定の件、不良品不賣斷行の件、化粧品知識研鑽の件、此年の新加入者三名、脱退者一名。

近 畿

京都小間物化粧品卸商同業組合

三月一日、組合事務所にて役員改選を行ふ。▽六月四日、店員慰安會開催、大和樞原神宮參拜の後あやめ池遊園地に清遊。▽十一月九日、物故役員追悼法會を五條坂袋中庵に督む。▽同、前役員之感謝狀贈呈式並びに勤続店員表彰式を四條萬葉軒に舉行。

大阪小間物卸商同業組合

昭和八年十二月三十一日、事務所を新築の新館へ移轉、建築總工費六萬圓。▽一月十三日、午前事務所新築落成式、午後第二十四回店員表彰式舉行、受賞者二十五年五名、十年三十四名。終つて新年會を開く。▽四月六日、第五部春季總會を白濱に開く。▽四月十日、第七部總會を信貴山三樂莊に開く。▽四月十五日、第四部店員慰安遠足會。▽五月四日、第四部總會有馬温泉に開く。▽五月十四日、第六部總會を寶塚に開く。

▽五月十六日、第一部總會を松虫花に開く。▽六月、組合事務調査委員十六名を設く。▽十月八日、評議員議長松江新兵衛氏逝く。▽十一月二日、第六部店員慰安の爲め笠置から奈良にかけて遠足會を試む。▽十一月十八日、第四部店員慰安會として敵傍、岡寺方面に遠足を試む。

大阪化粧品同業組合

一月五日、第十三回新年福壽會を田葉橋畔大阪ビル俱樂部に開く。▽一月三十日、通常組合會を開催、定款改正調査委員を挙げ組合の内部組織改正の研究をなす事に決定。▽三月三日、第十三回勤続店員表彰式舉行、十年三十二名、二十年三名。▽三月五日より六日間、大阪市教育部と共同主催の下に第十四回實務講習會を開催。▽三月二十八日、組合代議員選挙を行ふ、定員二十名。▽四月五日、函館大火、罹災同業者見舞の爲め金一百圓組合より、金五十圓商報社より贈る。▽四月十日、役員改選、中山太一氏五度が組長に重任。▽六月二日、恒例の運動會を奈良春日野に舉行、參加一千三百名。▽六月十九日、臨時組合會開催。▽九月十一日、滿洲國關稅改正運動の爲めに蹶起することに決定、實行委品二十三名を擧ぐ。▽九月二十一日、颯風水害の同業者慰問として組合より三百圓、商報社より二百圓、自助會より五十圓寄贈、更らに組合より二千圓、商報社より一千圓支出。▽十月六日、復興資金融通問題の爲め緊急組合會開催、考究委員十一名を擧ぐ、東京組合よりの二千圓、大阪組合の

二千圓に大阪商報社の一千圓を合せ、罹災組合員二十九名、同小賣店五百六十五店へ見舞金を頒つ。▽十一月一日より組合内に復興資金相談所を設け、組合員の爲めに資金融通事務開始。

大阪荒物雜貨卸商組合荒業會

四月十一日、第二十二回總會。▽同十二日、家族慰安觀劇會。▽九月二十八日關西風水害救恤金二百圓也を寄贈。▽十一月十一日、第二十三回總會。▽毎月九日、商品交換會を開く。

奈良小間物化粧品商組合

二月八日、定時總會開催、役員總改選。▽五月二十五日、恒例見學旅行を行ひ組合全員參加、午前中堺市福助足袋工場見學、午後堺大灣沙干狩。▽九月十三日、商店更生策議演會を開く。

和歌山小間物化粧品同業組合

五月十三日、通常總會を開催、優良店員の表彰式を行ふ。▽六月十日、寶塚に團體旅行を試む。

新宮化粧品商組合

一月十六日、總會開催、會長の挨拶ありて後、會計報告、役員改選、化粧品小賣値段協定を行ひ、後新年宴會を開く。

中 國

鳥取小間物化粧品同業組合

新年には恒例の總會開催、運動會を鳥取砂丘に舉行。

島根縣松鞋會

一月、玉造溫泉場に新年會を開く。

今市小間物化粧品組合

一月十日、新年賀會、總會を開く。津山化粧品商組合
四月六日、總會を津山衆樂園に開く。

四 國

丸龜小間物化粧品組合

一、總會を開く。▽二、化粧品値段の相談を開く。▽三、組合外に別の會を組織すべく二回集合。▽四、秋會員一同茸狩遠足を試む。

坂出化粧品商業組合

一月二十二日、臨時總會開催、左記事項を附議した。

定款中變更の件、増員役員選任の件、營業統制規程設定の件、九年度事業計畫の件、九年度收支總算の件、九年度最高借入高の件、餘剰金預入先の件
▽六月十七日、第一回通常總會開催、昭和八年度末財産目録、貸借對照表事業報告書、經費收支豫算報告、損失金處分の件、定款中變更の件、以上議決。

松山化粧品小賣商業組合

七月二十八日、臨時總會開催、特定化粧品仕入、販賣の件、信用評定委員選任、非組合員に對する對策の件を可決、次に左の決議をなす。

本組合員は組合員たる資格を有する者にして本組合に加入せざる者に商品を供給する商店には、以後絕對に取引をなさず、右に違反したる時は定款第八十條の規定の適用を受くるも異議なし、右決議す

九 州

九州石鹼工業組合

九州石鹼工業組合は、昭和八年十二月十一日を以て認可されたが、二月八日第一回創立總會を博多商工會議所に開催。門司化粧品商組合

六月十日、第八回定時總會を開催、下關、小倉兩組合幹部各三氏出席。

小倉化粧品商組合

六月一日、小倉市大谷亭に第十回總會開催、幹事の表彰式舉行、感謝狀贈呈とともに記念品を贈る。書記井上一雄氏外十六名。時の組長長藤田弘策氏の退任に依り西村幸三郎氏組長となる。▽十月二十三、二十四の兩日、九州化粧品商組合聯合大會を小倉商工會議所に開催、出席組合、久留米、福岡組合、門司組合、大牟田組合、長崎組合、佐賀組合、熊本組合主催地當小倉市組合。

肥前實業商業組合

三月十五日、第一回定期總會。▽八月二十八日、第二回定期總會。▽十月二十九日、臨時總會。

熊本化粧品商業組合

四月十五日、總會開催、事業は研究の上實行に進む可く準備中。

長崎化粧品商組合

五月十六日、組合員總會開催、役員改選を行ひ、續いて一行百二十名、長崎市主催の勸業博覽會見物の上散會。▽十一月八日、新舊役員最初の會合を行ふ。▽毎月卸店會合、販賣値段の協定、小賣業者の濫賣等について協議を遂ぐ。

久留米組合

久留米丸萬百貨部が春の宣傳賣出しに於いて、資生堂を除外した有名化粧品を正價より三割引きにて販賣したのに端を發し、久留米組合と對立抗争となり、丸萬百貨部は遂ひに組合を脱退、久留米業界の協定破らる。因みに丸萬百貨部の割引賣出しは、組合幹部中に規約に反し年玉景品を添附せるを發見したるが爲めにかゝる強硬な態度に出でたものである。

新しき團體

昭和九年中設立

會名	所在地	設立月日	會員
五 嶽 會	東京	一月	五
石 鹼 二十 日 會	同	二月三日	三三
名古屋化粧品統制聯盟會	名古屋	三月二十三日	五〇〇
パケツ石鹼會	東京		三五
千 草 會	同		一三
宏 進 會	大阪	七月	一一
アイデアル會	札幌	八月二十日	五〇
アイデアル會	小樽	八月二十二日	
驗友俱樂部	東京	九月	三〇
滿洲太平洋會	奉天	九月二十日	八
二 日 會	大阪	十月二日	六
黑 若 會	東京	十月一日	一〇〇
神奈川縣柳生會	横濱	十月十七日	二〇〇
東京化粧品協會	東京	十一月十日	二三

業界の諸團體

一、組合を中心とする全国各地の業界には、組合以外の存在として公私、いろ／＼な團體がある。
 濫賣矯正、正價維持を主とするもの
 共同仕入、販賣、交換を目的とするもの
 研究、修養、親睦を目的とするもの
 製品を中心とするもの
 共同利益、業界肅正を主とするもの、等々
 一、これ等の諸團體を網羅せむと試みたものがこれである。その調査は主として各地組合及び商報社を煩した。

聯合會

北海道小間物化粧品卸商聯合會

大正十一年十月創立、事務所は小樽市住初町、會員三十五名
 昭和八年八月二十日の役員改選により現幹部如左。

- 會長 壽原英太郎氏
- 副會長 岡澤彦太郎氏
- 會計 松本繁三郎氏
- 幹事 橋本 文平氏
- 同 小泉 清一氏
- 同 田卷 靖司氏
- 同 莊田 徳太氏
- 同 本間 勤次氏
- 書記長 鳥野 一二氏
- 全九州化粧品商總會聯合會

九州に於ける各地組合を連繫統一する機關で、所屬組合員五千名、熊本の正清彌七氏を會長として總會を開くこと八回、社會に最も優良なる化粧品を最も廉價に最も簡便に供給すること

組 合 團 體

北海道

と、最も眞摯にして且文化價値に富む化粧品生産業を日本に於いて育成すること、化粧品販賣を合理化して正しき營業利潤により、全組合員の眞面目な生活を保證すること、以上の理想の下に、その達成に邁進して居る。事務所は熊本市坪井町一丁目。

函館化粧品商同志會

昭和四年十月五日、會員の出資積立金により共同仕入れを目的として創立。事務所を函館市寶町榎原金清堂に置く。會員七名、共同責任にて月番幹事を定む。

函館親交會

明治四十二年五月、會員の社交團體として創立、會員十三名
 幹事は毎月交代。

全北海太洋會

クラブ化粧品卸賣業者の共榮

を目的として創立、事務所は小樽市住初町二丁目北海道商報社内、會員四十名、幹部如左。

- 理事長 壽原英太郎氏
- 財産保管委員 廣瀬 徳市氏
- 同 高森市太郎氏
- 共榮クラブ會

昭和二年五月、クラブ化粧品濫賣防止を目的として創立、事務所は小樽市色内町五丁目岡島方、會員八十餘名。

小樽アイデアル會

東洋堂製品を中心として組織せるもの、昭和九年八月二十一日設立。役員としては西島、伊藤、中田藥店の諸氏就任。

小樽壽星會

小樽の壽原商株式會社が、業界の共存共済の精神より組織された團體。

小樽美粧振興會

小樽市の婦人結髮業者有志による團體で、昭和八年六月三日創立。

札幌ヘチマコロン會

昭和七年八月設立、會員四名
 幹部廣瀬支店。

札幌アイデアル會

昭和九年八月二十日、アイデアル化粧品販賣者相互の利益保護増進を目的として創立、事務所は札幌市北一條西五丁目アイデアル札幌出張所鈴木四郎方、會員五十名、幹部如左。

- 幹事長 小笠原楠彌氏
- 常任幹事 下妻 義次氏
- 同 野口 道雄氏
- 同 幹事 長島 貞一氏
- 同 佐々木文次郎氏
- 同 前多重太郎氏

田島重太郎氏
 小林 禮齡氏

岩手縣

一ノ關三藥會

蠟燭、燐寸、洗濯石鹼等の共同仕入れを行ふ三店の親睦機關
 佐藤 萬治氏
 淺井本店 淺井嘉兵衛氏
 守屋洋品店 守屋 清司氏

山形縣

五 盟 會

昭和二年十一月、卸商相互の親睦を圖るため創立、事務所は鶴岡商工會議所内、會員は左の七名。

- 後藤善太郎氏 鷲田 克巳氏
- 小松謙次郎氏 郷守 幸吉氏
- 田林 定吉氏 高橋安次郎氏
- 水口 幸吉氏

東京

化粧品本舖十日會

東京組合に於ける有力化粧品製造本舖を以て組織せるもの。大正八年の創立にして昭和八年新たに五名の會員を迎ふ。現在會員十五名。事務所は東京組合内に置く。

- 伊東胡蝶園 井筒屋香油店
- 井田京榮堂 高橋東洋堂
- 長瀬商會 中山太陽堂
- 久保政吉商店 丸見屋商店
- 小源商店 安藤井筒堂
- 天野源七商店 資生堂
- 尙美堂 平尾贊平商店

全國會議所議員一覽

（業員關係）
 註 業種中、小は小間物、化は化粧品、薬は藥品、雜は雜貨、荒は荒物、卸は卸賣の略。

會所名	業種	議員氏名
札幌	化、小	小林 禮齡 曾山長次郎 伊藤慶太郎 高城乙三郎
小樽	荒、雜	松川嘉太郎 井林 清介 谷 黒 莊 荒井 規 壽原 外吉 杉江商店代表 杉江仙次郎 本間 勘次
函館	ゴム	函館商會代表 内川 源作
旭川	小	池田兼次郎 西田 幸次郎 西村 富藏
室蘭	荒、雜	松岡 喜八 吉川 太次郎 平石 淺太郎 多田 光次郎
釧路	雜	佐々木松三郎 明治商會代表 田淵 幸三郎 橋本 辰之助 齊藤 熊雄 今井留次郎 橋本 文平 兩角 榮治
東京	藥貿易 百貨店	守隨彦太郎 平尾贊平商店代表 板倉安兵衛

十一月創立。會長は淺野新之丞氏、副會長は武井孝次郎、五十嵐敏雄の兩氏。

啓進會

東京組合に於ける組合員子弟の修養機關として明治四十三年九月、啓成會の名の下に初めて設立せられたるもの、隔月一回學界、實業界、政治、軍部、宗教界の各方面から諸名士を招聘して講演を開くの外、清新なる餘興を行ふ、會員常に五百名を下らない。

五日會

東都業界に於ける中堅化粧品問屋の共同仕入れを目的とするもの。大正三年九月創立、會員四名。

浦周陽堂 井田兩國堂
鈴木義明商店 武孝商店

かまもり會

東京業界に於ける香料商の融和懇親團體、大正十三年九月の創立、會員は左の十四氏、何れも個人として参加してゐる。

井上 辰藏氏 岩瀬 進氏
濱崎 謙一氏 早川市太郎氏
岡崎 辰三氏 小野田藤楠氏
會田 政治氏 小瀬 義次氏
小林安太郎氏 小林 米作氏
境野照之助氏 宮坂 文雄氏
篠崎 四郎氏 杉田 憲藏氏

共益會

小問物化粧品の共同仕入を目的に、昭和四年八月創立、會員十五名、會長は森惣兵衛氏、會計吉野龜之助氏。

新進俱樂部

小問物化粧品の共同仕入、會員の共同的利益の擁護のため

に、昭和五年十月創立、會員六十五人、事務所は淺草區馬道町一の五號一八、幹部如左。

會長 島田 眞氏
幹部 河津廣三郎氏
長坂 達三郎氏
志知宗三郎氏
坂巻 寛一氏
平澤鐵三郎氏
河端 一雄氏
武藤 精宏氏
高津洋三郎氏
竹内 益三氏
渡邊竹次郎氏
平野 恒三氏
建部 正三氏
松下 宰助氏

東京齒刷卸團體
東京に於ける齒刷卸卸貨問屋業者の親睦團體、昭和四年一月創立、會員五十名、幹部左の諸氏。

會長 澤 京治郎氏
副會長 德永保之助氏
會計 村上幾太郎氏
富樫 九八氏
御園會・ミツワ會
御園化粧品本舖伊東胡蝶園、ミツワ石鹼サワー化粧品本舖丸見屋商店が、大劇場に於ける觀劇客に、各月商品の實物宣傳を兼ねて、芝居とタイアップして行ふ御土產附觀劇會である。御園會は明治四十二年十一月の歌舞伎座より開催明治四十三年五月よりは御園會・ミツワ會連名開催。大正十二年大震災より各會それ、別個に毎月開催する。

大東京太洋會

クラゲ化粧品の卸値段協定並びに業界の共存共榮を目的とする大東京卸商の團體。創立は昭和八年十二月十七日、會員は三十名、幹部如左。

特別委員長 金高 良助氏
常任委員 葉滿田芳兵衛氏
田 中 吉兵衛氏
桑原 啓造氏
神保文太郎氏
千本木 彌八氏
大東京クラブ共榮會
クラゲ化粧品の値段協定並びに會員の共存共榮を圖るを目的とする大東京小賣商の團體。創立は昭和四年四月三日、現在會員九千五百六十八名、事務所は京橋區横町中山太陽堂支店内に置く。幹部は左の諸氏。

聯合會會長

松田幸治郎氏
副會長 荻村 武郎氏
菊地三之助氏
理事
伊藤 智幸氏 原田久兵衛氏
西村 力藏氏 富谷 宗吾氏
岡田 久吉氏 加藤房五郎氏
建部 正三氏 中村 五郎氏
山崎 塊一氏 淺野長次郎氏
三野村金次郎氏 島田 眞氏
森 惣兵衛氏 鈴木 勇雄氏

東京ライオン會

ライオン齒磨及びライオン齒刷子の販賣に従ふ東京一圓の有力問屋の團體、昭和六年三月創立、會員百五十餘名、幹部如左。

理事兼常務理事 石川伊勢松氏 林 磯八氏
葉滿田芳兵衛氏 岡島新太郎氏
大山勇次郎氏 脇田盛眞堂氏
川野喜四郎氏 田中花玉堂氏

玉置合名會社氏 武孝商店氏
中原久太郎氏 宇野繼五郎氏
井田幸八郎氏 桑原 啓造氏
山口竹次郎氏 柳下 商店氏
松浦 嘉七氏 前橋 商店氏
福島 都雄氏 天野 源七氏
三勇 商店氏 神保文太郎氏
芹田 商店氏 千本木商店氏
鈴木 義明氏

東獅會

ライオン本館の製品を中心とするライオン有力代理店の販賣機關。

アイデアル會

アイデアル化粧品を協定價格を以て販賣、相互の利益を圖るを目的として大正十四年七月九日創立。東京を始め全國各都市にそれ、アイデアル會の組織あり、東京に於ける會員六百五十名、幹部は左の諸氏。

會長 山崎 塊一氏
常任幹事 山岸米太郎氏
染谷治兵衛氏
佐々木榮次郎氏
藤田喜兵衛氏

柳生會

大正十四年七月九日、柳屋本店製造發賣特撰化粧品を協定價格を以て販賣、相互の利益と信用との保護増進を圖るを目的として創立。會員六百五十名。幹部左の諸氏。

會長 荻村 武郎氏
副會長 森 惣兵衛氏
淺野長次郎氏
伊澤 弘芳氏
島田 眞氏

幹事 石原 鈴吉氏 加藤房五郎氏

新湯 藥 佐藤 將治
藥 須賀田治郎八
藥 畑 新吉
雜 味方 利平
長岡 雜 山口 健造
藥 小橋 四郎治
藥 小林 庄平
直江津 荒 高島利太郎
荒 幸村 萬治

川越 荒 清水友右衛門
小 戸田 安治

前橋 藥 鈴木 愛三
荒 森本 三三

高崎 荒 住谷啓三郎

水戸 荒 高瀬藤次郎
小 中田 彦太郎
雜 富田 源藏

宇都宮 藥 清水 正三
藥 宇塚 榮吉
藥 藤井源太郎
藥 小松利三郎
藥 奈良利藤多

栃木 雜 佐藤 平吉
藥 松本 松藏
藥 坂本千代三郎

津 荒 山川 幾太郎
荒 田中 三七郎
雜 白銀屋洋店代表
倉田喜三郎

四日市 藥 伴野 勇吉
藥 網笠 清七

宇治 藥 松崎藤九郎
山田 村田仙右衛門

名古屋 藥 飯田 光吉

藥 小 荒 野村 平八
藥 奧川 源吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

藥 飯田 光吉

荳沼佐吉氏 吉川 元庸氏
 吉田芳太郎氏 高野 末四氏
 宇津 茂氏 野田 高治氏
 尾澤 四郎氏 松澤 與八氏
 木村 武治氏 三森 兼藏氏
 三田 豊吉氏 高津 竹松氏
 鹽崎 熊吉氏 平田 旭氏
 關 重五郎氏 須藤 榮氏
 同 藤田幸治郎氏
 同 菊地三之助氏
 同 柳屋本店氏
 同 中村 信治氏
 同 桑原 啓造氏
 同 柳屋本店氏

東京化粧品協會

大正十四年十一月創立、價格
 統制、濫賣矯正の爲めに努力せ
 るも、後事業中止。昭和九年十
 一月十日、化粧品製造、卸、小
 賣三業者間の緊密なる連携を保
 ち、業界改善の研究を目的とし
 る私的團體として更新。松田幸
 治郎氏を代表として事務所を日
 本橋區橋町十三東京小間物商同
 業組合内に置く。會員二十三名
 にして製造家側四名、卸商側四
 名、小間物商側四名。藥業側五
 名、氏名如左。

伊東 榮氏 外池五郎三郎氏
 高橋三四郎氏 中山 豊三氏
 長瀬 富郎氏 小林富次郎氏
 金原巳三郎氏 三輪善兵衛氏
 進藤 榮氏 平尾 贊平氏
 葉滿田芳兵衛氏 金高良助氏
 田中吉兵衛氏 神保文太郎氏
 原田久兵衛氏 松田幸治郎氏
 三野村金次郎氏 森忠兵衛氏
 富谷 宗吉氏 荻村 武郎氏
 吉田 達次氏 中村 信治氏
 菊地三之助氏

ツバメ會

花王石鹼本部長瀬商會の製品
 たるツバメ石鹼の販路を市内に
 擴め、小賣店に對する販賣に努
 力すべく、販路制度の嚴守、規
 定取引値段及び支拂期日の勵行
 を圖るを目的として昭和八年五
 月創立。會員は東都卸商十四名、
 幹部は左の諸氏。

常任理事 五十嵐 敏雄氏
 同 葉滿田芳兵衛氏
 同 西川 幾太郎氏
 同 計 鈴木 義明氏

東 五 會

美香園製品の販賣機關として
 昭和四年設立。會員十七名、地
 區は東京市内、世話役は中原久
 太郎氏。

ナトミ會

ナトミヤンプリーの販賣機關
 として昭和七年八月創立。會員
 五十名、幹部如左。

會長 谷澤 修氏
 幹部 清水平三郎氏
 同 鈴木代次郎氏

ポネット化粧品會

はかり賣連鎖店會
 創立昭和七年二月十一日、連
 鎖店加入者は現在八十七名。地
 區は關東、東北、北陸並びに大
 連。

香久花會

香久花號山本角太郎商店の製
 品を中心とする販賣機關、創立
 昭和三年十一月三日、會員百九
 十名、幹部六名。地區は東京市
 内及近縣。

東楊明和會

メーワ化粧品、メーワ商刷子
 メーワ石鹼等を中心とする共同

の製造販賣機關。創立昭和八年
 七月一日、會員八名、幹部飯塚
 芳次郎氏、堀内隆教氏、大野木
 傳氏。地區は舊東京市内。事務
 所は飯塚芳次郎氏方。

東楊協進會

昭和八年七月設立、會員八名。
 晃陽商會の製品を中心とする
 販賣者の團體、會員三十名、幹
 部は林儀次氏、大野木傳氏、武
 子金太郎氏、鹽崎太四郎氏。地
 區は東京市。

平 和 會

まえだ椿油を中心とする販賣
 者の團體。創立大正十五年五月
 一日、會員二十名、代表者前田
 爲一氏。

マルエ會

マルエ石鹼を中心とする販賣
 者の團體。創立昭和七年九月一
 日、會員三十名、地區は東京全
 市。

青 葉 會

青葉屋製品を中心とする販賣
 者の團體。創立大正八年五月。
 代表者青葉屋本支店。

東 油 互 進 會

昭和二年六月、會員の親睦並
 びに原料の共同仕入れを目的と
 して、東京煉油業者を以つて創
 立、會員は左の五名。

朝井 清輔氏 森本嘉作氏
 山本角太郎氏 齋藤恭之氏
 星 德藏氏

鳳 姿 會

長坂商店の製品を中心とする
 小間物商の販賣團體。創立は昭
 和九年六月十九日、會員五十名。
 代表者長坂商店。地區は關東一

TC三友會

大正六年、テーシー商會代理
 店たる藥局、藥店の三名を以つ
 て創立。地區は關東、東北、北
 海道、北陸。幹事は一年交代。

カオリの店チエー

カオリの店製品のチェイン團
 體。創立昭和五年二月一日、會
 員十一名、委員長長坂倉信雄氏。
 地區は關東地方一帯。

五 石 會

ベルベツト石鹼會社の製品中
 オペラ、ラニタン、アーク、ハ
 タカゼ等の各種洗濯石鹼の販賣
 機關として、昭和九年一月創立。
 會員は左の五名。

森友商店

三 勇 商店
 井上義三郎商店
 木下吉兵衛商店

パケツト石鹼會社

パケツト石鹼會社
 大東京一區一名合せて三十五名
 の會員を以て昭和九年春創立。
 代表者熊谷長左衛門氏。

十 日 會

石鹼同業者間の親睦を圖るべ
 く、明治時代より設けらる。事
 務所は東京石鹼製造同業組合事
 務所内。會員二十四名、代表者
 一柳信次郎氏。

石 鹼 二 十 日 會

東京石鹼製造同業組合に於け
 る同志の團體、團結により硬化
 油業者に對抗するを目的として
 昭和九年二月三日創立總會を開
 く。會員如左。

那山	福島	仙臺	上田	松本	長野	大垣	岐阜	長濱	大津	甲府	清水	濱松	静岡	一宮	岡崎																				
雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥	雜 藥																				
雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸	雜 卸																				
渡邊 惣吉	高田 謙吉	内海 榮次郎	大槻 洋平	金澤 治介	大和田 佐助	土屋 彌十郎	荒井 嘉三郎	齋川 久吉	本田 健一	岡野 庄平	土屋 助之壽	生田 伊助	山田 美三郎	渡部 松次郎	野村 銜吉	長谷川 豊市	小山 寅之助	西川 安太郎	幡野 柳七	望月 和一郎	久保田 勝五郎	小長井 鎌太郎	坪田 勇治郎	殿岡 勝藏	中村 藤吉	阿部 服太郎	小出 岩太郎	影山 喜一郎	大村 清次	宮木 貫之丞	柴田 爲一郎	高橋 洋品店代表	高橋 三四郎	平田 國太郎	大田 甚八郎

芳 誠 合 石井仙太郎氏
水村兵太郎氏 有馬 節藏氏
大崎 平氏 鈴木 武氏
ワイエヌ石 田邊 周次氏
齋藤 高一氏 田中銀三郎氏
笹山 賢亮氏 岩澤 秀直氏
勝田 仁康氏 相馬 久吉氏
藤田 寛三氏 三 明 舍
石井勝五郎氏 井村整興社
大野 三郎氏 並木民之助氏
山 栗 油脂 藤崎 石 諭
福島 市藏氏 福島 輝男氏
サクラ 石 諭 木内 謙治氏
飯塚龜次郎氏 高木徳治郎氏
神尾 石 諭 福島 友吉氏
小泉 正治氏 堀 甲子松氏
丹波勝治郎氏

蘭月香を中心とする販賣機關
で、昭和七年に創立。現在會員
左の八氏。
小森敬三氏 塚本 猶藏氏
草壁竹藏氏 中造 金造氏
山岸多一氏 二澤正五郎氏
中野新作氏 笹村 末吉氏
萬 上 會
萬上香を中心とする販賣店の
團體。會員百五十餘名。
月 虎 會
月虎印蚊取線香の販賣機關。
大正十三年二月創立。
東京藏前玩具問屋聯合會
浅草藏前通りの小物玩具問屋
を以つて組織せられ、毎年春秋
の二回玩具見本市を開催する。
加盟店は十二店、創立は昭和六
年九月。

蘭 友 俱樂部
昭和九年九月、同業者間の親
睦を圖るを目的として設立。事
務所は東京石輪製造同業組合事
務所内。會員三十名、幹部は左
の諸氏。
石井仙太郎氏 福島市藏氏
福島 輝男氏

石輪製造に關する共同研究を
目的として大正十四年設立。事
務所は東京石輪製造同業組合事
務所内。會員十六名、幹事如左。
竹井 俊郎氏 三雲次郎氏
川上八十太氏

東京 敷島 會
敷島香販賣機關として設立。
現在會員は左の八名。
森友 商店 中村本店
下田嘉右衛門氏 三勇商店
木下 商店 小森商店
黒田市之助商店 松澤商店

蘭 月 會
組合 團體

蘭月香を中心とする販賣機關
で、昭和七年に創立。現在會員
左の八氏。
小森敬三氏 塚本 猶藏氏
草壁竹藏氏 中造 金造氏
山岸多一氏 二澤正五郎氏
中野新作氏 笹村 末吉氏
萬 上 會
萬上香を中心とする販賣店の
團體。會員百五十餘名。
月 虎 會
月虎印蚊取線香の販賣機關。
大正十三年二月創立。
東京藏前玩具問屋聯合會
浅草藏前通りの小物玩具問屋
を以つて組織せられ、毎年春秋
の二回玩具見本市を開催する。
加盟店は十二店、創立は昭和六
年九月。

蘭 友 俱樂部
昭和九年九月、同業者間の親
睦を圖るを目的として設立。事
務所は東京石輪製造同業組合事
務所内。會員三十名、幹部は左
の諸氏。
石井仙太郎氏 福島市藏氏
福島 輝男氏

石輪製造に關する共同研究を
目的として大正十四年設立。事
務所は東京石輪製造同業組合事
務所内。會員十六名、幹事如左。
竹井 俊郎氏 三雲次郎氏
川上八十太氏

東京 敷島 會
敷島香販賣機關として設立。
現在會員は左の八名。
森友 商店 中村本店
下田嘉右衛門氏 三勇商店
木下 商店 小森商店
黒田市之助商店 松澤商店

蘭 月 會
組合 團體

蘭月香を中心とする販賣機關
で、昭和七年に創立。現在會員
左の八氏。
小森敬三氏 塚本 猶藏氏
草壁竹藏氏 中造 金造氏
山岸多一氏 二澤正五郎氏
中野新作氏 笹村 末吉氏
萬 上 會
萬上香を中心とする販賣店の
團體。會員百五十餘名。
月 虎 會
月虎印蚊取線香の販賣機關。
大正十三年二月創立。
東京藏前玩具問屋聯合會
浅草藏前通りの小物玩具問屋
を以つて組織せられ、毎年春秋
の二回玩具見本市を開催する。
加盟店は十二店、創立は昭和六
年九月。

蘭 友 俱樂部
昭和九年九月、同業者間の親
睦を圖るを目的として設立。事
務所は東京石輪製造同業組合事
務所内。會員三十名、幹部は左
の諸氏。
石井仙太郎氏 福島市藏氏
福島 輝男氏

石輪製造に關する共同研究を
目的として大正十四年設立。事
務所は東京石輪製造同業組合事
務所内。會員十六名、幹事如左。
竹井 俊郎氏 三雲次郎氏
川上八十太氏

東京 敷島 會
敷島香販賣機關として設立。
現在會員は左の八名。
森友 商店 中村本店
下田嘉右衛門氏 三勇商店
木下 商店 小森商店
黒田市之助商店 松澤商店

役篠崎清三郎氏。
レコード後援會
昭和八年十一月二十五日、伊
豆伊東温泉に開催せられたるレ
コード石輪協賛會を機としてそ
の創立發會式を舉行。合同油脂
直轄の代理店區域一府十六縣を
五部に分ち、左の幹部を置く。
會 頭 森本 三次氏
副 會 頭 本間 常吉氏
會計部長 高井作右衛門氏
第一部長 根本 源助氏
同 副部長 岸 淺次郎氏
同 副部長 松浦 嘉七氏
第二部長 金子 公英氏
同 副部長 飯島 兼次郎氏
同 會計部長 山本 宗一氏
第三部長 大山 和平氏
同 副部長 緒方 猶吉氏
同 會計部長 河内屋 文吉氏
第四部長 野村 多三郎氏
同 副部長 大津 伊平氏
同 會計部長 德野 彌吉氏
第五部長 伊藤 伊三郎氏
同 副部長 松坂屋 商店氏
同 會計部長 杉村 勘治氏
統制部長 金子 一眞氏
同 副部長 德野 彌 吉氏
同 副部長 稻垣 太兵衛氏
顧問 合同油脂株式會社
ハリウツド會

神奈川縣太洋會
クラブ化粧品取扱卸商より成
る、濫賣防止を目的、事務所は
横濱市中區富士見町一の五神奈
川縣商報社内。會員約百名。會
長 霜田七郎氏。

神奈川縣椰生會
柳屋製品の價格統制、販賣強
化を圖り、會員の福利増進を期
するを目的として昭和九年十月
十七日創立。事務所柳屋本店内。
會員約二百名。幹部如左。
會 長 山室慶三氏
副會長 橫澤三郎氏
同 松永貞郎氏

小間物化粧品會
横濱市内一流商店より成り、
共同購入、價格統制、並びに會
員の福利増進を圖るを目的とし
て創立、事務所は横濱市中區長
者町八丁目加藤方。會員約十名。
神奈川縣商友會
製造本舖よりの共同仕入、同
業親睦を目的として昭和四年創
立、事務所は横濱市神奈川區龜
住町一五古牧與平氏。會員六名、
代表者古牧與平氏。

神奈川縣キネマ會
キネマ石輪を中心に、會員の
親睦、値段の協定を目的として
大正十三年五月創立。事務所は
横濱市磯子區丸山町四八五、會
員は卸商のみにして百八名。幹
部は左の諸氏。
會 長 金子 一眞氏
副會長 霜田 七郎氏
同 細田利三郎氏

黒 若 會
昭和九年十月一日、黒若取扱
理髮業者を以て設立、會員百名
世話役布施與八氏、都筑庸惠氏。

神奈川縣太洋會
クラブ化粧品取扱卸商より成
る、濫賣防止を目的、事務所は
横濱市中區富士見町一の五神奈
川縣商報社内。會員約百名。會
長 霜田七郎氏。

神奈川縣椰生會
柳屋製品の價格統制、販賣強
化を圖り、會員の福利増進を期
するを目的として昭和九年十月
十七日創立。事務所柳屋本店内。
會員約二百名。幹部如左。
會 長 山室慶三氏
副會長 橫澤三郎氏
同 松永貞郎氏

小間物化粧品會
横濱市内一流商店より成り、
共同購入、價格統制、並びに會
員の福利増進を圖るを目的とし
て創立、事務所は横濱市中區長
者町八丁目加藤方。會員約十名。
神奈川縣商友會
製造本舖よりの共同仕入、同
業親睦を目的として昭和四年創
立、事務所は横濱市神奈川區龜
住町一五古牧與平氏。會員六名、
代表者古牧與平氏。

神奈川縣キネマ會
キネマ石輪を中心に、會員の
親睦、値段の協定を目的として
大正十三年五月創立。事務所は
横濱市磯子區丸山町四八五、會
員は卸商のみにして百八名。幹
部は左の諸氏。
會 長 金子 一眞氏
副會長 霜田 七郎氏
同 細田利三郎氏

黒 若 會
昭和九年十月一日、黒若取扱
理髮業者を以て設立、會員百名
世話役布施與八氏、都筑庸惠氏。

盛岡	青森	弘前	山形	鶴岡	酒田	秋田	福井	敦賀	金澤	富山
藥 化、小	雜 貨店	雜 藥、雜	小 藥	小 藥	雜 藥	荒 藥	荒 藥	荒 藥	荒 藥	荒 藥
根本善造	石川孝三	雨森良太	中村松太郎	小池銀太郎	白幡平太郎	中村長十郎	河井彌太郎	猪口博	野村吉六	富川保太郎

は大阪商報社内。會員六十名。幹事年番交替、顧問角倉商店小牧淺次氏、中山太陽堂兒玉勝一氏。

心 粧 會

本舖聯合宣傳並びに出品を目的として昭和三年十月創立。事務所は大阪商報社内。會員九名、幹事は御園本舖大阪支店長松波菊次郎氏。

二 日 會

本舖相互間の懇親、意志の疎通並びに東京十日會との連絡を目的として、昭和九年十月二日創立。事務所は大阪商報内。會員六名、幹部如左。

- 中山太陽堂
- 桃谷順天館
- 伊東胡蝶園支店
- 小林商店支店
- 長瀬商會支店
- 平尾商店支店

自 助 會

業界店員間の精神修養團體にして、明治四十二年五月十五日創立。事務所は大阪組合内。贊助員四十名、幹部は桃谷順一氏、伊藤章三氏、山崎麻吉氏外理事七名。

宏 進 會

會員の融和、業界の革正、濫賣防止を目的として昭和九年七月創立。事務所は大阪市東區南久寶寺町一丁目にあり、會員十一名、代表者杉本與吉氏。

大阪製油同業會

製油同業者間の融和發展を圖るを目的として大正十二年十一月創立。事務所は大阪市南區鹽町通三丁目木村猶三郎商店内。

會員四十二名。幹部は會長平泉平右衛門氏、會計木村猶三郎氏外、左の諸氏。

- 三好 爲三氏
- 田中安次郎氏
- 中務 安藏氏
- 福田源三郎氏
- 渡邊 宗助氏
- 野村 外吉氏
- 大槻 晁三氏
- 田村 眞策氏
- 松本竹次郎氏
- 川崎 清平氏
- 佐原忠次郎氏

友 會

事務所は大阪市北區芝田町にあり、會長は松原一郎氏。

鯨 親 會

會員の親睦並びに原料の共同購入を目的として創立。事務所は大阪市旭區鳴野町二二二、會員八名、會長小西智加太郎氏。

大阪石鹼製造同盟會

會員の親睦並びに鹼界の向上發展を圖る研究團體。事務所は大阪市旭區鳴野町にあり、會員十五名。會長は三輪乙五郎氏。

脂 製 會

親睦團體にして委員制度を採る、幹部は西本辰藏氏、梶野氏、井上百太郎氏。

脂 友 會

會員の親睦並びに原料の共同購入を目的とする團體。幹部は藪田善次郎氏、松原一郎氏。

荒 藥 會

大阪市内荒物問屋の親睦を協調する目的の下に大正十二年五月十四日創立。事務所は大阪市東區博勞町四の五三にあり、會員は五十三名、會長大谷藤四郎氏、書記長田中久明氏。

八 千 代 會

大正六年、テーシー商會代理店たる藥局、藥店を以て設立、

幹事は一年交代。
日本百貨均一卸協會
現金取引の助長、職任仕入の便益を圖るを目的として創立。事務所は大阪市東區北久寶寺町二の四にあり、會員十八名、會長杉本林之助氏。

大阪商林見本市

春秋二回、大阪府立貿易館に見本市を開催するを以て目的とする。昭和三年三月創立。會員百三十名、事務所は大阪市東區北久寶寺町二大阪小間卸商同業組合内。

大阪見本市聯合會

大阪市内に開催される見本市、商品市の十三團體の統制を圖るため、昭和七年七月創立。事務所は大阪市東區北久寶寺町二大阪小間物卸商同業組合内。

管 交 會

會員十二名、事務所は大阪市東區南久寶寺町一杉本林之助氏方に置く。

皇國擁護修養會

大阪小間物同業者の修養機關、會員三十名、事務所は大阪市東區南久寶寺町二鳥居久吉氏方。

交 親 組

大阪小間物組合の前、元、現の各役員の交親團體、創立は三十年前、會員百餘名。

公 粧 會

大阪市公設市場に店舗を有する化粧品小間物小賣業者の親睦機關、大正十五年十一月創立、會員四十餘名。事務所は大阪市住吉區田邊西の町六、幹部如左。名譽會長 池之端 穠氏

副會長 萬谷佐太郎氏
理事 藤井 鼎藏氏
理事 染井 巖氏

互 優 會

大阪一流の有力商店が自信ある流行逸品を、毎年春秋二回の見本市シーズンに陳列して、展示見本市を行ふのが目的、會員十名、事務所は大阪市東區博勞町四服部時計店大阪支店内。

久寶寺町商品市

三月九月初旬に、堺筋以西南久寶寺町迄の街舖商品市を試みるために昭和六年三月創立。會員八十餘名、事務所は大阪市東區久寶寺町二水上政勝商店にあり、會長は田中正太郎氏、幹部は水上政勝氏、入江新次郎氏、稻垣政七氏。

久寶會商品市

堺筋以東久寶寺町の街舖商品市を目的とする。會員八十餘名、事務所は大阪市東區南久寶寺町一西村福松商店方。會長西村福松氏、幹部は松本林之助氏、橋田橋鹿氏、近藤彌次郎氏、藤井龜吉氏。

久寶卸聯盟會

會員の現金代金引換の取引機關として昭和八年五月二十一日創立、會員二十二名、事務所は大阪市東區南久寶寺町二能本義一方に置く、幹事は能本義一、桑原芳太郎の兩氏。

鏡 友 會

鏡内地業者の營業の發展、親睦並びに店員の修養を計るを目的とする、會員四十名。事務所は大阪小間物組合事務所内。

船場修養會

大阪小間物組合事務所内。

飯塚	直方	戸畑	八幡	大牟田	若松	小倉	久留米	博多	高知	松山	高松	徳島																						
藥	雜	雜	雜	雜	雜	藥	化	藥	藥	藥	藥	雜																						
藥	雜	雜	雜	雜	雜	藥	化	藥	藥	藥	藥	雜																						
堀專右衛門	秋吉虎之助	田代勝見	上妻弘三郎	實藤藤七	篠原力藏	中庄太郎	矢動丸市太郎	村上内太郎	陣内太郎	荒木七郎	長野常一	池田庄太郎	波田一男	近藤一雄	松林佐吉	上林一雄	小笠原學郎	松田虎太郎	山口泰三	森下源太郎	熊川國造	相部正太郎	西川澄夫	山本善吾	竹崎友次	隅田金之助	徳直左衛門	ウエリス商店代	和泉乙三郎	井上進之丞	安田美代造	藤原與三郎	多田通六	石井

大正十三年創立、會員四十名、事務所を大阪區東區南久寶寺町三井上徳商店に設く、幹部は井上徳太郎氏。

商友會 齒刷牙業有志の共同購買、會員間の金融機關、十年前創立、會員十四名。

至誠會 大阪市内の有力小賣商有志の團體、昭和三年八月創立、會員二十名、事務所は大阪市東區山下町一三六に在り、會長は寺田正太郎氏。

七寶會 會員相互の信用、扶助並びに店員の修養のため二十年前より組織。會員十二名、準會員百三十名。事務所は大阪市東區南久寶寺町一近藤彌次郎方。

國防婦人會太陽堂分會 クラブ本館中山太陽堂が、國防婦人會に加盟して、昭和八年十一月五日組織したる愛國團體。

兵庫縣

菜乃葉會 親睦を計るために、昭和五年一月一日創立、會員八名、事務所は神戸市湊東區多聞通三、幹部如左。

柴吉一氏 前田 竹松氏 竹本梅吉氏 伊藤安治郎氏 美馬幸吉氏 杉田定之助氏 幡磨幸七氏 山内 直一氏 神戸クラブ共榮會

大正十三年創立、會員六十名、事務所は神戸市葺合區御幸

通七、代表者は竹本梅吉氏。

神戸仁丹會 大正十五年一月創立、會員三十五名、事務所は神戸市湊東區相生町四、會長は前田竹松氏。

神戸レイト觀摩會 大正十三年組織、會員五十名、事務所は神戸市兵庫區小物屋町に在り、代表者は杉田定之助氏。

神戶クロバト會 昭和七年六月の創立、事務所は神戸市須磨區御幸町三、會員三十名、會長は守野萬一氏。

昭和の平和會 會員の平和、統一を計るため昭和二年四月三日創立、會員六十名、事務所は神戸市湊東區多聞通三、幹部如左。

柴仁三郎氏 竹本 梅吉氏 前田 竹松氏 美馬 幸吉氏 伊藤安次郎氏 杉田定之助氏 共榮會

會員の共存共榮、生活必需品供給のため組織された團體、創立は昭和二年十月十七日。事務所は明石市櫻町一丁目にあり、現在會員一千四百五十名。幹部は左の二氏。

長谷川治太郎氏 中濱眞次氏 二十日會 播州淡路に於ける卸業者の主腦者を以て昭和六年三月二十日創立。事務所は兵庫縣明石市櫻町一の一五三にあり、會員六名。如左。

額田憲直氏 鈴木 安藏氏 松野元輔氏 尼子富三郎氏 秋田福松氏 井上 常吉氏 明統會

業界の向上發展並びに同業者

の親睦を圖るを目的として大正十三年創立。事務所は明石市櫻町一丁目播淡化粧品平和月報社内。會員六十五名、代表者吉川房吉氏、書記長小田清太郎氏。

奈良縣

大和共榮クラブ會 聯合會

クラブ化粧品小賣値段統制を目的として大正十五年五月創立。事務所は奈良市元興寺町にあり、會員千名、聯合會長小林米藏氏。

奈良小間物化粧品交換會 商品を持ち寄り競賣並びに交換するの目的、創立は大正十三年七月、事務所は奈良市寺林町集會所にあり、會員五十名、幹部は左の諸氏。

小林 米藏氏 奥村 菊藏氏 藤井 象吉氏 白木喜三郎氏 松本徳次郎氏 奈良縣本洋會

クラブ化粧品卸値段統制を目的として大正十五年五月創立。事務所は奈良縣田原本町にあり、會員二十名、財産保管委員楠田正一氏。

和歌山縣

クラブ化粧品紀北 販賣の統制を目的として昭和三年五月二十日創立。事務所は和歌山市杉の馬場三の一岩橋方、會員四百名、幹部如左。

會長 和田 白氏 副會長 岩橋 濟氏 幹事 井畑惣衛門氏 湯淺 精吾氏 同 藤村 楠吉氏 同 長尾 久吉氏 同 平松 靖民氏

共同仕入、販賣統制を目的として大正十三年一月創立。事務所は和歌山市杉ノ馬場三の一岩橋方。會員二十名、會長井畑惣衛門氏、副會長岩橋濟氏、幹事は二名宛一ヶ年交代。

主として化粧品値段協定を目的として大正十年頃創立。會員六名、幹部如左。

湯原幸之助氏 曾田 榮造氏 眞岡榮太郎氏 神田 新市氏 三成、熊市氏 梶谷種一郎氏

昭和六年三月創立、事務所は岡山縣淺口郡玉島町宇通町にあり、會員七名、會長岩田七三郎氏。

五島七福會

北諸郡是製糸代表

江夏吉助

瀨戸山武助

山福ライオン會 昭和七年五月、ライオン石嶮の販賣機關として山口縣下及び北九州一角の販賣店を以つて創立、會員卅名、世話役夏川本店。

Table with 10 columns and 2 rows. Columns: 大分, 佐賀, 中津, 熊本, 宮崎, 都城, 鹿兒島, 豊原, 大泊. Rows: 雜化, 雜化, 雜化, 雜化, 雜化, 雜化, 雜化, 雜化, 雜化. Includes names like 荒木立太郎, 岸三郎, 上田利七郎, etc.

福岡縣

關門倉三市化粧品

商組合聯合會
化粧品協定價格を下關、門司、小倉市の三とも共通することを並びに相互の親睦を圖るを目的として昭和二年一月創立。事務所は三市の組合事務所であり、三市組合長が毎年輪番幹事として事務を統ぶ。

福岡十日會

福岡市に於ける化粧品卸商の團體、八日會及福岡石鹼同業組合の合同によつて生れたる團體。創立昭和八年四月三日、事務所は九州商報社内。

門司粧友會

九州商報社の組合強化運動策として、門司市榮町、内本町、日の出町筋の中堅小賣業者を以つて、昭和九年十一月十六日創立。會員十五名、幹部如左。

- 常任幹事 吉田龜太郎氏
西野安之助氏
門林三之助氏
吉川卯三郎氏
櫻井 四郎氏
島生利三郎氏
平井 順輔氏
本間 慶作氏
伊藤長次郎氏

長崎縣

昭和會

卸值段の協定、業界の弊風矯正を目的として昭和二年創立。事務所は佐世保市新免支店內に

置く。會員は佐世保の新免支店河合商店、早岐の村山商店の三卸問屋。臨時集合制を採つて居るが、昭和九年七月十八日には佐世保館に小賣業者との協議大會を開催、百二十餘名出席、取引制度改善その他の協定して成果を収む。

熊本縣

熊本化粧品卸商五日會

昭和八年十月創立、事務所は熊本市耀屋町裏二番町益田方。會員は

- 益田合名會社 正清彌七氏
金澤嘉一郎氏 高田松美氏
西田 商店

以上五名、合議制にして別に會長を設けず。

鹿兒島縣

鹿兒島化粧品二十日會

同業者間の親睦を圖るを目的として大正十三年五月創立。事務所並びに責任者なく、會員は卸商並びに小賣有力店の十四名、幹事は輪番に交代。

川内化粧品雜貨聯盟

同業者の親睦を圖るを目的として昭和八年五月創立。事務所は川内町大小路聯盟會長與村義雄氏方。

九州カモ井會

鹿兒島、宮崎兩縣を除く全九州のカモ井蠟取紙販賣機關で、昭和七年二月創立、會員は十三名、會長は頓田優三、副會長は吉村益次氏。

朝鮮

釜山花王會

昭和四年十月十九日創立、會員百名、事務所は釜山府大倉町三に設けてある、會長は西尾角藏氏。

釜山美頰會

昭和四年三月創立、會員九十五名、事務所は釜山府大倉町三五名、會長は西尾角藏氏。

釜山共榮クラブ會

大正十四年六月八日創立、會員百九十七名、事務所釜山府大倉町三號。

朝鮮麗德會釜山支部

大正十五年十二月八日創立、會員百七十六名、事務所釜山府大倉町三。

京城共榮クラブ會

クラブ化粧品販賣者の共存共榮を目的として昭和二年六月十五日創立。事務所は京城府元町二丁目にあり、會員三百名、會長は齋藤藤三郎氏。

中央太洋會

會員の共存共榮を目的として昭和九年八月十七日創立。事務所は京城府本町二丁目。會員六名、理事長山本憲三郎氏。

朝鮮麗德會京城支部

會員の共存共榮を目的として昭和三年四月創立。事務所は京城府本町四丁目。會員三百名、會長川浪清次氏。

京城牛乳石鹼會

朝鮮に於ける牛乳石鹼の中央配給元月本商店主催の下に昭和八年三月十七日創立。

仁化化粧品同盟會

昭和二年四月一日に創立、會員六名、事務所は京城府本町二丁目。

朝鮮太洋會

大正十二年創立、事務所は京城府明法町二月本政次郎商店に設く、會員四十名。

鎮南浦商盛會

大正二年二月創立、鎮南浦府明京町に事務所を置く。會長岡部平一氏。副會長貝島權藏氏。

臺灣

同業者相互の親睦融和を圖るを目的として昭和六年二月九日創立。會員は三十四名、各會員輪番當直制。

滿洲

滿洲太洋會
值段統制を目的とするクラブ化粧品卸商の團體、創立昭和九年九月二十日、會員は八名、幹部如左。

理事長

- 前田德太郎氏
川勝正三郎氏
中村 房市氏
寺島治三郎氏
岡田小太郎氏

當番理事

- 同 寺島治三郎氏
同 岡田小太郎氏

財產保管委員

- 同 岡田小太郎氏

Table with columns for names and professions. Columns include: 眞岡 (眞岡 西村 才吉), 知取 (知取 大橋 德太郎), 京城 (京城 小、化 山本 憲三郎), 仁川 (仁川 雜、質 宇 惠 吉藏), 大邱 (大邱 雜 三木 實治郎), 釜山 (釜山 雜 ゴム 丸大子 代表), 平壤 (平壤 藥 菊田 信吉), 群山 (群山 石鹼 加茂 爲次), 木浦 (木浦 藥 神林 松三), 新義州 (新義州 雜 卸 藤本 嘉三), 元山 (元山 雜 飯山 喜三郎), 元山 (元山 雜 池田 一太郎), 元山 (元山 雜 小野 文吉).

全國業界組合一覽

〔商業組合は除く〕

北海道

組合名稱	所在地	設立年月日	組合長	書記長	組合員數
札幌小間物化粧品卸商組合	札幌市南一條西二丁目	昭和七年一月	小泉清一	名達修治	一五
札幌小間物化粧品小賣商組合	同 南五條西四丁目		小林禪齡		
函館小間物化粧品卸商組合	函館市高砂町一三	大正十五年四月一日	齋藤脩平	大梶善太郎	一九
函館和洋小間物商組合	同 高砂町一三	明治二十六年五月	齋藤脩平	大梶善太郎	七一
小樽小間物化粧品卸商組合	小樽市花園町西二の二八	大正十二年一月	村住三右衛門		一二
小樽洋物小間物商組合	同 住初町一の二〇丸谷方	明治二十七年	越井治郎	丸谷松三	六〇
小樽化粧品製造組合	同 住初町二の一七	昭和五年十二月三日	市岡六郎	中村寛一郎	七
小樽石鹼工業組合	同 住初町二の一七	昭和九年四月十三日	山崎自治 <small>理事長</small>	中村寛一郎 <small>書記</small>	一〇
小樽荒物漆器問屋組合	同 港町大通足立合名會社内	大正八年十月	足立敬次郎		一八
北海道小間物化粧品卸商聯合會	同 住初町二の一七	大正十一年十二月	壽原英太郎	島野一二	三〇
旭川小間物化粧品卸商組合	旭川市三條通八右四號	大正七年六月	池田兼次郎		一二
旭川荒物雜貨商組合	同 四條通五丁目左一號	大正九年一月十一日	西田幸次郎	高桑美三郎	五二

組合役員選舉

全國各地に於ける業界關係組合の役員中、昭和八年十一月一日より同九年十月末日迄の間に於いて新たに改選せられたるもののみを掲ぐ。調査は各組合よりの報告に據る。

大阪荒物雜貨卸商組合荒業會

八年十一月十一日改選

- 會長 大谷藤四郎
- 副會長 笹谷新助
- 同 古田權兵衛
- 同 加藤半藏
- 同 杉岡新七
- 同 眞木虎之助
- 同 大西武雄
- 同 矢野新次郎
- 同 藤原市郎治
- 同 山田房治郎
- 同 參事

東京石鹼製造同業組合

八年十一月二十二日改選

- 會長 相馬久吉
- 副會長 一柳信次郎
- 同 保々誠次郎
- 同 福島市藏
- 同 福島輝男
- 同 花王石鹼株式會社
- 同 長瀬商會
- 同 水村兵太郎
- 同 三輪善兵衛
- 同 合同油脂株式會社
- 同 旭電化工業株式會社

岩手縣	弘前小間物商組合	青森和洋小間物商組合	知取雜貨商組合	大泊小間物化粧品商組合	樺太					岩見澤小間物化粧品商組合	厚岸化粧品同業組合	江別荒物雜貨商組合	伊達町小間物化粧品組合	網走化粧品商組合	釧路藥種商組合	釧路洋物小間物商組合	帶廣小間物商組合	稚内荒物雜貨商組合	稚内化粧品商組合	岩内洋品小間物商組合
	弘前市大字和徳町	青森市大町一の一四	知取町初音町一の一四	大泊町本町大通南一の一三	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年
	明治三十年七月十五日	明治三十五年五月	昭和二	大正十一年七月	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年
	大高啓吉	樋口喜輔	丸山進	田邊清志	長島善太郎	丹野宗三郎	岩田友男	寺田源藏	寺田源藏	林好次	酒井法弘	村瀬兼次郎	莊田徳太	寺江甚助	後藤佐吉	江川利兵衛	森嶋利一	山口清	山口清	山口清
	原田啓三郎					市川啓作	寺川定次郎	寺田源藏	寺田源藏	布施勇三郎				寺江甚助						
	二七	五六	三〇	二〇	九	一四	三〇	一〇	二五	三五	二一	六〇	二四	二〇	一九					

ライオン石鹼株式會社
木内謙治
藤田寛三
勝田仁康
ミヨシ石鹼工業合資會社
笹山賢亮
株式會社資生堂
石井勝五郎
井村整興社
日本ワイエス石鹼株式會社

坂出化粧品商業組合

八年十一月三十日改選
理事長 鎌田 英夫
理事 福岡次郎
米澤 英太
渡邊 幸平
馬場 繁
塚本 岩市
大山新七郎
高木春五郎
長尾文四郎

小千谷小間物同業組合

九年一月五日改選
組合長 大塚 定吉
理事 吉澤銀太郎
田中仁太郎
漆原 孝吉
石坂仙次郎
西新 藥店

關荒物組合

一月五日改選
會長 藤田 新六
會計 野田彌兵衛

盛岡小間物化粧品商組合	盛岡市三戸町一四八	大正十三年十月二十五日	熊谷長八	井上留吉	六八
一關洋物化粧品商組合	一關町字地主町二九	昭和二年四月一日	千葉繁	佐々木猛	一〇
一關小間物文具商組合	同 地主町 千葉方	大正六年	佐藤喜平	千葉久之丞	一〇
花巻小間物商組合	花巻町		岩田豐藏		二五
秋田小間物商組合	秋田市大町三丁目秋田實業組合聯合會內	明治三十一年二月十一日	木内隆一	米塚勇五郎	三四
秋田 荒物商組合	同 大町三丁目秋田實業組合聯合會內	大正十三年四月七日	片屋永之助	米塚勇五郎	三〇
能代小間物商組合	能代港町上町七四マルキ洋品店內	大正四年五月	岸部儀助		二八
本莊町小間物同業組合	本莊町大町三九	明治四十四年三月	伊藤久吾		七
山形小間物洋品商組合	山形市旅籠町一	明治三十六年十月	佐竹久司		四三
鶴岡小間物商組合	鶴岡市上肴町	大正三年五月	小池銀太郎		二八
鶴岡 荒物商組合	同 新町甲八一	明治十七年五月	諏訪 富右衛門	諏訪 富右衛門	二七
鶴岡 蠟燭製造業組合	同 上肴町五八	昭和六年三月	五十嵐 善五郎	五十嵐 善五郎	九
酒田小間物洋品文具商組合	酒田市大工町二七	明治三十八年二月五日	高山菊次郎		三一
酒田 荒物商組合	同 下中町 五十嵐方	大正七年十一月	五十嵐傳七		五〇
仙臺小間物雜貨商組合	仙臺市大町四の三八	明治三十一年十月	齋川久吉	井澤慶太郎	四五

新發田小間物商組合

一月六日改選

- 組合長 齋藤太四郎
- 副組長 野澤 米吉
- 幹事 加藤 長太
- 同 佐藤 信一
- 同 宮 恒吉
- 同 川口 新作
- 同 鈴木 吉平

熊谷化粧品小賣商業組合

一月六日改選

- 理事長 坂田 仲造
- 理事 西山 靜吉
- 同 田伏 榮雄
- 同 杉浦卯之輔
- 同 渡邊儀三郎
- 同 長谷川治平
- 同 小林庄三郎
- 同 小泉龜太郎
- 信用評定委員 藤倉 新吉
- 同 柴崎惣太郎

丸瀬小間物化粧品組合

一月七日改選

- 組合長 小西 篤治
- 副組長 大井 秀夫
- 事務長 中野 幸吉

函館和洋小間物商組合

一月八日改選

- 組合長 齋藤 脩平
- 副組合長 內山 哲雄
- 庶務 榎原 康太
- 會計 玉井謹三郎
- 評議員 奥田熊太郎
- 同 村田 文藤

石卷洋品雜貨同業組合	石卷市大町三	大正元年十一月三	菊田貞吉	四倉德造	一五
福島縣					
平小間物洋物商組合	平町四の二六	大正七年二月	猪狩庄平	中野庄吉	一五
湯本町小間物化粧品商同業組合	湯本町大字湯本字三函一九九	昭和元年十二月一	若松寅次郎	村上金八	三〇
茨城縣					
水戸市小間物化粧品商組合	水戸市商工會議所内	明治三十八年八月二日	中田彦太郎		八三
土浦荒物商組合	土浦町柴沼方		柴沼繁之助		六
土浦化粧品組合	土浦町本町八三八	昭和八年十月	上野源吉	前橋藏之助	五二
栃木縣					
栃木町小間物化粧品商組合	栃木町倭町 杉江方	大正十四年一月	杉江龜松	小田喜七	六八
小山小間物化粧品雜貨商組合	小山町本町二二一五	大正十四年一月	野田喜平	大塚恒吉	三〇
田沼町小間物組合	田沼町	大正十三年四月	津布久 鯛一郎	和田政夫	三八
群馬縣					
高崎小間物化粧品商組合	高崎市本町一一五	大正九年九月一日	清塚佐太郎		一七〇
高崎化粧品雜貨商組合	高崎市田町九五	明治三十一年	國峯辰治		一二
澁川荒物商組合	澁川町上之町 梅澤方	大正十一年	梅澤四郎	根岸雄治	一三
沼田小間物化粧品商組合	沼田町甲一一二八	大正十一年十一月	中山勝次郎	關上雅男	一五
佐波小間物化粧品組合	伊勢崎町一〇八七	大正十二年五月五	星野忠藏		四八

東京鑿形業組合
一月八日改選
組長 小山 平藏
副組長 石橋傳五郎
會計主任 鈴木鉦太郎
幹事 川上德四郎
高津 卓三
水野 善治
杉田 貞治
田久保爲藏
大島 茂一
同 酒井 專市

東京貴金屬製造同業組合
一月十日改選
組長 細沼淺四郎
副組長 伊澤榮太郎
同 金子政太郎
名譽顧問 山崎 龜吉
參 與 松村 伊助
鈴木喜兵衛 黑川 義勝
田中 一郎 池田 嘉吉
宮本 庄七
品田 末藏
評議員 高木新次郎 田中 謙三
原清右衛門 中村善太郎
久米 武夫 松山繁三郎
海老原 環 溝口 萬吉

埼玉縣

川口荒物商組合	川口市九七九	大正十四年一月	富田定兵衛		二〇
川越小間物化粧品商組合	川越市高澤町近興商店内	昭和元年五月	戸田安治	副組合長喜賀仁田廣吉	八二
大宮化粧品雜貨商組合	大宮町四一〇七	大正七年十一月	清水滿藏	吉田清次郎	八一
秩父化粧品聯合組合	秩父町一三八七	昭和五年三月	平井久吉	内田豐吉	一八〇
葛蒲地方小間物化粧品商組合	葛蒲町春日町三五九	明治三十九年三月	平澤清十郎	遠藤芳太郎	一四七
埼玉化粧品組合	久喜町久喜新田四一三	大正八年	服部清次郎		二〇〇
深谷小間物化粧品組合	深谷町深谷二〇二横田方	昭和二年三月	横田治郎三	横田治郎三	四〇

千葉縣

千葉化粧品石鹼商組合	千葉市本町三丁目	昭和四年十一月	宇津木市太郎	飯嶋俊之介	八〇
野田町化粧品同業組合	野田町二の二四六	大正十年五月三日	岡田安司	直井近藏	三七
佐原小間物化粧品商組合	佐原町佐原イ四八七	大正八年	大木宗藏		一〇
木更津小間物化粧品組合	木更津町	大正四年七月	大野一郎	清水松太郎	五〇

東京府

東京小間物化粧品卸商同業組合	東京市日本橋區馬喰町三の三	明治二十五年四月十九日	小林富次郎	廣田嘉一	八九九
東京小間物商同業組合	日本橋區橋町十三番地八	明治四十年一月二十三日	三野村金次郎	天野寬哉	七一七
東京石鹼製造同業組合	本所區江東橋三の九	明治三十二年五月五日	相馬久吉	杉ノ原英太郎	八一
東京石鹼購買組合	同本所區江東橋三の九 東京石鹼製造同業組合内	昭和九年四月	保々誠次郎		六〇

鈴木銀次郎 世木 延七
喜多村保太郎 森 岩吉

魚澤雜貨小間物商組合

一月十日改選
組合長 淺尾 久晴
副組合長 稻葉 忠正
理事 喜中幸次郎
小林 清盛
白田 榮作
守谷 貞良
同 的場捨次郎

名古屋香油商組合

一月十日改選
組合長 森 庄助
副組合長 井上銀太郎
會計 伊藤 鏡助
理事 松山與會一
伊藤 欽次郎
同 武内富三郎
同 伊藤 貞七
相談役 伊藤 貞七

長濱小間物化粧品商組合

一月十日改選
組合長 羽淵善三郎
會計幹事 中島 昇
幹事 中澤 發三
同 鈴木民三郎
同 道慶與三郎
同 收益稅調查委員
同 羽淵善三郎
同 中島 昇
同 中澤 發三
同 藤居 賢造

弘前小間物商組合

一月十一日改選
組合長 大高 啓吉

東京香料商組合	東京市日本橋區本町四の九の六日	明治四十年八月十日	長谷川 藤太郎	組長 兼任	二三
東京藥物煙草具製造販賣同業組合	同 淺草區柳橋二の五	明治三十八年十二月十五日	村山善兵衛	小林儀三郎	一八〇
東京荒物問屋組合	同 日本橋小網町一丁目	大正三年八月三十日	中村茂八	大澤新七	二〇
東京洋裝雜貨卸商同業組合	同 日本橋區鰯殼町四の一	明治四十五年六月十四日	加藤末藏	田中衆八	一一〇
東京黃楊櫛製造業組合	同 本郷區湯島天神町一の七	明治二十八年五月八日	富田三五郎		四五
東京蓄形業組合	同 日本橋區馬喰町三の三の一	明治三十三年十月九日	小山平藏		四八
東京鬘人毛商工組合	同 淺草區松清町三 瀨戶方	明治十七年	瀨戶直次郎	濱田 忠	二三九
神奈川縣					
橫濱化粧品卸商同業組合	橫濱市中區富士見町一の五	明治四十二年	霜田七郎	荒木武雄	九七
鶴見小間物化粧品組合	同 鶴見區潮田町二〇七九畑方	昭和四年十月十三日	畑 與三吉		
橫須賀雜貨卸商組合	同 橫須賀市大瀨町三八村松紙店方	昭和六年一月五日	村松規具		三一
厚木化粧品商組合	同 厚木町二六〇四	昭和二年十一月	岡部能太郎		三〇
小田原化粧品商組合	同 小田原町幸一丁目里見方	昭和四年十一月	里見德太郎		五二
秦野洋物化粧品同業組合	同 秦野町二六八七小泉忠次郎方	大正三年六月			九
三崎化粧品組合	同 三崎町日ノ出六八	昭和六年四月一日	佐々木 元三郎		二二
新潟縣					
新潟化粧品小間物雜貨卸商組合	同 新潟市本町通六番丁一一二九	昭和四年五月	小黑喜三郎	小黑喜三郎	一三
新潟市化粧品小間物洋品雜貨商組合	同 本町通八番町	大正十四年四月	川崎又治	澤井國松	四三

副組合長 關 清六
 幹事 原田啓三郎
 同 土田與憲市
 評議員 關 藤吉
 同 小川藤四郎
 同 板垣 常吉
 同 藤田寅太郎
 同 辻井幸次郎

東京香料商組合
 一月十一日改選
 組長 長谷川藤太郎
 副組長 永廣堂
 會計 曾田 政治
 評議員 高砂香料株式會社
 早川市太郎

沼田小間物化粧品商組合
 一月十二日改選
 組合長 中山勝次郎
 副組合長 關上 忠作
 會計 宮下善次郎
 評議員 矢島 伊助
 同 井上 言次
 同 杉田孝五郎

高田小間物化粧品卸商組合
 一月十三日改選
 組合長 丸山喜太郎
 副組合長 森 平治郎
 幹事 高橋 啓造
 同 大久保正吉
 同 野口好太郎
 會計 丸山喜太郎

神都小間物化粧品組合
 一月十四日改選
 組長 淺沼 助藏

魚津雜貨小間物商組合	高岡 荒物組合	高岡雜貨五業卸商組合	高岡化粧品小賣商組合	富山小間物商組合	富山小間物化粧品小賣商組合	富山小間物化粧品小賣商組合	新津町小間物同業組合	堀之内小間物商組合	小千谷小間物同業組合	新發田町荒物同業組合	新發田町小間物商組合	三條小間物洋品商組合	柏崎百貨同業組合	長岡市小間物雜貨商組合	高田小間物商組合	高田小間物化粧品卸商組合
魚津町大字金屋町 稻葉方	同 小馬出町	同 小馬出町	高岡市小馬出町七五本間方	同 一番町九	同 西三番町	富山市東四十物町 矢郷方	新津町上山谷	堀之内町大字堀之内	小千谷町本町 大塚方	新發田町萬町	新發田町新道四六五	三條市大字三條字二ノ町	柏崎町本町七丁目	長岡市東千手町	高田市東本町三 丸山方	高田市東本町三の 一七〇
明治三十五年六月十日	明治四十五年十二月一日	昭和七年十一月	昭和六年七月	大正二年一月十二日	昭和七年十月十五日	昭和五年二月	大正十四年	昭和四年七月	明治三十六年	明治三十五年	昭和二年八月	大正四年五月	昭和四年	明治四十二年一月	大正十三年	大正元年三月十三日
淺尾久晴	井本和平	谷道岩次郎	本間常吉	島倉彦作	成田松太郎	安井榮次郎	吉田德次	矢島京平	大塚定吉	田村甚左衛門	齋藤太四郎	吉田熊次	市川茂平治	山口健造	丸山喜太郎	丸山喜太郎
稻葉忠正	宮崎喜三	毛利龍藏	有澤恒男	高岡庄次郎	永森德平	丸山喜太郎					組合長兼任	原山富行				丸山喜太郎
二〇	一〇	二二	一一〇	五五	一四	一一〇	一〇	一二	三〇	一一	一八	七〇	四〇	六八	二七	二五

富山縣

新宮化粧品商組合

- 理事 佐藤 清吉
 理事 工東 六郎
 理事 高谷 亥七
 理事 山田 作内
 理事 小田 桐才太郎
 理事 松井 半六
 理事 千年 孝次郎
 理事 高樋 竹次郎
 理事 中村 芳一
 理事 佐東 清司
 理事 北山 直衛
 理事 山形 清七
 理事 寺山 國太郎
 理事 村上 喜一郎

黑石商業組合

- 一月十五日改選
 會長 岩田 友男
 副會長 林 榮作
 幹事 中野 覺次郎
 川合 友次郎
 野呂 英二
 小澤 次作
 藤井 次一郎
 松田 清一
 寺川 定次郎

江別荒物雜貨商組合

- 一月十五日改選
 會長 岩田 友男
 副會長 林 榮作
 幹事 中野 覺次郎
 川合 友次郎
 野呂 英二
 小澤 次作
 藤井 次一郎
 松田 清一
 寺川 定次郎

諏訪小間物化粧品卸商組合	同 二〇九	諏訪郡岡谷六五二一	大正八年五月十六日	小口正一		一七
須坂町荒物商組合	同 二〇九		大正十二年九月	神林信兵衛	本多綱	八
須坂小間物化粧品組合	須坂町一九一		大正三年四月十日	北島金吾	彌津喜久治	二六
上田小間物化粧品商組合	上田市原町		大正二年二月	秋山馨		二一
松本小間物化粧品雜貨同業組合	松本市		大正五年十一月	猿田條左衛門	石曾根義之	五七
長野雜貨商組合	長野市南千歲町一二九		大正十一年二月二十四日	北澤新作	栗田留治	二八
武生小間物化粧品組合	武生町三六		明治四十四年二月	宇野貞吉	清水愛治	二六
敦賀化粧品小間物組合	敦賀町旭四八		昭和五年十月	池田藤吉	池田藤吉	四二
福井小間物商組合	福井市尾上下町		大正十年五月	三田崎政治		五五
小松小間物化粧品組合	小松町字茶屋町		大正十三年二月二十日	和田靜夫		一七
金澤市荒物卸商組合	同 上近江町三六の二		昭和二年二月十一日	德野彌吉		一七
金澤雜貨小間物化粧品卸賣組合	同 橋町六			清水優		一八
金澤雜貨商組合	同 上今町三六		明治四十四年二月一日	素谷篤爾		五一
金澤小間物化粧品商組合	金澤市南町		大正二年十二月十七日	野村吉六	關組合長 南清八	八〇
滑川小間物化粧品組合	滑川町瀬羽町一八六四		大正十年四月	堀邊久右衛門	竹澤幸太郎	三五

一月十六日改選
組長 兒島勝太郎
副組長 小森甚太郎

金澤雜貨商組合

一月十九日改選
組合長 素谷篤爾
副組合長 宮本三雄
主任會計 岡本伊三郎
會計 數波喜三郎
部長 宮本宗平
同 長村五六
同 出村喜作
同 竹谷彦市
同 玉上藤吉

札幌小間物化粧品
小賣商組合

一月二十日改選
組合長 小笠原楠彌
副組合長 小林禪齡

松本小間物化粧品
雜貨商組合

一月二十三日改選
組長 猿田條左衛門
副組長 小林大三郎
同 百瀬長十
會計 石曾根義三
幹事 宮坂金三
同 松山角十
同 高山正一
同 石原豐隆
同 藤本勝次
同 伊藤善堂
同 宮澤久平
同 中島清治
同 小林市太郎
同 松田國太郎
同 瀧川民治

飯田小間物化粧品商組合		飯田町商工會議所内		宮澤和志雄		二〇	
岐阜化粧品業組合		岐阜市柳ヶ瀬町四丁目		長谷川豊市		二八一	
大垣小間物化粧品商組合		大垣市岐阜町九四七		名和清助		二七	
關小間物化粧品商組合		關町甲二七二小本方		小本宮次郎		三〇	
關荒物雜貨組合		關町藤田方		藤田新六		一二	
中津小間物化粧品組合		中津町		鈴木一郎		二四	
名治見町小間物化粧品組合		多治見町一五四一		大村紋治		六二	
高山小間物化粧品商組合		高山町安川通一四一六		瓜田米吉		四〇	
滋賀縣		大津市仲町通獵師町		下村松三郎		三四	
大津雜貨商組合		同上榮町		松村留次郎		六〇	
長濱小間物化粧品商組合		長濱町伊部寺居支店內		羽淵善三郎		二三	
静岡縣		静岡市金座町岡部方		岡部服太郎		一〇二	
静岡荒物商組合		同茶町一〇二八		杉山春吉		三五	
濱松化粧品卸商組合		濱松市田町		坪田勇治郎		三〇	
沼津小間物化粧品組合		沼津市通横町二七〇		西島小作		一五	

四〇
顧問 輪湖 定吉
上條佐平次

一月二十五日
福島化粧品商業組合

理事長 長谷川兵吉
理事 橋本重信
同 後藤勇吾
同 高山庄助
同 藤井民治
同 一條三四男
同 塚原文平

一月二十七日改選
卸商組合
組合長 小泉清一
副組長 金田正清
幹事長 長谷川四郎
幹事 羽鳥千賀惠
同 小六 秀義
同 小野平次郎
同 關根 康弘

一月二十七日改選
卸商組合
組合長 小泉清一
副組長 金田正清
幹事長 長谷川四郎
幹事 羽鳥千賀惠
同 小六 秀義
同 小野平次郎
同 關根 康弘

一月二十七日改選
卸商組合
組合長 小泉清一
副組長 金田正清
幹事長 長谷川四郎
幹事 關根 康弘
同 小野平次郎
同 小六 秀義
同 羽鳥千賀惠

二月三日改選
函館小間物化粧品卸商組合
組合長 齋藤 脩平
副組合長 內山 哲雄

二月三日改選
函館小間物化粧品卸商組合
組合長 齋藤 脩平
副組合長 內山 哲雄

二月三日改選
函館小間物化粧品卸商組合
組合長 齋藤 脩平
副組合長 內山 哲雄

二月三日改選
函館小間物化粧品卸商組合
組合長 齋藤 脩平
副組合長 內山 哲雄

組合團體

神都小間物化粧品商組合	宇治山田市一之木町二二九	明治四十年十月	淺沼助藏	和田善兵衛	四二
誠榮會	津市中之番町七〇四	明治十三年二月五日	増富嘉兵衛		一七
四日市小間物化粧品組合	同 堅町二二四〇の一佐倉方	昭和九年二月			一〇
松阪小間物商組合	松阪市大字新町	大正十一年四月	井田正名		三〇
尾鷲化粧品商組合	尾鷲町垣内内	昭和三年	垣内源一郎	垣内源一郎	一五
桑名小間物化粧品商組合	桑名町大字川端町		陣田金一		三〇
上野小間物化粧品商組合	上野町字忍町	大正八年二月	川合久吉		一五
京都小間物化粧品卸商同業組合	京都市下京區東洞院五條上ル	明治四十一年十一月二十四日	松尾喜七	西川甚之助	一三七
福知山化粧品商同盟組合	福知山町字下新	大正十一年六月二十五日	牧彌三松	淺場留治	四八
綾部化粧品組合	綾部町	大正十五年	梅垣英次郎	安達辨之助	二七
舞鶴雜貨小間物商同業組合	舞鶴町字竹屋九四の二土井方	昭和九年九月十八日	土井駒藏		一六
兵庫縣					
神戸石鹼化粧品業組合	神戸市湊東區多開通三の五	大正十一年七月一日	前田竹松	山内直一	三七
姫路化粧品石鹼卸商同業組合	姫路市北條口四四	昭和六年十一月二十八日	尼子富三郎	山田常藏	一〇
大阪府					
大阪小間物卸商同業組合	大阪府東區北久寶寺町二の四	大正六年十月二十三日	田中常三郎	萩原靜三	五〇〇
大阪化粧品同業組合	同 東區博勞町二の五	大正九年六月十八日	中山太一	石川靜三郎	二六一

四二

- 同 森川 菊松
- 金澤小間物化粧品商組合
- 二月改選
- 組合長 野村 吉六
- 副組長 南 清八
- 同 上野 太一
- 武生小間物化粧品組合
- 二月十日改選
- 組長 宇野 貞吉
- 副組長 清水 愛治
- 評議員 土田宗治郎
- 同 麻生 巳作
- 同 黒田 廣吉
- 酒田小間物洋品文具商組合
- 二月十六日改選
- 組合長 高山菊次郎
- 副組長 中村 禎吉
- 會計 丹吳 悌治
- 評議員 中村彦右衛門
- 同 佐藤英治郎
- 同 鍋谷助右衛門
- 同 大島傳四郎
- 京都小間物化粧品卸商同業組合
- 三月一日改選
- 組長 松尾 喜七
- 副組長 三上 竹藏
- 會計係 今西與兵衛
- 評議員 西川孝太郎
- 同 中野直次郎
- 同 鈴木藤次郎
- 同 宅間末之助
- 同 中川寅次郎
- 同 福井 勝秀

和歌山 荒物 商 組合	同 東仲間町一の三	明治十四年	前田茂兵衛		八
和歌山 小間物化粧品商組合	同 杉ノ馬場三 岩橋方	大正七年七月	岩橋 濟		六〇
和歌山 化粧品小間物同業組合	和歌山市杉ノ馬場三の一	大正七年七月一日	岩橋 濟	湯淺精吉	八一
和 歌 山 縣					
高田化粧品協定會	高田町本町二の一八二六	昭和三年二月十一日	細井榮造	安井德松	六一
郡山化粧品藥業組合	郡山町矢田 藤田方	大正十三年八月十日	藤田 龍三		六五
奈良小間物化粧品商組合	奈良市元興寺町	大正二年七月一日	小林米藏	若狹義太郎	一〇〇
奈 良 縣					
堺線 香 同業 組合	同 商工會議所内	大正二年九月五日	中田作五郎		五七
堺化粧品同志會	堺市大町東二丁目 三好方	大正元年十月十五日	三好爲三		二〇
大阪蠟 商 組合	同 東區高麗橋四八川原方	明治十六年七月	川原義六		
大阪薰物線香商組合	同 北區老松町一の二〇	明治二十九年五月	福井伊助		
日本刷子輸出組合	同 東區北久寶寺町二の六〇	昭和三年八月二十四日	阿田 治		五〇〇
大阪油卸商組合	同 東區京橋三の一	明治十八年九月	吉原定次郎		
大阪香料商組合	同 東區淡路町二の三五	大正十四年十一月	田村眞策		
大阪白粉商組合	同 天王寺區上本町九の三三	明治三十五年一月	神田莊治郎		
大阪荒物雜貨卸商組合荒榮會	同 東區博勞町四の五三	大正十二年五月十四日	大谷藤四郎	田中久明	五三
大阪石鹼同業組合	同 南區安堂寺橋通四の二九	明治三十三年十一月一日	松原一郎	三阪 涉	一二六

見延 清藏
 田畑 甚藏
 杉本吉之助
 上野眞之助
 藤林正太郎
 桑名與太郎
 酒井 久嗣
 片野 省一
 三浦 健利
 近藤彌五郎
 中嶋伊兵衛
 藤井 孝一
 宇野原常郎
 山口忠兵衛
 谷川 幸助
 增田 和藏
 三上 金次
 木村玄三郎
 村田喜太郎
 松本 久七
 帶廣藥種化粧品商組合
 理事長 黑澤武三郎
 理事 伊藤 經作
 寺西 武司
 有田重太郎
 野崎三千治
 小島 重平
 愛須 英夫
 石神 清二
 莊田 德太
 竹中 正行
 名古屋化粧品小賣業組合
 三月二十三日改選
 組合長 後藤庄太郎
 副組合長 加藤京治郎

組合團體

廣島	廣島	岡山	岡山	島根	島根	鳥取	鳥取	新宮	海南	田邊	御坊	新宮	海南	田邊	御坊
廣島荒物卸商組合	廣島市猿猴橋町八一	岡山小間物化粧品商組合	岡山市内山下町商工會議所内	松江市小間物化粧品卸商組合	松江市白湯本町三九梶谷方	鳥取小間物化粧品商同業組合	鳥取市川端三〇五六	新宮市新宮浮島一〇〇〇	海南市日方	田邊町大字榮町	御坊町大字御坊	新宮市新宮浮島一〇〇〇	海南市日方	田邊町大字榮町	御坊町大字御坊
大正七年十月	大正十四年一月	明治二十五年五月	大正十二年七月五日	明治二十五年	明治四十三年七月	大正二年四月	昭和五年六月十九日	大正十四年二月八日	昭和四年	昭和五年一月十六日	昭和八年十月	大正十四年二月八日	昭和四年	昭和五年一月十六日	昭和八年十月
柴田益明	原安次郎	石川萬吉	林泰八	梶谷種一郎	片岡信助	松田恒藏	神庭政七	兒島勝太郎	小島由太郎	山本善一郎		兒島勝太郎	小島由太郎	山本善一郎	
谷川房太郎	木村金十郎	久保津信夫	久保津信夫	橫木米次郎	橫木米次郎	副組合長 八田茂雄 會 計 小泉乙三		副組合長 小森甚太郎		山本善一郎		副組合長 小森甚太郎		山本善一郎	
二七	二六	三〇	二一	六	一八	三〇	四〇	三〇	三五	四三	八	三〇	三五	四三	八

四四

大阪化粧品同業組合

三月二十八日代議員改選

- 前田 勝
- 神鳥 富保
- 長瀬商會大阪支店
- 高野勝三郎
- 小川香料店
- 佐原忠次郎商店
- 巴屋化粧品製造所
- 西村 卓二
- 和泉乙三郎
- 福田源三郎
- 田中善株式會社
- 田村 眞策
- 廣瀬小三郎
- 兒玉 篤
- 三好 爲三
- 野村 商店
- 森岡末次郎
- 三美 堂
- 上山 勘太郎
- 太田 榮治郎

四月十日改選

- 組長 中山 太一
- 副組長 平泉平右衛門
- 評議員 桃谷 順一
- 松本 丹治
- 朝日堂 石田公四郎
- 角倉 秀雄
- 伊東胡蝶園大阪倉庫 松波菊次郎
- 小林商店大阪支店 山崎 麻吉
- 平尾 貫二
- 林原信太郎
- 今井安太郎
- 水上 政勝
- 宇野達之助

愛媛縣

高松洋品雜貨商組合	同 高松商工會議所內		安田美代造			
高松市小間物化粧品小賣同業組合	同 兵庫町 金光方	昭和五年	金光常吉			二〇〇
丸龜小間物化粧品組合	丸龜市松屋筋葭町二七	大正十四年十一月二十五日	小西篤治	中野幸吉		三七
香川縣化粧品小間物卸商同業組合	高松市南新町株式會社綾田商店內	大正十四年	綾田安次郎			三一
德島市洋品雜貨商組合	同 商工會議所內	明治四十二年三月	平岡富藏			二五
德島小間物化粧品卸商組合	德島市商工會議所內	明治四十四年	大石德藏			一五
宇部小間物化粧品同業組合	宇部市東區常盤通一		西田民惠			五
山口小間物商組合	同 西門前來栖方		來栖信助			九
山口化粧品商組合	同 西門前三〇	昭和九年七月七日	來栖信助	加藤八郎		一三〇
下關化粧品商組合	同 西之端町商工會議所內	昭和二年	猿野秀吉	岡山和人		三六一
山品化粧品小間物組合	府中町府中	昭和三年十月十五日	益田照次郎			三〇
吳化粧品小間物商組合	吳市商工會議所內	昭和六年四月	山縣鐵之助	松井保治		四〇
尾道化粧品商組合	尾道市土堂町尾道商工會議所內		大石五六	大村護郎		
福山小間物化粧品商組合	福山市笠岡町	昭和二年四月	大島昇一	石井圭一		二三

名古屋小間物卸商組合
 四月四日改選
 組合長 森本善七
 副組合長 村上庄造
 會計 野原文吾
 理事 竹市代吉
 同 桑山喜重郎
 同 山田治助
 同 佐竹鉾三郎

富浦地方小間物化粧品商組合

四月十一日改選
 組長 平澤清次郎
 副組長 福田啓助
 同 水野米吉
 同 島田昌信
 同 森澤龍
 同 正木正五郎
 同 矢島力之助
 同 黑須角太郎
 同 青木長平
 同 小花仙松
 同 堀部安司
 同 遠藤由太郎
 同 齋藤喜兵次
 同 齋藤和乎次
 同 高橋九右衛門

熊本化粧品商業組合

四月十五日改選
 理事長 正清彌七
 理事 尾崎茂之助
 同 田中熊七
 同 益田彌平
 同 森田宇兵衛
 同 千葉惣四郎
 同 指田靜夫
 同 岩本鐵雄

宇和島化粧品小間物卸同業組合	宇和島市朝日町一	昭和七年十一月五日	黒田利三郎	金尾啓三郎	八
宇和島雜貨商組合	同 橫新町	昭和七年三月	磯野 彌	磯野 彌	三五
八幡濱小間物化粧品同業組合	八幡濱町船場通	大正九年一月	大谷長九郎	淺田 隆	六〇
西條雜貨化粧品同業組合	西條町大町 藤田方	昭和五年三月	藤田太三郎		二二
高知縣					
高知化粧品小間物商組合	高知市商工會議所内	昭和五年六月十八日	横山清太郎		二三
大分縣					
大分化粧品商公認組合	大分市千代町電車通五三四六	昭和三年七月	中山善助		一五〇
大分市洋品雜貨商組合	同 竹町	昭和四年九月	一丸伍兵衛		二九
別府小間物化粧品商組合	別府市中濱筋 工藤方	昭和元年一月五日	工藤隆男		三〇
中津化粧品小間物商組合	中津市片端町 小林二八堂内	大正十二年四月	石田 素		四五
佐伯小間物化粧品組合	佐伯町二四六	昭和五年四月一日	佐々木庫也		二〇
臼杵町小間物化粧品組合	臼杵町壘屋町	明治二十五年四月十日	江藤乙一	吉良貞吉	一〇
福岡縣					
福岡化粧品商組合	福岡市行町五三	大正十四年四月	相部正太郎	石橋時次郎	五四〇
福岡化粧品石鹼卸商組合十日會	同 行町 九州商報社内	昭和八年四月			一六
小間物化粧品卸商組合八日會	同 下西町 新免方		新免久次郎		
福岡藥種化粧品小賣業組合	同 新柳町大門通高倉藥局内		木村巳之吉		

豐田化粧品組合

四月十七日改選
 組長 岡田 安司
 副組長 直井 近藏
 幹事 茂木 直藏
 杉崎 市郎
 飯島 年子
 布川 如益
 戶邊 龜吉

仙臺化粧品商業組合

四月十八日改選
 理事長 大澤 晋平
 常務理事 村上安之助
 理事 深堀 豐治
 鶴本 平助
 飯田 信七
 今野 平藏
 佐藤 量
 高島 勝衛
 小野寺 剛
 遠藤長三郎
 三浦 由松

富山化粧品小間物小賣商組合

四月十八日改選
 組長 安井榮次郎
 副組長 平山常次郎
 同 矢野大次郎
 同 ミドリ藥局
 會計部長 柴田榮次郎
 會計 增田 勝造

長崎化粧品小賣商組合

五月十六日
 組合長 成宮長治郎
 副組長 富永 政彦
 同 吉田孝治郎
 會計 丸橋三五郎

九州洗濯石鹼工業組合	同行町	昭和八年十二月十日			四六
門司化粧品商組合	門司市榮町六丁目	大正十五年十二月十日	島生利三郎		三三〇
小倉化粧品商組合	小倉市魚町四〇一二四	昭和二年四月五日	西村幸三郎	井安永一延之雄	二五〇
若松雜貨小間物同業組合	若松市明治町三丁目宮地地方	明治三十九年十一月	宮地俊作		一五
飯塚嘉穂小間物化粧品同業組合	飯塚市本町	昭和九年六月六日	伊藤萬三郎	寺島次郎	一五〇
大牟田化粧品商組合	大牟田市築町川野方	昭和三年二月一日	川野忠吉		一三〇
戸畑化粧品商組合	戸畑市中村本店方		田中庄太郎		
直方市化粧品小賣商組合	直方市明治町篠原方	昭和五年	篠原力藏		二七
佐賀市化粧品商組合	佐賀市蓮池町佐賀商工會議所内	大正十四年三月一日	小部松一郎		一五二
東松化粧品商組合	唐津市大石町峯金松方	昭和三年二月	白井新作		一一七
武雄化粧品商組合	武雄町池田方	大正十四年六月十五日	池田源一		二〇
長崎縣					
長崎化粧品商組合	長崎市築町四三成宮商店内	大正十五年五月十三日	成宮長治郎		四〇〇
長崎市雜貨商組合	同 材木町二八	明治三十六年七月一日	戶所喜平	會計 清田啓一郎	七二
長崎鼈甲業組合	同 今魚町五七	昭和二年一月	江崎榮造		三二
長崎鼈甲商工組合	同 江戶町六八	昭和六年二月	垣立寅藏		三七
佐世保化粧品商組合	佐世保市		菅井喜代松		

高崎化粧品雜貨商組合

八月十一日改選

- 組合長 國峯辰治
- 副組合長 上原菊次郎
- 理事 金子本店
- 同 矢野卯助
- 同 齋藤忠三郎
- 同 阿藤晴次郎
- 同 歌代民二
- 同 根岸憲

北海道小間物化粧品卸商聯合會

八月二十一日改選

- 理事長 壽原英太郎
- 財產保管員 廣瀨德市
- 同 高森市太郎
- 同 本間勸次
- 同 小六秀義
- 同 岡澤彦太郎
- 同 田卷靖司
- 同 有田勝彦
- 同 橋本文平
- 同 山口直次
- 同 茶木商店
- 書記長 島野一二

群馬縣中部化粧品商業組合

九月二十一日改選

- 理事長 高橋政次郎
- 常務理事 新井雄次郎
- 理事 中島幸平
- 同 忍足潤作
- 同 白田瀧藏
- 同 星野忠藏
- 同 星野謹作
- 同 磯野德太郎
- 同 田島巳代吉

釜山雜貨商組合	同 本町三丁目富原方	明治四十四年十二月	富原研二	四五
仁川化粧品商組合	仁川府宮町二二	昭和六年一月八日	永井房吉	六五
仁川化粧品同業組合	同 本町三古田方	昭和七年八月	古田新治	四一
元山洋品雜貨化粧品組合	元山府本町三丁目飯山方	大正十年一月	飯山喜三郎	一〇
清津雜貨小間物化粧品商組合	清津府明治町	昭和五年一月一日	浦木彌楠	一八
清津雜貨商組合	同 明治町一七上田麻商店内	大正十四年十一月	松岡茂藏	一〇
大連化粧品組合	大連浪速町一四六	大正十四年二月十一日	今中良	八〇
青島和洋雜貨同業組合	中華民國青島中山路六九 藤木方	大正十年一月	石田純三	二三

支 那

各地の災禍救援

函館の大火、關西の風水害に對しては、東京組合、大阪組合とも率先して起ち、これが救済の爲めに努力を惜まず、博大な同情のあつまる處

函館大火
三、三八二圓
東京組合
二、〇〇〇圓
大阪組合

關西風水禍
四、〇〇〇圓
東京組合
二、〇〇〇圓
大阪組合
四、〇〇〇圓
名古屋組合

以上の如く見舞金を贈れるの外、大阪組合にては復興相談所を設け、復興資金の低資融通に關して斡旋に努め、東京組合は更らに東北冷害に對して組合員よりの義金

一、一〇〇 東京組合
以上の如く東北振興會に寄託してその救援の資に充てた。

同業組合全國大會

大阪に開かれたる同業組合の全國大會には、大阪化粧品同業組合は地元組合として且つその組長中山太一氏が、大會の委員長でもある關係上、大いに活躍せるをはじめ

東京組合 京都組合 名古屋金屋小間物 大阪小間物 大阪石鹼

以上の各組合よりは代表を送つてこれに参列せしめ、東京組合より提案の左記議案は決議事項として可決、他の議案ともに實行運動に移さるゝこととなつた。

全九州聯合會總會

特許局に於ける新なる特許。實用新案、商標、意匠等の登録をなすに際し公知公用に屬するものなるや否や、若くは既得権利者の利益を侵害す可き危険ありや否やにつき疑義あるものにつきては、當該關係事業に關する同業組合の全國聯合會ある場合は該聯合會へ、然らざる場合は重要關係地の同業組合に諮問して意見を徴せられたる旨建議すること

全九州化粧品商組合聯合會は十月二十三日、小倉市の小倉商工會議所に第八回總會を開催した。出席者は門司、小倉、福岡、久留米、長崎、大牟田、佐賀、熊本の各地組合代表二十四名にして主催組合たる小倉組合の西村組合長の挨拶、正清聯合會長

の挨拶ありたる後、會務報告を行ひ、正清氏を座長として議事に入るや

- 一、新興商品の整理を聯合會に於いて決定すること
- 二、商品値段の増減を改むること
- 一、聯合會を強化せしむる意味に於いて更生委員を選任、組合指導方法を研究することの可否
- 一、濫賣者撲滅策として卸屋の販賣區域を限定すること
- 一、濫賣者取締機關設置の件

一、値段改正及び新製品發賣の際に於ける各組合が所屬組合に對する通知狀値段表等の諸經費を本館に要求することの可否

以上各組合提案を議題として協議したる後、宣言及び決議を議決、尙會長の任期満了となつたので選舉を省略して正清氏重任と決した。

北海道聯合會總會

北海道小間物化粧品卸商聯合會は、盛夏八月二十二日を期して國立公園阿寒湖畔、阿寒莊にその第十三回總會を開催した。釧路、帯廣、野付牛の主催組合をはじめ、旭川、札幌、小樽の各地組合より参加せる代表三十三名。會長壽原英太郎氏閉會の挨拶を述べ、釧路組合の橋本文平氏を議長として議事に入るや

- 一、打券、景品券取扱手数料に關する件
- 二、朝辰半期決済に關する件
- 三、過大及び不當なる景品券添附に關する件
- 四、放漫なる長期支拂承認修正に關する件
- 五、卸賣數量標準に關する件
- 六、用紙に關する件
- 七、次回總會主催地選定の件

以上の各議案を議了、宣言及決議を發表した。

關 業 界 全 國 商 業 組 合 一 覽

〔昭和九年十一月二日現在〕

組 合 名 稱	設 立 認 可 年 月 日	地 域	員 組 數 合	出 資 總 額	專 業 計 畫	專 務 所	代 表 者
野付牛雜貨組合	九、二、一四	常呂郡野付牛町	四九	一二、〇〇〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、營業上の統制、資金の貸付及貯金の受入	常呂郡野付牛町	理事 浦田清太郎 外九名
余市米穀雜貨商業組合	九、二、二八	余市郡余市町	四三	五、〇二〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、粗悪品及不當販賣の取締、營業方法及、營業時間及販賣價格の統制、資金の貸付及貯金の受入	余市郡余市町大川町	理事 藤田淳一
帶廣藥種賣藥化粧品商業組合	九、三、二	帶廣市	三三	五、〇〇〇	共同仕入、商品の分析試験、販賣價格、營業方法及營業時間の統制	帶廣市九の四	理事 黒澤武三郎 外九名
小樽藥種賣藥化粧品商業組合	九、三、五	小樽市一圓	九一	一〇、〇〇〇	共同仕入、共同保管、保管倉庫の設置、包装場の設置、營業方法及販賣價格の統制、商品試験室を設け、商品規格の検査並に商品の鑑定を行ふ、金融事業	小樽市稻穂町西七の一	理事 三ッ野得二 外九名
旭川藥種賣藥小賣商業組合	九、五、一〇	北海道旭川市上川郡神樂村字神樂町 同郡東居村字美珠町 同郡大森村字近文町 同郡東旭川村字外線	八一	三、〇八〇	共同仕入、價格の協定及び營業の統制、視察員の派遣、具本市、博覽會に對する出品、販賣の調査、資金の貸付及び貯金の受入、取扱品の検査、共同保管	旭川市一條七丁目右十號	理事 中保恭一 外六名
函館時計貴金屬商業組合	九、九、二七	北海道 函館市一圓	七八	七、二四〇	取扱商品の共同仕入、營業上の統制、營業に關する調査、研究、並に指運、資金の貸付及び貯金の受入、共同保管、共同賣出、資金の貸付及貯金の受入	函館市末廣町二三加藤理事方	理事 加藤久太郎 外六名
青森雜貨商業組合	八、八、一二	青森市	三六五	三五、五〇〇	共同仕入、共同保管、共同賣出、資金の貸付及貯金の受入	青森縣青森市新町九〇	理事 中村才太郎
保證責任金石雜貨商業組合	九、六、二九	岩手縣上閉伊郡釜石町	八〇	五、六〇〇	共同仕入、取扱商品の保管、資金の貸付及び貯金の受入、價格の協定並に營業上の統制、共同保管、倉庫の建設、營業に關する指導獎勵	岩手縣上閉伊郡釜石町第二地割一〇一	理事 白土泰輔 外六名
仙臺化粧品商業組合	八、七、二一	仙臺市	一三六	一〇、一四〇	共同仕入營業の統制	宮城縣仙臺市仲の町二三	理事 大澤晋平
氣仙沼洋物雜貨商業組合	九、八、九	宮城縣本吉郡氣仙沼町	一五	四、〇〇〇	取扱商品の共同仕入、資金の貸付及び貯金の受入、價格の協定、營業上の統制、商品の共同保管	—	理事 武川惣三郎 外二名
福島化粧品商業組合	八、四、二四	福島市及隣接町村	八九	五、七〇〇	共同仕入、價格の協定、資金の貸付及貯金の受入	福島縣福島市北町六三	理事 長谷川兵吉

宇都宮洋物雜貨小賣商業組合	八、六、二六	宇都宮市	三二	七、〇〇〇	共同仕入、共同保管、共同販賣所の設置、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	宇都宮市商工會 議所内	理事 青本 外五名 啓
足利藥業商業組合	九、七、二七	栃木縣足利市及足利郡一圓	三一	五、四五〇	取扱商品の共同仕入、營業の統制、取扱商品の共同保管、取扱商品の資金の貸付及び貯金の受入、車輛並に車置場の設置、販路の開拓	足利市通三丁目 三、五二五	理事 小川 信
中部化粧品商業組合	八、一、二、五	前橋市、利根郡、勢多郡、佐波郡	三六	四、一八〇	共同仕入、共同保管、取扱商品の検査取締價格の協定、組合員及使用人の表彰、資本の貸付及貯金の受入	前橋市立川町	理事 高橋 政次郎 外十九名
東部化粧品商業組合	九、三、二九	桐生市、山田郡、新田郡、邑樂郡	一五三	四、一〇〇	共同仕入、取扱商品の検査、營業上の統制、組合員及使用人の表彰、取扱商品の保管、運搬、選別、包装及荷造、資金の貸付及び貯金の受入	桐生市本町四の 三三四	理事 松本 林 八
西部化粧品商業組合	申請中					高崎市九藏町七	清塚 佐太郎
熊谷化粧品小賣商業組合	八、一〇、二六	熊谷市	三六	四、〇〇〇	共同仕入、營業の統制、視察員の派遣調査、資金の貸付及貯金の受入	埼玉縣熊谷市熊 谷二九九八	坂田 仲造
東京中央藥種賣藥化粧品商業組合	八、三、三〇	東京市神田區、日本橋區、京橋區、芝區、麻布區、赤坂區	三八五	一一、二八〇	共同仕入、共同運搬、共同保管、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	東京市芝區田村 町三の一三	菊地 三之助
東京江東藥種賣藥化粧品商業組合	八、三、三〇	東京市深川區、城東區、向島區、江戸川區、葛飾區	三四七	八、〇二〇	共同仕入、共同保管、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	東京市本所區綠 町三の三	吉田 土八重吉
東京北豐島藥種賣藥化粧品商業組合	八、三、三〇	東京市豐島區、板橋區、王子區、浦野川區、荒川區	三〇六	一七、六五〇	共同仕入、共同保管、營業の統制、視察員の派遣、販路の調査、資金の貸付及貯金の受入	東京市豐島區池 袋一の七二一	鈴木 勇雄
東京都南藥種賣藥化粧品商業組合	八、四、二六	東京市荏原區、大森區、品川區、蒲田區、世田谷區、目黒區	四八一	一〇、一二〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、營業の統制、検査、貯金の受入	東京市目黒區下 目黒二の四四四	吉田 達次
東京山之手藥種賣藥化粧品商業組合	八、六、一	東京市麹町區、四谷區、小石川區、本郷區、淀橋區	四五五	一一、五六〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	東京市牛込區津 久戸町二五	荻村 武郎
東京化粧品卸商業組合	八、六、八	東京市	一七六	五、二八〇	價格の協定、營業に關する指導研究、調査資金の貸付及貯金の受入	東京市日本橋區 馬喰町三の三の五	神保 文太郎
新島本村日用品雜貨商業組合	八、六、八	東京府新島本村	五五	二、八六〇	共同仕入、共同保管、營業の統制、陳列所及販賣所の設置、資金の貸付及貯金の受入	東京府新島本村	理事 植松 長之助 外四名
東京城西藥種賣藥化粧品商業組合	八、一、二、四	澁谷區、中野區、杉並區	二三八	四、八〇〇	共同仕入、取扱商品の配給、取扱商品の選別、取締、營業時間の統制、營業の統制、貯金の受入	澁谷區下通一の	關口 彌三郎

東京浴劑商業組合	八、二二、一六	東京市	三〇	四、〇〇〇	共同仕入、運搬、保管、倉庫及運搬用車々の建設、看板、浴槽、便器、印刷製告等の共同調製、營業の統制、品評會、講演會の開催及視察員の派遣資金の貸付及貯金の受入	下谷區入谷町二	理事 野田 外七名
東京城北藥種賣藥化粧品商業組合	九、二、六	下谷區、淺草區	二六一	五、三二〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、取扱商品の取締、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	下谷區入谷町一 八二	鈴木萬藏
横濱藥種賣藥化粧品商業組合	八、一二、一	横濱市	四七五	一八、五四〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、營業の統制、營業に關する研究、視察員の派遣及販路の調査、資金の貸付及貯金の受入	横濱市中區野毛 町三丁目	理事 栗澤 外十九名
神奈川縣度量衡器計量器商業組合	八、一二、二六	神奈川縣	二五七	八、〇〇〇	共同仕入、營業の統制、營業に關する指導研究調査、資金の貸付及貯金の受入	横濱市中區本町 六の五三	理事 山本 外十七名
神奈川縣化粧品卸商業組合	九、四、二三	横濱市、横須賀市、川崎市、平塚市、久良岐郡、金澤町、磯部町、高津町、中原町、三浦郡、油ヶ谷町、蓮子町、鎌倉市、鶴岡町、戸塚町、高尾町、荻野町、藤岡町、中野町、大磯町、足柄上郡、松田町、足柄下郡、上野原町、箱根町、清木町、甲府市、津久井町、原町	九一	五、〇〇〇	取扱商品の共同仕入、營業上の統制、營業に關する指導、研究、調査	横濱市宮川町三 の七五	理事長 霜田七郎
保證責任長濱藥種賣藥商業組合	九、五、一五	滋賀縣坂田郡長濱町	一三	二、〇〇〇	共同仕入、共同運搬、價格の協定、資金の貸付及び貯金の受入	滋賀縣坂田郡長濱町西本二三	理事 中川 外三名
濱松藥種賣藥小賣商業組合	八、九、五	濱松市及隣接町村	八五	二〇、六〇〇	共同仕入、共同保管、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	濱松市肴町一の一	理事 古澤幸兵衛 外十名
名古屋化粧品卸商業組合	八、三、二九	名古屋市中區南伊勢町三の一	八〇	一〇、五三〇	共同仕入、共同保管、運搬、共同包装荷造價格の協定、指導獎勵視察員の派遣、資金の貸付及貯金の受入	名古屋市中區南伊勢町三の一	加藤寛次郎
愛西化粧品小賣商業組合	八、七、一〇	一宮市中島郡及葉栗郡	七二	五、〇〇〇	共同仕入、共同運搬、營業の統制、指導調査、視察員の派遣、資金の貸付及貯金の受入	一宮市大門町東四番地	宇佐美武三郎
岡崎化粧品小賣商業組合	八、一二、一一	岡崎市碧海郡矢作町	五〇	五、〇〇〇	共同仕入、保管、運搬、取扱商品の選別、並取締、營業の統制、視察員の派遣、營業に關する指導、研究、調査、資金の貸付及貯金の受入	岡崎市	理事 中根松次郎 外七名
引本吳服雜貨小賣商業組合	八、一二、四	北牟婁郡引本町	九	五、〇〇〇	共同仕入、保管、視察員の派遣及調査、營業の統制	北牟婁郡引本町	濱田甚平
大阪セルロイド生地卸商業組合	八、八、二九	大阪府及河内郡	二〇	二〇、〇〇〇	共同保管、運搬、選別包装及荷造營業の統制、營業に關する指導、獎勵、調査、資金の貸付及貯金の受入	大阪府南區順慶町一の四一	奥村八五郎

大阪刷子卸商業組合	八、九、六	大阪市	六九	九、九五〇	共同保管、營業の統制、營業に關する指導、研究、調査	大阪市東區北久寶寺町二の四	平井米吉
串本雜貨小賣商業組合	八、六、九	和歌山縣串本町	一三三	三六、六六〇	共同仕入、保管及運搬、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	和歌山縣西牟婁郡串本町九六六	北野源松
保證責任新宮雜貨商業組合	八、一、二、一	東牟婁郡新宮町	二四三	二一、三六〇	共同仕入、保管、運搬、營業の統制、資金の貸付及貯金の受入	東牟婁郡新宮町	尾崎榮之助
岡山藥種賣藥小賣商業組合	八、一、二、一四	岡山市	一一八	四、六二〇	共同仕入、保管、運搬、攤別、營業の統制、視察員の派遣、販路の調査、資金の貸付及貯金の受入	岡山市西大寺所一〇七	理事 岩田喜三郎 外十一名
德島鏡臺針箱卸商業組合	八、九、一九	福島市、名東郡、板野郡、名西郡、勝浦郡	一〇	六、九〇〇	共同仕入、保管、運搬、營業の統制、販路の調査及擴張	德島市佐古町六	鈴江金五郎
旭日用品雜貨商業組合	九、五、二一	德島縣勝浦郡福原村大字旭	一二	五、〇〇〇	共同仕入、共同保管、共同運搬、價格の協定、營業に關する調査、講演會の開催、資金の貸付及び貯金の受入、倉庫の建設	德島縣勝浦郡福原村大字旭字中村一九	田中勇
坂出化粧品商業組合	八、一、一、三〇	綾歌郡坂出町及金山村	二八	四、〇〇〇	共同仕入、營業の統制、販路の擴張、指導、研究、調査	綾歌郡坂出町	鎌田英夫
松山化粧品小賣商業組合	九、二、二一	松山市、温泉郡、三津濱町、道後湯之町、伊豫郡、郡中、中村及松前町	一三一	六、〇二〇	共同仕入、指定商品の選定並證明、證票の貼付價格の協定、視察員の派遣、販路の調査、資金の貸付及貯金の受入	松山市港町四の三九	理事 野本秀次郎 外九名
別府藥種賣藥商業組合	九、七、三一	別府市遠見郡龜川町朝日村石垣村	四四	一〇、〇〇〇	取扱商品の共同仕入、營業上の統制、資金の貸付、取扱商品の保管、貯金の受入、視察員の派遣、販路の調査	別府市大字別府三三四	理事 時坂壽作 外六名
福岡藥種化粧品小賣商業組合	八、六、二八	福岡市及粕屋郡箱崎町	二一〇	一八、八八〇	共同仕入、保管及運搬、營業の統制、視察員の派遣、販路の調査、資金の貸付及貯金の受入	福岡市新柳町大門通	本村己之吉
久留米藥種賣藥商業組合	八、九、二〇	久留米市	五八	一〇、三〇〇	共同仕入、保管及運搬、營業の統制、視察員の派遣、資金の貸付及貯金の受入	福岡縣久留米市通町四一	理事 水田榮 外七名
肥前賣藥商業組合	八、一、二、一三	三養基郡、鳥栖町、釧村、基山村、基西村、田代村	二三〇	二〇、六八〇	取扱商品並に營業用品の保管、運搬、荷造、營業の統制、營業に關する指導、研究、調査、資金の貸付及貯金の受入	三養基郡鳥栖町大字藤木七八九	天本龍之助
熊本化粧品商業組合	九、二、二八	熊本市、飽託郡、日吉村、清水村	三七〇	三、七〇〇	共同仕入、保管、運搬、商品の取締、營業の統制、營業上の調査、研究	熊本市西外坪井町九	正清彌七
鹿兒島化粧品商業組合	九、二、一四	鹿兒島市、鹿兒島郡伊敷村、中郡奈村、西淺田村	二六二	五、四〇〇	共同仕入、營業の統制、視察員の派遣、又は見本市の開催	鹿兒島市武田町内四三一下下貞一	理事 玉山淺太郎 外十四名

全國業界機關新聞一覽

〔昭和九年十一月一日現在〕

名 稱	所 在 地	創刊年月日	社長・社主	主 幹	回 發 數 行	定 價
東京小間物化粧品商報	東京市日本橋區馬喰町三の三の五	明治二八年 六月二一日	發行委員長 小林 富次郎	廣田 嘉一	週 刊	年一・五〇
東京化粧品小間物月報	東京市日本橋區橋町一三番地八	大正七年 一月二五日	社 主 松田 幸治郎	天野 寬哉	月 刊	年一・二〇〇
東京藥業ゴム器械商報	東京市日本橋區本石町三の四	昭和五年 九月五日	理事 長 藤 太	菅 原 寬	月 刊	年二・〇〇
石 鹼 時 報	東京市本所區江東橋三の九	昭和二年 十月二日		杉ノ原英太郎	月 刊	
大阪化粧品商報	大阪市東區博勢町二の五	明治三四年 一月二日		平泉平右衛門	週 刊	年一・五〇
大阪小間物新報	大阪市東區北久寶寺町二の四四	明治二九年 二月五日	寺澤 覺兵衛	萩原 靜三	週 刊	年二・〇〇
日本石鹼新聞	大阪市東區舟越町一の四〇	大正十五年 九月五日	田中 岩男	島田 義照	月三回	年一・二〇〇
荒物雜貨商報	大阪市南區鯉谷仲之町一六	大正一二年 一〇月二日	田中 久明	田中 久明	月 刊	年一・三〇〇
日 刊 粧 業 新 聞	大阪市西區立賣堀北通二の一九	大正一五年 七月二日	山 中 懸 治	山 中 懸 治	日 刊	年一・三〇〇
京都小間物化粧品新報	京都市下京區東洞院通五條上ル 深草町五六九	明治三〇年 二月二四日	組 合 組 織	三 谷 豐 吉	旬 刊	年一・〇〇
神奈川縣化粧品雜貨商報	橫濱市中區富士見町一の五	明治四二年 七月二日	發行委員長 霜田 七郎	荒木 武雄	月二回	年一・五〇〇
名古屋小間物化粧品商報	名古屋市中區白川町五の二七	明治三三年 三月三日	森本 善七	緒川 禎太郎	旬 刊	年一・〇〇
中央化粧品新報	名古屋市中區入江町	大正一二年 七月一三日	加藤 寬次郎	加藤 博	月三回	年一・〇〇
中部化粧品小賣商報	名古屋市西區日比津町野合一七	昭和六年 三月一日	山森 康光	山森 康光	月 刊	年一・〇〇〇
神戶業界商報	神戸市湊東區多聞通三の四	大正一〇年 一〇月一日	山内 直一	山内 直一	月二回	年一・〇〇
北海道小間物化粧品商報	小樽市住初町二	大正一三年 二月一日	社主、北海道 同業聯合會	島野 一二	月二回	年一・〇〇

商報社の一年

東京商報「小間物化粧品業界年鑑」刊行——一月一日
 大阪商報社、新年號附錄美人カレンダー發行——同
 日刊粧業新聞 大型四頁日刊を發行——一月十日
 大阪小間物新報 事務所新築落成——一月十三日
 大阪商報 業界用日記の立案懸賞募集發表——一月一月
 名古屋商報 業界値段表掲載——同
 大阪商報 定期總會を伊勢二見に開く——二月十三日
 静岡縣商報 濱松市東田町四三へ移轉——三月
 中部化粧品小賣商報「美粧サロン」創刊——三月
 大阪商報 函館大火見舞金として罹災同業者へ五十圓、一般罹災者へ五十圓寄贈
 東京商報 函館大火の罹災全讀者へ商報一年分無料贈呈——三月
 日刊粧業新聞 販賣助成運動開始——三月一日
 大阪商報 大阪髮油同業組合と協力、毛髮美を讚える黒髮標語懸賞募集——四月
 日刊粧業新聞 第一回社會見學舉行——四月八日
 北日本商報 大火罹災後の復活第一號發行、尙、新社屋を函館市若松町一一五に定む——四月十五日

高品高店

昭和九年業界商品史

商品の氾濫は懸がて商品の停滯である。而してよく之れを救ふものは、その量の適正と、その質の優秀と、此の二つの外にあり得ないことは、少くとも過去一年間に於けるわが商品市場の動向が、之れを物語つて餘りあると思はれる。わけでも配給機關の無統制に伴ひ、漸く取引の正常を失ひかけてゐる方今の市場にありては、その肅正上、殊にそれが必要である。堅實なる業界の發達といふも、畢竟強く正しき力からのみ生まれる道徳的營業統制と、化學工業の進歩による商品の優良化、清新化とを條件とする以上、業界の現有勢力を高める上に於いても、同業の福利増進を圖る上に於いても、その重點が一に繫つて商品の問題にあるは明白であらう。就中、業界品の本質上、整容服飾流行等々の近代的社會情勢に最も敏感に反映する商品にありては、一層その研究の完成に、寸時の懈怠もなく精進する處に業界の繁榮と躍進とが、約束せられるであらう。今その一年間に於ける商品勢力の消長を業界の實際に聽いて明日への躍進に備へ度い。

一、選べる商品十有八種類、これは業界の主力的製品のみを擧げたのである。

一、新製品相次ぐの今日にありては、業界の分野は益々複雑多岐にわたれるのみならず、商品としての歴史尙淺く、その全貌を描くに困難なるものも、或ひは又、他の商品に附隨して獨立せる商品として扱ひ難きもの等もあり、一々、それを取出して検討する時は、全業界の構成を知る上に於いて却つてその主勢力の存在をして認識困難ならしむるの虞れがあるので、敢て他の商品には及ばなかつた所以である。

一、昭和九年版に分類したる「貴金屬寶石」及び「指環、帶留」の二項目はこれを合して「貴金屬寶飾品」の一に改め、新たに「婦人洋裝雜貨」なる新部門を加へた。

一、「荒物」及び「薰香」は、今年より新たに「荒物雜貨」の部門を設けたから、切離してその方に移すこととした。

一、商品史の調査は全くセンサス的に行はれたものではない。たゞ少數なる業界に於ける専門家にその材料を求め、或ひは補足的にその談話を求め、或ひはまた執筆を求めた處もあり、その方法に於いては、必らずしも揆を一にしてゐない。

一、随つてその扱ひ方に於いては、聊か統一を缺くの感なきにあらざるも、正しき年鑑の定型を得るまでの過渡期的取扱ひ方として、只管諒承を願ひたい。

化粧石鹼界の趨勢

晩近、世の大勢として各國の自主的關稅、保護貿易政策は、益々積極化致して來た。その爲に化粧石鹼原料に對しても、直接又間接に甚大なる影響を及ぼして居るし、又石鹼原料の消費絶大なる北米合衆國に於ける經濟政策の影響も決して見通し得ない。それから一時的ではあるが、棉花の不作に伴ふ棉實油の減少、並びにわが國圓貨の不利等は、こゝに益々原料油脂の價格に變調を來さしめ、牛脂は暴騰し、パーム油は暴落し、採實油カポック油は輸出旺盛を極めてその價格は實に落花生油のそれに肉薄し、他方歐洲向け大豆の輸出杜絶よりして、これも一時的ではあるが、大豆油の暴落を將來し、結果は格安なる大豆硬花油の輸入を見るに至り、恰も牛脂暴騰の時に當つて、俄然化粧石鹼界は此の大豆硬花油に向つて注視することに成つた次第である。勿論その使用法にも研究は積めるも、更らに一方、魚油硬化油は比較的安價であるから、益々その使用量増大に拍車をかけられると云ふ有様で、結果は牛脂の輸入は著るしく減退するに至つたのである。尤も以上の現象は、從來徐々に来たものではあるが、而も九年度に至つて特に顯著なるものがある。即ち震災前までは化粧石鹼原料としてこれ等の硬化油は、牛脂椰子油とその範圍が殆んど限定せられた觀があつたのに、震災後に至つて逐次、油脂原料の選定範圍は擴められ、九年度に及んでその勢ひは、遂ひに決定的となつたのである。

は益々人造香料の需要を喚起して此の間調香術の進歩著るしきものあり、比較的高價なる香料を小量使用して製品の品位を保つと云ふやうな方法も講じられたのであつた。

他面石鹼の色彩に就いても、かなり研究されて、白色生地に二酸化チタニウムを使用したものが數多く認められたし、又青色生地にも同じく此の二酸化チタニウムを併用して新味を加へたものもあつた。

それから包装に至つては、製紙業者の生産制限と價格統制に依る紙價漸騰の爲めに、化粧石鹼業界としては相當の犠牲を拂はしめられた次第であつた。

大體以上の如き原料の趨勢であるにも掲はらず、化粧石鹼の價格(品質は勿論)漸落歩調を採つたのは御承知の通りで、昨年末には實に九廻しなにながしと云ふやうな實に化粧石鹼としては空前の安物をも現出するに至り、従つて各製造業者の原價切下げは勢ひ原料の選擇に自由を缺き、結果は過度の魚油硬化油の使用、又は魚油重合油さへ化粧石鹼に使用せらるゝに立至つた。ゆゑ、品質の低下は著るしいものがあり、更らに硬化油業者の化粧石鹼界への進出氣運濃厚と成り、品質價格の低下は一層甚しからんとするに至る等、業界はこゝに價格統制に就いて少からざる關心を有つに至つたのであつた。

繭つて輸出向き石鹼は、引續き旺盛を極め、昨年十一月には商工省令を以て重要輸出品として指定せらるゝに至り、又數年來の懸案であつた石鹼規格及び分析法は、化學工業協會の斡旋に依つて立案完成したが之により幸ひに、以上の如く晩近殆んど底止する所を知らざるが如き品質の低下を、よく挽回統制することが出来たならば、獨り業界のみの悦びでは無いと考へる。

最後に昭和七年以降に於けるわが國化粧石鹼輸出高を手許の表から抜いて、御參考に供し度いと思ふ。

〔丸見屋商店・三輪善太郎〕

昭和七年 1~8月 903 單位1000圓

8 1~8 2,141
9 1~8 1,642
9 1~9 1,838

多難の洗濯石鹼界

昭和九年の業界を顧みて、何人の印象にも、一番強く殘つてゐるのは風、水、旱、冷等の悪天候の災禍であらう。然かも今年の不順の天候は殆んど世界的であつて、内地に於ける需要を減殺したに止らず、洗濯石鹼界に最も著大の關係ある滿洲の大豆、北米の棉花、玉蜀黍等の凶作を招來し、爲めに植物油の著しい減收が報導せられ、従つて九年後半期に入るや、石鹼原料一般の暴騰を見るに至り、需要の著減に惱んでゐる業者をして、一層の痛苦を味はしめたのであつた。

近來洗濯石鹼業界の發展は實に驚異に値ひするものがある。僅かに十數年前までは未だ家庭工業の域を脱し得なかつたのであるが、現在は大規模に製造するものが尠からず存するに至つた。この短期間に於ける長足の進歩は、需要の増大に因るところ勿論であるけれども、亦本邦硬化油工業の發展に負ふ所頗る大なるものがあることを忘れてはなるまい。

元來硬化油は、洗濯石鹼原料の過半を占むるものであるから、硬化油業界の動向、消長は取つて以て直ちに洗濯石鹼業界に甚大なる影響を及ぼすことは、説明するまでもないことである。

硬化油業者は去る昭和六年に産業統制法による統制組合を結成以來、生産と價格によく統制を保つて來たのであるが、その間一般石鹼業界は所謂兼業者問題で甚だしく苦杯を嘗めざるを得なかつた。かゝる状態は昨年來二三のアウトサイダーの出現を促がすことゝなり、これとともにさしもの硬化油統制も、漸く不徹底を免かれぬ状態となつたのである。こゝに於いて硬化油統制組合は、去る九月の滿三ヶ年に涉る統制期間の

満了を機として、法による統制を一旦解消して、今後は共販會社を中心とする價格の協定に止むることになったのである。

一方洗濯石鹼の統制は、昭和八年の初め合同油脂株式會社の久保田四郎氏によつて提唱せられ、よく全國單業者の結成を見るに至つたのはあるが、一半の目的たる硬化油兼業者の参加を得るに至らなかつた爲め、遂ひに程なく一時解消を餘義なくされたのである。

しかし兼業者問題で苦杯を喫した單業者は、その後更らに一步を進めて阪神、九州、臺灣の同業者は工業組合を結成し、東京組合は工業組合は作らなかつたが、益々團結を固うして硬化油統制解消の運動を起し、ともにその窮地から脱せんことを努めたのであつた。然るに前述の通り硬化油統制解消の實現とともに東京組合に於いても急轉直下、工業組合の結成に轉向せんとする状態である。

翻つて九年の輸出貿易は、内地の不振を他所に、又南阿、英印、シヤム等の高關稅による防遏があつたにも拘らず、大正十三年以來の好調を見た前年中の輸出——洗濯石鹼のみ——約一〇〇萬圓に對し、九年は九月度までに既に七七萬圓、前年同期に比すれば一二萬圓の増加である。然しながら若し前記諸國の彈壓がなかつたならば、今年の輸出は未曾有の記録であつたにちがひない。それにつけても諸外國から締め出された原因の中に、業者の無節制なる競争がなかつたかをお互ひに反省して見る必要があると思ふ。

前年來安物全盛を現出した營業界も、九年に入つてから前記需要の減殺に伴ひ、反省の機會を與へられてか、漸次「値段より質へ」の傾向が顯はれ來つたことは同慶に堪へざる次第である。これは勿論需要者の欲求の反映でもあるが、吾人はこの機運を益々助長して營業界の健全なる進展と國民衛生の向上に貢獻したいものであると思ふ。

今年度に於いて特に記憶しなければならぬことは、

關係官廳、學者、業界の技術者を委員とする化學工業協會主催の石鹼規格委員會が、昭和七年二月以來三ヶ年の日子を閲みして、その規格案を決定し、之れを商工省規格委員會に提出されたことである。之れが實施までには猶相當の日子を要することであらうが、實施の曉には輸出に内地の統制に、貢獻する處甚大にして、本邦石鹼界史上に特筆さるべきものと信ずる。

既述の通り、多年業界の問題となつてゐた硬化油統制の解消が實現したが爲に、業者團結の目的の一半はこゝに達成せられたかの感があるが、しかしながら生産制限から解放された硬化油業者は、石鹼兼業者はその石鹼製造設備を擴張し、従來の單業者も漸次兼業者とならんとする傾向は必然であるから、石鹼業者の不安は更らに新に加はるものと見なければならぬ。

之れが對策としては、業者の結束を一層堅うしてその統制を強固にするとともに、兼業者間の無暴な競争を抑壓することの他にないと思ふ。

何れにしても本邦洗濯石鹼界は、魚油に大豆油に、その原料資源に恵まれてゐるのであるから、内に業者相ともに戒めて、無暴なる競争を慎しみ、外は共同して輸出に力を注いだならば、將來の伸展は眞に見るべきものがあらうと思ふ。(ライオン石鹼株式會社取締役竹井俊郎)

白粉の趨勢

わが國に於ける最近數年間の白粉界の進歩は洵に目覺しいものがある。これは各當業者が競つて不斷の研究をなしつゝある努力によるものであることは素より云ふまでもないが、新聞雜誌を通じて行はれる婦人間の化粧法の研究が、近年いよ／＼普及向上したので、これが一面、當業者への拍車となつて、絶えざる製品の改良が行はれ、又一方には白粉の需要を増大せしめ

た有力なる原因となつてゐることは否むことは出來な

いのである。而してこれらを通じて窺はれる化粧法の傾向は、最近に於ては、いよ／＼化粧したやうに見えない化粧、自然のまゝの美しさをその儘發揮することの出来る化粧法が、流行界を支配し、健康な地肌の美を暗示し、個性美を生かす色白粉の化粧が益々増加しつつある。

美容界のこの傾向に従つて、白粉界に於いても、皮膚の榮養回春をはかる、レシチン、コレステリン等のホルモン劑、又は各種の榮養劑の白粉への應用が研究され、その新製品の發賣せらるゝものも多く、又、各白粉原料の研究が進むにつれて、各原料による被覆力の相違も明かとなり、粉の配合技術が著しく進歩し、更にこの年の研究の對象となつた色味の配合選擇は、日本人の皮膚の性質についての研究の進歩によつて、著しい發達を示した。今左に現在の各種白粉の趨勢について概観しやう。

煉白粉

固煉白粉、粉白粉、海綿白粉、煉白粉等の名稱によるものを、すべてこれに包含すれば、わが國の現在の白粉中、その王座を占むるものはこの煉白粉であると云へる。過去に於いては、花柳界方面の化粧法が流行界を風靡してゐたる關係上、煉白粉も固煉のくつきり濃くつくものが、最も歡迎せられてゐたものであるが、近來、化粧法の普及發達によつて素人の令嬢夫人等の時代に適合せる新鮮味を持つた化粧法が、却つて花柳界方面をリードする傾向となり、従來の個性美を隠してしまふ迄に濃い化粧法から轉じて、薄くしかもムラなくつく強い被覆力を持つた白粉が求められてをり、煉白粉にも時代に應じた研究が加へらるゝに至つた。然し販賣上に於いては、何と云つても煉白粉は白粉中隨一の需要を持つもので、その生産額はこの年に於いても非常なる増加を示してゐる。

粉白粉

優良なる國産白粉の多數存在せる今日、尙、舶來品

の勢力の最も残存せるものはこの粉白粉、刷白粉であるが、各本舗不斷の研究の結果、その分子の細さに於いても、自由なる色味の豊富さに於いても、毫も劣らざる優良なる粉白粉が多數出現して、この年に於いては、殆んど歐米品を驅逐するの有様を示した。これらの粉白粉は、歐米人とは異なる肌の質を持つ、日本人の肌に眞に合せて處方されたものであり、その優秀さが一般に知られると同時に、化粧界の流行と俟つてこの年に於ける粉白粉の需要の激増は眞に目覚ましいものがあつた。今後、化粧法の簡單化とともに粉白粉の需要は益々昂まる傾向にあり、將來の白粉界に於いてその王座を占むるものは、粉白粉であらうとさへ豫想される。

水白粉

他の白粉がいづれも非常なる躍進を示してゐる間にあつて、水白粉はこの年に於いては見るべき發展を示さなかつたが、所謂「隠し化粧」として老若を問はず用ひられてゐるものであり、且つその化粧法も固煉白粉等に比して甚だ簡單であるので、液狀の白粉で優秀なるものさへ現れるならば、その將來の發展性は大きいあるものと云へやう。

クリーム白粉

粉白粉とともにこの年に於いて非常なる躍進を示したものにクリーム白粉がある。これは前年來、白粉界に登場した新化粧料であるが、化粧のスピード化を目指した簡單なる化粧効果が繁忙なる時代の要求に合致して、忽ちに白粉界に有力なる商品となつたものである。人によれば、將來、このクリーム白粉は水白粉の分野に食込んでゆくであらうと觀察する向もあるが、果して然るか又は別に新たなるスピード化粧の新需要を開拓してゆくものか、將來への宿題として残されるものであらう。

以上の如く各種白粉それ々に發展ぶりを示してゐるが、これを過去十年について回顧して見ると、實に

次の如き數字が求められる。

最近十年間白粉生産額 「商工省工場統計表による」

大正 12年	4,555,231圓
" 13"	4,882,237 "
" 14"	5,072,150 "
昭和 1"	4,912,941 "
" 2"	8,701,576 "
" 3"	8,092,807 "
" 4"	8,278,752 "
" 5"	7,955,350 "
" 6"	6,843,587 "
" 7"	6,802,941 "

最近二ケ年の全國的生産統計については、未だこれを求めることを得ないが、本邦白粉の大部分を生産する東京並びに大阪兩組合の昭和七年より八年への生産販賣額増減は、左表の如くである。

販賣額	昭和七年		昭和八年		増減
	額	製造額	額	製造額	
東京組合	二、五八六、八四四	二、二七一、五〇九	三、五三三、六九三	三、六九三、四四〇	増
大阪組合	三、八三三、六六一	四、一三五、一〇二	四、〇四一、四八〇	四、〇四一、四八〇	減
大阪組合	三、二七四、八二〇	三、七六六、八四三	三、九三六、六四四	三、九三六、六四四	増
大阪組合	四、三三三、四九三	四、六六〇、一三九	三、九三六、六四四	三、九三六、六四四	減

この増加の傾向は昭和九年度に於いても益々繼續して現はれ、品質の向上とともに眞に名實ともに誇るに足る國産白粉の制覇は、この年に於いて全く完成の域に達したのであつた。「伊東胡蝶園・阪本尙美堂調」

齒磨界の一年

齒磨界に於ける昭和九年度の回顧としては、一般化粧品と同じく相當曲折があつたが、業界の提携善處によつて一般不況の折柄にも拘らず、順調なる経過をたどり得たことは、幸慶に堪へない處である。左に齒磨界九年度の経過を略述してみよう。

1、販賣方面の動向

一、各種齒磨の値段改正

昨年來引續き各種原料の騰貴を來たし殊に紙類、錫等に於いて最も著しく、遂に各種齒磨を通じて一割乃至三割程度の値上を斷行したが、是れはその品質保持の上から止むを得ざる措置であつた。

一、粉、煉製齒磨全盛時代と中性齒磨創製時代

觀郁たる香氣と柔軟性に富める粉製齒磨は、依然として數十年來の歴史的な需要者を有し、煉製齒磨はその近代的味覺を持つること及び取扱の便利なること等より、業界の寵兒としてその進出目覺しく、兩々相讓らざる状態にある。近年又粉、煉の中間を行かんとする所謂中性齒磨、即ち半煉又は潤製齒磨の創製時代に移つたが、その煉製に近き特殊の香味と、粉の飛び散らぬ特長等は、今後の研究如何によつては更に新規の需要を喚び起すであらう。何れにもせよ、近來衛生思想の發達とともに齒磨の需要著しき増加を示すとともに、各種齒磨の賣行を高めつゝあり、眞に齒磨界の全盛時代ともいふべき状態である。

一、販賣上に關する各種特賣とその方法

業界年中行事とも云ふべき各種特賣は依然として隆盛を極め、或ひは金券に依るもの、或ひは物品景品に依るもの、乃至は觀劇、清遊、旅行、慰安、販賣店の優待、需要者への奉仕等、各種各様の方法を講じ、以て賣上の増進に努めてゐるが、これ等幾多の廣告乃至販賣上の試みは、獨り齒磨界のみの問題に止まらずして一般業界の傾向である。

一、本舗、卸店、小賣店、相互に於ける共榮販賣方法の研究

唇齒轉車の關係にある本舗、卸店、小賣店三者の共榮販賣方法に就いては、今後に残された重要な問題として、根本的に研究を要するもので、一日も早くその適當なる方策の實現を望んで止まざる次第である。而して此の問題の解決に最も大切なることは、相互間

に於ける信用と徳義の尊重である。これさへ圓滑に行ひ得られたならば、業界の將來は實に洋々たるものがあるかと考へる。併し之れは、言ひ易くして行ひ難き問題であるから、互ひに研鑽努力して、漸次此理想に接近するやう工夫しなければならぬことであると思ふ。

一、齒磨類輸出の趨勢

近時わが國輸出貿易の進展は實に驚くべきものがあるが、齒磨類の海外輸出も亦年とともに増加してゐる。昭和八年に於いては年額五十餘萬圓の輸出を見、七年に比すれば二十餘萬圓の増加を示してゐるが、九年度は八月末迄に既に三十五萬圓餘を輸出してゐるから、昨年度よりは一層の増加を見るものと思ふ。九年度に於ける齒磨類の輸出中注目すべき點は、新興滿洲國に於ける需要の激増と、北支市場の回復である。滿洲國に於いては、各種廣告宣傳、その他販賣に盡力せる結果、九年度は上半期のみにて十數萬圓の輸出を見、八年度の年額十四萬圓に比すれば著しい増加である。北支市場に於いては、暫らく日貨排斥に累されてゐたが、近時の對日感情好轉とともに輸出量も増加し、今や舊市場を回復して北平、天津を中心に新たに山西、河南各省、遠くは陝西、甘肅、新疆の諸地方にまでも進展してゐる。長江沿岸地帯、印度、南洋、その他の市場への輸出量も、漸次増加の傾向を辿つてゐるが、引續く世界的不況は前途に樂觀を許さざるものがある。更らに新市場への進出としては、アフリカ、中米、中歐への輸出が目につく。齒磨の種類に就いては、ライオン、クラブ、仁丹等の煉製、粉製各種であるが、就中「ライオン」の名稱は支那印度はもとより、南洋その他の市場に於いて次第にポピュラー化しつゝあり、就中煉製の齒磨消費高が目覺しき躍進を示し、今後彌が上にも發展の傾向を見せてゐるが、一方支那、印度に於ける粉製の需要も侮らざる状態を示せるも、此處暫くは現状を維持することと思ふ。

2、各商店の化學的研究方

面及び製造設備の革新

各商店化學研究所に於ける品質改善の努力、又は進歩的新製品の製造等に關する研究は、實に眞剣に行はれてゐる。歐風模倣にのみ因はれた時代は既に過ぎ去つて、近時わが國特有の趣味嗜好に近代的色彩を加味せる新製品の製出を見るに至つたことは、喜ぶべき現象であると思ふ。殊に香料藥品の一部にあつては苦心研鑽の結果、國産品が却つて輸入品を凌駕するものすらある。而も此の傾向が年一年と新らしき分野を開拓しつゝあるの状態であるは、邦家の爲めに慶賀に堪へないことである。更らに齒磨製造設備に於いても、九年度に實行されたものに一つの變革がある。それは工場内空氣の洗滌である。即ち清澄なる水を以て外氣を洗滌して工場内に導入し、汚染空氣は不斷に之れを引抜くものであるが、斯うした装置が、齒磨製造工場に實現したことは素晴らしい變革として誇るに足るところである。

3、需要喚起に關する文化

的運動とその施設

口腔衛生の普及宣傳。大正初年、いまだ口腔衛生の黎明期に當りて、社會的專業の一端として國民保健上に齒科衛生の極めて緊要なる所以を認識せしめんとして生れたのが、全國に亘れる口腔衛生運動であるが、爾來幾多の困難を突破して恒に終始一貫、今日の充實を見るに到つたもので、その講演會の如きはそれぞれ専門齒科醫を講師とせるもので、全國的に學校、軍隊、工場、男女青年團及び在郷軍人會等と連絡を保ち、齒科講演會、映畫會、展覽會、並びに口腔衛生講習會等を開催して斯道の普及宣傳に當つたのである。輓近學校齒科醫令の公布を見るに至つて一層口腔衛生運動の重大性を認識され、當局亦學校齒科衛生教育に重點を置くやうになつた。而して毎年六月四日の全國ムン齒豫防デーには、官民協賛して一大デモンストレーシヨ

ンを行ひ、學童に對する齒磨教練體育大會を開催するの狀態である。その他文化的施設としては小學校職員並びに女學校に於ける口腔衛生座談會の開催、新時代に適應せる映畫班の設置とその活動等見るべきものがある。小兒科、學童齒科を標榜して開設されたる本邦最初の試みなりし兒童齒科院は、逐年内容の充實を見、今日にありては日本唯一の「齒科衛生相談所」となつてゐる。最近「デンタル、センター」と稱して、成人の齒科清掃の實地指導の一分科をも新設するに至つたことは注目に値ひする。尙ほ口腔衛生部に附隨して學校齒科衛生の研究室を設け、常に新知識の研究涵養に努めてゐる。以上齒磨本舖に於ける口腔衛生實行に關する文化的諸運動の一端を述べたが、更らに新聞雜誌を通じて、齒牙保健の必要を説き、寢る前の齒磨を勧め、或ひは子供の時から齒を磨く習慣の達成に努力してゐることは、見逃すべからざる衛生運動であり、文化的奉仕運動であるが、之れが又一面更らに齒磨の需要を喚起し、業界活動の一因をなしてゐるのは、刮目すべきであらう。(ライオン齒磨本舖)

クリーム界の回顧①

昭和九年度に於ける化粧品産業の中、クリーム部門に就いての一般動向とその業績とを検討するの時、何人と雖も次の三つの顯著なる現象を見通すことは出来ないであらう。その三つの顯著なる現象と云ふのは、一、圓爲替安が招來したる原料及び香料の値上りと、グリセリン共販會社の設置によるグリセリン價の引上げによる製産費の昂騰、二、皮膚の入手又は文化工作の基本材料としての化粧品種別中、クリーム類が占むる重要地位の確立、三、性状及び用途によるクリームの種類別が、益々明確になつて來たこと、品質の一般的向上。

その一に就いてはすべての化粧品に共通するもので

あつて必ずしもクリームに限られた問題でないから、こゝには全然觸れないこととして、直ちに二の問題に移らう。

クリームの製産數量、若くは價格に就いての年度數字を擧げるとは今の處、不可能に屬するも、然しながら、大勢より推して、九年度の製産高が、前年度のそれより減少を見やうとは考へられない。勿論、部分的インフレ景氣なるものが、鑛業軍需工業等に現はれて、數社の利益率、配當率の上昇を見たとしても、農村の一般的疲弊、都市に於ける中小工業の經濟的苦惱に加ふるに、冷害、水害、旱害の襲來等より推して、農村都市の一般購買力が挽回されたものとは考へられない、否、一層疲弊の度が加はつたと断定するが至當であらう。それにも拘らず、クリームの需要、従つてその製産が、増加の趨勢を辿るといふ驚異の事實は、その必需性が、一般大衆に認識せられ、白粉とともに、化粧品中の主要生産品たることを、惹いては商品としての力強さを瞭らかに指示するものであらう。

然してこの事實は、決して偶然に醸成されたものではなくして、品質の向上したること、宣傳のよろしきを得たること等をその重なる原因と見るを至當とすべく、化粧品業界としては、正に、堂々たる正道を行くものとして祝福すべきであるとともに、需要増加の趨勢は、早くも業界の着目する處となり、既成本舗に於いては、益々設備、宣傳等にその擴張を加ふるの結果となつて現はれ、又一方新らしくクリームの製造を企つるものゝ出現したること、見通す可らざる事實であらう。

三としては先づ、クリーム種類別の確立の點であるが、數年前迄、わが國では、製品その物の包装にも、宣傳にも、單にクリームとあるだけで、歐米に於ける化粧品業界の習慣であるバニシング・クリームとコールド・クリームとの區別さへも明瞭でなかつた。種類別と区別する Cold cream, cleansing cream, lubricating cream, tissue cream, foundation cream, astringent cream, bleaching cream, hand cream, vanishing cream. 等々と如何にも、その名稱によれば、一箇々々が、種類を異にするかのやうにも見え、又そう宣傳もするの極端さは、一般の同意し難い處であるが、少くとも、使用者本位に考へ、クリームの性能と用途よりしてコールド・クリーム、バニシング・クリーム、特種クリームの三種に區分することは、二三技術家によつて提唱され、宣傳もまたそれを基本として行はれるの傾向となつたが、此の兩三年に於けるコールド・クリームの目覺しい進出は、消費大衆の化粧品工作上に於ける自覺とともに、「白粉下」 Powder base にはバニシング、洗顔と肌の手入れには「コールド」といふ宣傳が、正しく受け入れられるやうになつた結果であると言つてよからう。

又、輸入品に刺戟されて、「ホルモン・クリーム」若返りクリーム」等特種クリームが、市場に現はれたことも、世評の是非の判断は暫くおき、昭和九年のクリーム界を回顧するに當つては、記録にとどめるだけの必要があらう。

前にも言へる如く、既成品の新裝、新製品の出現とクリーム界は、賑々しい限りであるが、中には説をなすものがあつて「玉石混淆」と云ふも、その批評の當否は、勿論、一般使用者大衆の判断に待つの外はないが、現今のクリームが、數年前のそれに比すれば、概して品質の向上を見たことは、一般の認むる處であつて、漸く在留外人の間にさへ、國産のコールド・クリーム、バニシング・クリームが使用されるやうになつたことも、悦ばしい事實である。クリームに關聯した趣好の變遷として、匂ひの傾向は著しく「龍腦臭」より「ウケケ臭」に移つたと見る人が多い。これも當然進むべき方向に、進みつゝあるものとして、その是非は、何人と雖も論議する餘地のないところ、クリームとしては、向上であり、改善であることに疑ひを挾む

ものはないであらう。

容器及び包装の傾向としては、まづ、その單純化を擧げねばなるまい。Beauty in Simplicity といふ言ふのか、例へば、彫刻澤山の傾向から、單純な線が構成する美へと、またレットル、一個箱等の圖案にあつては、一言にして云へば、日本畫的圖案から、洋畫的構成へと、過去數年進みつゝあつたものが、昭和九年度に於いては、いよ／＼瞭然となつて來た。一々例を擧げるの煩は避けるが、老本舗の新包裝、新本舗の新製品は、殆ど例外もなく、此の傾向を追つて居る。容器の序に、今迄、金屬の獨占であつたクリームの蓋が或る程度迄はプラスチック——例へばベークライトの如き——爲に、その領域を犯されて來たことも、同じく一顧に價ひするであらう。(ワテナ化粧品本舗)

クリーム販賣界 ②

昭和九年に於けるクリーム界は例年の通り各本舗とも各獨特の特賣、愛用者優待を行つて大いにその販賣に將又宣傳に努力したため、各本舗とも相當の成績を収めたやうに見受けられる。

先づ有利特賣と銘打つて各乗りを擧げたものに、レート、ウテナ、御園、クラブ、ラブミー、アイデアル、オリヂナル、ヘチマ、カイン等があるが、その特賣内容は各本舗とも區々であつて、中には愛用者優待に素晴らしい景品を附するものなどもあつて、いつもながら賑々しい宣傳戦に蓋を明けたのであつた。

愛用者優待の懸賞募集にはその課題に、各本舗苦心の跡が著しく看取される。今二三の例を擧ぐれば、レート本舗は「四季折々お肌離せぬ美の守り、日本一よいクレームは何ですか」の問を興へて、〇〇クレームの中へレートの三字を入れしめ、ユキワリダブルクリームはユキワリダブルクリーム又はユキワリミンが他と違ふ點一つを記さしめ、又ラブミー本舗はラブミー〇〇クリームの圈點の中にラブミー新發賣のクリー

ムの名を漢字二字にて答へしめカガシ本舗は市川春代嬢と同クリーム容器三種を配し

一、カガシ〇〇ニン〇ンクリーム

二、カガシ〇〇クリーム

三、カガシ〇〇ル〇クリーム

の名何れかを答へしめ、ウテナ本舗はウテナ化粧品空箱に

一、ウテナクレームの名二つ以上

二、ウテナ白粉の名二つ以上

の何れかを記さしめ、クラブ本舗は午前六時、正午、午後九時の時刻を指す三個の時計を並べ、之れに各々坂東、小池、川崎の三俳優を配し

一、午前六時、洗顔剃り後にはクラブの何クリームがよいか(坂東嬢は〇〇クリーム)

二、正午、お化粧にはクラブの何クリームがよいか(小池嬢は〇〇クリーム)

三、午後九時、お寝み前にはクラブの何クリームがよいか(川崎嬢は〇〇クリーム)

の三題を提出、その内何れか一題を選ばしめる等簡單複雑それ〴〵苦心の跡歴然たるものあり、更らに斷然行き方を異にして、衆目を驚かしめたるはオリヂナル本舗の同類拂戻宣傳にて同クリームの空箱を直接本舗へ送附したる向きへ右と同額のクリームを進呈する方法にて十一月末に至る數ヶ月間盛に宣傳を續けられた尙懸賞募集に附隨する賞品もレイト本舗の如く各種の高級景品中より解答者に一品を自由選定せしむるもの、カガシ本舗の京染黒紋附新江戸裾模様、京都西陣特選パレス着尺、婦人雜誌一ヶ月分等の如きものと、クラブ本舗の毛糸三千封度、ウテナ本舗の伊勢銘仙二千反、ユキワリミン本舗の十八金側時計の如く同一賞品を廣くゆきわたらせるものと、各その特色を強調して愛用者の注意を惹いた。

尙實地宣傳も活潑を極め、レイト、ウテナ、クラブ各本舗レビュウガール、聲樂家、トキー等を以て宣傳隊を組織し全國各地に興行しそれ〴〵需要の喚起に努めた。殊にレイト本舗の如きは日劇レビュウ團及トキー

一を以て大宣傳隊東西二班を組織し九月下旬より十二月初旬に至る間全國各地の主要都市を宣傳し各地とも業界空前の大成功を収めた。尙同本舗が東寶小劇場に於いて、七日間クレーム愛用者四千名を招待したる、又はウテナ本舗が新興キネマ大泉撮影所地鎮祭にクリーム愛用者五千名を、映畫「花咲く樹」封切にクリーム愛用者四千名を招待したる等各特記すべき活動を續けた一方製品の海外輸出も亦昨年に劣らぬ成績を示した現在世界の何れの國を見渡しても、皆貿易の不振に原因する輸出の減退に悩んでゐるにも拘らず、獨りわが日本品のみが各國に於ける高關稅、輸入割當乃至禁止等凡ゆる障礙を乗り越えて進出しつゝあるのは列國にとつては、洵に脅威には相違なきも、躍進日本の姿を如實に表すものとして大いに各人の意を強くするものがある。(平尾賢平商店調)

ポマーードの一年

昭和九年度のポマーード界は、その原料方面に於いては、前年度に非常なる昂騰を示したる植物油、香料等はその後、依然保合を續けて大なる變化なく、販賣方面に於いても特記すべき現象を發見するに困難ではあるが、大體に於いてその需要は前年に比すれば約三割の増加を示しつゝあるものと云ふことが出来る。而してこの年に於ける顯著なる事實としては、植物性ポマーードが決定的にポマーード界を風靡するとともに、鑛物性ポマーードが殆んどその跡を絶つに至つたことを擧げ度い。

商工省工場統計表によるポマーード香油類の生産額は

昭和四年	二、四〇〇、〇五六円
昭和五年	二、四七二、三四八円
昭和六年	一、三三三、八五三円
昭和七年	二、三二四、三九四円

この中、ポマーードの占める額は或ひは六割と云ひ、

或ひは七割と云ひ、不確定ではあるが、逐年その販賣額を増しつゝあることは、蓋し想像される處であらう。今日市場に有名なるものは、メヌマポマーード、井筒ポマーード、柳屋ポマーード、ピタオール、千代田ポマーード、ウテテポマーード、伊豆椿ポマーード、オンドリポマーード、ラン／＼ポマーード、リーガルポマーード、金鶴ポマーード、庄慶ポマーード等十指に餘り、昭和七年發刊の化粧品名鑑に收載されたるポマーード、チツク、ブリアンチンの類は三百二十種の多數を示してゐるに見るも、その商品勢力が推せられるであらう。

これ等多數のポマーードの中、依然第一の賣行きを示しつゝあるものとしてはメヌマを擧ぐ可く、柳屋、井筒等も變らざる需要を持ち、特種なる需要層を形づくつてゐるピタオールは、この年に於いて新たに液體ポマーードの外に煉製ポマーードを發賣して大衆への需要に應ぜんとしたこと、千代田はこの年の後半、力強い大廣告によつてその販賣額を大いに躍進せしめたることは注目し得る。然しポマーード界に特色を有するものとして、その前途を期待された液體ポマーード並びにチユーブポマーードは、一般的需要品としては、何れもその努力に尙一段の拍車を要するが如く、日常用としては矢張り瓶入りのポマーードが支配的な優勢を示してゐることは争はれない事實であらう。

前年度に於いて、新たなる需要層として現はれたる婦人の整髪用としてのポマーードの使用は、この年に於いてはいよゝ一般的となり、洋裝婦人の主要美髪料とさへなるに至つた。

一方、輸出方面に於いては、隣邦滿洲國の發展に伴ひ、滿洲へのポマーードの輸出は逐年増加の傾向を辿るのみにして、昭和九年度に於いては前年度に倍増の勢ひを示すに至つた。香油ポマーード等の滿洲國への輸出は、昭和九年一月より九月までの累計に隨へば滿洲國へ二四二、九一七圓、關東州へ二〇九、二八四圓。現在に於けるこれらの輸出の大部分は大阪方面よりの無名

品であるが、各優良品も漸くこの年より輸出に意を向け、その激増ぶりは大いに見るべきものあり、内地の需要の漸増と相俟つてポマー下の將來は、いよ／＼輝かしいものとなりつゝある。(メモマ本舖・井田友平氏談)

香水の傾向

昭和九年度に於ける香水界にとつて最も特筆すべきものは販賣額の著しい増加である。現在では未だこの年に於ける香水の生産額を明らかにすることを得ないが、一般に前年度に比較して五割乃至八割の激増が豫想されてゐる。これは主として財界の好轉による經濟界の活況に刺激されたことは勿論であるが、また一方には國民の文化生活の向上に伴ひ、社交の機會がいよ／＼多くなり、從來、非常なる贅澤品視されてゐたる香水が、社交上の儀禮として日常必要品視せらるゝに至つたため、國內の需要も著しい増加ぶりを示し加ふるに滿洲への輸出の激増に伴ひ、香水の輸出は飛躍的な數字を示すに至つた。九年一月以降十月までの香水輸出入累計を前年と對比すれば

年	輸 出		輸 入	
	数量	金額	数量	金額
昭和七年	一七〇、一九七	一〇四、四七四	二八、八〇一	三九、〇三六
昭和八年	三七〇、八二四	二八、八〇一	三九、〇三六	
昭和九年	五七、八九九			

十月迄累計

即ち、その輸入が漸増の勢ひを示してゐるに對し、輸出は倍加の數字を示してこの年に於けるわが香水の海外進出が、如何に素晴らしいものであつたかを物語つてゐる。今これを月別に示せば左表の如くである。

【外國貿易月報】

月	輸 出	輸 入
一月	26.242円	26.682円
二月	34.024 "	30.211 "
三月	54.978 "	31.555 "
四月	58.065 "	34.016 "
五月	81.533 "	35.706 "
六月	56.443 "	46.749 "
七月	65.299 "	16.205 "
八月	51.648 "	32.486 "
九月	60.751 "	28.284 "
十月		

而してこれらの香水の輸出入をその相手國別に示せるものは次表である。

入	輸 出		昭和八年		昭和七年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
總計	三〇三	三〇四	四八〇	一四八	二四九	二四八
北米合衆國	一四	一				
滿洲國	一五	〇				
獨逸	八七	一六				
佛蘭西	一〇八	二七				
英吉利	六九	一九				
總計	三〇三	三〇四	四八〇	一四八	二四九	二四八

これによつても明らかなるが如く、わが國の香水界は、歐米より高級品を輸入し、國産品を滿洲印度等に輸出するのであるが、昭和七年に於いて輸出入略々同額であつたものが、八年に於いては輸出の方が増加し更に九年に入つては、滿洲方面への大量輸出によつて、遙かなる出超を見るに至つた。今後と雖も滿洲方面への輸出は、その文化の普及につれていよ／＼増加することと思はれるから、わが國の香水は更に目覺しい發展を海外に示すものとして期待できる。

第二に九年度の香水界について擧ぐべきは、品質の向上である。需要者の香水に對する嗜好は年毎に洗練されてゆくものであるから、製造者はその品質を絶えず改良してゆかなければ、需要者の十分なる満足を得ることは到底出来ないものである。從來に於いては、高級香水はすべてこれを歐米品に俟つといふ状態に甘んじてゐたものであるが、近來わが爲替の下落は歐米品の入手を高率の關稅ともにも困難ならしめ、且つわが國の化學的香料の長足の進歩は、香水原料をして自由に入手するを得しめたのでわが香水界はその品質に於いて格段の進歩をとげるに至つた。

第三に考へられることははかり香水の勢力が著しく強まつて來たことである。はかり香水はいづれかと云へば低級なる需要者層を目的とするものであるが、近來では香水に興味を持つ人々が次第に多くなつて來てゐるので、自分で各種の香料を調合することも漸次流行し始め、このために計り香水が著しく増えて來たことも、この年に於ける香水界の著しい傾向として見逃すことは出来ないであらう。

第四は各業者がそれ／＼自家の研究になる力作を續々と發表したことである。これまでのわが香水界に於いては、昭和七年發刊のわが社の小間物化粧品名鑑に収録せられたものも百十一種の多數に上つてゐるとは云へ、眞に香水独自の商標を以て獨特の處方を費つてゐるものは僅かにオリヂナル香水、金鶴香水、月の友香水等に過ぎざるが如くであつたが、この年に於いては各種の新處方を持つてゐる新製品が發表され、香水界は非常な活氣を呈するに至つた。香水は多數の人々の競争的なる調合によつて研究されれば容易に進歩を見ることが出来ないものであるから、かゝる現象は大いに喜ぶべきことであらう。然しながら歐米の化粧品界に比して、毫も遜色なき今日のわが化粧品界に於いては獨り香水のみは、未だ歐米に一籌を輸さねばならないのである。これは種々の事情によるものといへ、香

水の原料たる化学香料の進歩に於いては、わが化学界は目覚ましい進歩を遂げてをり需要者たる大衆の間にも、漸次香水趣味は普及しつつある現狀であるから、わが香水界の將來は、多幸なる未來を約束されてゐるものと言へるであらう。(安藤井筒堂調)

昭和九年の香油界

昭和九年度の香油界とは問はれても、前年度に比較して見て別に大した變化があるやうにも思はれない。たゞ社會の情勢によつて多少の移り變りはある位のものであらう。

然しわが國も聯盟を脱退した當時はそれ程とも思はなかつたけれども、月日を経るに隨ひ、各國からの經濟壓迫がますます甚しくなりつゝあるの今日、その反動的傾向とでもいふか、國內に於ける民心の趨向は固有の國粹と云ふ點に重點を置くやうになつたかのやうに思はれる。殊に私どもが最近著しく感ずることは、例へば文學としては國語を尊び、音樂に於いては和樂が興隆するといふ風に、服裝や整容にしても、著しき國粹的の現はれを感ずるのである。問題は少しく大きくなり過ぎたやうだが、結局その影響を私どもの直接關係のある髮容と云ふことにも及ぼして來るのである。手近な例として挙げれば昭和八年の暮から九年の春にかけて、日本髮の多かつた事は、近年稀れに見るの現象であつた。然らば十年度は何うかと云ふと、昨年よりも一層日本髮が多くなるのではなからうかと思はれる。此の日本髮が多くなると云ふことは、即ちわが國特有の國粹美たる黒髮の美を貴ぶといふ心の現はれてあつて、東髮——普通に云ふ處の洋髮に於いても、目に立つて減少したのは極端に頭髪を饒て焼いたりすることや、斷髮である。假令東髮にしても少しづつでも髮油を使つて頭髪を保護するといふ點に注意するやうになつたことも見免がせない事實である。之れは單

に黒髮の保護と云ふことだけではなくして、確かに國粹美を貴ぶと云ふ點からするも、洵に結構なことだと思ふ。

以上述べた處は聊か餘談のやうにも思はれるけれども、然し髮油の問題に對しては最も重大なる關係があり、即ち以上の狀態から考へて髮油の一般需要は、多少とも増加しつつあることが明らかに證據立てられるのである。ただその使用方法は髮容ちによつて違ふことはいふまでもあるまい。

髮油を大別すると香油と煉油との二つになる。そのまた香油の種類にも色々の名稱があるが、然し要するに普通一般にいふ處の香油の使用量が一番多いのである。然らばと言つて前年に比しては九年度の香油の需用高がいくらといふ風に、數字を以て表はすと云ふことは一寸不可能ではあるけれど、何%かの増加を示して居ると云ふことだけは、確かな事實であると思つていい。

香油の種類に就いてもまだその原料によつて大別すると、植物性油と礦物性油となるが、保健衛生上から云ふと、何うしても植物性の方が最も頭髪の爲に良好であると言ふことゝ、その中でも椿油が一番良いと云ふことは、管に業者のみならず、需要家一般のひとしく認識せらるゝ處であるは今更ら言ふまでもなからう。

かゝるが故に髮油製造業者は、此の衛生上の見地よりして優良の髮油を市場に賣出すと云ふことに、互ひに盡力すべきであることは勿論であると同時にわが香油業者の中にも、偶々香油の需要が減少しつつあるのではないかといふ、悲觀説を唱ふる人もあるやうではあるが、決してそのやうな心配のないことは、いろいろな材料によつて斷言することが出来るのであるから、一層斯業に邁進しなければならぬと思ふ。敢て私は日本髮とか、洋髮とかを論ずるのではない。たゞわが國特有の婦人美、即ち世界に誇る黒髮の美である

その國粹美を禮讃する爲めに、同業者は常に宣傳——即ちその廣告意匠の末に至るまでも、細心な注意を拂つて頂きたいことを希望してやまない。(あづま、香油本舖・山梨政平)

化粧水の傾向

今日、化粧水として業界に存在するものは、わが社の化粧品名鑑にあげられたるもの一七二種類。昭和七年の商工省工場統計表による化粧水生産額は、數量の判明せるもの、一三・三三七立、一九・五九九圓、數量不明なるもの八二・三・六七〇圓といふ額にして、逐年増加の勢ひを示してゐる。

従來、化粧水は季節的に夏季の化粧用に用ひらるゝものとされ、當業者の間にも、この期間にのみ宣傳に力を注ぐといふ傾向のあつたことは否む能はざるも、近年美容法の發達ととも化粧水の需要は四季を通じて漸く盛んとなり、透明化粧水、不透明化粧液、コロイド狀化粧水の各種類を通じて、化粧水の需要は宣傳によりていよゝ喚起され、男子の間にも鬚剃後の整肌用として廣く用ひらるゝに至り、化粧水の需要は益々増大を示した。現在、化粧水として市場に有名なものには、ヘチマコロン、白美液、白色美顔水、美顔ユーマー、リートフッド、カティフッド、ラブリポナ、御園四季の花、ライラック化粧水、アイデアル化粧水、クラブ化粧水、リート美粧水、ウテナ化粧水、マスター一番整肌液、ミツワ雪の雫等があり、更らに昭和八九年度に於いて著しい躍進を示せるものに昭和八年發賣のユキワリミン、ボンジーコロイドミルク等がある。新製品のかゝる進出に對して、舊來の有名品には新形ヘチマコロンの發表あり、發賣二十周年を迎へたるリートフッドは、その記念特賣を發表して益々かわらざる聲價を保持し、美顔水も目覺しい復活ぶりを示して大いにその氣を吐いた。更らに

この年に於ける化粧水販賣界に見逃せぬ現象は、化粧水中、第一の販賣額を有するヘチマコロンの販賣統制である。ヘチマコロン本舗では、昭和八年下半年より、九年上半年期にかけてその販賣政策の肅正を行ひ、従来の回收不能の販賣に對して、嚴重なる統制をなし、ためにその販賣額の減少をすら懸念されたが、結果に於いては、前年度に比すれば約一割の増加を示して、堅實なる販賣政策への轉向に成功するを得た。

而してこれら多數の化粧水を通じて、近年に於けるその傾向を求むるならば、これを大別して三種類に分つことが出来る。その一はヘチマコロンの如き所謂透明化粧水であり、その二はフリード或ひはボンナの如き乳液狀化粧水であり、他は九年度より化粧水界にその姿を現はせるユキワリミン或ひはボンジの如きコロイド性化粧水である。これら三者は化粧水としていづれも、それ／＼の特色を有し、その販賣上より見ても化粧水、化粧液の兩者は殆んど平行して進み、新製品なるコロイド性化粧水が、急激なる進展ぶりを示してこれに迫つてゐるものと言へやう。

この化粧水の三種類については、美容上より見て、それ／＼一長一短あるを免かれず、化粧水にあつてはクリーム下の整肌、白粉の溶き水に用ひられ、化粧液にあつては、化粧下にも用ひらるゝとよみに、或ひはクリームの代用に、或ひは簡單なるスピード化粧にも用ひられ、需要者の嗜好により、皮膚の性質により、自ら選擇が分れてゐるのである。而してこれら總てを通じて見らるゝ需要者の傾向は、過去に於けるが如き一時的効果のものに非ずして、眞に皮膚を美化する肌の整肌營養の効果を化粧水に求めつゝあることである。

従つて化粧水の宣傳に於いても、この點について訴たへる傾向が、各商品を通じてうかゞはれ、植物性、肌の若返りを強調する傾向が強く、古來、皮膚の整肌へ効果ありとさるゝ、ヘチマ水とか、レモン果汁とか

その他、果實の精なることを強調する宣傳が各商品にも行はれてゐる。かくて、需要家の化粧水に對する知識も次第に向上するとよみに、従來有名品に交つて販賣されつゝあつた十錢級の所謂パチモノは藪をひそめ、有名本舗より發賣さるゝ信用ある商品に大衆の需要はいよ／＼向ひつゝあるは疑ひを容れない。(ヘチマコロン本舗、レート本舗、ラプミー本舗調)

シャンプリーの發達

洗髮料界にシャンプリーなる名稱が洗髮粉に代つて、一般的に稱呼として用ひられ初めたのは、僅々四五年前からのことであるが、わが國に於ける洗髮料の歴史は甚だ古く、日本婦人の黒髪之美を守る清淨料として古くから存在してゐたものである。古來、一般に用ひられてゐた洗髮劑としては、有名なるものに、上州沼田或ひは信州地方の酸性白土、鹿兒島の火山灰等があり、その他、蕎麥粉、フノリ、澱粉等が廣く用ひられてゐた。然るに近年に至つて、石鹼末の洗滌作用を洗髮劑に應用せるものが、漸く出づるに至つた。これらの加里石鹼を主成分とする洗髮料は、主に理髮店等で用ひられてゐたが、洗淨作用は強力ではあるが、曹達分を多量に含めるため、毛髪を損ふといふ欠點があつた。この點、毛髪のとよりした艶を保つには、古來の洗髮料たる飽飽粉、粘土、フノリ等は、加里石鹼に遙かに優つてゐるものではあるが、その反面に於いて、洗淨作用に於いて劣り、且つ殘渣等を毛根に残し易く、いづれも一長一短あり、理想的なる洗髮料の出現は業界に於いても久しく待望されつゝあるところであつた。

昭和二年、モダン洗髮粉が發賣せられた當時にあつては、有名なる洗髮粉としては、酸性白土を原料とするものに、日の丸美人洗髮粉、ぼたん園洗髮粉等があり、糊狀のものにオリブ洗髮粉があり、化學的なる製

法によるものに、マダム洗髮粉並びに新たに出現したる植物性洗髮粉モダン等があつた。この時代にあつては、未だシャンプリーなる言葉は一般に理解さるゝに至らず、たゞ僅かにモダンが、シャンプリー・パウダーなる説明字句を用ひ、在來の洗髮粉に對して新製品の新鮮味を現はさんとする程度であつた。その後、昭和五年頃に至つては、洗髮粉にシャンプリーなる振り假名をつけて、次第にシャンプリーなる名稱を大衆に親しませんとする廣告法も用ひられてゐたが、洗髮料としての一般的稱呼は、依然として洗髮粉であり、前記の各有名品の他に、イワヤ洗髮粉、美人洗髮印洗髮粉、ケイラン洗髮粉、百萬弗洗髮粉、玉子洗髮粉等があり、小間物化粧品名鑑に收録されたる洗髮料としては、一〇九種に及ぶ多數の洗髮料が市場に存在したのであつた。

昭和六年の商工省工場統計表によれば、洗髮粉の生産額は、數量の判明してゐるもの、五〇・三〇四匁。一・二八・六一八匁。數量不明なるもの、八六四・三〇八匁となつてゐる。斯く金額が相當なる額を示してゐるにも拘らず、その數量が不明なる點などは當時如何に多數の洗髮粉が發賣されてゐたかを物語るものであらう。然るに、昭和六年、花王シャンプリーが長瀬商會より發賣さるゝや、その宣傳力を以て廣告大いに努め、洗髮料界に非常なるセンセーションを起すとも、その宣傳によりシャンプリーなる名稱は、一般需要者に漸く認識さるゝに至るや、爾來シャンプリーは洗髮料の一般的稱呼として廣く用ひらるゝに至つた。斯くて昭和七年より八年にかけては、資生堂シャンプリー、千代田シャンプリー、ぼたん園シャンプリー、固形モダンシャンプリー等が新たに出現し、花王、モダン、玉子、イワヤ、資生堂、千代田等の各有力品の間に、激烈なる競争が行はれ、各シャンプリーをしていよ／＼進歩せしめるに至つた。その結果として化學的製造によれる各シャンプリーが在來品を次第に壓倒し來り、液狀、クリーム狀粉狀及び固形の各種を通じて、シャンプリーの需要は益

々増加するに至つた。

斯くて昭和九年度に於いては、シャンプー界は、前年度の激化する競争の後をうけて、却つて平靜となり各商品それ／＼に順調なる發達を遂げ、平和なる一年に終始したと云ひ得るであらう。昭和九年に於けるシャンプーの生産販賣額は、尙不明であるが、全シャンプーの三十三パーセントの販賣額を有すと云はるゝ花王シャンプーの販賣額が約百萬圓見當であるところから推算すれば、その總額は僅に二五〇〇〇〇〇圓を突破してゐるものと想像され得るのである。

而してこの商品が將來わが國に於いて、如何なる發展性を有するかと云ふに、これについては次の如き市場調査がなし得るであらう。即ち、昭和七年の人口調査によれば、樺太、朝鮮、臺灣を除く、わが國內地の婦人々口は三二、一八六、〇一四人である。この中、シャンプーの主要なる消費者を、十五歳乃至六十歳の女性と推定すれば、この年齢の婦人は、婦人々口の五四パーセントを占むるを以て、昭和七年に於けるシャンプー消費者たる婦人の總數は、一七、三八一、四四六人となる勘定である。今假りにこれらの婦人が毎月一回づゝ洗髮するものと假定すれば、その洗髮料消費額は年に、一七三八萬餘打に及ぶべくその價格を打五十錢とすれば、シャンプーの販賣額は八六九萬圓餘となるわけである。

未だ文化の程度の比較的低い農村婦人等にこの消費を求めることが實際には前途尙遠慮であるとするも、現在に於けるシャンプーはこの想定數の半にも達してをらず、シャンプーとしては、更に廣大なる未開拓の需要層が残されてゐることが知らるゝであらう。以上によつても明かなる如く、これらの婦人にシャンプーの需要を開拓してゆくならば、シャンプーの販賣額を現在に倍加せしめることも必ずしも困難ではなく、更らに進んで、婦人間の洗髮の習慣が毎週一回は衛生上必要なりといふやうなことが求められ、これを各洗

髮料業者こそつて、婦人に訴求してゆくならば、シャンプーの需要は一層増大すべく、シャンプーの將來はいよ／＼有望なりといふことが出来るであらう。〔花王本舗・モダン本舗調査〕

香料界の一年

多くの香料需要家では、從來自家の製品に使用さるゝ原料は、殊に香料にあつては、それが外來品であるといふことが、その誇りでもあり、且一面、販賣政策上の宣傳の具でもあつた。然るに今日では例へそれが外來品を使用しても、國産品と銘を打たなければならぬ、そうしなければ販賣され難いといふ状態にまで變化して來た。勿論それは數年來あらゆる機會に於いて朝野に叫ばれた國產獎勵の聲が然らしめたのである。然し永らく使ひ馴れた外來品は、多少の價格の差位では却々國産品には置き代へることは難かしかつた。元來化粧品、石鹼等に於ける香料は、その製品に取りては相當重大な役割を持つて居るにも拘らず、宣傳費その他に比しては案外等閑視され易き立場に置かれて居た。即ち製造原價の多少の差位は影響としては少ない。

それと殊に有名品にあつては、傳統的慣習に重點が置かれてあるのみならず、一方香料は技術的鑑識、或ひは識別が容易でない商品であるため、代用品の置換へは相當難事とされて居た。ところが近年一般財界の不況は當然業界にも波及するに及び、競争激甚を極めた結果、經濟的に國産香料が注視され始め、國産香料を外國香料に代用するの機運に向つて來て居た。そこに、過ぐる對外爲替の變動來から、外來香料と國産香料との間に相當大なる價格の差が生じたので製産原價の採算上到底外來香料は使ひ切れない、出來得る限りは國産香料を代用しなければならぬ状態になつた。從來は一顧だも與へられなかつた香料にまでが、關心が持たれ始め遂に今日の國産香料時代を現出したこと

は、邦家の爲め慶賀に堪へざるところである。

斯くて此の國産香料時代の現出の結果は、工場とは名ばかりの殆ど販賣政策上の宣傳の具にしか過ぎなかつた試験室的工場等が、本格的に活動を開始した。近來一流香料商店が響を並べて香料製造所の經營に乗り出し始めた。數年前までは香料の製造所は僅か二三に止り、その投下資本も僅々六十萬圓程度であつたが、九年度の推定によれば、實にその三倍に近き百七十萬圓に達せるのみならず、更らに擴張しつゝあるの現狀である。此の外一般化學工場の一二では、副業的に一部分の香料の製造を企圖して着々成功した。斯うした傾向は香料界としては喜ぶべき現象で、原料から自給される純國産香料が陸續製出さるゝに伴ひ、外來品の輸入を必要とせざるの狀態を現出した。加之、數種の香料にあつては、逆に從來原料の輸出地だつた香料の本場である歐米諸國にまでも輸出され出したのである。この事實は爲替安の關係のみとは言へない。化學者の攪ゆまざる研究の收獲であり、殊に一般化學工業の發達が、香料製造工業の進歩を助成した點も、特筆に値ひする。これは技術的にも外來品に遜色のないことの良き證明で、この非常時に際して實に心強い限りである。その重なるものを擧ぐれば、本邦獨特の天然樟腦の副産油たる樟腦赤油分から製造さるゝものを筆頭に、實に左表の如きものがある。——昭和九年度推定

名 稱	數 量	價 格
サフロール	100,000	60,000圓
シネオール	100,000	80,000
ホルネオール	11,000	50,000
セラニオール	50,000	110,000
イオロキン	10,000	110,000
ヒドロキシ	5,000	100,000
シドロネール	10,000	80,000
ターピネオール	10,000	80,000
アセチニール	7,000	26,000
リナリール	25,000	100,000
アセチニール	25,000	100,000

名	数量	價格
ア ニ リ ン	五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇圓
ヘリオトロピン	一〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇〃
リナロール	七、〇〇〇	四三、〇〇〇〃
(芳油を除く)		
シトロネロール	五、〇〇〇	六〇、〇〇〇〃
その他		一〇〇、〇〇〇〃
計		二、一四〇、〇〇〇〃

昨年来非常時局に直面せるわが國としては、化學工業も軍需品製造等の影響を受けて、稀れに見るの活躍振り發揮して、香料合成上必要な助劑の國産化を齎らした。即ち電解工業の發達は鹽素利用の一方法として、コールターの分溜物とともに嘗ては、經濟的不可能視された次の如きものも製造さるゝに至つた。——昭和九年度推定——

名	数量	價格
人造麝香類	三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇圓
ネロリ	一〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇〃
ジフエニド	一、〇〇〇	八、〇〇〇〃
オキザイド		
アミールシンナミ	一五、〇〇〇	三、五〇〇〃
ツクアルデヒド		
フェニール醋酸及びそのエステル	二、〇〇〇	三六、〇〇〇〃
メチル		
アントラニレート	二、〇〇〇	三〇、〇〇〇〃
プロムスチロール	三、〇〇〇	四〇、〇〇〇〃
桂皮酸エステル	一、〇〇〇	二四、〇〇〇〃
安息香酸エステル	一、〇〇〇	七、〇〇〇〃
クマリン	六、〇〇〇	一三〇、〇〇〇〃
その他		一〇、〇〇〇〃
計		三六四、五〇〇〃

此の外原料を輸入に待つて製造さるるものは尙十數種ある。以上は合成香料であるが、天然香料に於いても見逃がすことの出来ぬ發達が窺れる。前述した臺灣より産出するシトロネラ油の外、レモングラス油がある。又古くから努力して製出されて居るものに、蜜柑油、オレンジ油がある。内地の各地で製出される黒文字油は、輸入香料のラベンダー油の原價高のため相當の代用をつとめて居る。北海道、樺太等より産出され

る松精油は、天然龍腦の原料以外に、石鹼香料等に使用され、或る部分は輸出されてシベリヤのバインニードル油の領域を侵して歐米市場にも盛んに輸出されて居る。又四國及び近畿地方より産出される杉油、檜油は調査されて、化粧品及び石鹼の香料とされる以外、醫藥方面にも相當廉價が認められた。——昭和九年度推定生産狀況——

名	数量	價格
檜油	六、〇〇〇	六〇、〇〇〇圓
杉油	一六、〇〇〇〃	一六〇、〇〇〇〃
松精油	五〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇〃
黒文字油	六、〇〇〇	三三〇、〇〇〇〃
オレンジ油	三、〇〇〇	三六、〇〇〇〃
蜜柑油	三、〇〇〇	二四、〇〇〇〃
シトロネラ油	二、〇〇〇	二四、〇〇〇〃
レモングラス油	五、〇〇〇	三〇、〇〇〇〃
計		一、一四〇、〇〇〇〃

此の外、調合香料は對外爲替の影響を受けたことが最大のものであつた。邦價に換算すれば原價の倍額の上に、十割關稅を課せられる結果、到底經濟的に使ひきれない、國産品を組成として作成されるものに比して小は四倍、最大のものに至つては六倍のものすら珍らしくない。此の結果香料の取扱業者は勿論、香料需要家も技術者を督勵して、之れが研究に精進し此の方面も大いに進歩して、相當の好成績を挙げ、従來は殆んど輸入品であつたものが、現在では普く化粧品、石鹼等の調合香料は是を外來品に仰ぐの要なき域に達したのである。この調合香料では長くムゲツト系統の香ひが好まれたが、輸出化粧品、石鹼等の影響もあるか、化粧品にはローズ系のものが、石鹼にはジャスミン系のものが據頭し流行し始めたのは、見逃がしてはならない傾向である。更らに飲食料香料のエッセンス方面では往時は年額一〇〇、〇〇〇圓餘の輸入を、ブシユ、及びスチブソソソ等々の英國製品に仰いで居たが、前述の調合香料と同じ理由でその大部分が國産に代り、

九年度の輸入額は約五分の一即二〇、〇〇〇圓を超えざるに至つた。以上は技術的方面を主として述べたが、之れを營業的方面より見れば、香料消化の狀況は、上半年は昨年来の活況の連續もあり、輸出方面では日蘭會商等を控へて、見込輸出等の好材料のため、相當消化力が強かつたが、部分的ではあるが、大火あり、洪水あり、廣範圍の農作物不作もあり、更らに梅雨期に雨がなく、盛夏に却つて降雨多きなど、天災と變態的な氣候のため、地方農村の疲弊、困憊、又政變後の所謂非常時豫算等の影響が、一般財界を不振ならしめたと同様に、後半年に於ては之れが消化力を激減した。是れを要するに技術方面では、本邦工業界の活躍に伍して、研究に於いても製造に於いても、質量ともに躍進を見せ、歐米とその競争を争つた。尙、諸外國が盛んなるわが國工業の進歩に對する、自國産業保護政策等から、日本品に對する對抗觀念も加はり、その進出を極度に阻害せんとしつゝあるに徴しても、業界には決して一日の儉安は宥さないであらう。(高砂香料株式會社)

婦人服飾品の傾向

總じて婦人服飾品——小間物に就いていふと、非常時——などと云はれながら、實は反對に派手なものがよく出た。色にしても、春あたりから出だしたダリア色などが、依然、秋から冬へかけても盛んに出つゝある。全くこの色全盛の昭和九年であつた。櫛、簪、丈長、ブローチ乃至コムパクト、化粧セツトの類まで、斷然ダリア色が一般の愛好に迎へられた。

そして模様よりも地色、この傾向は寔に顯著なものがあつた。一般選擇の標準は先づ地色で、模様は第二義、然も極くあつさりしたものがよることばれた。で、總花模様などよりは新らしい所謂るモダンなものが當

然人氣を呼んだ。又、何品にせよ、新形が出来ると直ぐ賣れるといふ傾向も濃厚であつた。値よりも柄が土臺で少し位値は張つても柄のいいものは觀面に賣れた。次に個々の品物に就いていふと、ハットピンやブローチは去年あたりに比べてぐつと出るやうになつた。が、之等からは未ださう變つたものも出なかつたが、そこへ行くと時計のバンドである。色々變つた品が出た。で、草やレザーはやゝすたれ氣味で、リボン式の布地が斷然よろこばれるやうになつた。色は矢張り前述のダリア色系統、そして挿し込んで簡單にとまり、先端がピラ／＼してゐるやうなものが一番よく賣れた。革やレザーも極く變つたものなら兎も角、平凡なものももう顧みられなくなつた。

半衿は、今年は無地の變つたものが一番よく出た。色は大體薄白茶系統で、前述のダリア色など最も愛好された。服飾用リボンや、ストッキングも隔段に出るやうになつたが、ストッキングは毛のものよりは人絹のすべ／＼したものが最もよく出てゐる。

帯縮に就いていふと、在來は布地が割によく賣れたものだが、今年あたりは紐紐に移つて來た傾向がある。そして却々高級品も賣れるやうになつてきた。

兎も角、猫の眼の如く、時々刻々と移りゆく小間物界の流行である。で、客の氣が短くなつた。一遍賣つたものはもう二度と買はない。業者も骨が折れる、餘程種類を豊富に置かなければ……。又、最近、尖端的に流行を趁ふのは良家の令嬢達で、それに續いて女給等の職業婦人が追隨してゆく傾向が見え出してきた。要するに以前とは反對の傾向で、一面不景氣の反映と見ることも出來よう。(飛川商店・久保力松商店調)

婦人頭飾品の一年

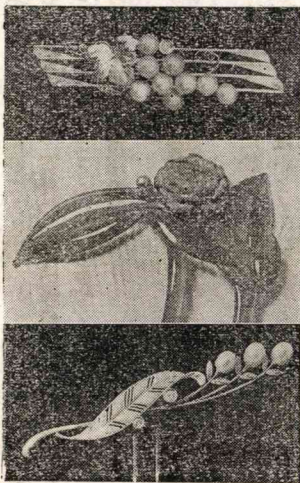
婦人頭飾品には時代の變遷が最も顯著に現はれて居る。然かも震災後は年々歳々、その需用漸減の傾向を

迎つて居つたので業界一般としては、その前途に非常な憂慮を抱いて居たが、此の需用激減は過渡期に於ける一時的の現象とでも言はうか、此の一兩年來は秋から冬にかけては、東洋婦人の誇りとする濡れ羽色のみどり滴る島田、桃割、丸髻等々の日本髪が、勿論往年の日本髪全盛期當時とまでは行かずとも、漸次増加の一途を辿りつゝあるの事實を示して來た。

現に昭和八年度より九年度正月にかけては、日本髪が近來會つて見ざる程、非常に多く見受けらるゝに至つたが、昔の如く年中かゝる旺盛を見るに至るまでに立戻るか否かについては未だ相當に疑問であるとして、兎に角例へ季節的とはいひながら、徐ろに日本髪界の恢復しつゝあることだけは容易に看取し得るのである。然し業界の最も苦痛とする處は、小學校から女學校時代の少女達が、オカツパ、又は斷髪になつたことである。これは全業界に取つての非常な打撃であることは言ふまでもない。一部分には七五三の御祝ひの頃から、正月にかけてリボン結びの髪飾りを相當に使用されてはゐるけれども、平素は殆ど髪飾りと云ふ程の物を用ひず、只單純なおカツパ止め、又は斷髪止程度のものに限られて居るから、昔から見るとその範圍が非常に縮小されたわけである。試みに全國に於ける小學校女児及び女學校時代と思はれる八歳より十九歳に至る女子の數を見ると、大正十四年に於ける國勢調査に隨へば七、五〇四、九五五人であるから、これ等の少女及び妙齡の婦人が多少なりとも頭髪用品を用ゆるに至らば、業界の更生は實に素晴らしい勢ひを以て行はれることであらうと思はれる。然しこの需要減退の最も甚だしかつたのは、斷髪の流行猖獗を極めた昭和三四、五年の頃であつて、それ以後に於いては斷髪の風も年々減少を見、昨今にありてはダンサー女給等の如き特殊職業婦人の一部に限られたかの如く、その他には殆んど影をひそめ、多少寂なりとも、年々その需要増加の傾向を辿りつゝあるは喜ばしい現象と言はなけ

貴金屬・裝身具

最近に於ける貴金屬裝身具界の大勢を見るに、いづれの都市をも通じて見らるゝ處は、貴金屬裝身具の一般商店に於ける店頭販賣が著しく不振を示しつゝあるの事實である。この店頭販賣の減少は、もとより景氣の如何に左右されてゐることは言ふまでもないが、これに反して大都市に於ける百貨店の貴金屬裝身具の賣上高は、刻下の不況にも拘らず寧ろ漸増の傾向を示してゐる。貴金屬裝身具に對する一般の需要が、個人商店よりも、遙かに巨大なる資本を擁し且つ商品數に於いても豊富なる百貨店に漸次集中せられつゝあることは、今後と雖も一層その度を強むるに至るであらうと豫想されるが、然し店頭販賣に行詰まれる一般商店が、今や外賣方面に非常なる進出ぶりを示してゐることは注目し値ひする最近の傾向である。



貴金屬裝身具の如き、高級なる趣味的商品にあつては、一般需要者は百貨店に集中されてはゐるものゝ、高級なる需要者にあつては大家を目標とする百貨店のみでは満足せず、更らに自己の嗜好に合せて自由なる注文をなし得る裝身具店を求めめる傾向が強いので、この點に於いて、顧客の家庭に出入してその趣味嗜好を十分に知悉したる上、これに適合する裝身具を奨め得

る外賣、即ち訪問販賣が近時非常なる發達を示して來たのである。従つて當業者としても店頭販賣の不振をこの方面に轉向開拓してゆくならば意想外なる進展をなし得る餘地が、尙十分に残されてゐると思はれるのである。

總じて高級裝身具の如き、比較的高價なるものは年々これを改めて購入するものとは異り、その年毎に於ける流行の推移も明確には知り得ざるものであり、三年乃至五年を通じて、始めて一つの傾向として論じ得られるものなのである。従つて昭和九年度に於ける裝身具の傾向として一々これをあげることは困難であるが、昭和八年度に於ける裝身具に續いてこれを眺めるときには、その間に自らなる流行の推移が見られるのである。

毎年云はれることではあるが、美容界の傾向として日本髪は、この年に於いても次第に減少の傾向を示して行つた。これに伴ひ、裝身具界に於いても鬘甲、珊瑚等の如き、舊來の日本裝用頭飾品は著しく減少の傾向を示したのはいふまでもない。そしてこれに代つて寶石寶玉等の應用品は、これに用ふる寶石が世界共通の貴重品であり、且つ男女を通じて非常に愛着せらるゝ處から、増加の傾向を示してゐる。たゞ前年度來、問題となれる貴石關稅の問題が、尙解決せざりしために動もすれば貴玉石の品不足を告げ、従つて價格も高く、裝身具界の進展を妨からず邪げたることは、遺憾なることであつた。

指環

婦人裝身具の中、需要の王座を占めるものは矢張り指環である。この年に於いては、指環の主要部を占める貴玉石が前述の如く品不足を告げるため、その價格は一般に値上りを示してゐた。而してこれに用ひらるゝ貴石の中、この年に於いても依然、流行の中心をなしたのは矢張りダイヤモンドで、高級品にては、その品質の吟味がいよゝ精密となつて來たが、これに次

いでエメラルドが、著しい進出ぶりを示してゐる。殊に上流需要者の間に於いては、エメラルドは非常なる流行を示し、エメラルドにダイヤを配せる新意匠のものは素晴らしい需要を見た。その他の貴石では、ルビー、サファイヤ、メキシコオパール、翡翠等が喜ばれ、此の年は翡翠も、高級品にては、彫刻せるものよりも石自體の自然の質を賞美するの傾向が著しく認められた。

以上の高級品は別として一般向のものとして、多くの需要を見たのは、十圓乃至二十圓を限度とする模造品——シンセティック——で、これにはバイオレット、サファイヤ、ダンブレット・ゴールド・トリマリン、ジルコン等の精巧なるものがあり、カット技巧、細工等には一層の進歩を示し、大衆的な需要を喚起したのであつた。

帶締

帶締の流行の基調をなしたのは、矢張り前年と同じく、白金を臺とせる金屬臺に、寫真に示す如き、眞珠、サファイヤ、エメラルド、又は細微なるダイヤ等を應用したもので、この種のものは、その意匠圖案にいよゝ新味を加へて依然帶締の主力をなした。その外には、美術的な彫刻金具並びに瀟灑なる陶磁製品が再び稱揚され、又は白檀の木彫物、象牙彫刻が廣く用ひられたのであつた。一般的な需要に向くものとしては、十圓乃至二十圓位のものが多いと云つても多く賣れ、打紐を改良したる高雅なる無飾帶締もいよゝ増加してゆく趨勢を示した。

洋髪飾品

從來までは、婦人の整髪の流行を支配する美髮業者と、頭飾製造業者との提携連絡が缺け、動もすれば流行の髪形と、頭飾品の一致を缺くことがあつたが、本年からは、この間の連絡が漸く緊密となり、皆に適した髪飾品が多く工夫されるの實情を示した。この流行の二大潮流とも云ふべきものは、寫真に示す如き金屬

製のもの、鬘甲製のものであるが、いづれかと云へば金屬のものが優勢を示し、高級品には、指環、帶締に用ひられる如き寶石類並びに珊瑚、眞珠等が配合されたる新圖案意匠が多く歓迎された。一般大衆向きのものとしては、その需要層たる職業婦人並びに家庭婦人が一切頭飾品を用ひざることを流行としてゐるために、見るべきものが無かつたのは、遺憾であつたが、衣服にのみ意を用ひてゐる婦人界の流行の傾向も同業者が相協力して、需要の喚起に努めたならば、頭飾品の流行を齎らすことも可能であらうと思はれる。(白牡丹本店・松田幸治郎氏談)

洋裝雜貨の流行

本邦婦人の間に於ける洋裝の流行は、前年度に引續いて昭和九年にはいよゝ一般的なとなり、質的にも著しい向上を示した。隨つて婦人の洋裝に關する研究は素晴らしい進歩を示せるが如く、從來は洋裝に對する選擇の標準も型や色にのみ限られてゐたが、最近では歩行時の格好周囲の調度環境との調和といふやうな細かい點にまでも注意が拂はれるやうになり、量的にも非常なる増加を示して來た。

從來は婦人の洋裝は殆んど東京に限られてゐるかの觀があつたが、今年度に於いては關西大都市にも、洋裝は大いに増加し出したので、この趨勢に押された關西の各大百貨店では、いづれもその婦人服部の大擴張を行つて、この流行に順應せんとしてゐる。この洋裝の普及は今後いよゝ全國的に擴まつてゆくものと思はれるが、然し現在に於いては、未だ何と云つても、文化的に進んだ大都市にのみ限られ東京、大阪に次いで京都、神戸、横濱、福岡、京城、大連等に需要の大部分が集中されてゐる現狀である。

斯くの如き洋裝の非常なる進歩につれて、これに附屬する洋裝雜貨、婦人服飾品はいよゝその需要が大

となり、その意匠に於いても獨逸、佛蘭西等の最新の流行を直ちに模倣するのみか、最近に於いては、歐米の服飾界が不況のため振はず嶄新なる意匠も少い處から、新意匠の變遷の烈しさに於いては、わが國の服飾界の方がむしろ外國品よりも先行せむとする傾向をさへ示してをり、佛蘭西、獨逸の最新の流行の傾向を優秀なる技術によつて直ちに商品化し、逆に歐米への輸出さへ行はるゝに至つた。

歐米に於いても、流行の變遷の最も甚だしいのは服飾品、裝身具であるが、今年に於いては、洋裝の流行も、色彩の單純化の傾向に向ひ、帽子も、服も、靴下、靴、ハンドバッグまでも、悉く同一の系統の色に統一されるので、服飾品も、これに調和し、これを引立たせる意味で單純化され、鋭角な感じを持つ意匠が非常に歓迎せられ、且つ多くの需要を見た。

金屬ベルト

銀白色に輝く環を鎖狀に連ねたままぐの形態の金屬ベルトは、わが國の服飾界の創造になるもので、前年度の暮から市場に現はれたものであるが、近代的な感覺を持つたものとして、一時非常な流行を見、輸出向にも大量製造されて、歐米にまでも進出した。

服飾クリップ

この年の新流行品として非常な進出を示したものに服飾クリップがある。これは金屬の臺にシンセイツク寶石を嵌めたもの、大きな一個石を嵌めたもの等があり、洋裝の飾りとして胸、襟、ベルト等どこへつけてもよい處から、多く需要せられたが、新意匠を求め向、増加の勢を示してゐる。

木製服飾品

金屬にも飽き、石にも飽きた結果、新奇なる服飾材料として求められたものに、美しい木目をそのまま現はした木製の服飾品が新たに現はれた。これはフランスの流行界を風靡せるもので木製クリップ、木製ベルト留具、木製卸等に應用され我國の市場にも忽ち現は

れたが、餘りに尖端的に過ぎて、大衆的な需要を喚起するに至らず、一部の流行に終つた。

腕環

前年來、廣く流行してゐる腕環は、この年に於いては、洋裝の増加に伴つて一層需要の増加を示し、婦人服の袖の長短に關らず益々用ひられ、特に嶄新なる意匠の出現がなかつたにも拘らず多く使用せられるに至つた。

ネットレース

腕環が依然たる流行を示してゐるに反し、著しい減少を示したものはネットレースである。これは、この年に於ける婦人服の流行型が、著しく襟が詰り、リボン、レース等の飾りを用ひるやうになつた結果、ネットレースの用ひ場所がなくなり、この頽勢を示したもので、ネットレースの傾向としては全體の長さが短くなり、頸の周圍に近く垂れるやうになつた。

ブローチ

ブローチは相變らず需要され、高級品は新規のクリップに稍々押される氣味があつたが、一般向値段のもの、女學生間には非常なる流行を見、その趣好に適合せる意匠によつて、大衆的な需要を齎した。

バックル

婦人服のベルト飾留たるバックルは、漸次多く用ひられ、從來の金屬製のものに加へて、革製のもの、木製のもの等が出来、一般に幅が廣く大型になつたことはこの年の著しい傾向と云へやう。

指環

貴金屬費飾品としての指環は別として、趣味的の指環はこの年に於いてはいよゝゝ大衆化し、若い男女間に用ひられ、洋裝の單純化に伴ひ、その意匠は大きく單純なるものが好まれ、淡い地味なるものは男子に歡迎され、銀座等の洋裝々身具専門店に於いては非常な賣行きを示すに至つた。〔宮本庄七商店・栗木昇一氏談〕

袋物界の回顧

輸出の好調

輸出好調の聲とともに、空前の非常時を目前に控へたわが産業界である。袋物業界に於いてもまた相當の好影響あるは勿論である。現に袋物組合に於ける昭和九年四月調査の生産統計に徴しても、數量に於いて三割、金額に於いて三割五分の激増を示せるが如く、その消化力の旺盛なることは、將來の業界に相當明るい波紋を投ぜむとして居る。此の積極的原因に加ふるに消極的原因としては皮革、その他の原料、工業の急速なる進歩により、儼に舶來品に對抗し得、敢て遜色なき優秀品も製作されつゝあり、折柄の國產愛用思想の普及と相俟つて徐ろに國外品の侵入を防遏しつゝあるから、従つて原料方面の進展は益々有望なるものがある。斯くして日本商品の世界化は、それ等の業界に於いても着々實現されつゝあるわけである。

内地の狀況

繰つて内地の現状を見るに、八年度とは大差なきが如きも、九年度は農作方面に於いて極端なる氣候不順に襲はれ、且つ關西大風水害等の天災に禍ひされたる爲め、地方的には相當の苦境に悩まされた憾みもあつたが、商況に於いては必ずしも過大なる損失は無かつたやうである。概して九年は、格別の消長は見受けられなかつたと言へるであらう。

流行の推移

一括して云ふと、袋物は各製造家によつて又は販賣店によつて各自の特色ともいふべきものがあり、従つて一定の推移といふものは見出し難いのが當である。従つて或る一部分のものを拉し來つてこれを流行物とすることは、動もすれば偏見に陥り易い危險を持つて居る。此の點から除外しても現在一勢力として肯けるのは、男子用品に於ける洋裝附屬用の袋物、例へば夕

フト等の如きものが、相當の關心と購買力を集めて居ることは否か難い事實で、婦人用品に於いてはハンドバックかショール、パソルの如き服飾品と同一の興味を持たれ、現に百貨店方面に於いてはその賣上の大半を占むるに至り、地方的にも生活の程度に應じて、可成り大衆的に普及されるやうになつた。これは來期の豫想としても、相當の飛躍性を持つものと觀測される形状、色彩、工程による傾向としては、前述の如く主流とすべきものは稀薄であるが、多年の研究により、原料方面に於いては殆ど自由自在に色調なり、加工なりを施し得るやうになつて居るから、此の點流行界の現狀に適應し得る可能性を多分に持つて居ることは、非常に心強いことと云はなければならぬ。消費方面に於いては、逐時趣味的に洗練されて行くやうであるが、これは狀況により一概には云へないと思ふ。これは寧ろ製作者側の啓蒙によらねばならぬものであらう。わが袋物組合に於いては昭和十年に迎へる二十五年紀念事業として種々の畫策もあり、従つて九年はその準備期間として洋々たる活氣に満ちて居る。十月十九日より第四回品評會を開催、二十日には組合員の嚴密なる審査が行はれた。組合員の鑑識眼の向上と優良商品の製出に貢献したものと信ずる。従つて今後此の種の催しは益々斯界に確乎たる地位を築き得ることであらう。(東京蠶物煙草具製造販賣同業組合組長 村山善兵衛氏)

平穩な鬚形界

鬚形界に於ける昭和九年の消長は、前年度に引續いて、極めて平穩であつたと云へる。蓋し鬚形の如き需要の略々一定せる商品にあつては、化粧品界に見られるが如き花々しい一年間の消長をこれに求むることの出来ないのは、寧ろ當然であると云へやう。

昭和九年度の鬚形の生産額については、目下東京鬚

形業組合が、その組合生産額を調査中で、未だ確定數を得るには至らないが、東京だけに於ける産額は、大約年四十萬個内外。金額にして約六萬三千圓である。これに次いで、大阪の約半額、名古屋の八分見當の産出があるが、大阪、名古屋の製品と雖も、東京製なることを標榜しなければ賣れ惜いと云ふやうな販賣界の實情にあり、鬚形界に於いては、東京品が壓倒的な聲價を維持してゐるものと云へやう。

鬚形の形状等に關しては特にこの年の特徴と云ふべき著しい變化は見られなかつたが、各店によりそれぞれ獨特の形を有ち、各需要にとつては、一度しつくり自分の頭髮に合ふ鬚形が手に入ると、その店の鬚形以外のものでは髪が結へぬといふやうな根強い執着を持たれるものであるために、在來の有名品はいづれも動かぬ需要を持つて、新製品の進出を許さざる處に、この商品獨特の性質が知られるのである。

この愛用者の鬚形への愛着は極めて微妙なものであり、鬚形の外觀とか、形とかを超越して、これを製造する職人の腕の微妙な相違にかゝつてゐるものと云ふことが出來やう。この相違は各人の書く文字がそれぞれ異なるが如く、その書風が師から弟子に傳はる如く、職人の間にも自から傳はつてゆくもので、各鬚形業者はそれ／＼専門の職人を置いて、これに製造せしめてゐるのである。

鬚形の製造は、紺土佐紙で綿を包むのであるが、紺土佐紙にも、本紺紙(本土佐)と新紺紙の二種類がある。前者は土佐紙を藍瓶の中にそのまま漬けて染めたるものであり、後者は刷毛染にしたもので、値段も後者は前者の半額である。東京ではこの二種類を略々同額づゝ生産してゐるが、大阪、名古屋に於いて作られてゐるものは殆ど新紺紙製のものである。曾つて京橋にあつた佐渡屋商店の鬚形佐渡屋型は鬚形の代表的なものとして知られてゐたが、その後、同店が郊外大井町へ移轉した後も、佐渡屋型の鬚形を愛用してゐる

婦人達は、わざ／＼そこまて一つの鬚形を買ひに出かけてゆくといふ風であつた。かく、鬚形はその愛用者に對して、他の商品には見られざる密接な關係を有するものであるから、日本髪の減少に伴つて幾分の變化は示しつゝあるとは云ふものゝ、常に安定せる需要を持ち、日本髪とともに永續性ある將來を持つてゐるものと言へるであらう。(東京鬚形業組合長小山平藏氏談)

セルロイドの趨勢

わが國に於けるセルロイド生地地の産額は

昭和七年度	六、六〇〇千疋	二、三〇〇千圓
昭和八年度	八、九五〇	二、七八〇

以上の如くにして八年度はその前年よりも、數量に於いて三割五分、金額に於いて五割八分の増進を示して居る。次に昭和九年度上半期の成績を検するに、八年度に比すれば數量に於いて更に二割八分、金額に於いて二割三分の伸展を見る。之れを以てすれば

昭和九年度	一、一〇〇萬疋	三、〇〇〇千圓
-------	---------	---------

以上の如く推算し得るのであつて、その躍進たるや、實に目覺しきものと言はなければならぬ。更らに昭和八年度に於ける世界のセルロイド産額を列擧すれば

日本	八、九五〇千疋
日逸	六、〇〇〇
獨逸	五、四〇〇
米國	二、〇〇〇
佛國	一、八〇〇
英國	一、五〇〇
その他	二五、七一〇

わが國は實に歐米諸國を凌駕して優にその第一位を占め、全産額の三割五分を持つて悠々その王座に據つて居ることが判るであらう。随つてわが國に於けるセルロイドの輸出——生地及加工品——に就いて見るに

昭和六年 四、七八〇千圓

化粧品原料界

昭和七年 八、〇〇〇
 昭和八年 一一、五五〇

八年度は前年よりも五割七分の増加を示し居り、更に九年度上半期の成績は八年度に比しては三割七分を増加して居る。實に驚異的の飛躍と言ふ可きである。之れを種類毎に細別、比較すれば如左。

輸出類別	昭和八年	昭和七年
生地	二、四四〇	一、二五〇
櫛環	三、四四〇	一、八五〇
腕止	八四〇	五三〇
髮子	一三〇	九〇
刷柄	八七〇	七三〇
玩具	三、二〇〇	二、五七〇
その他	一、六〇〇	一、一〇〇
計	三、五五〇	二、〇〇〇

是れを見るに、種別毎にそれ〴〵活潑なる跳躍振りを示して居ることが知られる。然るに種別としては右の外に、セルロイド製歯刷子を追加す可きものであるから、八年度に於いては約二九五萬圓を加算す可く、結局輸出總額合計一、五五〇萬圓を計上す可きものであるから、是れに由つて昭和九年度は二、一〇〇萬圓と推算す可きであらう。而して之れが輸出先は英、米、印度、濠洲、支那を初め、南米、阿弗利加、東亞、南洋の各國に及び、眞に世界到らざるなきの發展を示して居る。内地向き製品に就いては近時暫らく好潮に乗せざるも、玩具、頭飾裝身具、文具、容器等にはセルロイドとして依然動かし難き根基を保持し居り、雜貨方面に於いては近年益々その利用の途を擴大するのみにしてその伸展停止する所無きを見るに至つた。今や業界此の盛況に會するの時、個々その業に携はるるものに就いて顧みるに、眞に共存共榮の利に浴するの途拓けず、自他協調の徳に潤ふもの尠きを嘆ぜざるを得ない。——われ等斯の業に生くるもの、自らその重責を識つて然かも非才微力の到らざるを恥づるのみである。(東京セルロイド組合組長・荻村龜太郎氏)

昭和九年度の化粧品界が多事多端を極めたことは、最近にその例を見ない程であつたが、またこれを化粧品原料界から見れば、各本舗工場技術部の著しい進歩、充實によつて、原料の研究はいよ〴〵發展の途を辿り、稀れに見るの活氣を示した。従つてその影響により、化粧品原料界は大なる刺激を與へられ、進んで新しい研究に努力と犠牲を拂ひ、本舗工場技術部と原料商の協力が相俟つて非常な發展を示すに至つた。

今日、化粧品原料としては、わが國産品は舶來品に比して、その品質に於いて毫も劣らぬものが續々と造られ、これを原料とせる各本舗の製品も優に舶來品を凌駕するの優秀品が少くない。従來化粧品ひいては化粧品原料といへば、舶來品の方が無條件に優秀なるかの如く考へてゐる者が少くないが、これは甚だしい謬見であり、他の化學工業に於いて歐米諸國を完全に壓倒しつゝあるわが國が、化粧品原料の方面に於いてのみ獨り劣つてゐるといふ理由は全くないのである。現在では舶來品の優秀なる點については全く學び盡され、今やこれを一步抜んでゐるのである。わが國に於ける原料供給會社でも外國の原料の研究については絶えず研究を怠らず化粧品の先進國たる佛蘭西、米國、獨逸については常に注意が拂はれてゐる。例へばライスパウダー(アマンドン)について云へば、これは佛蘭西獨特の製品として、わが國では輸入を仰がなくては得られぬものとされてゐたが、一原料會社に於いて五六年前より研究の結果、佛蘭西品と同じものがわが國でも出来るやうになり、昭和十年の原料界に朗らかな話題を變へてゐる。このライスパウダーはその名稱からもすぐ判るやうに、米を原料とするものであるから、世界第一の米産國たる日本が、従來佛蘭西から輸入し

てゐたといふことだけでも甚だ不見識なことであつたが、今後は逆に豊富なる米を原料として、アマンドンの輸出が行はれるに至るのではないかと想像される。

また最近では、獨逸、佛蘭西に於いて新原料として使用されつゝあるコロイタルカウルがある。これは高價なもので、なか〴〵手が出ないとされてゐたものであるが、南米ブラジルを原産地とするもので、これも近く市場に表はれやうとしてゐる。更らにキタニウムについては、粉白粉、煉白粉、クリーム原料として今日缺くべからざるものとなつてゐるチタンも、最近では鹼化しないエマルジョンが發明され、大なる進歩を示してゐる。

その他、高價なるために餘り用ひられてゐないものに、ベルデ博士のノレミゾール・パルミゾール等があるが、かゝる高價な原料を使つてゐる處も業界に二軒ある。この一例によつてもわが化粧品界の程度は自から窺はれやう。

化粧品原料としてこの外に重要なものと云つては色素があるが、色素は製品別にして五十種、段に於いて約一萬五六千が研究されてゐる。従來は色素と云へば殆んど佛蘭西からの輸入に限られてゐるが、わが國の研究もいよ〴〵進み、輸入を全く防遏し得るの日も遠くはあるまいと思はれる。色素の需要を原料より考察すれば、肌色系が七分、白色系が三分であり、白粉の需要もこれから推測できるのである。

國産化粧品原料の海外進出は現在どの程度にまで行はれてゐるかと言へば、まづ第一位を占めるのはタルクで、その産地は滿洲國、ネバリある特徴は斷然他國産品を壓倒するものであるがその輸出は、本場の佛蘭西だけでも三百噸送られてゐる。タルクにも各社のものがあるが、三菱のびふんタルクは最も有名である。タルクに次いで、亜鉛華でこれも佛蘭西へ百五十噸送られてゐるが、化粧品原料の輸出は、その製品の進化したもに今後、いよ〴〵増加してゆくものと思はれる。

新製品一覽

化粧小間物

昭和九年中に於いて各本舗より業界市場に送られたる新製。品調査は東京大阪兩商報に發表されたものみに限る。尙發賣月日の詳かならざるものは、最初商報に發表されたる月を以てその發賣月日としたものもある。本舗名五十音順。

品名	發賣月日	本舗店名
明光しあげ白朮	三十一	秋月三日月堂
海國石鹼	十	淺井石鹼店
ウヅマキ印靴クリーム	八月	天野源七商店雜貨卸
アローチツク	六月	アロー化學研究所
千番シスター石鹼	八月	栗津石鹼製造所
原料香水オリヂナル	四月	安藤井筒堂
メヌマボマード	二月	井田京榮堂
井筒ボマード	三月	井筒屋香油店
御園固煉白粉	九月	伊東胡蝶園
イヌズバンド	三月	岩谷商會
マーセラードオイル	四月	ウエルス商會
赤函ナルビークリーム	十一月	榮光社化學研究所化粧品部
エ・ピアンミール	六月	エ・ピアン化粧品株式會社
小形アルボース石鹼	七月	扇橋製藥株式會社
クラシコ煉白粉	十一月	太田榮次郎商店
ボンシコロイドミルク	二月	岡本信太郎商店
ボンシコロイドレモン	四月	岡本信太郎商店
ボンシコロイド	九月	岡本信太郎商店
美容素化粧水	三月	小川潮華園
纒染ボマード	三月	小川潮華園
ラプミー石鹼	七月	奥住商店
ラプミー雪肌クリーム	八月	奥住商店
ラプミー水白粉	十一月	同
ラプミー粉白粉	十一月	同
ラプミー粉白粉	十一月	同
ラプミー粉白粉	十一月	同
ラプミーコールドボンナ	三月	同
ビーゾ	十一月	花王石鹼長瀬商會
花王パート	十一月	同
花王パート	十一月	同
カガシバニシシグクリーム	五月	カガシ化粧品本舗

商 品 商 店

地方出張員一覽

一、六大都市に於ける業界の各本舗、問屋より各地に派遣され及びその氏名を各店別によつて示したものである。
 一、配列の順序は店名の五十音別によるを以て原則としけれども、店名のみにては通り憎きもの、若くは同店名の場合、何れもその本舗名を以て現はすことにした。例へば小林商店のライオン本舗、山岸商店の千代田香油本舗の如き、即ち是れである。
 一、各店よりの報告中には、擔當地方別の外に、部長、主任等の職名を附せられたる向もあるも、統一上省略することにした。

東京市

- 淺井石鹼店
 東北・兩羽
 甲・信・越
 市
 鐵道
 官廳・會社・デパート
 市内
 天野源七商店
- 荻原 勝治
 田中 淺吉
 佐藤昌次郎
 香取靜之助
 矢口佐太郎
 中村 武雄

- へチマ化粧品部
 房總・東海道
 北海道
 奥羽線・北陸
 東北本線
 宮城・福島・新潟
 市内
- 安藤井筒堂
 關西
 關東
 中京
 兩毛
 甲信越
 奥羽
 北海道
 横濱神奈川
 大阪・名古屋
 横濱
 兩毛
 東海道
 常磐
- 井上小四郎商店
 井上 捨吉
 米山 清人
 熊阪初太郎
 高橋 利雄
 武田 勝丸
- 井上太兵衛商店
 黒須一太郎
 神風 靈次
 豊田 勝康
 石川 竹三
- 井筒屋香油店
 西井 義弘
 鈴木 清
- 磯野化學研究所
 磯野 孝雄
- 岩谷商會
 小管 定
 吉本 定
- ウテナ化粧品本舗
 北海道
 中國筋
 東海道
 滿洲
 甲信越
 東北
 朝鮮
 九州
 近畿
 四國
 近畿
 東京市内
- 伊東胡蝶園
 東海道・北陸
 北海道・東北・甲信
 兩毛・常磐・羽越
 近畿・臺灣・九州
 大阪・四國・山陰
 中國・朝鮮
- 稻垣國産店
 名・京・阪
 同
 北海道
 關東
 關西
 同
- 江ノ部宗一商店
 關西
 同
 東北
 關西・九州
- 岡本信太郎商店
 三瓶 範
 奥野 博司
 飯田 文吉
- 荻村龜太郎商店
 北川虎次郎
- 岩谷商會
 水野 彰助
- 加納 政助
 館 清助
 横井 庸助
 渡邊 與助
 家田 繁助
 水野 彰助
- 岩谷商會
 小管 定
 吉本 定
- ウテナ化粧品本舗
 渡邊 茂幸
 山川 益司
 矢田 廣仲
 前田 兵造
 飛田 昇
 金崎俊一郎
 李 愚鼎
 島田 俊雄
 森 俊郎
 沖野忠次郎
 松永 益夫
 福田 末信
 岩下孝太郎
- 伊東胡蝶園
 澁谷由五郎
 廣瀬 一九
 笹山庄太郎
 福井 瓶二
 峰本 許一
 藤島 庄作
- 稻垣國産店
 加納 政助
 館 清助
 横井 庸助
 渡邊 與助
 家田 繁助
 水野 彰助
- 江ノ部宗一商店
 小川 力三
 河部 盛三
- 岡本信太郎商店
 三瓶 範
 奥野 博司
 飯田 文吉
- 荻村龜太郎商店
 北川虎次郎

業界
第一品

原料
香水
オリヂナル

オリヂナル化粧品

安福石鱧



本 舖

安藤井筒堂 株式會社

東京市日本橋區水天前

東京誠舍石鹼製造所

創業明治二十五年

各種化粧石鹼製造

型狀・包裝其他共
貴需に應じ申候



東京市本所區綠町三丁目

ヤパパ

薬用クリーム



ソバカス・シミ・ニキビ・日焼け取り

パパン酵素應用
皮膚細胞發育促進

薬用クリーム



一號
壹圓參拾錢
定價
二號強度
壹圓八拾錢

京東 店商田杉 舖本

○ミツワ石鹼

其の他

ミツワ煉石鹼
 ミツワ水石鹼
 トモエ石鹼
 ミツワフレーク石鹼
 ミツワマルセル石鹼
 ミツワスノー石鹼
 ミツワシャンプー
 実用石鹼
 浮石鹼

サ ー ワ 白 粉

サ
ー
ワ
固
煉
白
粉

サ
ー
ワ
煉
白
粉

サ
ー
ワ
水
白
粉

サ
ー
ワ
リ
ム
白
粉

サ
ー
ワ
ク
リ
ム
白
粉

サ
ー
ワ
固
形
白
粉

サ
ー
ワ
下
粉

サ
ー
ワ
化
粧
水

サ
ー
ワ
コ
ー
ル
ド
ク
リ
ム

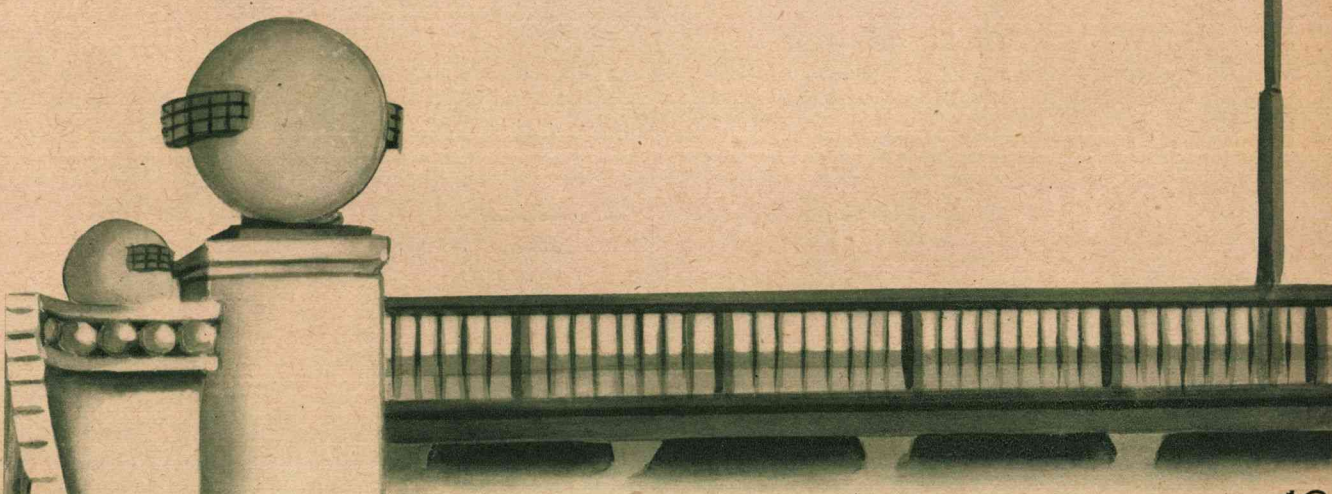
サ
ー
ワ
ウ
ア
ニ
シ
ン
ダ
ク
リ
ム

サ
ー
ワ
口
紅

サ
ー
ワ
頬
紅

サ
ー
ワ
眉
打
粉

サ
ー
ワ
墨
粉



○ミツワ家庭薬

ミワワ制酸錠
ミツワ鼻病液
ミツワ解熱錠
外 三十六方

○ミツワ肝油ドロップス

其他

濃厚肝油

ビタミン肝油球

各種洋酒及び

○ミツワ規那鐵葡萄酒

○ミツワ人參葡萄酒

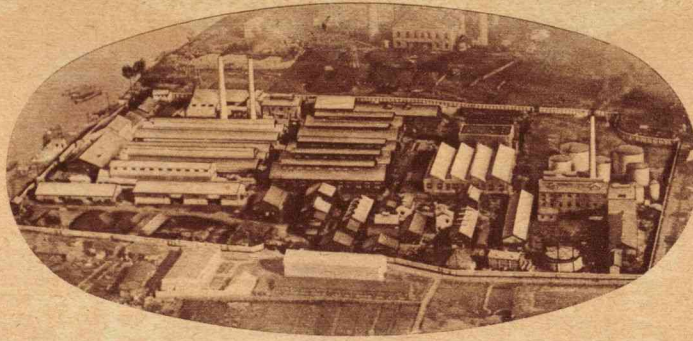


東京・兩國

藥劑、滋養品、石鹼
化粧品、小物問屋

○丸見屋商店

電話代表 浪花二二二二—七
振替口座東京七二〇、電略〇ミヤ



旭電化工業株式會社

本社 東京市丸ノ内三丁目十番地
出張所 大阪市西區土佐堀一丁目大同ビル
名古屋市中區西川端町一丁目

製 品

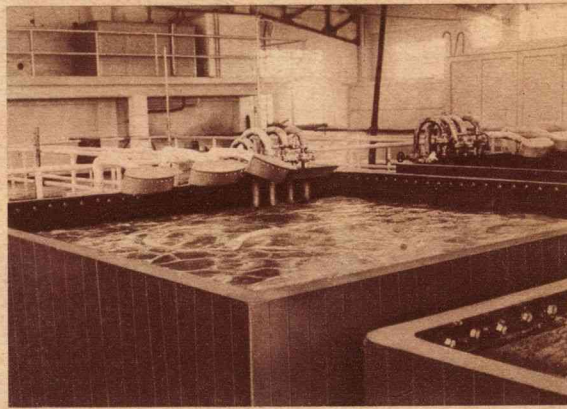
- 苛性曹達
- 晒粉
- パークロリン
- 合成鹽酸
- 硬ステロ油
- 旭ステロ
- 硬ステロ
- グリセリン
- リス印
- 純良人造バター
- コスモス印
- 純良人造バター
- アデカ洗石鹼
- ノーブル化粧石鹼
- 金春化粧石鹼
- アデカ粉末石鹼
- アデカ浮石鹼
- アデカマルセル石鹼

合資會社

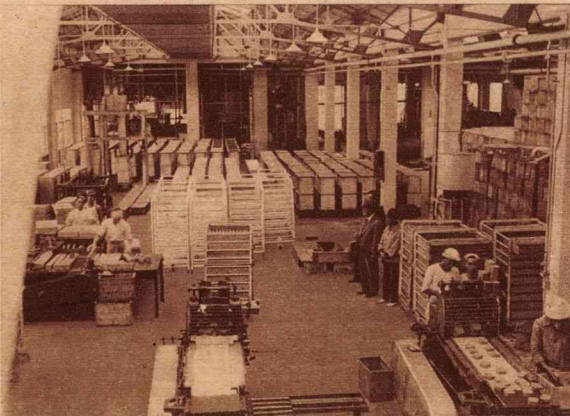
旭光舎

アデカ洗石鹼大東京一圓發賣元

東京市下谷區仲御徒町二の三六
電話 下谷 六六九二番



鹼 化 釜



仕 上 場 (其二)

右方打型ノ實況
左方裁斷ガ方右
スマリア



仕 上 場 (其一)

充分石鹼ニ上仕ラゲモタラガノ中ノ
入テ固モタツチノ裁斷機ニカマ

自然に毛髪を黒くする 新發明

スミゾメ

墨染ポマード

一圓

特 殊 製 品

純良無比 やゝ波石鱈

高級無害 赤らが 赤毛染 王冠

一個萬能クリーム

ブリリアント

一色で絹、毛、綿、麻兼用

純家庭染料 月桂冠

三二十
十十
〇〇〇

五三
十十
〇〇

四七五
十十
〇〇〇



REGISTERED TRADE MARK

Sumizome
POMADE

發賣本舖 小川潮華園

東京東區本橋二丁目
電話八〇七番
一〇一〇番
三〇二番

創製明治二十六年



HECHIMA
COLOGNE



1935年
も
倍舊の御愛顧によつて

本
源野天

本日市京東

あなた
貴下の商戦の第一陣に、是非華々しく
立たせて頂き度いと存じます。

……ヘチマコロン・ヘチマクリーム……

HECHIMA CREAM



舗
店商七
町山横區橋

洗ひ榮えのする

ライオン洗滌石鹼



姉妹品

眞つ白で臭ひの無い

專賣特許
三ツクニ粉石鹼

ライオン石鹼株式會社

洗滌石鹼
石鹼洗

藥用洗粉の先驅者 **モンココ** !

追従者は結局右に出ざるものなし



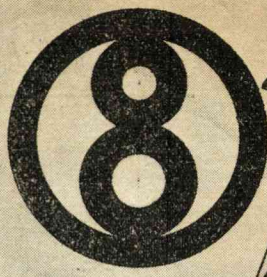
美白作用があつてシミ・ソバカスが治り
 淨化作用があつてニキビ・吹出物が治り
 皮膚の營養素を含んでゐてキメ細かにす
 一步進んだ全く藥用らしい科學的洗粉!

藥用 **モンココ** 洗粉

株式会社 **モココ洗粉** 鋪本

一〇〇〇
 五八五三
 五〇〇五

洗濯用
固形



MIHANA
SOAP
POWDER

固形
粉末

SOAP

創業紀元 拾年
SOAP

固形
粉末



SOAP

取引は
正直な
店から

東京市神田区三崎町二丁目

山口豊永堂
電話九段三三〇番

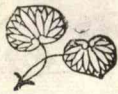


純植物性 椿ねり

二葉ポマード

姉妹品

- 二葉 椿
- 二葉 艶出し油
- 二葉 葵ベールラム
- 二葉 實用ポマード



葵香南店

東京市牛込區市ヶ谷田町一
電話牛込五九一八番
振替東京八一四五七番



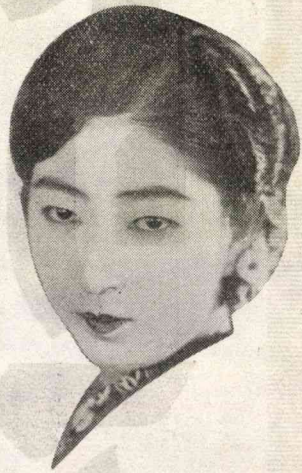
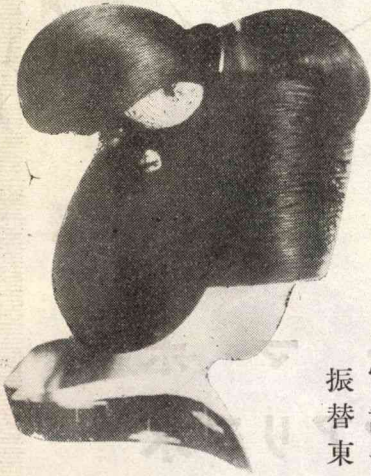


標商錄登



月星印ゴム櫛本舗
婦人小間物問屋

現金勉強主義



飛川商店

東京市日本橋區横山町
電話浪花二五六五番
振替東京七一七一二番

みず眉粉院里巴

ド
ー
マ
ポ
ン
チ
ン
ア
リ
ブ
水

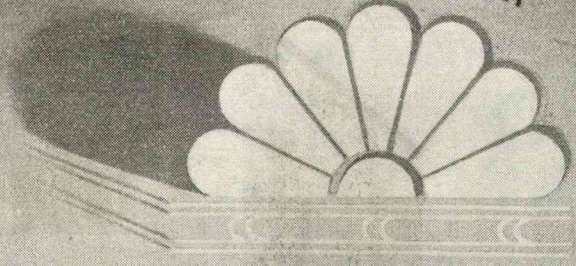


ド　ー　マ　ポ
ン　チ　ン　ア　リ　ブ　水

紅　　　　ほ
紅　　　　口

院　里　巴　・　京　東　舗　本

TRADE MARK



陸軍御用品

忠勇ハブラシ



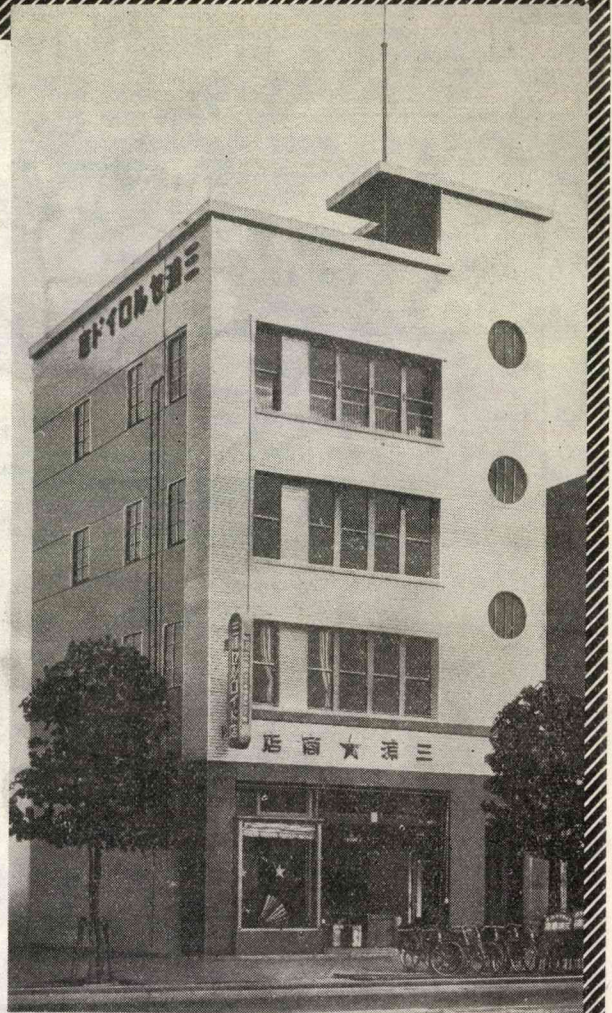
東京市日本橋區馬喰町三ノ四

井阪支店

大阪市東區南久寶寺町二ノ五三

井阪本店

大日本セルロイド株式会社特約店
セルロイド・ラクトロイド・生地・製品問屋



三浦監督商店

東京市浅草区浅草一丁目四番地
電話浅草(84) 四三二五番
振替東京 八一七三番
請地(東京市向島区) 四丁目二番
倉庫電話(74) 三五一三番

装容なソーダモ リほ香なクーシ



純植物性

ドーマポの鶴



京東 堂高芳原高 舗本

！すでドーマポいより喜く全

勉 強 の

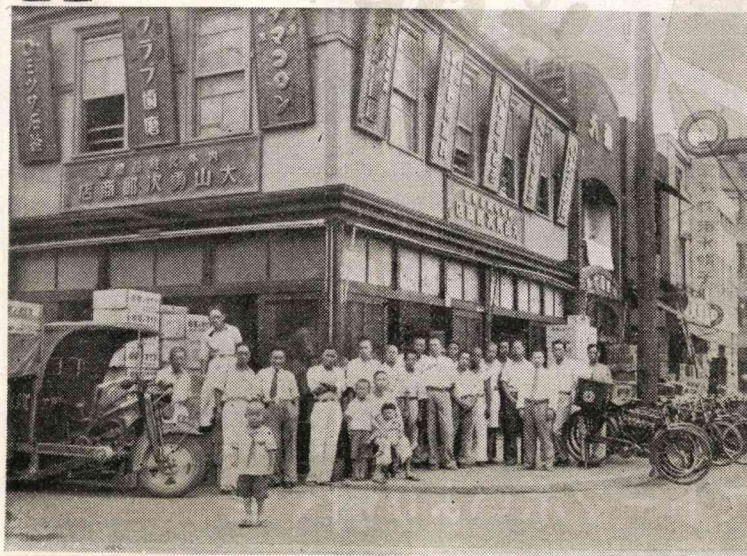
化粧品・石鹼

問 屋

大 山 勇 次 郎 商 店

日 本 橋 ・ 橘 町 ・ 五 番 地

電 話 浪 花 (67) 二 三 五 五 番



近代女性の禮讚

ドンラビ化粧料

ドン白粉

本舗

會社

磯野化學研究所

東京市小石川區西原町一丁目

電話 大塚(86)三一一九番

振替口座東京三三六七八番



ムーリクドルーコンソラ

○ 十 五



本舗

東京・丸ビル五九

クレオ研究所

電話丸ノ内(23)二八八二番
四九八四番

ムーリクンモレ性乾

○五十三・○十五・○十七

的表代國各米歐

品糖化

料原

米國製	アベネンシ	佛國製	佛國製	諸威	合同舶來	香水用	ヨロシ用	波新	三和特選	日清製油	米國製	英國製	米國製	英國製	合同油脂	三和特製	合同油脂
コーンスターチ	微粉タルク	トイレットパウダー	アミドンズリー	二酸化チタニウム	ヂンクステアレート	無臭アルコール	徳用アルコール	トラカントガム	白蠟	ヒマシ油	ペトロラタム	スパーマセチ	ビスワツクス	流動パラフィン	グリセリン	苛性カリ	ステアリン酸

門專料原品粧化

店商壽宇以和三

十地番一日丁二橋京區橋京市京東
番七六四三・番〇五三三(56)橋京話電
番四七一三三京東座口替振

目 品 業 營



御販賣にも 御使用にも

大賣出しや 特賣の景品にも...品質優良、良く賣れる

正清 御小楊枝を!



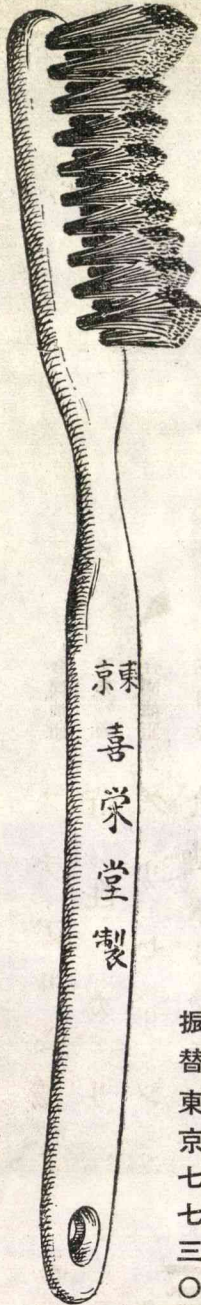
- | | | | | |
|-----------|---------------------|---------------|-----------------|-------------|
| 歯 刷 子 各 種 | セ ル ロ イ ド 製 各 種 入 物 | ク リ ー ム | ホ マ ー ド | 化 粧 バ ケ |
| パ フ 各 種 | マ ユ ズ ミ | ホ ー ー | 紅 紅 | 化 粧 石 鹼 |
| 鏡 類 | 妻 楊 枝 類 | 歯 刷 子 入 ケ ー ス | セ ル 刷 子 入 サ ッ ク | 男 子 用 櫛 |
| 婦 人 用 櫛 | | | | 安 全 剃 刀 替 刃 |
| | | | | 有 名 齒 磨 類 |

齒刷子雜貨の御仕入は!!

東京市浅草區森下町三番地

大勉強 良品豊富の 寺内喜栄堂へ

電話浅草(84)四七三四番
振替東京七三〇四番





植
物
性
小
柳
ス
マ
ー
ト

サラリとした
洗髪後の
清快さ

シ
ヤ
ン
髪
洗
粉

町網小區橋本市京東
店商吉佐柳
番一四九町場茅話電
番九四九田墨場工戸龜

香料

香料輸出入業

高級配合香料

國産果物香料



佛國デロン香料會社關東代理店

東京市日本橋區本町四丁目

長谷川藤太郎商店

電話日本橋(24)三四八三番

振替東京 五一三八番



理容館高級化粧品

東京銀座
理容館

遠藤波津子女史創製

最高の品質
絶大の信用
!!



代表的化粧品

- ライラツク化粧水
- ライラツククリーム
- 理容水白粉
- 理容粉白粉
- 理容固煉白粉
- 理容レモンクリーム
- オレンヂカラー理容水白粉
- 理容ハイジエニツククリーム

其他

頬紅、口紅、艶出油、特殊化粧水
香水、石鹼等各種取揃へあり

純植物性

ヤエツバキ

高級ポマードの

大衆化

質……純良

匂……絶秀

装……斬新

量……豊富



ケイトウヤ
本舗 粉洗髮シライケ
油香棒重八

三友商會

東京市深川區大橋三ノ七ノ四
電話本所(73)八六八番
東京市深川區大橋三ノ七ノ四
電話本所(73)八六八番

¥40



SHINE

シャイン
化粧品

シャイン 棒紅
シャイン 煉紅
シャイン 頬紅
シャイン 眉墨

東京市本所區東兩國四ノ二・石塚福治商店・電話本所(73)六四八一番

香料 並に 化粧品原料



香料及一般輸出入業

早川市太郎商店

東京市淺草區淺草橋三丁目一番地
電話淺草(84)四〇三二・五三六三・五六九三

大日本政府登録商標

REGISTERED TRADE MARK



FROG BRAND

FROG REFINING CO., LTD., LONDON

世界に於ける最も古き歴史を有する

最高級

カイロ印

ホワイトオイル

薬用 (薬局方適合品)

化粧用 毛髪由クリーム其他

本品の特長

無臭・無色・透明

濃度高ク・凝固點低シ

以上の條件を完全に保有するが故に何卒御愛用を乞ふ

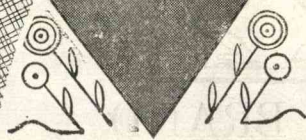
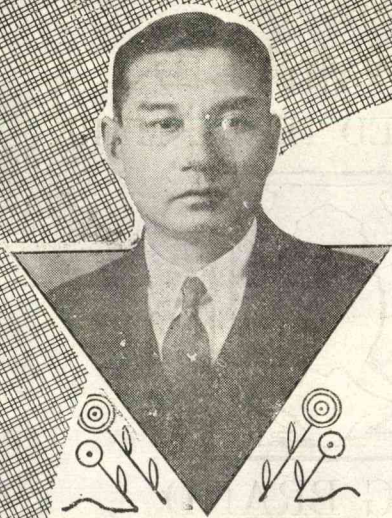
見本御申越次第進呈

英國フロッグ レファイニング コンパニー

御註文は全國有名油問屋及化粧品原料商へ

近代人の
御洗髮料

タマゴシャンプー

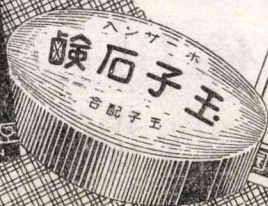


長社台河

タマゴシャンプー
玉子粉石鹸
玉子化粧石鹸
玉子洗髮粉
玉子かみあらい

園香美社會資合

目丁三町針小區中市屋古名
番六九六二番八七五局南話電
五九町塀練區谷下市京東
番三五〇五下話電
一口ノ西江潮村田小外市阪大





專 門

最新型
コンパクト

近代型
棒

寒
製
小

ルーズ
パケット

リップ
ステック

町
紅
製造本舗

化粧用・醫科用・食料用



代	ホ	發	オ	各	化	化	ほ
ツ	リ	種	種	種	粧	粧	、
ピ	ン	化	化	化	粧	粧	紅
ー	ビ	粧	粧	粧	用	用	眉
コ	ヤ	用	用	用	海	海	バ
ン	化	粧	粧	粧	維	維	フ
パ	粧	貨	貨	貨	綿	綿	墨
ク	元	料	料	料			
店	ト						

店商衛兵作田根羽 

番六一〇二田墨話電 三二一ノ二町島寺區島向市京東 部造製紅
 番五七五八六京東替振
 番三〇四一田墨話電 六〇一ノ二町島寺區島向市京東 部卸貨雜

專賣特許
の齒磨

半煉の仁丹

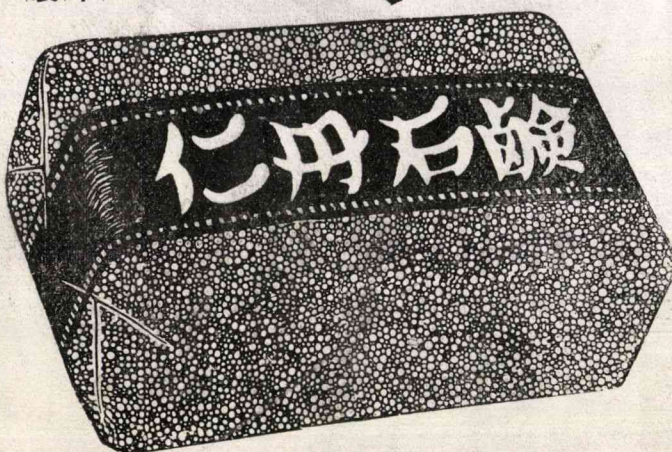


最上の石鹼を
最廉の大衆化

石鹼の最高標準
パームオイル製

新らしい科學と實驗から生れ
新時代の感覺と好尚に合致せる
劃期的齒磨として

好評噴々



一罐五十日
正價二十錢



齒磨は仁丹の時代
仁丹^{粉と}煉齒磨

仁丹粉と齒磨

出品の

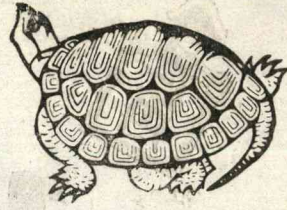
嬢子美内坪ータス竹松



斷然！

齒磨界の寵兒

品質に於て
效果に於て
價格に於て
賣行に於て



他品の三倍もつ

亀の子束子

束子界の標準品！

創業以來二十六年

品質と聲價と相俟つて

最もお扱ひよき束子

尙御値段本位の格安品も種々有
之候へば御照會賜り度く願上候

平素の御取引店へ御用命の程願上候

子束子の龜號一



子束子の龜號三



亀の子束子 本舗

西尾正左衛門商店

東京市瀧野川區瀧野川町一八四五
電話大塚(86)六一〇一番六一〇二番

中山太陽堂

北海道クラブ特製美身クリーム八月一日より左の如く値段改正

名	種	類	打卸値段
クラブ美身クリーム	大	瓶	七・五〇
同	中	瓶	三・〇〇
同	小	瓶	三・〇〇
同	新	中	二・五〇

中山太陽堂

滿鮮クラブ美身クリーム八月一日より左の如く値段改正

名	種	類	打卸値段
クラブ美身クリーム	特	中	二・二〇

山岸商店

チユーブ入千代田ボマード九月十五日より左の如く改正

名	種	類	打卸値段
チユーブ入千代田ボマード	三	五〇	三・五〇

岡本信太郎商店

コテイー化粧品爲替下落のため、十月二十日より左の如く改正

名	種	類	小賣定價
コテイー粉	小	(No. 089)	一・八〇
同	大	(No. 080)	二・九〇
コテイーコンバクト		(No. 083)	三・六〇
同		(No. 087)	一・八〇
コテイークリーム		(No. 027)	三・九〇
コテイー口紅	小	(No. 079)	二・〇〇
コテイー口紅	角	(No. 080)	二・四〇
コテイー水白粉		(No. 012)	三・六〇
コテイー煉アクリン		(No. 030)	三・六〇
コテイー香水			七・二〇より

藤村一誠堂

古代アヅキ洗粉の卸買歩引一般諸材料の高騰のため十一月より變更。

大和護謨製作所大阪出張所新設。大阪市東區北久太郎町一〇三七、上海出張所移轉、上海四川路一二六街二一號。

十二月

花王石鹼本舖長瀬商會新社員採用試験。一月二日

カガシ化粧品本舖神戸出張所移轉、神戸市神戸區榮町三の三八の一。

忠勇商アラス本舖井阪東京支店開店。十五日

福井縣武生町麻生商店麻生已作氏所有の登録商標ビシシクラブを中山太陽堂へ無償譲渡。二十日

一月

菊地長五郎氏
前島民藏氏、玉之肌石鹼本舖圓滿退店。淺草區に石鹼化粧品卸商菊島商店を共同開業。

二月

クラブ化粧品本舖中山太陽堂より昭和九年度に於ける營業方針の宣言發表。一日

大阪山縣石鹼製造所、山縣石鹼株式會社に名義變更。一日

大阪奥山石鹼製造所硬化油工場完成。

名古屋市渡邊儀一商店移轉。六日

花王石鹼本舖長瀬商會副社長山崎高晴氏就任披露會。

御園本舖伊東胡蝶園東寶劇場へ綴帳寄贈。

宮島精之助氏、宮本庄七商店大阪支店退店、大阪に頭飾品、裝身具、雜貨製造卸賣を開業。

窪田靜氏、大阪牛乳石鹼本舖取締役、同社を退社、石鹼製造卸賣を大阪に開業。十日

龜山虎之助氏、前朝日堂クラブ商事支配人、西區北堀江通一丁目に、化粧品卸業龜山甲山堂開業。十日

ナルビー化粧品中京發賣元中東商店に決定。

山上義藏商店、近利商店より獨立、一般雜貨卸商開業。二十日

三月

木村榮男氏、久留米市山口市商店を退店、大分市に小間物卸商開業。一日

香科商小川商店創立開業。十日

ウテナ本舖久保政吉商店全國新擴張方針決定。二十六日

堺化學工業株式會社新社工場、岡山縣兒島郡に新設。

ライオン石鹼静岡配給所新設。

ラブミー本舖奥住商店大阪出張所閉鎖。

レイト本舖平尾贊平商店新社員募集。

磯上佐太郎氏、京都桑武商店同店の營業一切を繼承。

友松武雄氏、大分市化粧品問屋辰巳屋を退店、延岡市に獨立開業。

三月

門司吉井號株式會社新築起工。二日

中山太陽堂、東寶劇場へ綴帳寄贈。

柳下藤五郎氏經營さくら石鹼製造所失火半燒。六日

宮本庄七商店婦人洋裝服飾品フアツシヨシヨ。七月九日

依田忠商店、依田新商店翡翠珊瑚試賣會。十日

マスター本舖尙美堂蒲田梅屋敷新工場地鎮祭。十二日

ゲンブ粉石鹼本舖第一工業製藥株式會社増資斷行、小野茂平氏新社長に就任。十七日

堺化學工業株式會社、堺市役所建設費に一萬圓寄附。

クラブ化粧品第一販賣株式會社仙臺出張所開設。

マスター本舖大阪に出張所設置。

コセット化粧品本舖コセットパーフューマー、神田區佐久間河岸八三に移轉。

千代田本舖山岸商店、少年團案家を募集。

商品商店

堀化學工業株式會社	田中銀次郎	堺市新在家町西五丁六〇	昭和七・四・一	工業藥品	二〇
同村香料製造所	田村眞策	堺市戎鳥五の四二		化學香料	二〇

京都

近藤染再製工場	代表者氏名	所	設立年月日	主要生産品	使用職工數
近藤工業製藥株式會社	藤田靜造	京都市元誓源寺通大宮西入	昭和四・八・四	リボン染再製	二〇
	小野茂平	滋賀縣藤毛郡鎌掛村		マルセル粉石鹼	二五

愛知

美香園	代表者氏名	所	設立年月日	主要生産品	使用職工數
	河合喜三郎	名古屋市中區小針町三の二〇	大正一二・三・三	洗濯粉石鹼化粧品製造	五〇

神奈川

成和商會	代表者氏名	所	設立年月日	主要生産品	使用職工數
	山田爲三	横濱市磯子區西根岸馬場町六	大正一〇・六・六	石鹼化粧品	五七

兵庫

カガシヤ化粧品工場	代表者氏名	所	設立年月日	主要生産品	使用職工數
高田福陽堂化粧品製造所	丸屋七郎	神戸市脇の濱二丁目八の七二	大正二・五・七	化粧品一般	一〇〇
	吉田文熊	兵庫縣武庫郡大庄村	明治四三・九・一五	石鹼・硬化油・グリセリン	二〇〇

その他

ウエルス商會	代表者氏名	所	設立年月日	主要生産品	使用職工數
カモキのハイトリ紙製造工場	二神利嚴	松山市三番町三七	昭和四・一・六	くも印化粧品	六〇〇
大日本除蟲菊製油工場	御前清十郎	岡山縣倉敷市	大正九・九・一	蠅捕紙リボン及殺蟲液	一三〇
伊藤製油	伊藤慶治郎	和歌山縣有田郡保田村	大正八・一・三	殺蟲液キン・チヨール	六〇〇
		三重縣桑名驛前		カストル油・椰子油	六〇〇

八六

會發會式舉行。二十三日
御香椿油ゴロ本舖昇英堂で
は關西總代理店として大阪、田
中清次商店を決定。

七月

クラブ本舖中山太陽堂のクラ
ブ式新高級販賣制度實施。一日
三浦督治商店、淺草區淺草橋
一丁目四の一へ新築移轉。
クラブ特定品東京販賣株式會
社設立。一日

帝恩齒刷牙本舖大阪ヤマト商
會従業員松和會創立。十五日
三勇商店新社長に小宮保三郎
氏就任。二十七日
寺西鐵一郎氏、大阪福井花香
會退社、石鹼卸商開業。

八月

喜原商事株式會社函館出張所
假營業所を函館市末廣町九一に
移轉。
エヒヤ化粧品株式會社、
神田區鍛冶町三の五へ新築移轉
四日

明光化粧品本舖大阪秋月三日
月堂東京駐在員設置。
高砂香料株式會社臺北工場建
設に着手。
合資會社境野香料店では大阪
に出張所新設、大阪市北區此花
町二の四七。

小川香料製造所工場増築完成
近づく。
井上安治郎氏、京都製薬所
を退社、石鹼製造業開業。

九月

岩谷商會社員安藤幸夫氏獨立
開業。
わかもとホマード中京代理店
水谷友吉商店及び原錦粧堂の二
店に決定。
大阪石丸石鹼工場新築落成。

合同油脂株式會社大阪工場
の擴張計畫成る。
マクリーム關西配給元二六
商會に決定。
キンシ本舗大阪出張所主任池
田謙次郎氏獨立開業。十日
中山太陽堂近畿販賣係、飯島
三郎氏同店を圓滿退社、三好梅
壽堂販賣部長に就任。

關西地方風水禍罹災者へ、業
界より贈られたる義金の中、主
なるものを擧ぐれば如左。

- 四千元 中山 太一
- 二千五百圓 小林 富次郎
- 一千圓 鹽野 義下
- 一千圓 鹽野 義商店
- 一千圓 鹽野 吉兵衛
- 一千圓 尾野 平商店
- 五百圓 桃谷 順一
- 五百圓 阪本 一郎
- 四百三十圓 ライオン石鹼株式會社
- 一千圓 第一工業製藥株式會社
- 一千圓 同社職員一同
- 一千圓 森平 兵衛
- 五百圓 中山太陽堂店員一同
- 五百圓 久保政吉商店

商 品 商 店

一千圓 上山 勸太郎
一千圓 花王長瀬商會
五百圓 長瀬 富郎
一千圓 松浦 會分店
五百圓 丹平 會分店
一千圓 小川 香料店
和光 堂

十月

花王本舗長瀬商會京城出張所
移轉。一日
京城府永樂町二の五二
澤村亞鉛工業所、本郷區追分
町七八に出張所新設。

花王本舗長瀬商會油脂工場第
二期擴張工事完成。六日
合同油脂株式會社魚油確保の
ため能美魚業會社を創立。
大阪鹽野香料株式會社神崎川
新工場落成。十八日
旭電化工業株式會社増資決定
二十日

宇野利光氏、カガシ化粧品本
舗退店、名古屋に獨立開業。
安藤井筒堂市内販賣主任町井
靜氏獨立して評判堂開店。三日
ラブミー化粧品關東販賣株式
會社設立。二日
藤村一誠堂より薬用古代アツ
キ洗粉發賣。
日本橋區兩國、近藤東京店組
織變更株式會社近藤東京店と改
稱。

十一月

小川化粧品製造所組織を變更
して、株式會社小川香料製造所
設立。

十二月

美顔本舗桃谷順天館東京支店
長として西村幸之助氏就任。一日
尙美堂より新製品マスター液
狀粉白粉、マスターホームパッ
トの二種新發賣發表。一日
田端豐香園より國產カツヒ
類紅新發賣發表。
柳屋本店改築工事落成。同記
念特賣。二日、十日

ライオン齒磨本舗小林商店見
童報國機獻納運動へ協賛發表。
マスター本舗の美容座談會萬
平ホテルに開く。六日
柳屋本店より純無鉛柳屋ばつ
ちり新發賣發表。
美顔本舗順天館販賣部長は支
配人塚本好三氏兼任と決定。
マスター化粧品關西販賣會社
重役會を開く。八日、九日
レポート本舗工場長森口信男氏
理學博士の學位を授けらる。
十三日

柳生會創立十周年記念總會甲
府望仙閣に開催、會するもの四
百五十名。五月二日
クラブ化粧品販賣價格統制
を目的とする大東京共榮クラブ
會は、日比谷公會堂に第四回有
志懇談會を開催、會衆一千名宣
言決議を決定、クラブ化粧品
の責任販賣、責任支拂、推奨販賣
をなし業界の共存共榮に邁進す
べきを議す。同十日

名古屋共榮クラブ會總會名古屋
屋商工會議所に開催。六月十日
高知縣クラブ太平洋會總會。同
月十三日
朝鮮クラブ化粧品中堅販賣店
懇親會。八月
函館アイテアル會發會式。同
十九日
全北海太平洋會第七回總會を装
劍路商工會議所に開催。出席者
二十二名。八月二十日
小樽アイテアル會、小樽市北
海ホテルに發會式舉行、會員三
十餘名出席。同二十一日
静岡縣クラブ化粧品中堅販賣
店懇親會。同二十三日
廣島縣クラブ太平洋會總會。九
月十二、三日
山口縣クラブ太平洋會總會。十
四、五日
富山石川福井三縣下クラブ販
賣店有志懇談會。九月
神奈川縣下二百數十名の有力

東伏見宮大妃殿下には昭和九
年四月二十日、愛國婦人會々長
本野久子刀自、縣大阪府知事同
夫人、内務部長同夫人、同警察
部長、大阪市各務助役夫人等を
隨へ大阪市浪速區水崎町中山太
陽堂工場へお成り遊ばされ、ク
ラブ化粧品製造工程を親しく
御視察遊ばされた。

北白川宮永久王殿下には、學
術御研究の思召を以て各工場御
視察中、十一月十九日、花王石
鹼株式會社長瀬商會吾儘町工場
に台臨遊ばされた。殿下には陸
軍砲工學校教官並びに御學友と
ともに、川上研究部長の御説明
を聞召され、社長の御先導にて
二時間に亘り、石鹼の各種製造
工程を詳しく御巡覽遊ばされ
た。

各販賣團體の一年
京濱太平洋會臨時總會開催。八
年十二月十七日
中部金鳥會第三回總會。九年一
月十九日

兩宮殿下御見學

化粧品一齊 検査の成績

化粧品取締規則が實施されてより二年
警視廳衛生部では、その實績を調査すべ
く四月十三日來、管下全警察署に命じて
化粧品の一齊検査を行つたがその結果と
して左の如く發表された。

- 一、調査業者者總數 一四一一名
- 一、調査化粧品總數 一〇五九〇點
- 一、違反者總數 三〇六名
- 一、違反化粧品總數 九八五點
- 一、化粧品規則違反の内譯

違反の事實	違反の内譯	
	營業者數	化粧品總數
無免許にて製造販賣せしもの	四名	九三
濫りに名稱を變更したるもの	五九	一三四
免許證を毀損忘失その手續を怠りたるもの	八	二三
容器又は被包に住所の氏名等の明記なきもの	一八三	五七八
免許を濫受け又は續續したるものその手續を怠りたるもの	一	一
部外品より化粧品への書替へを怠りたるもの	四二	二五六
	三	三九

列國特許實用新 案出願及び登録

最近、一九二七年乃至三一年五年間の統計により、列國の特許・實用新案出願及び登録件數を見ると、先づ出願の部では、獨が斷然頭角を抜いてその首位を占

五歳階級に區分したる年齢別人口

〔昭和五年調査〕

年齢	總數	男	女	女百に付男
0—4	9,044,000	4,468,000	4,576,000	97.64
5—9	7,741,000	3,897,000	3,844,000	101.38
10—14	6,717,060	3,415,060	3,302,000	103.42
15—19	6,272,660	3,281,660	2,991,000	109.72
20—24	5,452,180	2,810,160	2,642,020	106.36
25—29	4,822,370	2,509,330	2,313,040	108.36
30—34	4,091,990	2,148,960	1,943,030	110.60
35—39	3,541,890	1,812,870	1,729,020	104.85
40—44	3,382,230	1,738,200	1,644,030	105.73
45—49	3,103,490	1,558,470	1,545,020	100.87
50—54	2,867,080	1,438,080	1,429,000	100.64
55—59	2,293,370	1,115,370	1,178,000	94.68
60—64	1,692,520	804,520	888,000	90.60
65—69	1,265,170	586,170	679,000	86.33
70—74	888,040	371,040	517,000	71.77
75—79	541,000	223,000	318,000	70.13
80以上	351,000	117,000	234,000	50.00
總數	64,067,050	32,294,890	31,772,160	101.00

め、續いては米、そしてわが國は實に第三位に在るが、その數を列記すれば如次

獨 七〇六、四六五件
米 四三五、一八〇
日 二三七、七二三
英 一八九、三九九
佛 一一七、三五二
伊 五五、五九九
白 四六、三五九
瑞 四四、七六六
獨 四二、六一五

次に登録の部は如何？と見るに、これも依然獨がトップをきつて米がそれに

續くのであるが、俄然、こゝで佛、英がわが國を凌駕して、日本は第五位となる

皇室に關する文字 の取締使用標準

昭和五年十一月八日

皇室に關する文字の取締使用標準が今回内務省から各地方長官に通達された。

一、これまでは天覽、台覽、行幸啓、侍從御差遣、皇族御成りを賜はつたなどの文字はその事實があり、尙具體的に示して新聞雜誌その他の物品に記載の場合はこれを許されてゐたのであるが、今後は天覽台覽の文字は、宮内省御用達の文字と同様に宮内省の許可を得たものでないと使用を許されない、また行幸啓、皇族御成り、侍從御差遣などの文字は將來これを廣告などに表示することは許されない

二、獻上品、御採納品または御用命、御買上を賜はつたなどの事實を表示することは、これまでもほり皇室の尊嚴に關しない限り年月日とともに具體的にその事實を記載することは差支へないが、第三者がこれらの文字を廣告などに使用の場合には更に獻上者、御買上などを賜はつたもの、氏名を明示せねばならぬ、なほ各宮家に關する獻上、御買上げ、台覽、御成りなどの事實を廣告などで使用する場合は右に準じて取締りを受ける。

〔東京商報〕

賣薬部外品一覽

昭和九年十月一日在

東京

商 品	發 賣 元
毛 生 液	アウグストゲラー
アリス冬の化粧水	アリス商會
アリスフキトール	同
アリスヘーヤトニツク	同
アリスベルツ水	同
養毛料都みどり	青 木 喬 一
ベルツ水	赤 津 哲 四 郎
オリヂナルベールラム	安 藤 井 筒 堂
かくれ美人	同
オシドリクリーム	井 上 太 兵 衛
オシドリベールラム	同
頭髮用香水ターキー	井 筒 屋 香 油 店
カンフオレット	飯 塚 芳 次 郎 東 店
粧和カンフオイル	同
粧和スキンクリーム	同
ベトリン	同
ヂキサール液	同
スミスマ、シヤンブー	家 木 鏡 正
バンドリン	同
キンキアクリーム	同
クインスローション	同
アモンドミール	同
アクネクリーム	同
ベルツ水	同
トイレットタルカムパウダー	同

ウエクリーレモンクリームローション	家 木 鏡 正
アフタシエビンゲ	同
ベビー亜濃散	同
フケ散香水	同
ウエクリーレモンコールドクリーム	同
ウエクリーレモンパニシングクリーム	同
天國鳥クリンジングクリーム	同
天國鳥パニシングクリーム	同
天國鳥アモンドクリーム	同
天國鳥ビイリアンチン	同
天國鳥水白粉	同
芳香ベビーパウダー	石 井 源 二
芳香金エム	同
染髮料黒髮の素	石 木 商 店
グイタミン養毛トニツク	板 倉 三 藏 商 店
キクエー打粉	伊 藤 玉 三
ベルツ水月桂冠	稻 垣 一 藏
白毛染粉製	井 上 鏡 太 郎
白毛染水製	同
煙だし芳香片腦油	白 井 米 二 郎
エタセル養毛香水	エタセル化學研究所
エビアンニキビ用クリーム	エビアン化粧品本舖
エビアンミール洗粉	同
赤毛白毛染黒獅子白毛染	岡 島 新 盛 堂
ラブミーボンナ	奥 住 商 店
トツケヨクレーム	及 川 商 店
トツケヨパウダー	同
モーランクレーム	同
オリブ洗髮料	大 鹽 組 商 店

ビビアトニツク	大 木 合 名 會 社
ビビア養毛ローション	同
オーツキ毛髮液	大 槻 吉 藏
パ、インクリーム	岡 田 春 一
パ、インフッド	同
パ、ヤスキン	同
ホルマン	同
ケンモール	同
強活パ、ヤスキン	同
純植物性レヂナボマード	岡 田 忠 邦
竹園香油	同
松園香油	同
松園椿香油	同
ニユースキン	岡 本 信 太 郎 商 店
ドーヴユバスサルツ	同
スリーフラワーバスサルツ	同
ニビアエール	同
スリーフラワーバスクリスタル	同
ブレッツプ	同
ローレル化粧品	太 田 榮 治 郎 商 店
佛國ビノー會社化粧品	同
佛國ブルジョア會社化粧品	同
佛國レスケンジュー會社化粧品	同
佛國モンベラス會社化粧品	同
佛國ピオレー會社化粧品	同
佛國フオービル會社化粧品	同
英國キツスブルーフ會社化粧品	同
英國ギグス會社化粧品	同
英國カルバート會社化粧品	同

英國ライトコールドター會社化粧品	太田榮治郎商店
米國コスモス會社化粧品	同
米國コリス會社ベサー化粧品	同
米國アウトラダールケミカル會社 米國アウトラダール化粧品	同
米國オプシシタス化粧品	同
米國コヒンデイングト 米國カレメリタ化粧品	同
米國ハイソツ化粧品	同
米國バツカー化粧品	同
米國モーレー化粧品	同
コンテス	小笠原計二
染毛劑無害王冠	小川潮華園
黒染ボマード	同
レチン入ブランシルミルク	小田美穂
カトウ養毛液	加藤浪江
ペラミーエー	加野廣數計
脱毛軟毛劑バトラ	鎌田末吉
脱毛軟毛劑バトラクリーム	同
ブラストニツク	上村要作
タルカンバフ	河合仁平
スチルマンフレツクル石鹼	河田清貞
エキスページン	同
ローマンヌアルモンド入クリーム	河野化學研究所
ローマンヌコスメチツク	同
ローマンヌシエーピングクリーム	同
ローマンヌ頭髪香水	同
虎印蚊取線香	龍雲本商店 梶川治三郎
龍雲蚊取線香	同
脱毛液ナイス	北島一民
北原染料	北原秀子

北原脱毛液第一號	北原秀子
スピンドリーム	近磯商店
養毛劇モデナ	葛原工業所
ウテナ花印コールドクリーム	久保政吉商店
ウテナ月印ハイゼニツククリーム	同
ウテナ雪印バニシングクリーム	同
マツドベール	クレオ研究所
ニューオドルクラークス	同
モニカ粉末脱毛料	同
血清水クリーム	同
キノール	同
養毛素黒眞珠	黒眞珠化粧料本舖
粉末石鹼	國分兼佐
蚊取線香	同
化粧石鹼	同
黒 若	甲陽藥化學研究所
ラボレコード石鹼	合同油脂株式會社
ニキピソバカス水キング	小林仲市
フヂ美顔液	同
養毛液フヂ	同
カクミナル	小林安太郎
ミツキーヘアートニツク	同
峰乃華スキンミルク	齊藤實
白髮赤髮染美登里	阪本高生堂
アンパークリーム	佐藤正成
アンバーナッシングボルモンクリーム	同
マサビクリーム	佐野眞陽堂
ナオヨシクリーム	同
サフランキンベール	サフラン本舖 吉田俊藏

サフランパウダーベース	サフラン本舖 吉田俊藏
カピラス養毛水	鮫島宗也
ペトロニツク	三共株式會社
粉製くれたけ	三協商店
翠 篠	同
ブライド	同
資生堂カンフアアアイス	資生堂
資生堂クレモリン	同
資生堂ナトマ	同
ホーサン入資生堂石鹼	同
資生堂粉末爪磨	同
ソブラダアマジン	同
ソブラコールド	島田卓彌
ソブラクレモル	同
ベルツ水	清水進
しらが赤毛染ビーマン	春光堂
シヨウケイコールドクリーム	庄慶商店
シヨウケイハイゼニツククリーム	同
シヨウケイあせ打粉	同
シヨウケイ化粧水	同
粧和あせも止	粧和理化學研究所
合理化クリーム	鈴木鉦太郎
姫衣クリーム	同
花の井打粉	菅佐原康治
アモンバ、ヤ石鹼	杉田杉吉
ヨウモトニツク	泰昌製藥株式會社
染髮料ヘナン	同
三共脱毛クリーム	同
メンネン小兒用ボウダー	同

メンネンバイオレットタルカムパウダー	泰昌製薬株式会社
メンネンタルカムパウダーフオアメン	同
メンネンシエーピングクリーム	同
メンネンスキンバーム	同
泰昌人參規那鐵葡萄酒	同
チースブローバセリン	同
チースブローカンフアアイス	同
チースブローバセリン(白色)	同
ソウメキス	高砂香料株式会社
ボンネット絹肌クリーム	高島屋化粧品部
ボンネットわかもとクリーム	同
ボンネット腋下汗打粉	同
ボンネット除毛クリーム	同
ボンネットクンメルフェルド水	同
ボンネットネオクリーム	同
ボンネットバセリン	同
しらが染オシドリ	同
アイコトボーダー	高塚常二
タカトボーダー	同
明治ボーダー	同
鶯之卵ベラム香水	高原平太郎
バニシングクリームリムロビク	高橋公園堂
白髪赤毛染黒蝴蝶	宅間末廣堂
オンバーベルツ水	田中清輔
カツビーローション	田端豊香園
カールローション	同
クールふけとり香水	同
ベルツクリーム	玉置文治郎商店

賣薬部外品一覽

ベルツボマード	玉置文治郎商店
ベルツ液	同
ベルツ水	同
ベルツ香水	同
チオゾナ石鹼	千曲苑
スガモかとり線香	辻村利一郎商店
健毛水	手島政吉
健毛ボマード	同
脱毛クリームタキ	東京化粧品俱樂部
クリームヘアトニック	同
防臭汗止オムニドロール	同
あせ知らず	徳田商店
ミコエクリーム	中津屋本店
白樺クリーム	中島秀藤商店
フケカユミ止ゲンカボマード	中川透
司生堂のベラム	中村作五郎
パーキンカンフアークリーム	中谷辰藏
亞鉛タルカム散	同
あせも知らず	同
しらが赤毛染ナポリ	ナポリ製薬所
ナルビー	同
ルードル氏クリーム	日本化粧品會社
マー煉磨	日本コーク株式会社
マーシタン水磨	同
マーシタンローション	同
花トレビアン	日本トレビアン商會
クラヤレフレ	新島くら
クラヤレンゼン	同
マニアアレ止	貫井善四郎商店

メロンクリーム	根本長治郎
アイリス石鹼	野間清治
白美液	橋本製薬株式会社
タヤチスナン	同
縁陽ボマード	林儀次商店
丸儀香油	同
マスマ艶出し香油	同
ツトリアアレ止	同
ハヤシの汗打粉	林文一郎
實用汗打粉	同
ユキワリミン	原澤合名會社
ユキユリダブルクリーム	同
トキンクリーム	長谷川良吉
トキンベラム香水	同
トキンあせも打粉	同
カーレン	アップ化粧品本舗
ハリウッドユーカリ油	同
タルカムパウダーホワイトローズ	伴野文三郎
ルキズクリーム	巴里院
脱毛劑ルーナ	日野喜一郎
姫の友(化粧洗粉)	姫の友化粧品株式會社
姫の友スミス	同
チナミ化粧水	廣村廣誠堂
チナミベルツ水	同
ビルマオキシクリーム	ビルマ化粧園
フエミナ	福田武夫
ぼたん園養毛トニック	藤井庄右衛門
水巴化粧水	藤江化粧品研究所
水巴新バニシングクリーム	同

水巴レモンクリーム	藤江化粧品研究所
水巴レモン乾性クリーム	同
水巴レモンコールドクリーム	同
水巴バニシングクリーム	同
水巴コールドクリーム	同
野澤屋レモンクリーム	同
野澤屋バニシングクリーム	同
ヘウタンコロリン	藤田松楠堂
古代アツキ洗粉	藤村一誠堂
カユミ止メフケトリユニオン	古屋ユニオン商店
カユミ止メフケトリユニオンキニー	同
パーモリーフセーフレット鬚刺石鹼	ベリツク商會東京支店
メナカ石鹼	芳誠舎石鹼製造所
糸工石鹼	同
シコイ石鹼	同
あせもよけ打天瓜粉	堀口義夫
ホーカーフクフク	堀越嘉太郎
ホーカー液	同
渦巻蚊よけ線香	松岡惣一
丸八御薬はみがき	松澤八右衛門
丸八のみよけ	同
丸八蚊よけうづ巻	同
丸八蚊除香	同
御化粧下都賀多	同
しらが柑黒油	同
釣鐘墨	同
ベルツ水	同
日の出龍腦	松本伊兵衛商店
ステイツクボディー(口紅原料)	松本禎次郎商店

ゲンソキウカンバー	松本禎次郎商店
ゲンソホワイトクレーム	同
ゲンソ過酸化クリーム	同
ゲンソ液	同
ゲンソアルチン	同
クレームゲンソ	同
丸善ベアラム	丸善株式會社
丸善藥商磨	同
デアデルミンクリーム	同
丸善オーデキニン	同
丸善ヘヤートニック	同
ミツワ人參葡萄酒	丸見屋商店
ミツワ規那鐵葡萄酒	同
ミツワ含嗽香水	同
ミツワ肝油ドロップス	同
フローラ	同
パオス	同
美顔料マネキンレモン粘クリーム	丸の内美容院
山野脱脂化粧液 <small>キマノスネオードベネガ</small>	同
美顔料マネキンアストリゼント	同
アーモンドミール	同
ネオスヘナ	同
ドーラン棒白粉	同
ラモット口紅	万新商店
ラモットアイシヤード煉眉墨	同
チタンロール	同
入舟打粉	三原麗人堂
化粧液リムロン	三保梅壽
バニシングクリームリムロンピーク	宮澤福四郎

うすぎぬ打粉	村川作太郎
オリオン脂取紙	村上幾太郎
ホーヨーアレ止	茂木化粧品合資會社
オリオン化粧料	同
中央あせ打粉	同
キング蠅取粉	森下長次郎
フケカユミ止ゲンカボマード	森本太吉
ピオン養毛ローション	安田作之助
太陽ソーラーシヤンプー	柳屋商會
本津や御黒油	柳屋本店
姫印輕便しらが染	同
柳屋御きわずみ	同
化粧用ドクトル石鹼	柳久本店
薬用ドクトル石鹼	同
黒砂糖石鹼マーシヤル	同
美人かつら	柳沼商會
美人かつらフケメツ	同
ハニーフレックル(クリーム劑)	柳村マサヂ
ミヤコ香油	柳下商店
アツセナベアラム	山本商店化粧品部
アツセナボマード	同
アツセナローション	同
アツセナ過酸化クリーム	同
アツセナレモンバニシングクリーム	同
アツセナバニシングクリーム	同
アツセナコールドクリーム	同
アツセナレモン水クリーム	同
アツセナヘアートニック	同
アツセナ艶出し香油	同

アヅセナ鈴蘭香水	山本商店化粧品部
香久花香油	山本香油店
香久花椿香油	同
香久花艶出油	同
香久花髪附油	同
香久花髪附油青色	同
香久花梳油	同
香久花ボマード油	同
香久花黒髪附油	同
香久花黒梳油	同
香久花くせ毛油	同
香久花ベールラム	同
香久花フケトリ	同
くせ毛直し油	同
おねり油	同
匂入椿香油	同
匂入匂椿香油	同
ホト、ギス印渦巻蚊取線香	山本徳太郎
イテフ印蚊取線香	同
巴櫻印蚊取線香	同
寶印蚊取線香	同
花の梅	山岸章浩
アモンドプラスチック	山野チエ
丸万クリーム	油藤商店
丸万艶出しボマード	同
丸万煉油	同
丸万すみれ椿	同
ベルツ水	横尾榮治商店

芳香スミレ小町	横山光明
芳香ねり製井筒屋フケトリ油	同
美髪料ミユキ	同
美髪料かつら	同
美髪化粧用井筒屋椿香油	同
井筒屋新香油	同
井筒屋玉子入美髪料の香洗粉	同
高級美顔料井筒屋洗粉	同
高級美顔料井筒屋フジ化粧液	同
煉製染毛劑井筒屋ルーマ	同
養毛劑井筒屋プリテイ	同
美容料井筒屋ベルツ水	同
毛髮用井筒屋のびる	同
花柳病豫防劑井筒屋セルフ	同
しらが美顔用井筒屋黒みどり	同
紅白ヘアトニツク	吉田勝太郎
御きわずみ	よしや商店
櫻油	同
みかど油	同
乙女椿	同
理容ベールラム香水	理容品製作所
理容ボマード	同
理容クリーム	同
理容化粧水	同
ヤイチボマード	同
カルリナボマード	同
ベリカン香水	同
プリアンチツク	同
リヨボーダ	同

毛髮肥料ベザリン香水	リーガル商會
レオン洗顔クリーム	レオン商會
あしの雪	脇田盛眞堂
花玉打粉白粉	同
やまに肌	同
ワキタ化粧	同
御打粉あやめ	同
オレンヂクリーム	同
ミスボマード	同
ミスクリーム	同
ミスベールラム	同
和光堂肝油マルツ	和光堂
ピオスマール	同
マルツ汁越幾斯	同
シツカロール	同
シツカロール石鹼	同
シグナルボマード	成和商會
シグナルベールラム	同
セイワホーサン石鹼	同
名古屋	
二葉葵ベールラム	葵香本店
月の友プリランチツク	月の友化粧園
大坂	
羽衣	青木嵩山堂
明光クリーム白粉	秋月三日月堂
アシズベールラム	芦津屋化粧品部
アシズクリーム	同
アシズ植物性ボマード	同

いろはくろんば	石田商會
いろはカスガイ液	同
風島メー	宇野達之助商會
クリーサン	永廣堂本店
伊豆椿トニツク	大槻彩芳園
メニボクリーム	金子號
モンマフケ取香水	佐々木三香堂
薬用化粧水	同
三美化粧水	三美堂
クリーン齒磨	純美堂
トロラ	誠光堂
タイムデン齒磨	タイムデン製薬社
タイムデン洗粉	同
タイムデンベーパーパウダ	同
タイムデン煉香油	同
初鳥	谷回春堂
金島の渦巻	大日本除虫菊會社
全鳥香	同
金鳥除虫粉	同
キンチョール	同
白毛染ナイス	丹平商會
白毛染粉末ナイス	同
オサナ薬用化粧品	中島號
クラブ薬用天瓜粉	中山太陽堂
クラブヘアートニツク	同
クラブブリ、アンチン	同
エメラキウリ化粧水	西村卓二
エメラキウリクリーム	同
エメラ給白粉	同

エメラ固煉白粉	西村卓二
エメラ水白粉	同
エメラリビン香水	同
エメラ化粧下クリーム	同
エメラハイレエニツククリーム	同
エメラホワイトクリーム	同
エメラシワ取クリーム	同
エメラ乳美液	同
エメラコールドクリーム	同
エメラ水クリーム	同
エメラホーテナテウル	同
エメラ化粧水	同
エメラ過酸化水素水	同
エメラ過酸化クリーム	同
エメラ過酸化水白粉	同
エメラ緑色水粉	同
エメラマツサージクリーム	同
ナフテール石鹼	仁壽堂分店
金鶴香油	野村外吉
金鶴ボマード	同
金鶴コスメチツク	同
金鶴水白粉	同
金鶴粉白粉	同
金鶴化粧水	同
金鶴艶出香油	同
ヤオール	藤森源之助商店
青函ビタオール	松浦商店化粧品部
紫函ビタオール	同
ビタオール液體ボマード	同

ビタオール養毛ローション	松浦商店化粧品部
カガシベアラム	丸善化粧品部
カガシオードキニン	同
カガシヘアートニツク	同
カガシデンチフリス	同
カガシ粉齒磨	同
カガシタルカム粉	同
カガシ天瓜粉	同
カガシパオン化粧水	同
白雪あれども	三宅堂
仁丹の煉齒磨	森下博
仁丹の藥齒磨	同
ミノル洗粉	吉田實石鹼株式會社
ペトロールウラル	佛國製
	ヨドヤ化粧品部

備考

一、以上の「賣薬部外品一覽」は、東京に於ける分は警視廳の免許臺帳によりて調査せる外、別に各當業者よりの報告を參考として整理した。

一、東京以外の各都市に於ける分は、各當業者に直接照會を發してその回答を求め、そのまま掲載したものである。

一、然るにその報告中には「化粧品」と思はるるものをも含み、この再調には意外の困難を感じた。

一、部外品は化粧品とその取締上の手續きを異にするので、彼此混同して報告されたものありとすれば、獨り發賣元のみならず、小賣店に於ても迷惑少からざるを思ひ、疑念を挾むの餘地多きものに對しては極力再調を行ひ、能ふ限りその誤謬なきを期したるも、萬一各自その間違ひを發見せられたる時は直ちに報告せられ度い。

生産 販賣

昭和九年の生産販賣界

昭和九年の生産及び販賣界は、多くの重要問題を業界に残せることに於て、洵に近年稀れに見る多端の年であり、苦難の年であつたことが知られる。随つてこの年に於ける業界情勢は販賣市場に於ける波瀾の表面化とともに、一面深刻なる同業者の内部闘争に終始したといふ一語に盡きるであらう。

二

勿論これは化粧品界に於ける情勢の一般を指すものである。然らば何がさうさせたかを語る前に、先づわれ等の考へ度いのは、市場統制の崩壊を來たさしめたその原因の奈邊にありやといふ一事である。即ち昭和九年六月四日、東京化粧品卸商業組合が組合解消の決議と同時に、營業統制の即時中止を聲明して販賣市場をその自由競争に委せしむるの已むなきに至つたのは、是れ果して何に原因するやの問題である。而してこれを解くことは、昭和九年の業界に於ける販賣問題の根本を衝くことであるとともに、業界情勢の大半は説明し盡されると信ずるからである。然しながらわれ等は既に「業界一年史」に於いても、之れを述べたるが如く、組合の解消に導ける一半の理由は、法の無力が第九條の制裁權發動に期待を有つ能はざるに至らしめ遂ひに組合自體の統制がつかなくなつたことにもあるけれども、然し商業組合をして此の絶命境に追詰めたるその根本原因に關しては勿論別にこれを擧げなければならぬ。

三

然らばその根本原因とは何か、當時わが商報が業界の各方面から徴したる多くの意見は、これを語つてその正鵠を得たるに近しと信ぜらるゝものであるが、然しわれ等は今、その一々を引用するの違を有せざるが故に、便宜上、これらの意見を綜合することによりて手取り早くその結論を求めんと

一、生産、販賣の兩機構の聯絡に缺陷あり、併かもその統制は販賣機構の間にのみ企てられたるものにして、之れを傍觀するの狀態であつたこと。
一、帝都に於ける卸商の過剰から勢ひ配給機關の健全性が缺如せるによること。

以上の二點に歸着するものゝ如くである。勿論内外の經濟情勢並びに産業界の一般的不況が、大いに販賣市場の不振を將來せるにも因るは、言ふを須ひざる處なるも内部的の原因としては、先づこの二點の外に出でざるものと見るもまた多くの誤りはあるまいと信ぜられる。然しこれ等のことは既に業界の認識に明らかなる處であるから、われ等は再びこゝに説明を加ふることをせざるも、要するに製造本舖から卸問屋へ、而して小賣店へといふ、これ等の相對的關係にして適正を缺くに於いては、忽ちにして需要供給の圓滿なる進路を阻み、當然市場の健全性が失はるゝの處れあるは、何人も容易に看取し得る處なるに拘らず、然も業界現在機構を以てしては生産の調節と販賣の合理化とを彼此協調して行ふことは、到底至難なるの實情に在り、更らに今一つの配給機關たる中間商人の過剰問題に至つては、是れ獨り帝都に於ける問題たるに止まらず、

業界の機構解説

問屋

小賣商問題とともに實に全業界がその儲けを齊しくする處にして、全く全国的ともいふ可き刻下の重要問題たる點に於いて、その解決の容易ならずと見るのが至當であらう。東京商業組合は、三百二十名の組合員の外に、所謂アウトサイダー凡そ二百、合せて五百に近い同業者が、その營業戦線を帝都に布いて激烈なる競争を行ひ、遂ひにそのアウトサイダーの爲めに禍ひせられて組合の一角が漸く崩壊し始め、さしにも鞏固なりと思はれた結束も、全く瓦解に歸したわけである。然しこれ等は單に一商業組合の潰滅といふのみに止まらずして、實に全業界の動向にも影響するの重大問題にして、是れが販賣市場に投げたる渦紋は、今後に残されたる業界の課題中、恐らくその最も大きなもの、一つであると言へるであらう。

四

果せるかな、年末の近づくに及び、市場の混亂、その極に達せむとするの現狀に陥れるを憂ひ、十日會を中心とする有力本舗は屢々會合の上これが對策に就いての協議を遂げた。蓋し本舗側としては實に現狀の打開並びに拾収に努むるのみに止まらず、その根本對策の發見によりて販賣市場の正常化を圖るとともに、業界共榮の大計に邁進せむとする、眞剣なる態度と熱意と、而して深遠なる理想とに出でたるもの、如く、年内には何等の結論をも見るに至らなかつたけれども然し遠からずして何ものをか業界に齎らすものゝ期待してよからう。

業界に於いて問屋とは如何なる販賣店を指して云ふものであるかと云ふに、その意味を嚴密に規定することは極めて困難である。たゞ漫然と、本舗と直接取引を有する卸店を問屋と稱する場合もあり、本舗によつては、問屋資格なるものを定めて「本舗と直接取引を有する代理店にしてその地區に於ける責任販賣額を達成し得るものたる店」と定義して、年販賣額何萬圓以上のものを問屋と見做すとなしてあるところもあり、極めて區々である。これを他業界について見るに、問屋と云はれる店には、多くの商品を一手に引受けて卸賣する店で、委託販賣制度をとつてある所も可成りに多いが、業界にはかゝる取引關係は殆ど行はれておないので、問屋といふよりは、むしろ卸店と云ふ方が妥當と思はれる處もある。

卸店

卸店とは一般的な意味から言へば、生

産者と小賣商との間、また商人と商人との間にあつて、商品を仲介賣買する店を云ふので、共に生産から消費への過程に於ける商品の分配、配給的役割をなしてゐるものである。従つて業界に於いても、製造本舗と、一般小賣店との間に介在してゐる一切の卸賣業者は卸店と云ふ言葉に包摂せらるべきものである。然し一般には、問屋業者よりも小規模なる卸賣業者を卸店とよぶ場合もあり、本舗と直接取引を有せず問屋を通じて商品の配給をうけつゝある卸業者を卸店とよぶ場合も多い。又、本舗によつては、卸店資格なる規定を作り「直接取引たるの間接取引(問屋經由の取引)たるを問はず、其の地區に於ける責任販賣額を達成し得られる店たること」と定めて、年販賣額何千圓以上の店のみを卸店として認めてゐる所もある。

代理店

業界に於ける何々化粧品代理店なる言葉も極めて曖昧なる意味のものである。その製品の卸賣に關してある限り如何なる卸店に於いても、その製品の代理店と稱し得るものと廣義の解釋をなすことも出来れば、又、代理店資格なる一定の規定を定めて、その責任販賣額に及ばざる卸店に對してはこれを使用することを喜

ばざる本舗もある。或ひは代理店と稱する卸店が餘りに多數にあるため、これを區別して、本舗と直接取引を有する、言はゞ問屋級の有力なるものをA代理店、間接取引なる一般卸店をB代理店となしてゐるところもあり、その販賣額によりA B二階級に分つてゐるところもあり、その販賣額より云ふときにはA代理店とは稱し難きも、永い取引關係情實等により、A代理店に屬せしめてゐるもの等あり、さまざまである。以上の外に、その地方の一切の販賣を委ねられる總代理店、又は販賣に關する一切を委任されたる發賣元とも云ふべき總代理店等もあるが、これらは準本舗とも云ふべき立場にあるものである。

特約店

特約店又は特約代理店と云ふと、如何にも本舗と直接取引があるかの如き感を與へるが實際には然らざる場合が多い。今日の普通特約店と云ふのはB級代理店でA級代理店より配給をうける店で斯く稱してゐる所が多い。問屋——卸店といふ一つの系統に對して、代理店——特約店といふ別の系統に分つた場合のB級卸店と同様の意味に用ひられてゐることが多い。

化粧品小間物製造 及販賣高

東京卸商同業組合調

製造額

種類別	八年度		七年度		増減	對比
	円	円	円	円		
白粉	三、九五五、八四六	三、七六四、八〇三	一八、〇四三	二、二七二、五〇九	二、二七二、五〇九	二、二七二、五〇九
齒粉	二、七七一、五〇九	二、五八八、八四四	二、五八八、八四四	二、五八八、八四四	二、五八八、八四四	二、五八八、八四四
洗粉及シャンプー	三、〇四〇、〇四四	二、五三三、八八八	五〇〇、八三六	一、五三三、八八八	一、五三三、八八八	一、五三三、八八八
化粧水及化粧液	一、五三三、八八八	一、二五二、〇八三	二五二、〇八三	一、五三三、八八八	一、五三三、八八八	一、五三三、八八八
クリム	一、五三三、八八八	一、三九四、五三六	一、三九四、五三六	一、五三三、八八八	一、五三三、八八八	一、五三三、八八八
香油及煉油	三、五五五、七九六	三、〇五五、四一四	三、〇五五、四一四	三、五五五、七九六	三、五五五、七九六	三、五五五、七九六
その他の化粧品	一、〇七四、九一八	九七七、〇四四	九七七、〇四四	一、〇七四、九一八	一、〇七四、九一八	一、〇七四、九一八
化粧品小計	二、〇八八、五七九	一、九七二、二八二	一、九七二、二八二	二、〇八八、五七九	二、〇八八、五七九	二、〇八八、五七九
日本髪用櫛	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、九三〇	一、〇〇〇、九三〇	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、七四四
日本髪用簪	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、九三〇	一、〇〇〇、九三〇	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、七四四
束髪用櫛	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、九三〇	一、〇〇〇、九三〇	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、七四四	一、〇〇〇、七四四
束髪用ピン及髮止	二、七〇〇、二九六	二、七〇〇、三三三	二、七〇〇、三三三	二、七〇〇、二九六	二、七〇〇、二九六	二、七〇〇、二九六
髮掛及根掛	二、七〇〇、二九六	二、七〇〇、三三三	二、七〇〇、三三三	二、七〇〇、二九六	二、七〇〇、二九六	二、七〇〇、二九六
鬘、附鬘、入毛	七九、二一六	九八、九三三	九八、九三三	七九、二一六	七九、二一六	七九、二一六
金屬製石鹼容器類	六〇、六六八	六七、四三三	六七、四三三	六〇、六六八	六〇、六六八	六〇、六六八
セルロイド雑貨	二、五八六、五〇七	二、五九一、五三六	二、五九一、五三六	二、五八六、五〇七	二、五八六、五〇七	二、五八六、五〇七
その他の小間物雑貨	二、五八六、五〇七	二、五九一、五三六	二、五九一、五三六	二、五八六、五〇七	二、五八六、五〇七	二、五八六、五〇七
小間物小計	二、五八六、五〇七	二、五九一、五三六	二、五九一、五三六	二、五八六、五〇七	二、五八六、五〇七	二、五八六、五〇七
合計	二、四、五五五、〇八六	二、四、七六六、八〇八	二、四、七六六、八〇八	二、四、五五五、〇八六	二、四、五五五、〇八六	二、四、五五五、〇八六

販賣額

種類別	八年度		七年度		増減	對比
	円	円	円	円		
白粉	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
齒粉	五、〇二二、〇七三	四、五五六、二三五	四、五五六、二三五	五、〇二二、〇七三	五、〇二二、〇七三	五、〇二二、〇七三
洗粉及シャンプー	九、二九四、六〇四	八、四八八、八五九	八、四八八、八五九	九、二九四、六〇四	九、二九四、六〇四	九、二九四、六〇四
化粧水及化粧液	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
クリム	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
香油及煉油	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
その他の化粧品	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
化粧品小計	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
日本髪用櫛	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
日本髪用簪	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
束髪用櫛	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
束髪用ピン及髮止	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
髮掛及根掛	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
鬘、附鬘、入毛	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
金屬製石鹼容器類	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
セルロイド雑貨	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
その他の小間物雑貨	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
小間物小計	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二
合計	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二	三、七六六、八四二

生産販賣

業界の販賣制度

化粧品

化粧品の販賣並びに配給系統は、本舗を中心に本舗と直接取引を有する問屋並びに、問屋の手を経て本舗と間接取引をなす卸店によつて、小賣販賣店に商品の供給が行はれ、こゝから需要者の手に賣られるといふのが普通である。

これ等の諸店はいづれも、それ／＼獨立の經營に立ち、本舗は商品の製造並びにその廣告宣傳に當り、製品を問屋卸店に販賣する本舗と直接取引を有する代理店、即ち、問屋、及び間接代理店、即ち卸店では本舗から買ひつた品を自己の販賣網に従つて小賣店に販賣するもので、業界では、問屋とは云ふものゝ、問屋の意義として他業界で用ひられてゐるが如き、委託販賣といふことは全く行はれてゐない。

而してこれらの本舗卸店間、卸店小賣店間の取引値段はそれ／＼定まり、一定の建値に従つて行はれることを原則とするがこの利潤の外に、更らに景品券、報酬券、割戻等の名稱によつて本舗より、卸店、小賣店それ／＼へ謝禮金が贈られ、又は清遊、觀劇、招宴等の優待も行はれて本舗、卸店、販賣店が密接なる關係を保つて、相互の利益を伸長し、製品の擴賣に努めつゝあるといふのが、現在の化粧品界に於ける大部分の取引方法である。

從來、各本舗に於いては、業界の惱みたる濫賣

の弊よりその販賣店を救ふべく、種々なる販賣策が行はれ、その全製品を各部に分ち、一般に販賣するもの、特定販賣店に於いてのみ販賣するもの等の區別をなす所もあつたが、いづれも思はしき結果を得るに至らざるためか、これを廢止したる本舗も少くない。然し、近來、濫賣の弊いよ／＼甚だしく、化粧品販賣業者の利潤が益々薄くなりつゝある傾向あるに際して、再び各本舗に於いても販賣店の利潤を保ち、種々なる販賣方策に腐心しつゝある傾向が現はれる。その傾向の一として認むべきものは、各本舗が、目下行ひつゝある販賣會社の設立である。これにはクラブ特定品東京販賣會社並びにマスター本舗が全国各地に設立したるマスター化粧品販賣會社、ラブミー本舗が脇田盛眞堂と協力の下に設立したるラブミー化粧品關東販賣株式會社等がある。これらはその設立の動機に於いて、組織運用に於いて多少の相違はあるが、要は、正價維持によりその販賣力を増進せしめ、且つ販賣店と本舗の中間にあつて、すべての販賣網をこゝに集め、配給機關の單純強化を計るためと云へやう。その他の販賣組織としては問屋卸店の手を藉りずして、チェーン組織により本舗が直接小賣店に種々なる機關を通じて商品の供給を行つてゐるものに、資生堂化粧品、アイデアル化粧品、柳屋化粧品（一部）、カマシ化粧品、モンド化粧品、サンキス化粧品、ナルビー化粧品等がある。これら業界の取引制度は種々なる特徴を有し、それ／＼の分野を開拓してゐるが、こゝには現在、活潑なる成果をあげつゝある特色ある

洗粉及シャンプー	四二、七五五	三六、七〇〇	八四、八七五
化粧水及化粧液	一、六七四、六一二	一、二八八、二四四	二、九六二、七二七
クオリ	二、一〇六、〇四〇	一、六〇〇、〇一八	三、七〇六、〇五八
香油及煉油	四三、八七五	三六、八七五	八〇、七五〇
その他の化粧品	一、三二四、八九七	一、〇九八、九四三	二、四二二、八四〇
化粧品小計	五七、四〇〇	四七、五六一	一〇四、九六一
日本髪用櫛笄	三、四〇六、三二二	四四八、三三〇	七、八九四
日本髪用簪	三、八八六、三二二	二、六六六、九〇〇	六、五五三
東髪用櫛	一、四九七、九六六	一、一七五、三二一	二、六七三、二八七
東髪用ピン及髪止	三、一〇〇、三九九	三、〇〇〇、七〇六	六、一〇一、一〇五
髪掛及根掛	三、二二〇、〇三三	三、八八八、八四四	七、一〇八、八七七
リボン及鹿の子	九〇、七七七	一、三三、四四六	一、四二五、二二三
鬘、附鬘、入毛	一、二六、〇六七	一、四四、〇六三	二、七〇、一三〇
齒、附齒、楊枝	七、一、四四〇	七、四六、〇〇〇	八、四七、四四〇
金剛製石除器類	一、七六、八七〇	六四四、九一七	八、二一、七八七
セルロイド雑貨	七、四〇、九九九	三、四四、〇六六	一〇、八四、〇六五
その他の小間物雑貨	五七、〇、七〇〇	三、八〇、二八〇	六〇、八〇、九八〇
小間物小計	三、七六六、九八五	三、六三三、四四七	七、四〇〇、四三二
合計	二八、一九三、二九六	二五、二一〇、七七一	五三、四〇四、〇七三

化粧品製造及販賣高

大阪化粧品同業組合調

製造額

種類別	八年度	七年度	増減
化粧白粉	四、三五一、〇一四	三、八三三、〇三二	四〇〇、四八〇
化粧洗粉	九、六六、一〇八	九、四四三、八七三	二一〇、二三五
化粧水	五、四八四、四九九	五、二六八、八三六	二一五、六五三
香油	二、四二一、〇九五	一、八五二、五五四	五六八、四九一
クオリ	八、二二、七五五	一、〇七四、一六三	七、一五二、五九二
香油	一、〇九八、九七六	一、〇七四、一六三	二四、八一三

ものについてのみ瞥見しやう。

クラブ式新陽級販賣制度

業界に於ける各本舗の取引諸制度中、その機構の最も整備せるは、クラブ本舗中山太陽堂の諸制度である。クラブ化粧品取引制度は、これを大別してクラブ式新陽級販賣制度、並びにクラブ堂級販賣制度の二つに分けることが出来る。いづれもクラブ化粧品取引に於ける全機構を詳細に規定せるもので、頗る複雑多岐に互つてゐるが、次にその概略を示すことにしよう。

中山太陽堂では創業三十周年を記念して、昭和九年四月二十一日、二日の兩日、大阪中央公會堂に第四回全國中堅代理店協議大會を開催、その決議に基づき、クラブ式新陽級販賣系統諸制度並びに諸規定を決定、七月一日よりこれを實施してゐる。この新制度は統制經濟時代に於ける産業界の現状を參酌したる理想的の販賣制度であるとして同本舗の誇るところ、これには、配給、支拂ひ、特賣、制戻、特別感謝券、運賃、値段保護、太平洋會並びに共榮クラブ會の諸制度等詳細なる規定がある。

配給制度 關しては、全國各地をそれ〴〵三つの等級に分ち、各地區それ〴〵に卸店問屋の責任販賣額を定め、七十種に亘る陽級クラブ化粧品全商品を扱ふ店、或る一部商品を扱ふ店等、その資格を分けてゐる。

支拂制度 關しては、本舗、問屋、卸店、小賣店各相互間の支拂期限並びに期日短縮獎勵のため、即引割戻制度の種々なる規定が定められてゐる。

特賣制度 關しては、本舗問屋間、問屋卸店間の特賣景品規定並びに特賣完了即引割戻規定、問屋卸店と小賣店間の優待規定等が定められて更にこの他に、本舗から問屋卸店それ〴〵に對する

特別感謝券の規定が定められてゐる。

運賃制度 關しては、本舗の運賃全額負擔運賃補助割戻の規程があり、更に値段保護制度に關しては、各問屋卸店を包含する太平洋會並びに、專門販賣會社、特定品販賣會社によつて卸値段保護統制につとめ、更に小賣店間には共榮クラブ會を組織して、小賣値段の統制につとむる一切の諸組織が規定せられてゐる。

斯く、中山太陽堂のクラブ式新陽級販賣制度はあらゆる細目に亘り、整然たる構成を有するものであるが、これを要するに、陽級とは、太陽の陽をとりて附けたる名稱にして、太陽の光の如く普遍的なることを意味するものゝ如く、一般的に廣く販賣される商品との意味より陽級クラブ商品と名づけたるものらしい、而して、クラブ式新陽級販賣系統とは、一般的に廣く適用する組織といふ意味にこれを解することが出来るのである。

堂級クラブ製品販賣制度

國産品獎勵、輸入防遏の聲の喧しかつた大正十四年頃、輸入化粧品防遏を意圖して太陽堂ビルより發賣されたる各種製品を名づけて、堂級クラブ製品と云ひ、同時に正價保持の目的を以て、所謂止め型商品として、包裝、値段、圖案等特等のものとして他の一般クラブ製品から區別し、値段の統制を行つてゐるものである。従つてその販賣制度としては、本舗より特定代理店の手を経て、特定販賣店のみにて需要者に販賣されるもので現在では特種の販路を有してゐる現在特定代理店の數は全國に約百五十、特定販賣店數百を有する。

理想網販賣組織

高橋東洋堂がアイデア化粧品販賣制度として大正十四年六月發表せるもので、舊來の業界取

煉香油及ボマード	七二二、〇二一	六、七四〇、〇三三	八四、六四九
髪	一一三、五四四	一一七、〇三三	六、四四一
チ	一九、一八三	一三、六六〇	三、八〇三
眉	二六、四八九	二〇、八六五	五、六〇四
化粧水及化粧液	一、三三〇、六六六	一、五三三、八八九	一七、六
化粧パウダー	一一〇、一八七	九五、六八四	一四、六〇三
その他の化粧品	三三、八五三	三四、四四一	一、八四二
計	二、七八六、三三七	六、八二六、九六三	一、〇二二、六四四

化粧白粉	四、六〇一、三六四	四、三三三、四九三	三、六六六、六四六
化粧洗粉	一、〇〇三、三〇九	九八三、五五〇	一九、七六九
齒磨	八、〇三三、七六九	七、八四八、三三三	一八、〇三六
ク	三、六四四、〇七七	三、五七二、八一	七、二二六
香水	一、〇〇一、六四一	九八二、七二六	二七、九二五
香油	一、一五八、二二二	一、二六六、七三三	二六、一三九
煉香油及ボマード	一、六六六、六〇〇	一、四四四、七二七	一七、八九三
髪	一、四四四、七二七	一、三〇〇、三六九	一四、九八三
チ	一、五五五、〇三三	一、九一六、〇一一	一四、九八三
眉	四、五五五、〇三三	三、八六一、六一	六三、四二一
化粧水及化粧液	二、二四七、六四九	二、六九九、九九九	八七、四九四
化粧パウダー	一、一八八、〇四五	一、三〇一、九五三	二七、七五三
その他の化粧品	七、六五二、九五三	七、五二一、四〇七	三三、八八八
計	二、五二一、〇七二	六、二五三、三四一	五八、四四三

石鹼製造數量及び價額

東京石鹼製造同業組合調

種類	數量	八年年度	七年年度	對	比
化粧石鹼	一〇、六五〇、〇〇〇打	六、九八二、七六〇打	三、六七二、四三〇打	増	一、七六〇
洗濯石鹼	一、一一〇、〇〇〇打	七、七四三、三三〇打	四、三三三、六三〇打	増	一
その他	二、八四〇、〇〇〇打	九、五二一、七〇〇打	一、五七六、七六〇打	増	一

引制度の缺陷を補ひ、本舗、販賣所、販賣店の三者が網(ネット)の如き連絡により、商業上の一人格として活動し、營業上、製造配給販賣の三部門には分つてゐるが、常に密接な提携を保ち、一糸亂れざる共同動作の下に嚴格なる定價販賣を實行し、無益の競争を避けて、相互に正當な利益を確保すに努めるもので、之れが實施に當つては、配給機關たる販賣所の一定區域と、販賣店の取引系統を限定し、これを理想網販賣組織(アイデアル・ネット・システム)とよんでゐる。

實施十年、本舗はあらゆる犠牲を拂ひ、この制度の嚴守に努力したる結果、その網(ネット)は次第に全國に擴まり、整然たる統制の下にアイデアル化粧品は濫賣は全くその跡を絶ち、業界の販賣界に特異なる制度として着々成績をあげてゐる。而してこの制度の根幹をなすものは、本舗、販賣所、特盟販賣店の三者である。

一、本舗 本舗は常に最新優秀な製品を廉價に提供し、販賣所と特盟販賣店との圓滑な連絡を計り、本組織の徹底とその運用上に於ける統制を爲す任務を持つてゐる。その實施に當つては、東京を本舗直轄地とする外、全國に八ヶ所即ち東京、札幌、仙臺、岡山、金澤、名古屋、福岡、松本の出張所を持ち、全國の統制を行つてゐる。

一、販賣所 販賣所は相互に侵すことの出来ない一定區域をそれ〴〵に分割して責任を持つてゐる。その區域内の特盟販賣店に對してのみ所定の卸値段を以つて商品の配給を爲すとともに、本舗の方針並びに取引規定を尊重し、常に積極的活動をなす目的を持つてゐる。内地全國に七十七販賣所があり、中には所謂問屋卸店の各本舗代理店の中にその事務所を有するものもあるが、會計部にはその店の經營と全く別個のものとして本舗の統制指揮に服するものである。

一、特盟販賣店 特盟販賣店は、その區域の配給

所より所定の卸値段を以て商品の配給を受け、嚴格なる定價販賣の實行によつて、相互に一定利益を確保され、取引規定を遵守して極力アイデアル化粧品の推獎販賣を爲すもので、アイデアル商品の發展につれて、特盟販賣店の數は次第に増加し、所謂その網の目はいよゝゝ細かくなつてゆく。

以上の如き組織によつて、アイデアル化粧品は本舗直轄、出張所、販賣所よりそれ〴〵その地區に所屬する特盟小賣所に配給され、卸店、小賣店それ〴〵に取引規定が定められこれに違反するときは、即時にアイデアル商品販賣の特權を失ふ等の制裁規程があり、嚴格なる統制が守られてゐる。これがアイデアル化粧品の配給系統であるが、この他に、各特盟販賣店間の親睦をはかり、アイデアル・ネットシステムの徹底強化を期するため、横斷的な組織としてアイデアル會が、全國各地に百二十設けられてゐる。この會の規約としても、定價販賣の嚴守、他店への轉向禁止を嚴守せしめ、會員各自の販賣成績により歩戻金感謝金等を贈り、年一回の總會、懇親會へ出席の優待權を與へてゐる。この他にはアイデアル化粧品の販賣に關しては、一切、特賣、景品券添附、招待等をなさず、正價販賣の増加による正當な利益の増加を目指してゐるものである。

朝鮮臺灣滿洲等に於いては、現在尙販賣所を置くに至らず、特盟代理店より各小賣店に配給を行つてゐるが、既に京城、大連には販賣所を設け、内地同様の組織に着々向ひつゝある。

柳生會連鎖店式販賣法

柳屋本店發賣になる柳屋化粧品の、濫賣匡正を

品種別	生産高		対比
	七年度産額	六年度産額	
自動車タイヤ中袋	四、九七、二六	三、七〇、〇〇	一、二七、二六
自動車タイヤ中袋	一、八〇、〇〇	一、七〇、〇〇	一〇〇
調子	二、五〇、〇〇	—	—
ホム	一、〇〇、〇〇	八〇、〇〇	一、二〇、〇〇
機械用品	四〇、〇〇	三〇、〇〇	一、三〇、〇〇
靴類	一、〇〇、〇〇	一、六〇、〇〇	—
底物類	一、〇〇、〇〇	九〇、〇〇	一、一〇、〇〇
エポナイト	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一〇〇
張合玩具	八、〇〇、〇〇	六〇、〇〇	一、三〇、〇〇
人形	五、〇〇、〇〇	—	—
字消	五〇、〇〇	—	—
爪掛	五〇、〇〇	—	—
自轉車用品	一、五〇、〇〇	一、四〇、〇〇	一〇〇
雑品	三、八七、三六	一、四八、九一	二、三八、四五
計	五〇、〇〇	五〇、〇〇	—

昭和七年ゴム製品・生産・販売高

東京ゴム同業組合調査

品種別	生産高		対比
	七年度産額	六年度産額	
化粧石鹼	一〇、六〇、〇〇	七、九二、三三	三、四五、七五
洗濯石鹼	四、八〇、〇〇	四、二六、九〇	五八、〇〇
粉石鹼	一、一六、〇〇	—	—
その他	五〇、〇〇	五二、八七	—
合計	一七、一六、〇〇	一六、九六、〇〇	—
グリン	二、六〇、〇〇	八〇、〇〇	一、八〇、〇〇
セリン	—	—	—

目的として結成せられたる柳生會は、都下の有力

小賣店を網羅せるの團體にして、柳屋化粧品柳生會特製品を作り、柳生會員のみが販賣し得る仕組みとして無意味なる競争を避け、これによつて正價の確保につとめつゝあるものである。大正十四年七月末實施。

その組織は柳屋本店の外に、販賣店の團體なる柳生會があり、幹事は會員の互選により決定され各地區毎に選ばれたる會長の集まれる會長會が柳生會の總ての方針計畫を立案遂行してゆくものである。商品の配給は柳生會販賣部がこれに當り、現在では、一切卸店の手を借りず、本舗より會員たる小賣店に直接配給を行つてゐる。會員の資格は、柳生會の規約により絶対に濫賣をしないことを要件とするもので、新會員の入會は、幹事會がその店に近接する會員の同意を得た上で決定することにまつてゐる。

本舗は毎月の賣上高、現金収入額を會に報告し、その五分を積立て、それを第一回の總會費にあつるの外、一切特賣景品等はこれを行はない。現在柳生會特製品に定められたるもの十種。東京柳生會、神奈川縣柳生會の二つあり東京柳生會の會員は現在五百八十餘名である。

資生堂連鎖店販賣組織

資生堂化粧品の販賣組織として、株式会社資生堂の實行しつゝある制度は、業界に於いて特異なるものである。即ちその組織を構成するものに、本社、販賣會社、スペシャルメンバー、チエインストアー・セールスマンメンバーの諸階級があり、その線に沿つて商品の配給が行はれ、本社より販賣店に至る間、大なる連鎖を以てつながら、整然たる

統制が保たれてゐる。

本社は云ふまでもなく、製造を司りその製品を各販賣會社に供給すると同時に、賣出、宣傳の企劃と實行、販賣會社以下の監理統制に當るものである。

販賣會社は、その地區に屬するスペシャルメンバー以下を統制して販賣の實行に當り、資生堂製品のみを販賣に専念する純然たる子會社で、近く創立される臺北、大連、奉天の三會社をも含めて全國に互り、五十四會社があり、資生堂製品配給網の中心をなすものである。

スペシャルメンバーと云ふのは、販賣會社の統制下にあつて、一市又は一郡、或ひは數郡の配給を司る機關で、その數全國に約六百ある。

チエインストアー(連鎖店)並びにセールスマンパーは何れも小賣機關で、前者は全國に七千、後者は七萬店ある。セールスマンパーは資生堂の各種石鹼類、齒磨等の大衆向商品を小賣する店であり、資生堂各種化粧品、化粧雜貨、石鹼、齒磨等の全商品を販賣する店である。故に、チエインストアーはその契約に當つて定價販賣、轉賣禁止を堅く誓約し、その代りに本舗より資生堂化粧品の代表販賣店としての種々なる保護をうけ、仕入値段等も全く一定し、且つチエインストアーの濫設を避けてゐるために小賣店間の濫賣競争もなく常に本舗と連鎖を保つて整然たる統制が行はれてゐる。

以上の組織によつても明かなる如く、資生堂連鎖店販賣組織の特色は、濫賣の弊を全く絶ち、全國到る處同一値段で販賣され、小賣店は必ず一定の利益が收められるといふ處にある。その製品には全部番號が打つてあるので、假りにあるチエインで規約を犯し、轉賣などを行ひ、それが市場

販賣線展望

昭和八年三月刊・東京市商業調査書

販賣金額			仕入金額	賣買差益金額	營業費	損益金額	商品高平均手持	従業員數	借入金額
總額	卸	小賣							總額
65,469.752	53,833.367	11,576.385	54,303.456	11,166.290	8,162.166	3,004.130	10,997.721	11,032	5,085.222
12,533.858	11,597.659	936.199	10,164.384	2,369.474	1,494.543	874.931	1,768.798	1,508	1,317.772
52,935.894	42,295.708	10,640.186	44,139.072	8,796.822	6,667.623	2,129.199	9,228.922	9,494	3,767.450
176,321.895	158,588.632	17,733.263	141,887.796	34,434.099	25,619.731	8,814.368	22,769.045	16,022	13,125.187
112,906.131	109,735.172	3,170.959	87,801.285	25,104.846	17,882.570	7,222.276	12,511.517	6,764	9,104.608
63,415.764	48,853.460	14,562.304	54,086.511	9,329.253	7,737.161	1,592,092	10,257.528	9,258	4,020.579

生産販賣

帝都市場の一年

各本舗・市場齋正の爲めに起つ

帝都に於ける販賣市場の混亂は、昭和九年下半年に於いて殊にその甚しきを加へた。これは畢竟、統制撤廢の爲め競争の激化したのにもよるけれども、一方にはまた卸商業組合の解消後、卸業者の團結が手薄となつたのに乘じて喰込み來れる小賣業者の仕入團體が跳梁し出したにもよる現象である。わけても有名化粧品の濫賣が、目立つてその著しさを加へて來たのに鑑み、先づ自家製品の安賣を防止することにも販賣市場齋正の爲めに、率先して立つたのはライオン齒磨本舗であつた。

ライオン齒磨本舗の帝都に於ける販賣網としてはライオン會がある。即ち本舗では八月二十八日、その理事を招集して新方針を披瀝したる上、正統價格保護に就いての協力を求め、その完全なる共鳴によりて左の如き決議及び宣言書を作成、全理事の連署を以つて全會員の注意を喚起するとともに、今後は絶対に値崩しを許さず、萬一にも市場を紊すものあらば、斷然送荷を停止すべしといふ、強硬な決意を明らかにするに至つた。

宣言

拜啓、陳者殘存の御賣店益々御隆昌奉賀上候。却説ライオン各製品に就いては、毎々格別の御愛顧を蒙り、賣日に増し向上の一路を辿り居候段製造本舗は申すに及ばず、ライオン會としても御同慶の至りに奉存候。

然る處近時販賣界の趨勢を見るに、敢てライオン製品とは限らず有名化粧品一般のことには候へども、大多數の方々は深き業界愛の發露と申す可きか、大體穩健なる態度を以つて商業常識上、相當なる價格を保護維持被成下居候にも拘らず、時には現金取引の美名の下に、不可解にも如何なる採算を以てしても立行々管なき亂暴なる價格にて販賣せられ居候ものも有之、その爲め一般正業者の蒙る損害は測り知る可からざるもの有之、遂ひには市場を大混亂に陥れ、收拾す可からざる事態を惹起するの虞れ有之候。就いては去る二十八日開催のライオン會理事會に於いて慎重審議の結果、左記大方針を決定し今後一致協力して價格保護に邁進することに滿場一致、決議致候間、本舗並びに理事者の微衷御諒察の上、新方針の徹底方につき一層の御協力被成下度切望の至りに不堪候、敬具。

決議

ライオン各種製品を正統なる經路による採算と合致せざるが如き價格にて濫賣するものありたる時は、東京ライオン會規約第八條に基づき理事會の決議により、送荷を停止するとある可し。以上。

ライオン本舗の齋正運動に次いで、市場齋正の爲に乗出したのは左の十七本舗であつた。

- 御園化粧品本舗
- るづゝ油本舗
- メヌマボマード本舗
- ラブミー化粧品本舗
- 花玉石 驗本舗
- クラブ化粧品本舗
- ウテナ化粧品本舗
- ミツワ石鹼本舗
- ビタオール本舗
- ライオン齒磨本舗
- オリヂナル本舗
- ヘチマコロン本舗
- 資生堂化粧品本舗
- マスター化粧品本舗
- レイト化粧品本舗
- 美顔化粧品本舗
- 仁丹齒磨本舗

此の十七本舗の結束は、もとゞ東京化粧品卸商研究會が、市場齋正の必要を痛感して起ち、會つて、商業組合の統制に参加された十七本舗に呼びかけ、その眞意に聽いて業界の現状打破を策す可く九月二十五日、組合事務所懇談會を開いてその重大決意を披瀝した處、本舗側もまた販賣市場の齋正に關しては、業界の正しき進歩の上からも、全然同感の旨を述べ、完全に相互の意見の一致を見るに至つた。是に於いてか本舗側としては卸商側の主張に對しては、能ふ限りの援

東京市の業界品

産業別 及 經營組織別	業態別營業所數										資本金額
	總數	卸			小賣			卸小賣			
		總數	卸業者	製造修繕業者	總數	小賣業者	製造修繕業者	總數	卸業者	小賣業者	
小洋物類 （總數） （法人） （個人）	2.884	841	472	369	1.862	1.490	372	181	78	103	31,853.509
	155	105	50	55	44	36	8	6	2	4	4,339.966
	2.729	736	422	314	1.818	1.454	364	175	76	99	27,513.543
染類・化粧品・化粧品類 （總數） （法人） （個人）	3.013	551	362	189	2.001	1.823	178	461	302	159	93,565.126
	264	167	92	75	26	15	11	71	32	39	64,940.437
	2.749	384	270	114	1.975	1.808	167	390	270	120	28,624.689

助を惜まざるは勿論なるも、市場の肅正はたゞ單に卸商側の運動にのみ委す可きに非ず、本舖側としてもまた独自の立場から、之れに善處するの必要ありとの見地から、先づ本舖の結束を固め、苟くも市場の肅正に關する限りは、萬難を排して努力す可きを約すると同時に、左の宣言を決議して強硬なるその決意を業界に發表するに至つた。

宣言

下名等は業界現下の情況に鑑み、爾今各種製品の正統なる經路による採算に合致せざる如き價格にて濫賣するものありたる時は、相互の利益擁護の爲め、一致して警告を發し尙ほ改めざる時は、送荷停止、その他適宜の處置を講ず可し。右宣言す。

昭和九年九月 日

商業組合解消後の 帝都販賣界

東京化粧品卸商業組合の解消後に於ける帝都販賣界の動向に、多大の關心を有せる業界人の、ひとしく考へてみた處の問題は、「その後に来るものは何であるか」にあつた。殊に怖れられたのは、統制嚴守の鐵則から解放されたその反動として、卸業界は或ひは非常な混亂に陥るのではないかと言ふ、その一事であつた。六月四日、遂ひに最後の日が來た。統制の即時中止とともに組合の解散決議にまでも突き進むの外なきまでに、情勢は

緊迫して居る。統制實施後僅かに十ヶ月を出でずして、早くも此の悲しむ可き運命に直面しようとは、殆ど想像されなかつた處ではあり、事ここに至るまでには何等かの補強工作が施されなかつたものかとの説さへ起つたのは、無理もない處であるが、切迫した業界の實情は、生優しい手段方法を以つてしては、到底匡救の餘地はあり得なかつたのである。かくて總會は、一路、解散へと進みはしたものの、人々の胸には明日からの業界に對する不安が、鉛のやうに重くもるしく感ぜられたのであつた。

解消の波紋は全業界をその渦中に捲入れた。その當時幾多のデマは飛び、また實際に何等かの暗躍を試みやうとしたものも、幾人かはあつたらしい。然しその當座の業界は、宛がら深淵の静けさにも似た底氣味の悪い沈靜さを保ち、何等表面的に現はれたといふものはなかつた。それはその輕舉から來る破綻を怖れて、暫らく待機の姿勢にあると言つたやうな形ちであり、烈しい競争激化の徴候は、何處にも見られなかつた。

一方、本舖側では個人特賣のトップを切つたものにレイトがあり、六月中、七組の特賣を一齊に發表して積極政策への一大轉向に、鮮かな意氣を示したのをはじめ、クラブが特定品販賣會社を東京に創立して大販賣網の確立に乗出した如きは、正に業界の刮目に値ひする處であつた。尤もクラブの計畫は、可成り以前か

ら秘められてあつた腹案らしいが、統制解消とともに、その實現に絶好の機會を見つけて市場擴大運動に、その先手を打つたものであるといふ觀測が瀕りに行はれた。

かくの如く、一時その歸趨に迷ひつゝあつた業界の動向も、今や漸く明白になりかけるに隨ひ、漸く靜觀の山を下つて積極への一路に立つことが、業界の情勢に策應する最善の方策を考へらるゝに至つた。だが然し販賣界としては、必らずしも豫想されたやうな白刃亂下には陥らなかつたと思はれる。當時當業者中には「動くものは動け、その動くうちに弱小業者は將棋倒しにばた／＼と倒れ、強いもののみが残るとすれば、寧ろこれ業界の淨化であり、堅實化である、組合解消の意義が始めて生きて來る」といふ説をなした人もあつた程である。兎に角、此の苦難は獨り問屋業者のみの問題ではなくして、本舖としてもその對策に慘澹たる苦心を拂つた處であつた。隨つて堅實を尊び、信用を重しとする主力問屋や本舖は、深く相戒めて動かず、つとめてその自製を固くした。それによつて業界の波瀾も、漸く平靜に歸するかも思はれたるにも拘らず、事實は全くこれに反して策動、常に絶えず、遂ひには商人として常軌を以て律することの出來ない無採算的な濫賣を爲すものが、頻りに跳梁し出した爲め、市場は漸次その安定を失ひ、本舖、問屋をして焦心苦慮、これが對策に日も維れ足らざるの感あらしめた。

昭和九年 販賣制度改正

昭和九年に於ける販賣界に於いてその取引制度の改正を行つたものには、次の諸本舗がある。先づ御園本舗伊東胡蝶園では、八年十二月一日より特約店取引制度の改正を行ひ、従来、一代理店に限られてゐたる特約店を一齊二十餘店に増加せるの外、久保田販賣部長の辭任に伴ひ、その後を襲へる北村新販賣部長の手により、従來の販賣店政策に多少の新味を加へるに至つた。

レイト本舗は、この年までの販賣政策を一變して、著しく積極的方針に進み、切の短縮に努め、業界の悪弊を打破して進まむとする生々潑刺たる活躍ぶりを示した。美顔本舗桃谷順天館は、七月一日より明色化粧品並びに美顔化粧品の取引制度改正を行ひ、新たに打券「ハッピーカード」及び相券「サービスマカード」の新提供を行ひ、新たな販賣店優待の方法を設定した。

ライオン會規約改正

ライオン齒磨、ライオン齒刷牙の御店で毎年一千圓以上の本舗と直接取引を有する東京化粧品卸商業組合員を以て組織する東京ライオン會では、その規約の一部改訂を行ひ、一月十日より實施。規約改正の要點は、商業組合の結成により、舊化粧品卸商同盟會を商業組合と改めたること、會の存続期間を更らに三ヶ年

延長、従つて理事の任期も延長したることの三點である。一月十日

ライオンの特利券

ライオン齒磨本舗小林商店では、従來特賣大券並びに賣上増進券の二種の景品券を發行し來つたが、この規定は聊か複雑に互り、取扱上煩瑣なる虞れもあるもので、これを廢止したる上、新たに一層内容の充實した「ライオン特利券」の規定を新設、これを業界に發表した。二月十日

その規定は、ライオン齒磨、齒刷牙、昭和九年度自昭和八年十一月二十一日至昭和九年十一月二十日買上高金五百圓毎に一枚を贈呈し、抽籤により、特利券一萬六千本に對し、一等一百圓一百本、二等五十圓二百本、三等二十圓三百本、等外七圓幾全部以上の景品を進呈する新制度である。

名古屋の價格統制

名古屋化粧品卸商業組合では、その統制規定を昭和九年一月三十日を以て認可、三月一日より商業組合法による販賣統制を實施した。三月一日

クラブ全國大會

クラブ化粧品全國中堅代理店會議は、四月二十一、二の兩日、大阪中の島中央公會堂にその第四回の協議大會を開いた。會するもの五百、クラブ本舗が現下の經濟的情勢に鑑み、眞に業界の實情に即せる新販賣方針の確立を目指して、久しくその研究を續けてゐた。「クラブ式新陽級販賣系統」に關する諸制度の最後の完成への會議であるといふ點に於いて

製造、販賣界よりは多大の興味をもたれてゐたものであつた。試みに第一日及び第二日に互つて審議せられた議題を擧ぐれば

- 一、陽級クラブ商品配給制度に關する件
- 二、支拂制度に關する件
- 三、特賣制度に關する件
- 四、即引割戻制度に關する件
- 五、特別感謝券制度に關する件
- 六、運賃制度に關する件
- 七、値段保護制度に關する件
- 八、正しき利益の累加方法たる優待制度とその資格喪失に關する件
- 九、太平洋會共榮クラブ會の機能發揮に關する件
- 一〇、値段の徹底的實施に伴ふ本舗、代理店協力に關する件
- 一一、特別協議事項
- 一二、同

以上十二項。今一々その内容を検討するの邊を有しないけれども、總ては是れ製造、販賣、需要三者の相互利益を確保助長す可しといふ信念の下に討議せられたものだけに、業界の共存共榮に資せむとする製造、販賣兩者協力の精神は、左の宣言によつても明白に窺はれるであらう。

宣言

茲に第四回クラブ化粧品全國中堅代理店協議大會を開きクラブ式陽級販賣系統を根幹とし商品配給制度、責任販賣及び責任支拂制度、特賣制度、即引割戻及び特別感謝券制度、運賃制度、値段保護及び團體表規定をはじめ、正業繁榮を基調とせる正しき利益累加方法の優待諸制度に關し慎重協議を遂げ、更ら

に特定品専門配給機關の設置並びに大區域一手販賣會社の設立案等、執れも滿場一致可決確定するに至れり。仍てわれ等全國中堅代理店一同は、本大會に於ける決議の趣旨を體しクラブ式新陽級販賣系統を遵守し製販兩者協力一致、益々純健なる結束の下に、消費大衆の便益に資するとともに、優良國産化粧品の推廣擴賣に渾身の努力を捧げ以て業者相互の繁榮と國家産業の隆昌に貢獻せむことを期す。右宣言す。

昭和九年四月二十二日

尙、その新制度は七月一日より一齊に實施された。

ライオン制度改正

ライオン齒磨本舗小林商店では、ライオン齒磨の値段改正を行ふと同時に、販賣制度の一部改正を發表した。六月一日

クラブ特定品會社

クラブ本舗中山太陽堂では、陽級及び堂級製品の外に、大東京共榮クラブ會の特選品たる特定品を製造し、大東京共榮クラブ會員たる特定小賣店に限り、チェーンストア式に販賣せしめることを目的として、クラブ特定品東京販賣株式會社を設立した。この會社はクラブ本舗幹部並びに有力御店三十名を株主とするもので、一株二十圓、全額拂込済、資本金五萬圓の株式會社である。二月二十三日創立總會開催。

クラブ本舗中山太陽堂では、クラブ特定品販賣會社を設立して、販賣界に一石を投じた。アヅキ洗粉本舗藤村一誠堂でもその取引建値の改正を十一月發表する等、販賣界も大小の問題相次ぎ頗る多事であつた。

油外貿易 油外業界

“業界日本”の海外進出

世界の市場を行く商品日本の氾濫は、正しくは是れ産業日本の輝き姿であり、力である。力の満つる處、外に溢るゝは自然の勢ひであつて見れば、近代日本の有つその産業威力が、奔流の勢ひを以て内から外に向ふのは理の當然である。況や爲替安の經濟現象は、その勢ひを導くに最も明朗なる潮流を與へたのである。何れから見ても、その條件は既に間然する處がない。然るに是れに恐怖を抱ける世界の各國は、宛がら相競ふが如くその關稅障壁を高め、市場の扉を固うして日本商品の流入を防遏せむとして焦心慘憺たるの風にあるは、自から守るが爲とは言ひながら、有無相通するの經濟原則を無視せる、暴戾な、而して稚拙な方法とよりしか言へないのである。然も日本商品はそれ等の障碍をも意とせずに、幾多の難關を飛越え、劔越えてその躍進を續け、向ふ可き處には向ひ、行く可き處には行き盡して居る。洵や良品廉價は商人の生命であり、商品販賣市場に於ける動かし難き鐵則であることは、此の事實の前に何等の説明をも必要としないであらう。それにつけても、われ等の考へるものは、業界品の販路を擴大してその市場を海外に求め、業界の局面一轉大いに世界に向つて業界日本の勢威を示すの機會は、實に今を措いて再び来る可しと思はれないと言ふ一事である。絶好のチャンス、容易に掴み難いその幸運が寸前にまで近づいて居る今日、何等の躊躇する處もなく、業界人の立上る可き秋は、正に此時を外にしてはないと思はれる。勿論在來と雖も、業界品の海外輸出は、絶無であつたわけではない。然も近年に於いては當然跳躍の跡が歴々として認められるけれども、その貿易統計に現はれた處のものは、必らずしも驚異に値ひする程のものではなくして昭和七年度に於ける輸出は一七、二〇、四八三圓に過ぎざるは、わが業界の

生産力を以てしては決して誇る可き數字ではあるまい。然るに驟つて現時に於ける内地市場の狀勢を見るに、勿論内外に於ける經濟諸相の深刻な影響もあるにはあるけれども、業界の不振は殆どその極に達せるかの如く、是れに伴ふ生産及び取引機構の缺陷ととも市場の統制を失ひ、動もすれば混亂誘發の徴さへある。業界の爲めに深憂を植ゆるもの、恐らく此の外に出づるものはない。

是に於いてか今や全業界を擧げての最大關心事は、一に業界の難局打開の道、何れにありやの問題に外ならないのである。われ等をして言はしむれば、ただ一語曰く「叩けよ開かれむ」と。而して道は近きにあり、是れを求めてその新市場を海外に獲得するに於いては、業界は正に一石二鳥の効果を擧げ得るに間違ひはないのである。海外市場の開拓は固より容易の業ではあるまい。況や各國とも日本品の締出しに日も維れ足らざるの時、其處に多くの苦心を要するであらうけれども、苦心は一時、市場の生命は永遠である。故に多少の犠牲は覺悟の前として勇敢なるその進軍を續けるに於いて、新販路の開かるゝととも自から内地市場の緩和が行はれるのであるから、無用の競争も當然その終熄を見、業界は初めて共倒れの運命から脱し得るに至るであらうことと思はれる。殊にその心強しとする處は、進歩せるその製造技術に於いて、又その優越せる生産機能に於いて大量安價の良品を得ることに難しとしない點にあるから、業界品をして各國の市場に進出せしめ、その信用を確保することも、さまで難事ではあるまいと思はれる。百の議論よりも一の實行業界の共存共榮の道は此處にあり、昭和十年に於ける業界の新課題として「海外躍進」の一大計畫を提案する所以である――。

歐米の業界大觀

歐米の香粧品界

恐らくシツクな點に於いて、斷然全商品中での女王であらう處の香粧品に就いて、暫らく歐米諸國に於けるその業界瞥見を試みて見よう。

1. 佛蘭西

香水乃至化粧品と言へば、直ちにフランスを聯想する程、然かく香粧品界に於けるフランスは古き傳統とまた經驗に輝いてゐる。就中、香水の場合に於いては、何としてもフランスに第一指を屈せねばなるまい。品質の優良、容器のスマートさ、等々に於いて、斷じて他國品の追隨を許さぬものあることを認識せねばならない。

かくてフランスの斯界、寔に多士僭々の壯觀を呈しつゝあるのであるが、中にもウビガン Honbigan、コティ Coty、ゲラン Guerlain、カロン Caron、ローシエ・H・ガッ Roger et Gallet、ミル Millet、ドルセイ D'Orsay 等の諸社は、先づその代表的なものでとりわけコティ、ウビガン、ゲラン等は今や三尺童子なほよくそれを知ると云つた風にポピュラーな存在となり了つた。又、最近は大分巴里の衣裳店で香水界に進出するものが多くなり、ウオルト Worth、ランヴァン Lanvin、ランテリック Lenthelic、モリノー Molyneux 等特に有名である。その他、シヤン・パトウ Jean Patou、シヤネル Chanel、リニシエン・ルロン Lucien Lelong 等も等しく衣裳店から斯界に進出し來つた諸社である。

以上諸社の代表的香水を擧げてみるならば、先づコティではロリガン L'Origan、パリ Paris、エメロ

ード Emerald 等、同社獨特の繊細な瓶型と温雅な香風とで全く日本人向きとして多くの愛好者を有ち、又最近には日本を幻想したところのスマ Sunma や、東洋趣味横溢のラ・フージュレ・オウ・クレピユキユル La Fongerie au crepuscule 等の新香水も出現した。それからウビガンでは、古くから著名なケルク・ブラー Queiques fleurs、ローヤル・シクラマン Royal Cydramen 等、妖美甘麗な香風を以て最も愛好され、また最近オー・マタン Au Matin、マチネート Etude、フエステイヴァル Festival 等を發賣して好評を博しつゝある。ゲランは、いともクラシツクな意匠と香風とで又古くから知られ、ミツロ Mitsouko (サトウ、日本娘の名)、シヤルワー Shalimar、ローズ Rose、ルー・デ・ラ・ペー Rue de la Paix 等甚だ有名で、最近には豪華リネウ Lin が發賣された。

その他、ミヨでは、多分に異國的な濃麗さを有つたレーン・ド・シエム Crêpe de Chine が代表的なもので、ランヴァンでは新らしき輸入ながらスキヤンダル Scandal が最も有名で、他にマイ・シン My Sin、アルベシム Arpège 等がある。キヤロンには、世界的有名品ニムニ・デ・ノエル Nuit de Noël を始め黒水仙 Noeisse noir 及び白水仙 Noeisse Blanc、ネイメ・ク・ポア N'aimiez que moi 等の錚々たる、又變り香タバ・ブロン Tabac Blond があるものと特筆をせよ。ヤン・パトウは、最近わが國に紹介されたものであるが、香水のカクテル、即ちそれによつて個性の香風をシクリエートするといふ現今の流行に迎へられて頗る好評を博し、特にカクテル Cocktail は素晴らしい人氣がある。その他、ブルー・パトウ Bleu Patou、ルウシユ・パトウ Rouge Patou、ル・シエン・レシエン・ルオン・シユン・モーメント Moment Supreme、ランウイタシオン L'Invitation 等がある。又、特色ある會社にリユシアン・ルロンがある。元來が衣裳創案家である同社主は、從來試みられなかつた ABCJLN 等の諸

海外出張商工會議所一覽

北米合衆國

- Chamber of Commerce of the U. S. A., Mills Bldg., Washington, D. C., U. S. A.
- Washington Chamber of Commerce, 318 Homer Bldg., Washington D. C., U.S.A.
- Chamber of Commerce of the State of New York, 65 Liberty Street, New York City, U. S. A.
- The Merchants Association of New York, 233 Broadway, New York City, U. S. A.
- Chamber of Commerce, Dor. 12th & Walnut St., Philadelphia, Pa., U. S. A.
- Boston Chamber of Commerce, 80 Federal Street, Boston, Mass., U. S. A.
- The Chicago Association of Commerce, 10 La Salle Street, Chicago, Ill., U. S. A.
- St. Louis Chamber of Commerce, St. Louis, Mo., Missouri, U. S. A.
- New Orleans Association of Commerce, New Orleans, La., U. S. A.
- Seattle Chamber of Commerce, Seattle, Wash., U. S. A.
- San Francisco Chamber of Commerce, Merchants Exchange Bldg., San Francisco, Calif., U. S. A.
- Los Angeles Chamber of Commerce, Los Angeles, Calif., U. S. A.
- Philadelphia Commercial Museum, 34th Street below Spruce, Philadelphia, Pa., U. S. A.

カナダ

記號を自家製品に附して發賣、その香水に最もふさはしき服裝の明快な説明を與へてゐる。即ち、Aはアウト・ドアの香水でトキード服によく、Cはシホン地の軽い衣服用でイントマンシの香水、Jはジヤスミン系統で強烈にアツピイルする……と云つた具合に。

なほ諸社の有名品を列記すれば、モリノのニユメロ・サンク No.5 やフェート Fête、シヤネルのガルダニア Gardania、ウオルトのダン・ラ・ニナイ Dans Is Nuit、ウエル・ラ・シニール Vers la Jour、サン・アディウ Sons Adieu、ランテリツクのイラジヤ Maharajah、シヤルダン・ニテ Jardin d'Été 等、却々に有名である。

その他、フランスにはなほブルジョア Bouffoi、チエラミイ Cherramy、グレンヴィエ Grenoble、ワイエル Weil (これは元毛皮店で、製品には一切毛皮の名を冠してゐる。例へば Chinchilla-Royal、Zibeline、Hermine など) ルンバイン Rubin、ブノーピナウ、ゲルティググディ、ガブリア Gabilla、ユウエピヤ、イサベイ Isabe、オタオタ、フランス・マテヤ、ハリ Prince Marchebell、フレール Frères 等の有力者が雲の如くあり、寔に同國における香粧品界は世界冠絶の豪華を極めつゝある。で、香水以外の種々な化粧品にしても、わが國には少からず輸入されてゐるのである。

2. 獨 英 米

以上、餘りに多くの紙白をフランスの分にとり過ぎた。が、少くも香粧品を語る以上、それは不可避の成行であらう。で、續いて獨英米の項に移る。

先づドイツに於ける有名社としては、フェルチナン・ド・シユル(シユル Ferd. Mulhens (通稱 4711))、シユルク Scherk、ウルフ Wolff、ガスタヴ・ローゼ Gustav Lohse、ゲオルグ・ドラレ George Dralle、ハイエルス・ドルフ Beiers Df、ムーソン Mouson、リ

ンゲル・ウエルケ Linger Werke 等がある。で、各口に就いては既に多くを述べた。まもなくオーデコロンを以て餘りに有名であり、シユルクはフランスに一籌を輸するドイツ香水界に獨り萬丈の氣を吐く概があつて、却々優秀な製品を世に送りつゝある。

ウルフは、可成り古くからわが國にも輸入されてゐるが、カンタマゼリーといふ整美料や、カンタマ及びミルピルス石鹼等は能く知られてゐる。又、ガスタヴ・ローゼの石鹼類は、以前はよく輸入されてゐたものだが、今は餘り市中にその姿を見ない。ゲオルグ・ドラレは、またドイツ有数の大社であつて、香水を始め種々の製品があるが、現在わが國に在つては口紅、ホイード、チツク、オーデコロン、ローション等が廣く愛用され、特にビルケンワッサーは頭髮養毛劑として著名である。

ハイエルス・ドルフは、ニビアなる名稱の下に、そのクリームは正に世界的有名品である。又、ニビア煉白粉はわが花柳界方面に非常な愛用者を有ち、品質、芳香ともに優秀な製品であり、そのほかペレコ齒磨も有名である。ムーソンは、クリーム等以前は大いに輸入されたものだったが、現在では餘り輸入されてゐない。それから、リンゲル・ウエルケは、オドルと稱する水齒磨、煉齒磨等で愛好者を有つてゐる。

次に、イギリスに於ける香粧品界は矢張りその國民性が製品の上にも反映して一般に進歩的色彩が少いやうに感じられるが、それはそれ、アトキンソン Atkinson、ヤードレー Yardley 等は著名なものである。前社に在つては香水、後社に在つてはポマードが、最も有名である。

その他、エラスミツク Erasmus 及びギブス Gibbs の兩社は齒磨で有名であり、モーニー Morny は水白粉、カルヴァート Calvert はカーボリツク齒磨の製造社として名を成してゐる。又、ピアース Pears は石鹼製造の古き歴史を有つ世界的著名な會社である。なほ

Canadian Chamber of Commerce,

Montreal, Canada.

Canadian Manufacturers' Association,

Toronto, Canada.

Board of Trade,

Vancouver, Canada.

Board of Trade and Chambre de Commerce de

Quebec,

Quebec, Canada.

ニウヰーランド

Chamber of Commerce,

17 Swanson St., Auckland, New Zealand.

フィリピン

Chamber of Commerce of the Philippine Islands,

12 Escobita St., Manila, P. I.

Manila Chamber of Commerce,

P. O. Box 939, 26 Plaza Cervantes, Manila, P. I.

Honolulu Chamber of Commerce,

Hawaii, Honolulu.

キヤタ

Camara de Comercio, Industria e Navigation de

de la Isla de Cuba,

Havana, Cuba.

メキシコ

Confederation de Camaras Industriales de Los

Estados Unidos Mexicanos,

Apartado, 189, Mexico City, Mexico.

アルゼンチン

Bolsa de Comercio de Buenos Aires,

Buenos Aires, Argentina.

ペルー

Camara de Comercio de Lima,

Lima, Peru.

チリ

石鹼と書いた序に、こゝで一寸つけ加へて置くが、スペイン、ミルヒア Myrurgia 社の製品では、矢張り石鹼が最も有名で、それは時折わが國にも輸入されて好評をかち得てゐる。

さて、最後にアメリカである。

アメリカには、香水よりも香水以外の化粧品で有名な有力な會社が多數ある。特にクリームは米國品が冠絶するといふ定評がある位、兎も角フランスが「香水の國」であるとしたら、こゝアメリカは「化粧品」の國である。で、アメリカ婦人の化粧品使用高は年額二百十五億餘弗に上り、その廣告料のみでも十億弗を超えるものと見られ、そしてクリーム、白粉、浴用鹽、ローション、紅、齒磨等の化粧品輸出高は、最近年額約千三百萬弗に達するといふのだから、正に素晴らしいものがあると謂はう。

その主要各社について概言すれば、先づリチヤード・ハドナット Richard Hudnut は、アメリカの高級化粧品製造會社として知られ、紐育市に高燥實に入階建の大工場を有し、眞に潑刺たる營業振を示してゐるがわが國にもスリー・フラワー、マーベラス、デヴァーイ等の名稱を冠するクリーム、その他の製品が多數輸入されてゐる。又、ミツチエール Michel の口紅は非常に愛好者を有つてをり、トレンジヤール Trefur はロマンク、クリーム等で頗る有名である。それからポンピアン Pompien はクリームに名高く、先づ米國物としては一番早くからわが國にも一般的に知られてゐる。その他、ウキリアム Williams 及びタルカム・マン Talcum Buff 二社のタルク、コルゲート Colgate の石鹼、ポンス Ponds のクリーム、ペンデント Pendant の齒磨、バーベゾール Barbasol のシエウイング、クリーム、ポター・ドラッグ Potter Drug の石鹼等、それ／＼に有名であり、更にウイルビス Wilbiss の香水吹、コーケン Koken の草紙、フェルチナンド・ホポキンスの水白粉等、また相當古くから知ら

れてゐる。

世界の化粧品界

フランス

フランスは、南部温暖な氣候に恵まれる關係上、天然香料、殊に高價なローズ、ジャスミン、ヴァイオレット、チュベローズ、レセダ等の花精香料を多く生産し、合成香料に在つては、英獨に一籌を輸するものがあるが、天然香料及び調合香料に於いては獨特の技能を有してゐる。従つて、これらを使用した化粧品も世界の最高基準に立つわけであるが、學術方面にては主として精油成分その他天然香料の研究が多いのである。で、例へばイオノンの如き天然香料を加工したものの、クマリン、ワニリン、その他幾多の高級アルデヒドの如き合成香料をも、多量に産出するのである。

次に、フランスの斯界主要社を擧げるならば、先づ南佛グラスに於ける Bruno Court S. A.、Compagnie Africaine Des Plantes A Parfumee P. Robertet & Co. Antoine Chris Bertrand Freres Lantier Filis Roure-Bertrand Filis & Justine Dupont J. Mero & Boyrean 等は、何れも天然香料の製造社であり、その他、パリ等に於ける Des Collonges Freres S. A. La Lavande Francaise Lopolad Laerson Societe de Usines Chemiques Rhone-Poulenc Arbert Verley Jean-Marie-Vial Fabriques de Laire の諸社は、多く人造香料を製造してゐる。

ドイツ

ドイツに於ける天然香料は全部熱帯地方から輸入してゐるが、有機化學の王者を以て任するドイツの特徴は、當然合成香料に在る。で今日、他國の追従を許さぬものに合成ワニリン並びに合成樟腦がある。前者は

Chamber of Commerce of Chile,

Santiago, Chile.

ヴェネズエラ

Camara de Comercio de Caracas,

Caracas, Venezuela,

ブラジル

Associacao Commercial do Rio de Janeiro,

Palacio de Comercio, Rio de Janeiro, Brasil.

エクアドル

Camara de Comercio y Agricultura,

Guayaquil, Ecuador.

中華民國

Shanghai General Chamber of Commerce,

Shanghai, China.

Hongkong General Chamber of Commerce,

Hongkong China.

Association of Chambers of Commerce in China

& Hongkong.

No. 1, Bund, Shanghai, China.

タイ

Bangkok Board of Commercial Development of

the Dept. of Commerce,

印 暹

Indian Merchants' Chamber,

50 Marwari Bazar, Bombay, India.

Associated Chamber of Commerce of India and

Ceylon,

Calcutta, India.

Mysore Chamber of Commerce,

Bangalore, India.

The Baroda Mill Owners' Association,

Gadiali Pole, Baroda, India.

Ceylon Chamber of Commerce,

Colombo, Ceylon, India.

コールド系のアヤニールを原料とするもので、イギリスの丁字油原料ワニリンを最早完全に打倒し去り、後者は最近ドイツ以外の諸國に於いても企業されつゝあるが、未だドイツの生産には比肩し得べくもない。で、ドイツの香料研究が他の有機化學とスクラムを組んで、斷然世界に冠絶せるものであることは、敢て多くを述ぶるに當るまい。

Agfa Riechstofe, Schimmel & Co., A. G. 及び Heine & Co. は合成香料の製造を主とし、別に草本から得る天然香料の抽出加工をも行つてゐる。わけて Schimmel 及び Heine 二社の如きは、彼の南佛と趣を異にし、全く氣候冷凍なる瘦地であるにも拘らず、會社の近くに廣き畑地をつくつてローズ、ジャスミン、バイオレット等の花香油製出をなしてゐること、蓋し流石はドイツ！と言ひたい感があるではないか。

イギリス

イギリスもドイツと並んで世界屈指の香料工業國である。國內に薄荷、ラベンダー油等を生産する以外、今日の香料植物の大部分を産出する熱帶地方に廣汎な領土を有する國柄だけに、天然香料の採取精製、更に安價な天然香料を原料とする高級香料の合成等、斯工業は全く隆盛を極め、従つて香料に關する學術的研究も擧げなき。

ロンドンに於ける W. J. Buch & Co., Ltd. 及び Stafford Alens & Sons, Ltd 等はペンシメント、オリスルート等の天然及び一般合成香料や果實芳香油を製造してゐるが、その規模に於いては未だ他國に比肩し得ない。その他、同國內に於ける著名なものを擧げれば Essence & Synthetics, Ltd., Holland's Distillery, Ltd., Potter & Clarke, Ltd., Standard Synthetics, Ltd., Stevenson & Howell, Ltd., Chas. Zimmernann & Co., Ltd., Dubuis & Rowsell, Ltd., Whiffen & Sons, Ltd. 等の各社がある。

海外貿易海外業界

アメリカ

アメリカには、概して香料の如きフアイン・ケミカルス工業は發達してゐない。爲めに、大部分の香料は歐洲から輸入してゐる状態で、只、天然香料として薄荷、柑橘油、サツサフランス油、冬線油等の生産があるが、特に顯著なものとしてはない。また、學術方面も比較的貧弱であると謂へる。

ニウヨークに於ける Dodge & Oleott Co. Felton Chemical Co. Inc. Magnus, Marbee & Reynard, Ide. 及びシシガンに於ける A. M. Todo Co. 等先づ主要製造社であらう。

イタリー

イタリーは、レモン油、オレンジ油、ベルガモット油、ネロリ油等柑橘油の世界的供給國で、學術方面にもこれらの柑橘油を取扱つたものが多し。

メシナに於ける Baller Essential Oils Ltd., Fratelli De Pasquale & Co., Citrus Oils Co., W. Sanderson & Sons 及びミラン並びにベルレモに於ける Compagnia Italiana Fabbriche Acid Citrico 等が主要社である。

スウエーデン

スウエーデンは、小國ながら知らざるに化學工業國である。現に一九三三年初頭に於いて、同國の化學工業株式會社数は三五九で、全公稱資本は二一、一、六〇〇、〇〇〇（佛國）フランで、その他になほ七つの人絹會社があり、その資本額は二七、〇〇〇、〇〇〇フランであった。

斯業に於ける主要な企業は Usines De J'Allo-ndon, S. A. L. Giraudan & Co. 及び本社社名不明の M. Naeef & Co., Ltd. の 2 社と Chemical Works Flora Th. Muhlethaler,

東印度

Singapore Chamber of Commerce,

Chartered Bank Chambers, Singapore, East Indies.

Penang Chamber of Commerce,

Downing Street, Penang, East Indies.

印度支那

Chambre de Commerce de Saigon,

Saigon, French Indo-China.

Chambre de Commerce de Hanoi,

Hanoi, French Indo-China.

Chambre de Commerce de Haiphong,

Haiphong, Indo-China.

蘭領印度

Commercial Association of Sourabaya,

Sourabaya, Java.

Chamber of Commerce and Industry,

Batavia, Java.

Meran Chamber of Commerce,

Medan, Sumatra.

亞弗利加

Capetown Chamber of Commerce, Inc.,

Capetown, South Africa.

Chambre de Commerce de Dakar,

Dakar Senegal, Africa.

エジプト

Egyptian Chamber of Commerce,

Alexandria, Egypt.

Chamber of Commerce of Cairo,

4 Rue Cohari, Cairo, Egypt.

オーストラリア

Sydney Chamber of Commerce,

Sydney, N. S. W., Australia.

Melbourne Chamber of Commerce,

工業化學業社會業種別分類			
業種	社数	資本額	單位百萬フラン
重化學工業	二一	二七、〇	
電氣化學工業	二一	六一、五	
染料工業	九二	六七、一	
石鹼裝飾品	四六	一一、七	
化學工業製品	一四六	二四、九	
及顔料	一四	四、〇	
爆發物、可燃物	二	五、五	
セルロイド	一	六、六	
リノリウム	一	三、二六	
その他	一六		

S. A. Volkart Brothers 等があつて、ムスク初め多量の合成香料を生産し、わが國への輸出も尠くない。

中華民國

支那は、古くから有数の香料産地として知られてゐる。靈猫香、麝香の如き特異の動物性芳香原料に於いては、現在でもなほ世界有数の生産地である。元來、香といふものに對しては頗る趣味を有つ國民であるだけ、その莫大な量を消費する。單に祝典に際して香木をたき、香脂を燻ずるといふに留らず、家庭にも遊びにも、さては料理にまでも香を入れるのである。特にこの民族の珍重するのは媚薬の類であつて、龍涎香、麝香、阿片に混じた大麻の花、又は一層強烈な物質に大麻の花を混じたものなどを特殊の秘法を以て用ひたりするのである。

その他

なほ最後に、その他の諸國における主要製造會社を列挙するならば、
オランダに於ける N. V. Chemische Fabriek

Naarden Polak & Schwarz Polak's Frital Works
H. Raab & Co. A. Maschmiger J. R. ケーメント
リアに於ける Ernst Fritler Latschenol-Brennerei
Bruder Unterweger オーストリアに於ける Plaimar, Ltd. ブルガリアに於ける Union Generale Des Cooperatives Agricoles P. K. Shirkoff & Co. 或ひは印度マインールに於ける Tatgundi Linaloe Plantation. 等、先づ主要なもののみを挙ぐ。

世界の石鹼工業

石鹼や砂糖の消費量はその國の文化の尺度を示すものだといはれてゐるが、歐洲大戰前の世界各國の石鹼消費量は、一人當り

米	一、一、〇斤
獨逸	一、〇、〇〃
英	八、八〃
伊太利	五、三〃
ロシア	一、二〃
日本	〇、四〃

以上の如しとされてゐた。然し今の状態では餘程變つてゐるらしく、昭和九年の外國石鹼雜誌によると、英國が斷然世界石鹼消費のトップを切つたと記して居る。日本の消費量も大戰後には一、五斤が一人當りの消費量とされてゐるが、その後又爲替相場の關係で輸出が増え、生産高も増してゐるから統計上の一人當りの數字はもつと増加してゐるに違ひない。

アメリカ

米國は今迄は世界一の石鹼消費國で、小賣値で一年間に二億七千萬弗を消費する外、商工業、汽車、汽船用等に三千萬弗消費するから一年約三億萬弗を使つてゐる。これは一家が一日三仙の石鹼を使ふことにならる。一般國民が衛生思想の進んでゐることも此數字の

- 35-43 William St., Melbourne, Victoria, Australia.
- Chambre de Commerce et d'Industrie de Constantinople,
- Quatriene Varif Han, Bagtche Capou, Constantinople, Turkey.
- 英國
 - The London Chamber of Commerce, Inc., 97 Cannon St., London, E. C. 4, England
 - Manchester Chamber of Commerce,
 - Ship Canal House, King Street, Manchester, England.
 - Liverpool Chamber of Commerce,
 - Liverpool, England.
 - Edinburgh Chamber of Commerce & Manufacturers,
 - 25 Charlotte Sq., Edinburgh, Scotland, Great Britain.
 - Birmingham Chamber of Commerce,
 - 95 New Street, Birmingham, England.
 - Association of British Chambers of Commerce, 14 Queen Anns Gate, Westminster, London, England.
 - The Association of British Chemical Manufacturers,
 - 166 Piccadilly London W. I., England.
 - Association of Chambers of Commerce of the Free State,
 - Dublin, Ireland.
- 佛國
 - Chamber de Commerce de Paris,
 - 2 Place la Bourse, Paris, France.
 - Chamber de Commerce de Lyon,

原因であるが、クリーンリネス、インスチテュートなどいふ團體が、石鹼業者の支持を得て、公衆衛生局、保健團體などの後援で、學校、工場、團體等に清潔運動、清淨教育等をやつて盛に石鹼を使ふことを衛生上の立場から鼓吹してゐることも預つて力がある。米國の石鹼輸出額も相當に多い。統計は少し古いが、その輸出額は左の如く年々減少の傾向にある。

目品	一九二六年	一九二七年	一九二八年
洗濯	四、一九、六七五	三、八七、九九九	三、三六、八二九
化粧	三、〇七、七五五	二、〇一、五七六	二、一九、八九四
その他	一、四四、五六〇	一、八三、一五三	八六、七五八
合計	八、五二、〇三三	七、八三、七三〇	六、五三、四八一

これはお得意先のラテン・アメリカ等の國內産業が盛になつて、石鹼も自給自足するやうになつたからである。お得意先としてフリッツピンが第一に多いが、それは量に於いて第一で質は悪いものが多い爲金額としては、第四位となつてゐる。輸入は約百萬弗で、英國及佛國から主に入るので九〇%を占めて居る。アメリカ人でも舶來品がお好きなのである。製造家の主なものは、

プロクター・ギャンブル會社	資本金 一億三千八百萬弗
コルゲート・パーモリアビット會社	六千二百萬弗
カークマン石鹼會社	洗濯石鹼
リパブラザースの支社	

等が最も優勢である。就中プロクター・ギャンブル會社は資本金でも見らるゝやうに米國第一の大會社で、石鹼の原料市場はこの會社の取引で値段を左右されるといつた状態である。第二位のコルゲート、パーモリアビットですら半分の資本金であるから、他は推して知る可しである。面白いことには、このコルゲート・パーモリアビットといふのでさへも、實は第一位のプロクターに市場を左右されることに耐へ兼ねて、結束した會社なのである。即ち名の示す通り、始めはパ

ーモリアビットの二會社が合併し、次いでアメリカで一番古い歴史のあるコルゲート會社と合併したのである。第一位のプロクターは各地に支店と工場を持ち、従業員に對する待遇は實に徹底したもので職工達に株を分け、工場委員制度で發言權を許し、働くものには永久の仕事に約束するなど、この本工場のあるシンシナテの町のアイボリーデールは「失業のない町」として知られてゐる。不景氣の最中一九三〇年頃でも賣上は二億一千〇六十萬弗で、前年度より一千九百萬弗を増加し、昨年などはアイボリー石鹼の懸賞賣出して自動車を買入れたりしてゐるのでうんと又増加してゐることであらう。

廣告にも、従つて非常に努力してゐる。私の在米當時一九二八年頃の雜誌廣告でも石鹼だけでなく色々の他の商品を比較しても、このアイボリーに及ぶものになかつた。即ち雜誌廣告費二、七〇〇、〇〇〇弗でこの年の賣上高が一九一、七七六、九七八弗である。賣上に對して僅か一・五%の雜誌廣告費となる。因みに第二、第三の商品を比較すると、

プロクター	廣告費	賣上高	%
プロクター	二、七〇〇 千弗	一九一、七七六 千弗	一・五
ホスタム會社	二、五〇〇	五七、三六二	二・七
ラムバート化粧品會社	一、五〇〇	三、八三三	四・二
フエツシヤーマン會社	一、一〇〇	六、六六六	八・二
イースト			
セネラル・エレクトリック	一、一〇〇	三三、六〇五	〇・三
ウエリス・オーバランド	三〇〇	一三、二一〇	〇・二

これらの數字は日本の石鹼廣告界にも多くの暗示を與へると思ふ。

米國の著名石鹼は

化粧用としては

コルゲート	一個	十仙
パーモリア	〃	十仙
ラックモリス	〃	十仙
アイボリー	〃	五仙 家用

Lyons, France.

Chambre de Commerce de Marseilles,

Marseilles, France.

Chamber de Commerce Franco-Asiatique,

97, Rue Saint-Lazare, Paris (9e), France.

ドイツ

Industrie-und Handelskammer zu Köln,

Köln, Germany.

Industrie-und Handelskammer zu Berlin,

Berlin N. W. 7, Germany.

Industrie-und Handelskammer zu Leipzig,

Leipzig, Germany.

Die Bibliothek der Industrie-und Handelskammer zu Frankfurt am Main,

Frankfurt a/M.-Hanau Hauptgeschäftsstelle

Frankfurt, Germany.

Handelskammer zu München,

München, Germany.

Handelskammer,

Hamburg, Germany.

Deutsche Industrie-n. Handelstag, Berlin Brat-

ford Chamber of Commerce,

イタリー

Chamber of Commerce & Industry,

Genoa, Italy.

Camera di Commercio e Industria de Venezia,

Venezia, Italy.

Camera di Commercio e Industria di Milano e

Museo Commerciale,

Milano, Italy.

Camera di Commercio e Industria di Napoli,

Palazzo Borsa, Napoli, Italy.

Camera di Commercio e Industria di Roma,

Rome, Italy.

アイホリー 十仙 普通
 キヤメイ 十仙
 ライフアイ 十仙

洗濯用としては

P アンド G 固形
 アイポリフレンク 粉
 ラ ツ ッ ク ス 薄片
 パーモリア・ビーズ ビーズ状
 オクタゴン石鹼 固型

その他なか／＼澤山である。

非常に興味のあることは、米國の石鹼消費量——恐らく先進國は凡てその傾向にあるかも知れないが——は最近山を通り越して少し宛下り坂になつてゐることだ。その原因はどこにあるかをピトキンスといふ男の調査した結果が又面白い。この記述の最後の項で述べて見ようと思ふ。

英國

英國の石鹼工場として代表的なものは、リバーブラザースで資本金五千四百萬ポンド、世界各地に二百六十の工場を持つ、實に世界第一の石鹼會社である。ポートサンライトの工場には使用人五千人、これらに浴室、庭園付の住宅を貸與し、維持費と修繕費を取るだけである。それらの工場町は教會あり學校あり、美しき公園ありで實に立派な近代都市を形造つてゐる。米國のプロクターと對照して、世界の著名な石鹼工業家が一種の社會事業家であることは意義深いこと、言はねばならない。リバーブラザース會社は、アメリカに椰子林を經營し、米國のプロクターと提携してマルガリンユニオンを作るなど、世界の油脂工場の市場を左右せんとする野心を抱くものの如くである。

英國の著名石鹼としては、化粧用としてはリバーブラザースのラックスを始め、米國のパーモリアも相當幅を利かしてゐる。この外有名なピヤスといふ透明石

鹼や、ラベンダー、イラスミツク、ベノリヤなどの石鹼が大程四ペンス位の値段で賣られてゐる。洗濯用としては何といつてもリバーブラザースのサンライト石鹼(固形)、ラックス(薄片状)石鹼が壓倒的である。前記の化粧石鹼にしても、所謂リバートラストの一員であつて原料買入に就いては全くリバーブラザースの膝下に屈して、その云ふまゝになつてゐるのである。

獨逸

獨逸ではジュツセルドルフのヘンケル會社が第一で、リバーブラザース系のサンライト會社が第二、ジュツセルドルフのトンブソン會社が第三位になつてゐる。化粧石鹼では米國のパーモリアや英國のラックス——確か獨逸ではルックスと云ふ——が盛に賣れてゐて、只洗濯石鹼としてペルジュールなどいふ石鹼が國産品の爲に氣を吐いてゐるといふ状態である。

フランスその他

フランスでは有名なコテールの石鹼が、フランス人よりもより多くフランスにある外國人に親しまれ、フランス人にはフランスで出来るアメリカのパーモリア石鹼が、安くてもてはやされるといふ奇現象(?)がある。その他サボン、カダムなどいふのが一般に愛されてゐて、洗濯石鹼としては、やはり英國系の「ラックス」が相當に賣れてゐるやうである。一般にフランス人は趣味とか個性が強くて、アメリカ人のやうに雷同性が少いから一つの石鹼が壓倒的に賣れるといふことは少く、コテールの石鹼にしてもいろ／＼の人に合ふやうに非常に種類が多い。

著しい對照は、アメリカのホテルにはどの室にも有名石鹼會社で作つた石鹼が置いてあるけれども、フランスの宿屋にはシャンゼリゼーの一流の旅館にもそれが無い。

フランス人は各々の好みの石鹼を持ち歩いてホテル

スペイン

Camera Oficial de Comercio le Provincia,

Madrid, Spain.

ポルトガル

Associacao Commercial de Lisbon,

Lisbon, Portugal.

ギリシヤ

Chambre de Commerce et d'Industrie de Athens,

Athens, Greece.

Chambre de Commerce et d'Industrie de Volo,

Thessaly, Greece.

スイス

Chamber of Commerce of Geneva,

Rue Petrot 8, Geneva, Switzerland.

Handelskammer zu Zurich,

Zurich, Swiss.

ソビエト聯邦

Oriental Chamber of Commerce, Moscow,

c/o USSR Society for Cultural Relations

with Foreign Countries,

Moscow, 69, Malaya Nikitskaya 6, Russia.

USSR Chamber of Commerce for Western Trade,

Moscow, Ulinka, 6, Russia.

Russian Oriental Chamber of Commerce,

Riady 50, Moscow Russia.

フィンランド

Finnish Central Chamber of Commerce,

Helsingfors, Finland.

チェッコ・スロバキヤ

Chamber of Commerce & Industry,

Prague, Czechoslovakia.

Czechoslovak-Japanese Chamber of Commerce,

Prague, Czechoslovakia.

オーストリア

のもので自分の氣に入らぬものは使はないからだと聞いた。その他、伊太利とかスペインとか、各々パームリブやラックス等の大資本に押された形で、これと一いつて取立て、いふ程の石鹼を持つてゐない。

世界のゴム工業界

〔新保民八〕

生ゴムの価格は連年暴落を續け、昭和八年に於いては一封度八錢といふ安値を示したが、世界最大のゴム原料需要國たる米國のインフレーションと、最近に於ける英蘭減産協定によつて、九年上半年期から漸騰し始め、七月に入つては一封度二七錢に昂騰するに至つた。加之、最近におけるゴム化學の發達は、ゴム製品の品質を改善し、耐久度を増加したため、ゴム原料の消費量を抑制する傾向がある。従つてかゝる理由から、一兩三年間のゴムの生産と消費は、漸次不振の氣味合である。

又、前述の如く生ゴムの需給が緩慢になると同時に再生ゴムの市況も不振である。今、こゝにその一例として、過去三年間に於ける米國內再生ゴムの消費狀勢を一瞥して見れば如左表。【化學工業年鑑に據る】

國名	一九三二年	一九三三年
アメリカ	三、四、六、八	四、〇、〇、〇〇
イギリス	七、六、五、一	七、五、〇、〇〇
フランス	六、〇、〇、〇〇	六、五、〇、〇〇
ドイツ	四、一、〇、〇〇	五、〇、〇、〇〇
イタリア	三、一、〇、〇〇	一、八、〇、〇〇
カナダ	一、九、〇、〇〇	一、六、〇、〇〇
日本	三、〇、〇、〇〇	五、七、〇、〇〇
ベルギー	八、〇、〇、〇〇	九、〇、〇、〇〇
その他	八、三、〇、七	八、五、〇、〇〇

海外貿易海外業界

米國に於ける再生ゴムの需要

單位英噸

年次	消費量	再生消費量	再生ゴムの生ゴムに對する比率
一九三〇	三、六、〇、〇〇〇	一、五、一、五、〇〇	四、〇、六
一九三一	三、四、七、〇〇〇	二、五、一、五、〇〇	三、五、六
一九三二	三、三、〇、〇〇〇	三、一、〇、〇〇〇	三、一、一

米國「清淨協會」のアウトライン

私は去る昭和六年、歐米視察の途次「清淨協會」Cleanliness Institute を訪ひ、理事長ロムナー・C・エドランド氏と親しく會談するの機會を得、該協會の諸事業に就いての研究を遂げて歸朝、翌七年春の東京商報紙上にその一端を紹介したのであるが、かゝる組織が本邦にも要望せらるゝの度は年とともに濃くなりつゝあるに鑑み、こゝに再びそのアウトラインを紹介して御参考に供する次第である。【ライオン石鹼株式会社常務取締役竹井俊郎】

「清淨協會」Cleanliness Institute は「全米石鹼グリヤリン組合 American Soap and Glycerine Association」の事業の一つとして、組合員二八二中の有力者四〇軒を以て一九二七年に組織せられた「個人と家庭と團體生活に於ける清淨標準の向上を圖る」ことを目的とする公衆奉仕團體であるが、この運動の眞目的はこの運動を通じて

- 一、石鹼消費の増大を圖り
- 二、グリセリンの利用を喚起する一方
- 一、共同の廣告によつて廣告費の經濟化と廣告効果の強大化を圖る

にあつて、流石に米國人の商法の凡でないことに今更敬服させられるものである。この協會は會員の公選

Kammer für Handel, Gewerbe und Industrie, Wien, Austria.

ハンガリー Chamber of Commerce and Industry, Budapest, Hungary.

和蘭 Kamer van Koophandel en Fabrieken voor Rotterdam, Rotterdam, Holland.

Chamber of Commerce of Hague, Hague, Holland.

スウェーデン Stockholm Handelskammare, Vesta Trädgårdsgatan 9, Stockholm, Sweden.

Chamber of Commerce, Kalmar, Sweden.

ルーマニア Camera de Comert si Industrie, Bucarest, Roumania.

L'Institute Economique Roumain et du L'Association des Banques Roumaines, Strada Lipscani No. 12, Bucarest, Roumania.

ベルギー Chambre de Commerce de Bruxelles, Bruxelles, Belgium.

ノルウェー Oslo Handelskammer, Oslo Bors 2, Oslo, Norway.

デンマーク Danish National Committee of the International Chamber of Commerce, Copenhagen, Denmark.

波蘭 Merchant's Association, Sakalna 10, Warsaw, Poland.

による理事長の下に、理事を主班とする。

- 學 校 班
- 保 健 班
- 工 場 班
- 圖 書 研 究 班

以上四つのデパートがあつて、約七十名の人が各々の仕事に従事してゐる外、全国各地の學校、保健團體社會奉仕機關、工場等々の團體を協力者として、その運動の手は全米に限らず展べられて居る。

この運動に要する費用は、年額約八十萬圓の巨額に上り、これを協會員の生産額に按分して負擔せしめてゐる。因みに協會員の石鹼生産高は全米生産額の約八十%に達してゐる。又各デパートメントには、斯界の權威者による委員會が構成せられてゐる。例へば保健班に於いては著名なる醫學者六名がその委員であり、各機關によつて研究調査せられた材料は、委員會を経て協會の名によつて發表せられるのである。委員會の他にもそれ／＼の權威がこの調査研究に當つて居るので、協會が三ヶ月乃至六ヶ月に一回發行するパンフレットの如きは、一つの權威として認められて居る。

この協會の主なる目的は、前述の通り一般の衛生思想を啓發誘導して、これによつて石鹼とグリセリンの消費を増大せしむるにあつて、その爲めの仕事として學校、工場等の諸團體へポスター、パンフレットの類を配布し、小學兒童にはこの外に課外讀本、童話、童謡、繪本等によつて「清淨」の大切なことを鼓吹し、學校教師には兒童に清淨教育を施すための教科書、指導書の類を頒布してゐる。又一般へはパンフレット、ポスター、新聞雜誌による外ラヂオ放送も屢々行つて「保健と家政」に石鹼とグリセリンの效用を教へてゐる。新聞廣告の如きはイヴニングポスト紙等實に一回の廣告料七千弗もかゝる素晴らしいものを掲載してゐる。

この運動開始以來、米國の石鹼需要は逐年著しい増

加を見つゝあるが、グリセリンの利用研究に於ても、先年自動車の機關冷却用水にグリセリンを混入して凍結を防ぐことに成功して以來、需要は激増しつゝあると言はれてゐる。

前記、同協會の理事長エドランド氏は、私と面談の際、日本でも是非この運動を、業者と公衆との爲めに起すことを懇願せられ、且つ助力を約され、その後も度々書を寄せられる。私もその實現の一日も早からむことを希つてゐる次第である。

世界のセルロイド工業

一九二九年前後の頃を顧ると、世界に於けるセルロイドの生産額は大約、米二、〇〇〇萬担、獨一、一〇〇萬担、日本七〇〇萬担、英佛が各二五〇萬担で、爾餘の諸國を合しほゞ四、五〇〇萬担と推せられてゐた。然るに、その後、諸種の經濟的事情と且つ合成樟腦の進展豫期の如く抄々しからざる事情等に因りて、世界セルロイド市場は獨り日本製品の活躍に委ねられるの狀況を呈し、更に一九三三年度に至つては、大約如左。

日 本	七五〇萬担	佛	一五〇萬担
獨	四八〇	露	七〇
米	四五〇	伊	六〇
英	二四〇	瑞	五〇

かくて、わが國は遂に堂々同工業の首位を占むるに至つたのであるが、同加工品の年次別輸出統計を擧ぐれば即ち別表の如くである。

海外各地からの本邦品取引照會

最近、海外各地から照會し來る本邦商品取扱希望、乃至買入れ方の斡旋依頼數の頓に激増したことは、正に本邦品の聲價を有辯に物語るものであらうが、左にその一例として、東京商工會議所へのこの種照會數を

擧げるならば如左。

洲 名	八 年	七 年
亞 細 亞	五三九通	二七五通
亞 弗 利 加	一九五	七九
歐 洲	八七四	三六三
北 米	二七	一六三
中 米	九	五
南 米	二七	一六三
大 洋 洲	六	二

羅尼亞への業界輸出品許可制度

ルーマニア國政府では、九月十八日官報を以て從來輸入許可制度の下に置かれたる商品四十種に對する許可税を二倍乃至三倍に増加するとともに、從來輸入許可制度外に置かれてゐた商品二十九種を爾後輸入に際し許可を要することとなし、このため從來無許可の石鹼類香水その他化粧品も許可が必要となつた。

ライプチツヒ見本市の反響

ライプチツヒ國際見本市に於ける邦品は、海外進出の花形として優秀、安價との歡迎裡に人氣を占め、豫想外の成果を収めたが、最近早くもその反響は現はれ業界關係の中では安住大藥房へは蚊取線香、日本製造業者輸出會へはセルロイド製品と云ふ工合に、夫々出品見本によつての大量注文があり、現在のところ、これ等の注文は各國の商人が自國植民地その他の新市場へ旅商に出向く際の携帶見本品として試験的に買入れるものであるが、各國旅商團の宣傳如何によつては新市場よりの直接取引も期待されやう。

【九年四月十二日東京商報から】

主要業界品貿易國別表

海外貿易海外業界

輸 出 の 部					品 名 及 國 名		昭 和 八 年		昭 和 七 年		
							數 量	價 格	數 量	價 格	
品 名 及 國 名		昭 和 八 年		昭 和 七 年		品 名 及 國 名		昭 和 八 年		昭 和 七 年	
		數 量	價 格	數 量	價 格			數 量	價 格		
化粧用石鹼	滿洲國 關東州 華領印 英領印	千打	千円	千打	千円	蠟 中英領 滿洲國 華領印 英領印	線民印 華領印 峽殖西 獨海新	百斤	656	百斤	562
		3,132	2,141	1,170	903			12,939	656	12,367	562
		647	491	215	162			739	41	678	33
		454	377	448	386			920	48	743	41
		222	164	119	87			2,948	126	2,454	89
609	393	64	44	1,178	68	749	39				
779	425	213	135	662	38	348	16				
				1,241	56	776	40				
その他石鹼	滿洲國 關東州 英領印 海峽殖民	百斤	1,062	百斤	2,923	薄 中英領 滿洲國 華領印 英領印	荷民印 峽殖吉 獨海新	百斤	2,006	百斤	1,259
		65,276	1,062	20,683	292			5,218	69	138	33
		10,542	159	790	12			150	50	205	49
		11,742	178	8,065	100			138	79	61	13
		27,195	443	3,370	53			180	672	1,822	465
5,114	85	1,529	23	1,747	571	1,333	305				
				1,514	392	1,506	331				
				122	44	32	7				
化粧用クリーム	滿洲國 關東州 英領印	容器とも百斤	516	容器とも百斤	262	セルロイド 中英領 滿洲國 華領印 英領印	獨海新	百斤	2,363	百斤	876
		6,918	200	4,078	59			22,013	473	2,172	215
		3,281	175	2,152	139			4,539	119	300	34
		2,157	72	336	25			1,053	851	4,126	422
		895						8,036	167	296	28
				1,599	212	646	68				
				1,991	124	414	44				
				1,173							
香水及香油	滿洲國 關東州 英領印	千打	480	千打	249	輸 入 の 部					
		34	76	7	17	豚 滿洲國 中英領 獨海新	毛國利逸	百斤	3,115	百斤	1,023
		37	121	26	88			7,573	51	39	4
		106	107	39	28			271	3,021	4,937	1,002
								7,055	2	1	1
				170	35			2	1		
				53							
白粉	滿洲國 關東州 英領印	容器とも百斤	561	容器とも百斤	198	牛 滿洲國 中英領 獨海新	脂國利逸	百斤	3,411	百斤	2,453
		7,932	62	127	10			182,476	10	196	2
		903	82	1,129	92			901	5	271	5
		1,028	191	671	33			319	139	20	0
		3,534	64	328	22			7,581	3,250	177,426	2,437
966				173,471	2	512	6				
				119							
齒磨	滿洲國 關東州 英領印	容器とも百斤	502	容器とも百斤	300	香 英領 滿洲國 華領印 英領印	水利西逸國	容器内裝とも百斤	340	容器内裝とも百斤	248
		7,328	139	303	14			303	191	74	129
		2,479	121	1,585	108			69	127	217	94
		1,734	80	623	62			108	16	101	15
		1,261	38	688	39			87	0	—	—
487	21	140	9	15	0	—	—				
245	15	120	10	14	1	5	0				
177											
髮用ブラッシュ	英領印 英英北	千打	331	千打	237	硬 滿洲國 關東州 英領印 北獨	油國州島國逸	百斤	64	百斤	66
		111	25	3	5			2,357	5	—	—
		11	131	12	87			445	12	3,584	47
		17	158	51	142			482	32	273	7
		63						1,109	7	67	4
				72	3	85	2				
齒用ブラッシュ	英領印 英英佛伊和北	千打	2,950	千打	2,005	藥材、化學藥、製 藥、その調合品及び 爆發 獨北米合衆國 テマコソロバギア	製逸國	百斤	1,619	百斤	547
		375	90	21	79			6,909	1,240	7,133	415
		13	344	46	311			5,098	245	277	35
		48	148	5	42			1,125	96	467	52
		18	172	3	19						
17	125	13	87								
15	1,073	106	840								
128											
除虫菊	香英獨伊北加 米合衆	百斤	6,349	百斤	4,752						
		84,808	136	1,929	102						
		1,700	217	1,641	76						
		3,216	152	594	36						
		1,794	147	1,041	53						
1,939	5,499	86,731	4,349								
73,425											
1,290	91	1,334	64								

業界品輸出入年表

最近三ヶ年比較
九年は一月より十月までの累計

輸出の部

品名	昭和九年		昭和八年		昭和七年	
	数量	價格	数量	價格	数量	價格
豚毛	二三四、六六二	五、〇三九、六	二八四、八六二	四、五、一、九三	一八八、四三七	三、五、九、九六
象牙製品	一七、〇〇〇	二、九四、二七六	一四、八八九	二、〇六、八〇〇	一一、四七六	一、六〇〇、九七
珊瑚及同製品	八、三三七	九九、八三八	一四、二六四	一三、四八八	九、七〇六	六八、〇二六
樟腦油	九〇、〇〇〇	三、八一、二四七	一〇、七四五	三、七七、九七七	一八、八四四	六八、六三二
薄荷油	四七四、〇四四	一、五四四、〇八四	三四九、七九一	一、三、八二、九四	五四三、四七一	一、二五九、八四九
木蠟	四、四三六	一、〇〇九、一八三	三、九〇三	九、五三、四〇〇	五、一八九	一、一七、一〇一
石鹼	三、〇五〇	二、九、二〇三、六四二	三、六、三、七二	一、七〇、四三六	九、〇三三	九、〇三三、九六六
同他	六、七三〇	六、六三三	一、〇〇〇	六、六、三、七二	一、七〇、四三六	九、〇三三、九六六
化粧用クリーム	五〇四、八三三	四、八、二〇三	五、〇、四三九	四、八、三、九	四〇七、八二六	二、二、三、二八
香水及香油	四、四、七、七	五、七、一、八九八	三、七、八、四	一、四、八、四、五	二、四、九、四九	五、一、〇、九六六
その他油脂蠟及同製品	七、五、二、六五	九、〇、七、七五八	—	五、八、二、四、四	—	五、一、〇、九六六
除蟲菊	二、四、〇、四三	三、九、三、四、三六三	二、四、〇、六三	三、八、六、三、六三三	二、三、四、九、三	五、四、一、〇、四三
樟腦	四、六、〇、四六	四、〇、九、七、三三〇	三、五、〇、六八三	七、六、二、六、五	四、八、四、〇、三	六、九、六、三二
薄荷	一、三、五、一、〇四	六、八、七、〇、三三	一、五、五、五、五	五、三、七、四、〇	一、三、六、六、六	五、二、三、七、七
蚊取線香	六、六、二、七五	六、六、二、七五	四、四、〇、三三	四、四、〇、三三	三、〇、三、七五	三、〇、三、七五
齒磨粉	七、八、九、九五	六、三、七、七	五、六、九、〇一	四、〇、六、三	二、六、三、八七	一、九、八、二、七四
白粉	一、四、六、三三	三、三、九、四、三〇四	一、二、九、八、二八	二、六、三、七二	四、六、〇、四九	九、三、八、四、三三
燐寸	五、四、八、三、七三	三、三、四、一、一八	四、九、八、四、〇二	三、三、五、八、六六	二、六、七、四、〇一	一、四、七、八、九二
セルロイド	二、三、四、八、一	二、三、八、一、二、八二	二、三、八、一、二、八二	二、三、八、一、二、八二	二、三、八、一、二、八二	二、三、八、一、二、八二
硝子腕輪	二、〇、三、七、五三	二、二、六、四、二八九	—	三、三、二、九、二	—	二、八、九、〇、九三
その他身邊粧飾用品	—	—	—	—	—	—
骨牌	—	—	—	—	—	—

海外取引案内

今や日本商品の聲價は全世界に喧傳せられ、各國の凡ゆる防遏手段にも拘らず異常な躍進を續けつゝあるは寔に欣快に堪へない。而して各國は凡ゆる邦品防遏手段を請じつゝあるにも拘らず、然も海外各地から邦品輸入希望の照會は、わが各商工會議所宛日々幾通となく寄せられつゝあるの現狀である。

是に於いてわが東京商工會議所では、さうした海外からの照會文書を各地方別に分類し商社名、住所、照會事項等を摘記してサーキユラーを作り、毎月三回貿易業者その他希望者に無料頒布しつゝある。之れによれば全く一目瞭然である。が只、その信用状態を知らむとする際は自己の取引銀行に依頼して調査するか、或ひは取引銀行に依頼して之れに對して先方が誠意ある回答を寄せ、且つ代金支拂條件が満足すべきもの、例へば信用狀を發行し來る等の場合は、直ちに取引を開始して差支ひなからう。しかし輸出貿易といふことは兎も角至難なることであるから、そのことをよく自覺し、斷じて輕々に事に當ることなく充分考慮研究の上着手すべきは勿論である。

一、買手によくアツピールする宣傳廣告。
二、輸出に適する見本の用意。
三、適當なる代理店の設置。
四、賣込先諸國の經濟事情に通曉すること。

五、外國爲替の知識。
六、關稅、輸出の規則及び手續等の知識。
七、商品の荷造及び積出。
八、賣込先との間に惹起るべき種々の繋争問題に對する法律知識。

等の諸項目に就いては、的確な知識を涵養してかゝる必要がある。

先づ「一」の宣傳廣告に就いて略言すれば、何と云つてもカタログを作成して送ることが最も經濟的で且つ手つとり早い。その型録を作る時は成るべく現品に即して作り、商品の説明は最も簡明正確にし、そして商社の經歷、規模、取引銀行等、商品の圖解説明、取引條件、電信宛名、暗號等、値段表等……の諸項を記載、又各頁には「割引は御相談に應じてクオートせらるべし」等、それに類する文句を挿入することが肝要である。

次に見本は、言ふ迄もなく買賣條件の一たる品質を決定するものであるから、この送附に當つては深甚な注意を拂はねばならない。對象國の風俗、習慣、趣味嗜好等を精細に調査し然る後確乎たる自信を以て見本を送るべきである。發送に際しては現品に見本番號又は電信暗號や種々必要な事項を記入した票札をしつかりと添附し同時に控見本を作つて手元に保存、他日の参照に資することが肝要である。後日、注文があつた際、それに應じ切れないやうな飛切優良品を以て見本とすることなどは最も禁物である。代理店を選定するには當然信用程度如何が第一條件となるが、資本の多少より

品名	昭和九年		昭和八年		昭和七年	
	数量	價格	数量	價格	数量	價格
鏡	一箇	四〇、三九三	一箇	三〇、七八一	一箇	三〇、六〇三
七〇ルロイ	百斤	二四、三三三	百斤	一七、七四一	百斤	八五、四三
同製品 特掲除外	百斤	二、五九二	百斤	一、九〇一	百斤	一、四九四
アラツシユ 髪用	打	四四、八〇六	打	七、九六六	打	七五、八三三
アラツシユ 齒用	打	三、五七六	打	二、三三三	打	二、九八八
アラツシユ 爪用	打	一、八九二	打	一、九九九	打	一、六五八
アラツシユ 衣服用	打	四〇、九九五	打	三、四四四	打	六、五七四
アラツシユ その他	打	一、二八六	打	四二、三〇〇	打	三、六〇二
具セルロイド	打	三、〇〇六	打	二、六二六	打	二、五二七
ゴム製	打	五、七九九	打	七、四〇〇	打	五、五〇六
豚毛	斤	七九、九五五	斤	六四、六六二	斤	五二、三二一
象牙	斤	三、五九一	斤	八〇、一六六	斤	七、二六六
貝殻	斤	一、六五〇	斤	二、二八三	斤	三、三三九
植物性芳香揮發油	斤	二八、〇九九	斤	三、四七七	斤	三、三三三
鼈甲	斤	四四、九六〇	斤	四四、八〇〇	斤	五八、〇七四
牛脂	斤	一、五一一	斤	一四、三二二	斤	一、七八五
ステアリン	斤	三、九四六	斤	二、六八七	斤	五、四九七
ワセリン	斤	四、七七八	斤	一、四八二	斤	四、〇〇六
石鹼	斤	八、〇九三	斤	七、七三三	斤	二、四一四
薰香付油脂蠟及同製品	斤	一、五九二	斤	二、八四二	斤	一、九五二
香	斤	三、九〇六	斤	二、八二二	斤	二、四八三
その他油脂蠟及同製品	斤	二、九七〇	斤	二、八四二	斤	一、八六〇
松脂	斤	一、〇一四	斤	一、三九〇	斤	四、九六二
グリース	斤	二、九四八	斤	四、八六九	斤	四、三三二
齒磨粉その他調製香類	斤	一、六六三	斤	二、七二一	斤	三、七七八
包装用紙及燐寸用紙	斤	一、六六三	斤	一、四六四	斤	一、六六三

輸入の部

はその經營者の商才と努力とに重點を置き度い。そして成るべくその市場土着商社を選ぶことである。又、代理店契約取極に當つては、各條件につき双方にして十二分の諒解を得、字句は成るべく簡明に、後日紛争の種となるが如き曖昧な條項は大いに避くるの心掛を要する。先方の經濟事情に通ずること、——之れは多くを云ふ迄もなく、兵法の常道である。全く十二分の努力を肝要とする。

外國爲替に就いても勿論充分研究してかゝるべきで、特に初めて輸出取引をなすやうな方は、出来るだけ注文者から信用狀を送付せしむるやう努められたい。又、近年世界各國とも爲替管理を實施し資本の移動、國際貸借の關係を束縛することとなつたので、この邊の消息をよく調査した上、商品代金の回収を速かならしめるやう心掛くべきである。それから「六」の關稅問題に關しては、各國とも何れも高度の關稅障壁を設けて外國品防遏に腐心しつゝあり、然も尙足りず、輸入制限、甚だしきは輸入禁止をさへ實施してゐるのである。従來は、協定稅率の存在する國へ輸出する際その恩典に浴せんが爲に原產地證明書を必要としたのであるが、最近輸入制限を實施する結果原產地標記を勵行することとなり、その他各國それ、特定の商品標記規定を設け、又は不當廉賣を取締るため、輸出國に於ける市價證明を附せる送狀を作成せしめ、更らに輸出國駐在の自國領事の査證を必要とする等、輸出入手續に於いて最重なる規定を設け、それに違反する場

合は輸入の際税關に於いて輸入禁止、罰金又は沒收等の處分を受けることあるを以て、各國の輸出入規則手續等は最も注意を要すべき事項である。

輸出品荷造方法には、その品種により略一定の形式があるので豫めその點を調査し置き、然して後、總て注文主の指定に従つて爲すべく、若しその指定が不可能乃至不合理の際は注文主に照會して充分打合せ後にすべきである。それから、荷造が完了したら包装の表面見易き所に必要な記號その他の表示を行ふ。この「マーキング」に必要なものは、荷印、番號、揚地、原產地、品名及び數量、重量及び容積、注意書等である。かくて荷造完了し、マーキングも終れば、回漕問屋の手により通關を了し積出の段取となる。そして積込んだ貨物に對しては、規定の運賃を支拂つて船荷證券を受取り、尙ほ、積出しと同時に必ず保險を附しその保險證券は船荷證券とともに荷受主に送る。

最後の「八」の問題に就いていへば、凡そ賣買の條件としては品質、數量、値段、引渡時期、引渡場所、支拂等が擧げられるが、これらに就いては賣買兩當事者間に完全な了解をなし置くべきで、若しそれが不充分の時は他日意外な紛れを惹起する憂ひがある。故に賣買契約に當つては萬全の了解を遂げ、以て取引の圓滿を圖るべきと同時に、又以上諸條件に就いての法律知識を十分に涵養し置くべきである。【東京商工會議所業務課長關口嘉重氏談】

昭和八年十一月—同九年十月

業界品輸出入月表

〔大藏省編纂「大日本外國貿易月表」に據る〕

輸出の部

品名	十一月八年		十二月		一月九年		二月		三月		四月	
	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格
豚毛	三、五三三	二五、五七一	二五、六四四	二三八、四七	五、九七〇	一六、八三四	二一、六四	二九、九七三	二九、九五五	三六四、二〇〇		
象牙製毛	一、五五	二七、三三三	一、七九	三三、四四八	一、五五〇	二四、二五三	二〇、三三	二九、七七八	一、二三三	一九、八二		
珊瑚及同製品	三、三三三	四七、三〇〇	一、六七	一一、四二五	一、九五	三三、六六四	二〇四	一、三六三	一四〇	七〇〇		
樟腦油	一、六〇〇	五八、〇三八	一、三五四	四八、九一八	六二	二〇、〇三四	一、一七三	五、五二	一、〇八三	四三、五五五		
薄荷油	七〇、九三	二四六、七九八	一〇一、三三九	三三七、〇三三	九、〇六三	三三七、七五一	六三、六三三	二〇、〇四七	四三、三〇〇	一三一、三三五		
木蠟	三、八七三	九一、五七八	三、九四	九五、〇四五	四、二五〇	一〇〇、四七九	三、八九六	九一、三三四	五、四六九	二六、九三三		
石鹼	四三、五七七	二二三、五五一	四三、二四	二八一、九七九	二七、四七	一四、六四	三、八二八	二九七、三三三	二八五、五九三	二〇七、五七七		
同他	四三、五七七	七四、〇六九	四三、四〇	一〇三、〇八八	五三、二八四	八〇、〇八六	七七八、三七八	二〇、六三三	九三、九四六	一三三、〇五五		
化粧用クリーム	七五〇、四五	五〇、八四七	四六、三九九	四六、八八〇	二四、〇四八	三三、四三二	二七、八九九	二五、四七八	四六、五七〇	三〇、五五		
香水及香油	三六、九四三	四八、三三三	四六、八八五	六二、一八三	一六、一七	二六、四三二	三九、〇四一	五四、九七九	三四、五六一	五八、〇六五		
除蟲菊	九、九七五	八三、一九二	一〇六、一一	一〇六、一一	一〇六、九四四	九五、〇八〇	八三、二七	八三、二七	一〇六、四六	一〇六、四六		
樟腦	一、五七〇	二四八、七三九	一、八六七	三六七、二五	五、八四四	五〇、三三一	二、四二六	三七、九七六	六、四三〇	四六、八〇六		
薄荷	四、九〇	四八、一三六	一、〇三九	三三、九一六	二、八八八	四四、四六四	三、四三三	五四、四八八	二、六五五	四三、七三三		
蚊取線香	一三〇、四九	六五、七七七	一〇七、九五	五七、三六六	六六、四三三	五三、九七〇	八六、六三六	七四、四七	七〇、六七	五六、二七三		
齒磨類	七五、〇〇	五、一九六九	五七、〇五九	三三、三六六	四三、〇四三	六六、六四	一七、四三九	八五、五六六	一三六、九一五	七〇、七六		
白粉	八八、七五	六三、四三三	二二、九四	八八、〇二五	七、五七七	六〇、六二七	四一、三三三	七九、五九八	四七、四六六	四三、九五		
白粉	一六、八六八	三三、五六六	一五、〇七八	三三、七六二	一〇、五〇	三三、六二	一、九九三	二〇、九一六	二二、四八五	三六、一〇三		
七ルロイド	六二、〇九三	三〇、一三六	六九、九〇	四四、九三三	三八、九六八	二八、七五一	三三、三九七	三七、七三	五三、三〇五	二九、六六九		
硝子腕輪	二五五、七三	九九、五三六	二五七、一七二	二二五、一三七	一六二、三三五	九〇、四七一	一八〇、三四四	二四八、四〇三	一五三、三八	二四九、一〇五		
その他身邊粧飾用品	三八〇、三九	五六三、八一	二五七、一七二	二二五、一三七	一六二、三三五	九〇、四七一	一八〇、三四四	二四八、四〇三	一五三、三八	二四九、一〇五		

米國に於ける化粧品消費量

- 粉白粉 四、〇〇〇 噸
- クレンジング・クリーム 五、〇〇〇
- 整膚料 二六、〇〇〇
- 肌色石鹼 一九、〇〇〇
- ノリツシグ・クリーム 一七、〇〇〇
- フアンデーシヨン・クリーム 八、七五〇
- バス・パウダー 六、〇〇〇
- ルシ 二、〇〇〇

以上は一九二八年の消費總量であるが、之れは今日と雖もさう相違はないものと見得る。然して、この數字から推算すると、米國婦人は平均一年一人當り五〇弗の化粧品代を支出しつゝあるといふことになる。

紐育市に於ける一八當各種化粧品消費量推定

- コールドクリーム 三〇〇 弗
- タルカム・パウダー 二五〇
- 粉白粉 三五〇
- コムバクト 一〇〇
- パニシング・クリーム 二〇〇
- ルシ 一五〇
- 棒紅 一〇〇
- 香水 四〇〇
- 化粧水 二〇〇

粉白粉消費量

米國には約二五、〇〇〇、〇〇〇人の少女及び婦人があり、その中、一五歳乃至四十四歳の

輸入の部

品名	単位	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
豚毛	斤	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六	五、三三〇	三、五七六
象牙	斤	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六	九、〇〇〇	八、六六六
貝殻	斤	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四	二、四三三	二、〇二四
植物性芳香揮發油	斤	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四	三、二五五	一、八八四
牛脂	斤	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七	一、九四〇	三、七九七
スチアリン	斤	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七	二、〇八八	七、五七七
石鹼	斤	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七	一、五三三	四、五七七
薰香油脂蠟及同製品	斤	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇	一、四三三	二、九七〇
香脂	斤	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九
その他の油脂蠟及同製品	斤	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七
松脂	斤	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九	四、一八〇	八、三二九
グアリセリン	斤	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七	一、二八一	三、六二七
齒磨粉その他調製薰香類	斤	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四
包装用紙及燐寸用紙	斤	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四	一、五〇九	二、四四四

婦女八割が粉白粉を使用するものとすれば、約二〇、〇〇〇、〇〇〇人の使用者がある譯である。然して、粉白粉の取引推定額は、四〇、〇〇〇、〇〇〇弗である故、これら二〇、〇〇〇、〇〇〇人の婦人が二、〇〇弗の粉白粉を一人一年間に使用する平均となるのである。

クリーム消費量

米國に於ける一九二八年、一五歳乃至四四歳の婦人數は略二千五百萬人であり、この中の五五%がクリームを使用するものとしてその數は一三、七五〇、〇〇〇人となる。然してコールド、クリームの總生産額を三千五百萬弗とすれば、クリーム使用婦人一人當りの消費高は二、五四弗となる。

藥店の化粧品販賣高

米國には、一九二九年に於いて五四、六〇五の小賣藥店があり、その一年間の販賣高は十二億五千萬弗であつた。連鎖店組織は三二八あり、二七二の店を動かして、二九年には全取引の約二〇%の取引を行つたと推定される。然して連鎖店の大部は、仲買人を介在せしめずして製造家より直接買入れ仲買人の割引を獲得してある。藥店が販賣する品物は平均一〇、八二弗で、大都市にては平均一

輸出の部

品名	五月		六月		七月		八月		九月		十月	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格
豚毛	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五	三、一五五
象牙	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一	一、七七一
珊瑚	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五
樟腦	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五	一、三〇五
薄荷	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇
木蠟	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二	四、六七二
石鹼	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇
同化	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
香水	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇	六、四七〇
化粧用	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七	三、八五七
香油	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇	四、四七〇
除蟲菊	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樟腦	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇	六、五二〇
薄荷	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇
蚊取線	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六	五、〇六六
商標	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四九〇
白粉	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五	六、一三五
燐寸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
セルロイド	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
硝子	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二
その他	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二	二、六七二
骨牌	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五	八、三三五
鏡	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二	五、三三二
セルロイド	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六	二、五八六
同製	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六	二、四七六

均一四、九一弗、地方では五、九五弗である。又、支店を除き約三百の御賣藥種商があり、この中には二二の仲買人聯合會が含まれてゐる。

藥店の販賣推定

- 家庭藥・賣藥 一六・五%
- 處方 八・五%
- 化粧用品 三〇・〇%
- 飲物 三〇・〇%
- 葉卷及煙草 一〇・〇%
- 菓卷 二・五%
- 雜誌 二・〇%
- 文房具 四・〇%
- その他雜貨 六・五%

コールド・クリームの賣行率

- 藥店を通じて 五〇%
- 連鎖店及び其他各種店を通じて 二二%
- 百貨店を通じて 一二%
- 連鎖店藥店を通じて 一〇%
- メイル・オーダーその他を通じて 六%

化粧品の雜誌

廣告費

米國に於ける一九三〇年度化粧品の雜誌廣告費は、總計二〇、一六四、一九一弗に上り、その細目は如左。

- 齒磨 六、一九九、八四弗
- 顔用クリーム及美容水 一、一九六、三九九
- 一般化粧水 四、七九五、四九九
- 粉白粉及び香水 一、三〇三、七〇三
- 洗髮料及び養毛料 一、一七二、三四五

アメリカ

- American Hard Rubber Co. 11, Meacer St. New York.
- Barbosal Co. Indianapolis.
- Colgate & Co. Chicago, Ill.
- J. B. Williams Co. Montreal.
- Koken Co. Saint Louis.
- Molnoux. 41, West 57th St. New York.
- Michel Cosmetics Co. New York.
- Pond's Extract Co. Orinton, Con.
- Pepsodent Co. 919, North Michigan Avenue, Chicago, Ill.
- Potter Drug & Chemical Corporation. Boston.
- Richard Hudnut. 113-127, West 18th St., New York.
- Trejur. 18, West St., New York.
- Talcum Buff Co. 195, West St., New York.
- Myrrugia. Espana.

2 香 料

- Antoine Chiris. Grasse.
- Albert Verley. Ile Saint-Denis (Seine).
- Bruno Court S. A. Grasse.
- Bertrand Frères. Grasse.
- Compagnie Africaine Des Plantes A Parfume. Grasse.

- Descollonges Frères S. A. Paris-92 Avenue d'Iena.
- Fabriques de Laire. Paris.
- J. Mero & Boyavean. Grasse.
- Jean-Marie-Vial. Irigny Rhone.
- La Lavande Française. Sault (Vaucluse).
- Lopold Laseyson. La Garene Colombes (pres Paris), 39, Allee du Nord.
- Lautier Fils. Grasse.
- P. Robertet & Co. Grasse.

Roure-Bertrand Fils & Justine Dupont.

Grasse.

Société de Usines chimiques Rhone-Poulenc Paris.

- Agfa Riechstoffe. Berlin S. O. 36.
- Heine & Co. Aktiengesellschaft Leipzig-Groba-Riesa (Elbe).
- Schimmel & Co., A. G. Militz Nr. Leipzig.
- Chas. Zimmermann & Co., Ltd. 9 & 10 St., Mary-at-Hill, London, E. C. 3.

- Dubuis & Rowsell, Ltd. Croydon, near London.
- Essence & Synthetics, Ltd. 4, Garlisle Avenue, Fenchurch St., London, E. C. 3.
- Holland's Distillery, Ltd. 37 & 39, Wood St., Mitcham, Surrey.
- Potter & Clarke, Ltd. Artillery Lane, London, E. 1.
- Stafford Allens & Sons, Ltd. Cowper St., Finsbury, London E. C. 3.
- Standard Synthetics, Ltd. Headingly Works 76, Gleanham Road, Barnes, London S. E. 13.

Stevenson & Howell, Ltd. South work St., London, S. E. 1.

- W. J. Bush & Co., Ltd. Ash Grove Street, London, E. 8.
- Whiffan & Sons, Ltd. Fulham, S. W. 6, London.

アメリカ

- A. M. Todd Co. Ralamazoo, Michigan.
- Dodge & Oleott Co. 180, Varick Street, New York.
- Felton Chemical Co. Inc. Brooklyn, New York.
- Magnus, Marbee & Reynard, Inc. 32, Cliff Street, New York.

イタリー

- Baller Essential Oils Ltd. Messina.
- Citrus Oils Co. Messina.
- Compangnia Italiana Fabbriche Acid Citrico Milian and Palermo.
- Fratelli De Posquole & Co. Messina.
- W. Sanderson & Sons. Messina.

イギリス

Chemical Works Flora. Dubendorf-Zurich.
 L. Givaudan & Co. Vernier, near Geneva.
 M. Naef & Co., Ltd. Geneva.
 Th. Mühlethaler, S. A. Nyon.
 Usines De L'Allondon, S. A. La Plaine, Geneva.
 Volkart Brothers. Winterthur.

オランダ

A. Maschniejer, J. R. Amsterdamnoost.
 H. Raab & Co. Roermond.
 Polak & Schwarz. Zaandam.
 Polak's Prutal Works. Amersfoort.
 N. V. Chemische Fabriek Naarden Naarden.



アメリカ

Armour Soap Wks. 1355 W, 31st St., Chicago.
 Cincinnati Soap Co. 7th & Elm Sts., Cincinnati, Ohio.
 Colgate-Palmolive-Peer Co. Chicago.
 Hewitt Soap Co. Dayton, Ohio.
 Holbrook Mfg Co. 18th St., Jersey City, N. J.
 Los Angeles Soap Co. Los Angeles, Calif.
 Peck's Prods. Co. 5224 N. 2nd St., St. Louis.
 Procter & Gamble Co. Cincinnati.
 J. T. Robertson Co. 147 Richmond Ave., Syracuse, N. Y.
 Geo. A. Schmidt Co. 236 W. North Ave., Chicago.
 Swift & Co. Chicago.
 Allen B. Wisley Co. 6801 W. 65th St., Chicago.
 J. Eavenson & Sons. Del & Penn Sts., Camden, N. J.
 Holman Soap Co. 3100 Fox St., Chicago, Ill.
 Larkin Co. Buffalo N. Y.
 Lightfoot Schultz Co. 1412 Park Ave., Hoboken, N. J.
 Marshall Prods., Inc. 806 N. 1st St. Louis.

Geo. E. Marsh Co. 393 Chestnut, Lynn, Mass.
 National Soap Co. Box 1613, Tacoma, Wash.
 Newell, Guttradt Co. 350 Fremont St., San Francisco
 North Coast Soap & Chem. Wks. Seattle, Wash.
 John T. Stanley Co. 640 W. 30th St., N. Y.
 Viet Soap Co. 638 Monroe St., Brooklyn.
 M. Werk Co. St. Bernard, Cincinnati.
 Chas. W. Young & Co. Philadelphia.
 Du Bois Soap Co. Cincinnati.
 Manhattan Soap Co. Bristol, Pa.
 Haskins Bros. & Co. Sioux City, Iowa.
 Harris Soap Co. Buffalo, N. Y.
 H. Kohnstamm & Co. 91 Park Pl., N. Y.
 Nat'l Milling & Chem. Co. Manayunk, Phila.
 American Soap Powder Wks. 100 Van Dyke St., Brooklyn, N. Y.
 Lever Bros. Co. Cambridge, Mass.
 Paper Makers chemical Corp. Kalamazoo, Mich.

フランス

Gellé Frères. Paris.
 Societé Cadum Courbevoie. Paris.
 Roger et Galle. Paris.
 L. T. Piver. Paris.
 Coty.
 Houbigant.
 Mousayon. Paris.
 Gibbs.
 Palmolive. Paris.
 Rna Tassy & De Roux. Marseille.
 ↑ ↓
 Edward Cook & Co. Ltd. Near Bow Bridge London E. 3.
 D & W Gibbs Ltd. Wapping, London E. 1.
 Lever Brothers Ltd. Port Sunlight.
 Crossfield Erasmic Soap Factory, Warrington.
 Pears Ltd. Near London Irseworth.

各國對日貿易狀勢 [單位：千圓]

【海外貿易總局 貿易調查課 編】

Saville.	London.
S. F. Glose Ltd.	London W.
Yardleys.	London.
Vindolia Co. Ltd.	
J & E. Atkinson.	London S. E. 16.
R. S. Hudson Ltd.	Liverpool.
John Sankey & Son Ltd.	Manchester.
David Thom & Co. Ltd.	Manchester.
Harrods Ltd.	London.
F. J. Hunt & Co.	London.
Aug. Luhn & Co., G. m. b. H., Seifennud Glycerinfabrik.	
J. F. Schwarzlose Söhne, G. m. b. H., Fabrik feiner Parfümerien und Toilet-	Barmen-Rittershausen, Schwarzbachstr. 101-103.
vereinigete Chemische Werke A.-G.,	tessen Berlin Nw 21, Dreyesstr 5.
Benlin-Charlottenburg 2, Salzufer 15-16.	
Ruba-Werke, Rudolph Balhorn,	
Seifen-und Parfümerien-Fabrik G. m. b. H., Bres-	lau XIII, Steinstr, 23-29.
J. G. Monson & Co., Fabrick feiner	
Parfümerien und Toiletseifen, Frankfurt (Main),	Gwinnerstr, 9.
Karlsruher Parfümerie-und Toiletseifenfabrik F. Wolf & Sohn, G. m. b.	H., Karlsruhe (Baden), Durlacher Allee 31-33
C Naumann, Feinseifenwerk,	Offenbach (Main), Speyer Str. 7.
Bergmann & Co., Feinseifen-und Parfümfabriken, Radebeul bei Dresden,	Hellerstr. 23
Ph. Benj. Ribot A.-G., Bayerische	Seifenfabrik, Schwabach (Bayern).
Henkel & Cie., Akt.-Ges. in Düsseldorf.	

英領印度

面積 1,808,679 平方哩 日本内地の約 12倍

人口 總數 352,837,778 人

密度 195 人/平方哩

日本への輸出 205,154,660 圓

日本より輸入 204,737,858 圓

佛領印度

面積 258,000 平方哩 日本内地の約 1.9 倍

人口 總數 21,652,000 人

密度 76 人/平方哩

日本への輸出 3,680,018 圓

日本より輸入 9,640,436 圓

英領馬來英領ボルネオ

面積 83,606 平方哩 日本内地の約 1/2 倍

人口 總數 4,500,000 人

密度 46,270,988 圓

日本への輸出 44,543,473 圓

蘭領東印度

面積 733,296 平方哩 日本内地の約 5 倍

人口 總數 60,731,025 人

密度 89.8 人/平方哩

日本への輸出 157,487,754 圓

日本より輸入 55,709,966 圓

滿洲國

面積 469,934 平方哩 日本内地の約 3 倍

人口 總數 34,104,980 人

密度 73 人/平方哩

日本への輸出 82,071,259 圓

日本より輸入 147,897,860 圓

中華民國

面積 1,532,795 平方哩 日本内地の約 10倍

人口 總數 461,418,000 人

密度 301 人/平方哩

日本への輸出 108,253,039 圓

日本より輸入 113,357,334 圓

フィリピン

面積 114,400 平方哩 日本内地の約 4/5 倍

人口 總數 12,420,927 人

密度 110 人/平方哩

日本への輸出 24,050,881 圓

日本より輸入 14,185,013 圓

臺灣

面積 2,974,581 平方哩 日本内地の約 20 倍

人口 總數 5,435,734 人

密度 1,8 人/平方哩

日本への輸出 51,416,425 圓

日本より輸入 204,586,330 圓

アメリカ合衆國

面積 2,973,776 平方哩 日本内地の約 20 倍

人口 總數 122,775,046 人

密度 41.3 人/平方哩

日本への輸出 499,237,580 圓

日本より輸入 62,778,684 圓

カナダ

面積 3,690,043 平方哩 日本内地の約 25 倍

人口 總數 10,376,786 人

密度 2.8 人/平方哩

日本への輸出 6,580,441 圓

日本より輸入 46,891,334 圓

ブラジル

面積 3,275,510 平方哩 日本内地の約 22 倍

人口 總數 40,272,650 人

密度 12 人/平方哩

日本への輸出 2,765,874 圓

日本より輸入 1,008,143 圓

各國石鹼統計表 (一九二九年調)

國名	製造所數	從業員數	生産量		輸出金額		輸入金額		一人當り消費高		
			數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
獨逸	六五	一三〇〇〇	千屯	四六〇	百萬元	一三	百萬元	一三	百萬元	六	三〇〇
米國	二二	一七、四〇〇	一、五〇〇	一〇〇	百萬元	一五	百萬元	二五	百萬元	一四	四〇〇
英國	三〇	二七、六〇〇	四八	二五	百萬元	三六	百萬元	三三	百萬元	九	四〇〇
佛國	不詳	六、六〇〇	四〇〇	不詳	百萬元	一七	百萬元	一七	百萬元	九	不詳
日本	四〇〇	四、〇〇〇	一〇〇	四〇	百萬元	〇・二	百萬元	〇・二	百萬元	一・五	不詳

各國石鹼生産高及消費高 (一九二九年調)

國名	數量	金額	價格	一人當り消費量
亞米利加	一四、二〇〇	萬噸	四、六〇〇	一、一五
獨逸	四、三〇〇	萬噸	一、五〇〇	六、三〇
英國	四、五〇〇	萬噸	一、〇〇〇	六、七〇
佛蘭西	四、〇〇〇	萬噸	未詳	六、七〇
伊太利	一、九〇〇	萬噸	同	一、一
日本	一〇、〇	萬噸	一、四〇〇	一、一

外國洗濯石鹼分析表

名稱	產地	外觀	水分	石鹼分	ア游ルカソ	不溶解物	鹽分
サンライ	英	固形	一八、七	六〇、五	〇、〇一	〇	〇、四
オクタ	米	固形	一八、三	六七、三	〇、〇一	一三、〇	〇、三
カリス	米	固形	一七、三	七五、〇	〇、〇一	九、三	〇、三
ホリス	米	固形	一六、四	六〇、一	〇、〇一	三、三	〇、三
フエル	佛	固形	一四、八	七三、八	〇、〇一	一三、六	〇、三
猫印	獨	固形	一四、六	八二、二	〇、〇一	〇、三	〇、三
スベール	獨	固形	一一、八	八六、六	〇、〇一	〇	〇、三
ベル	獨	粉末	一六、〇	四八、三	〇、〇一	三、三	〇、三
リッソ	英	小粒形	二六、二	四八、五	〇、〇一	三、三	〇、三

外國雜誌一覽「業界關係」

A.....	年刊	S-A.....	年二回
M.....	月刊	S-M.....	月二回
W.....	週刊	B-M.....	隔月
D.....	日刊	S-W.....	週二回
Q.....	年四回	F(B-W).....	隔月

香水・化粧品・油・塗料・藥劑

アメリカ

American Druggist.	M	Chemist & Druggist.	W
Paint Journal.	W	Journal of the Oil & Colour Chemists' Association.	M
Perfumer & Essential Oil Review.	M	Oil News.	W
Paint & Oil Dealer.	M	Colour Trades Journal.	W
Asbestos.	M	Refinery & Essential Oil Record.	M
Chemical Industries.	M	Soap Trade Review.	M
Chemical Markets.	M	Chemische Umschau a. d. Gebiete d. Fette, Öle, Wachs u. Harze. 26 Nrn 26 回	M
Chemicals.	F	Deutsche Parfümerie-Zeitung. 24 Nrn	M
Chemical, Technical Edition.	M	Erdöl u. Teer. 36 Hefte Farbe u. Lack.	W
Drug & Cosmetic Industry.	M	Riechstoffindustrie.	M
Markets.	M	Seifensieder-Zeitung u. Rundschau ü. d. Harz, Fett u Öl-industrie.	W
Drugs, Oils & Paints.	M	フランス	
Oil, Paint & Drug Reporter.	W	Matières grasses, pétrole & ses dérivés.	M
Oil & Gas Journal.	W	Parfums de France.	M
Weekly.	W	Parfumerie moderne.	M
Paint, Oil & Chemical Review.	F	フランス	
Painters Magazine & Paint & Wall Paper Dealer.	M	African Chemist Druggist.	M
Practical Druggist.	M	アメリカ	
Soap.	M	India Rubber World.	M
Soap Gazette & Perfumer.	M	Rubber Age American Ed.	M
Toilet Requisites.	M	Tires.	A
イギリス		India Rubber Journal.	W

ラ ツ ク ス	米	フ レ ン ク	四、五二	六、六一	〇	〇、六八
パ ー モ リ ー ズ	米	白 粒	四、〇六	六、五二	〇	〇、三三

本邦石鹼輸出高

〔最近四年間〕

年 別	化 粧		石 鹼		そ の 他	
	數	量	數	量	數	量
昭和六年	七、七九	打	三、四三	斤	八、四九	斤
同 七 年	一、七〇	打	六、〇九	斤	二、〇六	斤
同 八 年	三、一三	打	二、四一	斤	六、五七	斤
同 九 年	三、〇五	打	二、〇六	斤	六、七〇	斤

蚊取線香・燐寸輸出高

〔昭和八年〕

品 名	昭和八年	同 七 年	增 減
蚊取線香	六、八八、八三 円	五、三二、三九 円	一、五六、四四 円
燐寸	三、四八、五九 円	三、八二、四三 円	三、三〇、一三 円

海外業界組合

〔英・佛〕

英 國

United Kingdom Soap Manufacturer's Association.

國內全生産の約八〇％を統一してある代表的石鹼組合である

佛 國

Union des Syndicats Français de la Parfumerie (19 Rue Cambon, Paris)

全國的な業界組合聯合會である。その外、左記の如き各種組合がある。

- Syndicat de la Parfumerie Française.
- Syndicat des Huiles Essentielles.
- Syndicat des Parfumeurs Distillateurs de Grasse.
- Syndicat de la Parfumerie de Lyon.
- Syndicat des Fabricants Fournisseurs pour Coiffeur et Parfumeurs.

海外貿易海外業界

Rubber Age-English Ed.	M	発行	アメリカ	American Gentleman & Sartorial Art Journal.	9 Nos.
Transactions of the Inst. of Rubber Industry.	B-M			American Fur Designer.	M
World's Rubber Position.	M			—Hairdresser.	M
ドイツ	W			—Hatter.	M
Gummi-Zeitung.	W			Boy's Outfitter (with Directory)	M
Kautschuk	M			Barber's Journal.	M
フランス	M			Beauty Culture.	M
Caoutchouc et gutta-percha.	M			Butterick Fashion Book.	5 Nos.
レザー毛皮	W			Clothing Trade Journal	M
アメリカ	W			Footwear Fashion.	M
American Shoemaking.	W			Harrer's Bazaar.	M
Boot & Shoe Recorder.	W			Infants' & Children's Review.	M
Fur Trade Review	M			Keystone	M
Hide & Leather	W			Men's Wear.	S-M
Journal of the American Leather Chemists Association.	M			Mc Call Fashion Book.	B-M
Leather Manufacturer.	M			Mc Call's Magazine.	M
Trunks & Leather Goods.	M			Millinery Trade Review.	M
ドイツ	M			Nation & Novelty Review	M
Footwear Organiser	M			Needcraft.	M
Journal of the International Society of Leather Trade Chemists.	M			Pictorial Review Fashion Book.	5 Nos.
Leather Goods.	M			Style Sources.	S-M
—Trades Review.	W			Vanity Fair.	M
—World.	W			Vogue Pattern Book.	B-M
Shoe Manufacturers' Monthly.	M			Vogue—Fashion guide to the smart women.	S-M
ドイツ	M			アメリカ	M
Collegium.	M			Coming Fashions.	M
フランス	M			Children's Dress (Hammsworth's).	M
Ganterie.	M			Droner's Organiser.	M
フランスロスロフスキー	S-M			Gentleman's Tailor.	M

海外商品陳列館一覽

香港日本商品陳列所

Japanese Commercial Museum 549 Market St. San Francisco Calif., U. S. A.
 哈爾濱日本商品陳列館
 哈爾濱道里區經文街二號地哈爾濱郵便局私書閣349號

スタンプル日本商品陳列館

Musée Commercial du Japon, Boite Postale 1423, Stamboul, Turquie.

カイロ日本商品館

Commercial Institute of Japan, 17 Shareh El-sheikh Abou El-Seba,
 Cairo Egypt. P. O. Box 658Cairo, Egypt.

メダツ商品陳列所

Heh Japansche Handelsmuseum, max Havelaarlan 1, Medan, Sumatra,
 D. E. I.

新嘉坡商品陳列所

The Japanese Commercial Museum, No. 65 High St., Singapore, S. S.

スラベヤ日本商品陳列所

Japansche Handelsmuseum, Pasar-Besar, Soerabaya, Japan, D. E. I.

スラベヤ日本商品陳列所ベタビヤ出張員事務所

Japansche Handelsmuseum, GangScott no. 3, Batavia Centrum Java, D.E.I.

ラングーン日本商品陳列室

The Japan commercial Show Room. 238 Mogul St., Rangoon, Burma.

甲谷純日本商品館

The Indo-Japanese Commercial Museum 135 Canning St., Calcutta India.

蘇谷日本商品見本陳列所

c/o Sample Room of Japanese Merchandise, Bangkok, Siam.

商工省貿易通員アドレス一覽

駐在 地	氏 名	ア	ム	シ	ス
天津	藏重 任一	天津日本租界松島街新德里五四號			
漢口	西川 喜一	漢口日本租界大正街第四二號 (又ハ漢口日本總領事館兼社)			
香港	遠藤 寛六郎	目下歸朝中			
青島	大谷 彌十次	青島大平路、青島ツラニンドホテル			

Home Fashions (Harnsworth's). M

Hatters' Gazette. M

Leache's Home Dressmaker. M

Ladies' Tailor. M

Leach's Childrens' Fashions. M

Man & his Clothes. M

Minister's Gazette of Fashion. M

Needlework for All. M

Roma's Pictorial Fashions. M

Style for Men M

Tailor & Cutter. W

Weldon's Ladies Journal. M

—Bazaar of Children's Fashions. M

—Catalogue of Fashions. 3 Nos. M

—Home Dressmaker. M

—Illustrated Dressmaker. M

Watchmaker, Jeweller, Silver-smiths & Optician. M

フ イ ッ

Beyer Modifiner. S-A

Dame. W

Das Grasse Ullstein Maden Al-bum. S-A

Handarbeiten aller Art. 8 Hefte S-A

Herrn Journal M

Neue Linie. M

フ ラ ン ス

Art et la mode. S-M

Album d'Enfant. S-A

Adam. Revue de l'homme. M

Adam-Chemistier. M

Belle Parisienne. M

Bijou de la Mode. S-A

Chic Parfait. S-A

Création de Manteaux. Q

Chapeaux de la femme chic. 10 Nos. Q

—du Très Parisien. Q

Coiffure française illustrée. M

Distinction. M

Enfants du jardin des Modes. S-A

Q

Excelator Modes. Q

Q

Enfants de la femme chic. 2 Nos. S-A

S-A

Enfant Star. S-A

S-A

—Junco. S-A

S-A

—Elegant. S-A

S-A

Elegance Féminine. S-A

S-A

Frankpise. M

M

Femina. M

M

Femme chic. M

M

Grande Revue de Mode. S-A

S-A

Iris. S-A

S-A

Iris, La Blouse Moderne. S-A

S-A

La Mode Favorite. S-A

S-A

La Parisienne. S-A

S-A

Jardin des Modes. M

M

Journaux de Mode Imprimés à Lyon. Q

Q

Modes et Travaux Paris-tailleur. 24 Nos. Q

Q

Paris Enfants S-A

S-A

Paris-toilettes. M

M

Record. M

M

Revue des Modes. M

M

—Parisienne. S-A

S-A

Robes Elegantes. M

M

Soyons pratiques. M

M

Saison Parisienne. S-A

S-A

Smart. S-A

S-A

ナイロビ	中川彦治	P. O. Box 480, Nairobi East Africa.
西貢	加藤俊雄	No. 1 Rue Jaureguiberry Prolongée, Saigon.
盤谷	大山周三	P. O. B. N. N. 178, Saigon
蘭貢	大場忠	c/o Japanese Consulate, Bangkok, Siam.
馬尼刺	渡邊薰	c/o The Japanese Consulate, Rangoon, Burma.
唐地	缺員	P. O. Box 1990, Manila, Philippine Islands.
テヘラン	缺員	
未蘭	缺員	
維納	缺員	
ブルラツセ	藤功	No. 5, Rue Robert D'heureau, Woluwe-St-Pierre, Bruxelles, Belgique.
モムパサ	缺員	
トロント	大沼恒員	Claude Apartments, Claude Avenue, Toronto, Ontario, Canada.
シヤトル	松本正雄	124-13th Ave., Seattle, Wash., U. S. A.
シカゴ	小川末次郎	P. O. Box 443 Seattle, Wash., U. S. A.
ヒュース	河井信三	c/o Consulate of Japan, 1533 Tribune Tower, 435 North Michigan Ave., Chicago, Ill., U. S. A.
トバ	缺員	327 Cotton Exchange Bldg., Houston, Texas, U. S. A.
ハバナ	指田平陸	Callede Ocampo No. 3 Mexico, D. F.
メキシコ	富田謙一	又t Apartado 2431 Mexico, D. F.
里馬		Apartado 499, Lima, Peru. 又t c/o Consulate duJ apon, Giron Manz-on No. 204, Lima, Peru.
サンチャ	新谷吉松	Casilla 4107, Santiago, Chile.
リオデジ	古川大斧	c/o Embaixoda do Japao, Rua dos Voluntari-os da Patria 166, Rio de Janeiro, Brazil.
シドニー	岩崎實太郎	G. P. O. Box 2446 M.M. Sydney, N. S. W., Australia.

—Mateurs et Costume.	S-A	Commercial Photographer.	M
Soyons chic et Patrique.	M	Merchant's Record & Show	M
Star	S-A	Window.	M
Stella.	S-A	Outdoor Advertising Associa-	M
—Costume et Manteaux.	S-A	tion News.	M
Très Parisien.	11 Nos.	Postage and Mailbag; the Maga-	M
Toujours chic.	Q	zine of Mail Advertising.	M
Très Elegant	M	Printer's Ink.	W & M
Toute le Mode.		イギリス	
Voire Gant.	S-A	Advertiser's Weekly.	W
Voi la Mode.	M	Advertising Display	W
Vogue.	M	—World.	M
オーストリヤ	S-A	Commercial Art & Industry.	M
Jeunesse Parisienne.		Signs & Outdoor Advertising.	M
Wiener Modelle f. d. Strickerrei		F イ ッ	
u. Wirtkerei.	M	Dekorations-und Reklamekunst.	
婦人讀物		Mit ABC des Kaufmanns.	M
アマリカ		Gebrauchsgraphik.	M
Harper's Magazine.	M	Gebrauchsphotographie.	M
Ladies' Home Journal.	M	Konfektioner.	W
Pictorial Review.	M	Neue Dekoration. Siehe: Kon-	
Woman's Home Companion.	M	fektioner Reklame.	21 H
イギリス		Schaufenster-Kunst & Technik.	M
Modern Woman.	M	追加	
Weldon's Ladies Journal.	M	スウェーデン	
Woman and Home.	M	Svensk Kemisk Tidskrift.	
Woman's Journal.	M	Stockholm.	
—Pictorial.	W	Pharmaceutisk Revy.	
フランス		Stockholm.	
Art Menager.	M	南アフリカ	
Beaute; Coffine-Mode.	M	The African chemist & Druggist.	
廣告		P. O. Box 543, Johannesburg,	
アマリカ		South Africa.	
Advertising & Selling.	F		

外國行小間物化粧品運賃表

一、日本郵船調の分

地名	建	運賃	最低運賃	戻金	摘要
ポルトサイド	四〇才又ハ	八二志	三六志	一割	△印は直樹の場合不用
アレキサンド	船主オプ	九三	六六	一割	
ナボ	〃	九〇	三六	一割	
マルセイユ	〃	九〇	三六	一割	
ロバール	〃	九〇	三六	一割	
ハンブルグ	〃	九〇	三六	一割	
ホノルル	四〇才又ハ	米金弗	米金弗	一割	
桑府港	〃	〃	〃	一割	
羅キヤト	〃	〃	〃	一割	
パンクイバル	〃	〃	〃	一割	
バナマ	四〇才又ハ	〃	〃	一割	
紐育	〃	〃	〃	一割	
マンザニヨ	四〇才又ハ	〃	〃	一割	
ラ、リベルタ	〃	〃	〃	一割	
サルパドル	〃	〃	〃	一割	
ベナベント	〃	〃	〃	一割	
ラコロンビヤ	〃	〃	〃	一割	
ガアキキル	〃	〃	〃	一割	
エクアドル	〃	〃	〃	一割	
カイヤオ	〃	〃	〃	一割	
秘露國	〃	〃	〃	一割	
バルパライソ	〃	〃	〃	一割	
智利國	〃	〃	〃	一割	
マニラ	四〇才又ハ	七〇〇	五〇〇	一割	
ニラ	四〇才又ハ	七〇〇	五〇〇	一割	
アリスメン	四〇才又ハ	七〇〇	五〇〇	一割	

燐寸の對米輸出

本邦燐寸の對米輸出は、昭和七年以降顯著な進出振りを示し八年度に於いてはその金額百九十四萬七千餘圓といふ前年度の約四倍に上り、わが燐寸總輸出額の六割弱を占むるに至つた。然るに、右仕向地たる米國の燐寸製造業は、一九二九年以來相當の苦境に在るものゝ如く、昭和八年六月、産業復興法の制定實施さるゝや、十二月には既に同法に基いて米國燐寸製造業同業規約を制定し、以つて國內同業者の鞏固な統制を計るとともに、外國燐寸の輸入阻止準備工作を施すに至つた、しかし右外國燐寸が主として本邦品を指すものであることは復興局長官が前記同業規約の認可に當り、大統領に提出し報告者並びにその後の米國當業者の行動に見るも明白であつて、本邦輸出業者は這般の情勢に鑑み、對米燐寸の輸出を適當に調節せんとの見地から、昭和九年五月、日本對米燐寸輸出組合を設立し、目下最高輸出數量（一年六萬箱）並びに最低輸出價格（FOB神戸二十八圓五十錢）につき統制實施中である。

然るに米國に於けるその後の

中華民國業界品輸入稅率

昭和九年七月改正

番號	品名	單位	稅率
五二	亞鉛白	百斤	三〇〇
五三	石鹼	同	八〇〇
五四	家庭用洗濯用	同	三〇〇
五五	その他	同	一五〇
五六	別號に掲げざる油、脂及び蠟	同	一五〇
五七	扇子及び團扇	千個	一〇〇〇
五八	紙張又は綿布張のもの	同	一〇〇〇
五九	セト又ハその部分品、白粉、刷毛及び白粉匣及びグアニチー、ケイ	定價	三〇%
六〇	香水、ユスメリ、石鹼、鬚剃劑、煉製齒磨、煉製齒磨、タルカム、その他化粧粉	同	三〇%
六一	ヘア、トニツク及びその他	同	三〇%
六二	又ハ皮膚用調製品	同	三〇%
六三	化粧用器具	同	三〇%
六四	刷毛等の如きもの	同	三〇%

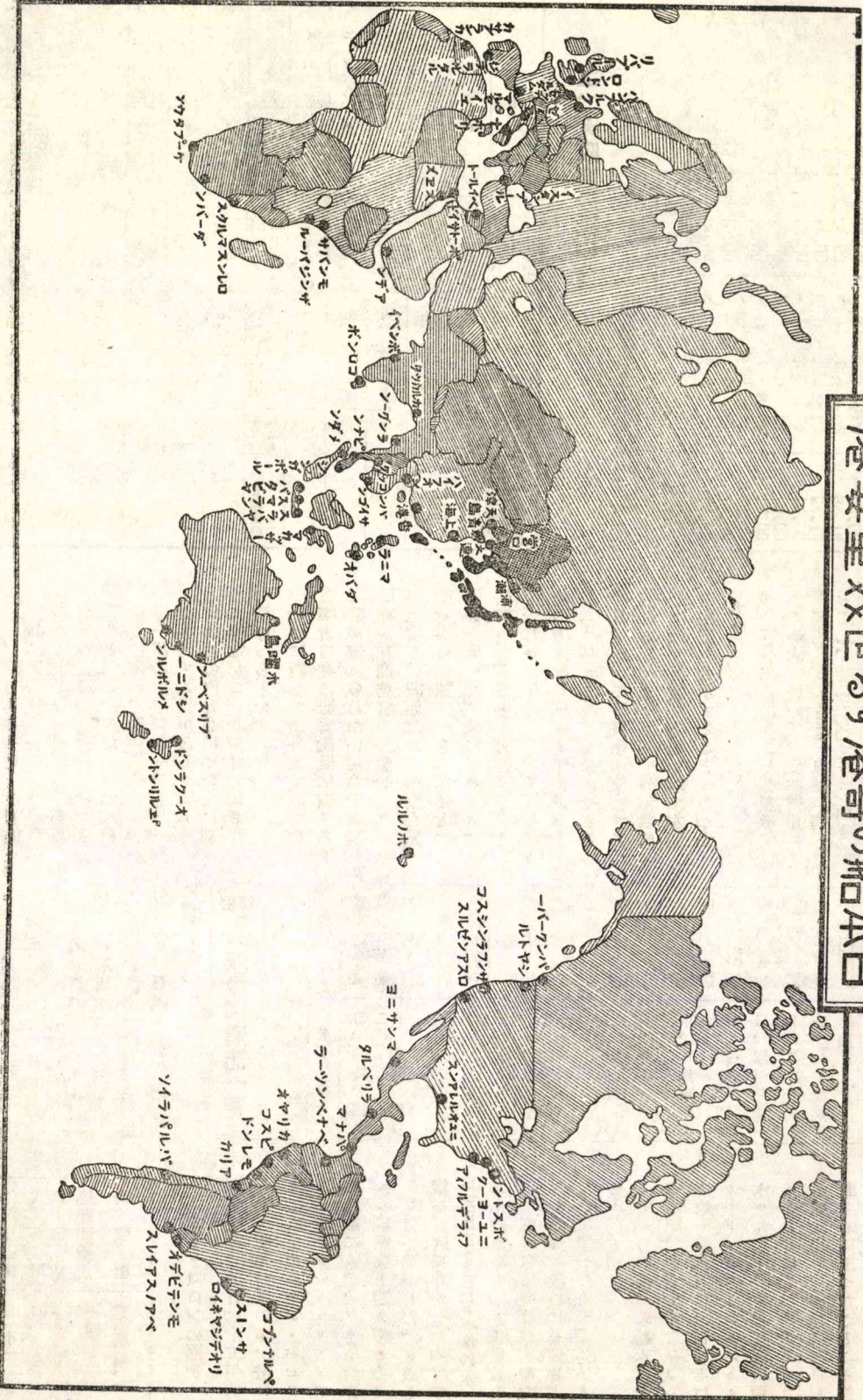
情勢と本邦内部の事情とは、右輸出の遺漏なき統制をますべく、必要ならしめたので、その地區を内地一圓に擴張すると同時に額取び取引先に關する制限に依らしめることゝなつた。

なほ、その統制方法は、一年を三期に分ち、毎期の輸出數量を決定し、之れを組合員に割當てるものであるが、割當方法は總數量の九割については組合員の過去一ケ年間の実績により、殘餘一割については平等割により及び各期の未輸出總量については入札の方法によることゝなつてゐる。又、統制確保の手段としては、組合の發給する輸出承認書の交付を受けしむることと統制證紙を外裝に貼附せしむること、並びに積出後十日以内に領事證明附インボイス寫及び船荷證券寫各一通を組合に提出せしむることゝした。【日本對米燐寸輸出組合調】

問題

“Made in Japan” を此の際とて “Made in Nippon” に改むべし……との各業者からの聲が最近頗る熾烈を極めつゝある折柄——昨年 Japan “Made in Nippon” の日本商品表示は、紐育税關に於いて手續上の違法として罰金を課せられる旨紐育からの急電に接した一輸出業者は外務省に次の如く事情を訴へた。

日本船寄の港要重界



日本の生命線滿洲はまたわが業界の生命線でもあるわれ等の若き隣人は、またこれわれ等の新らしき市場でもあるからである。廣袤七萬四千方里、千里の曠野はこれ無限の寶庫、五族三千萬の民衆はこれ悉くわれ等の顧客である。見よその五色旗の飄る處、王道政治の下、今や安居樂業の理想境は、若き帝國の生長とともに、その完成へと進みつゝある。四年間に過ぎざるの努力としては、眞に是れ世界歴史に類ひ稀なる偉業ではないか。若き滿洲、輝く滿洲、われ等は義として此の不朽の大作を守立てゝ行かなければならない。



而してその親善は、日滿經濟プロツクの實現にその基礎を置いて彼此、相互の共榮を圖ることに、その第一歩を置く、此の大旨に對しては何人も異論はあるまい。われ等業界人は、目標を其處に置く。

仄かに聞くが如くむば、皇帝陛下には陽春を期して日本訪問の途に就かせらるゝの御意圖ありやに拜する。若し然りとすれば若き隣邦の若き元首を迎ふるの昭和十年は、日滿國交の上に、重大な一エホツクを作るの年となるであらう。

滿洲の全貌

建 國

古きは言はない。記憶せらるべき大同元年三月一日、輝ける獨立を中外に宣してから早くもこゝに四星霜。内外多艱の眞只中に全三千萬の民衆ひたすら王道立國、樂土建設の途に邁進、營々國際的地位の卓立に拮据したる結果、今や寔に國運の進展炳乎として日星の如く、諸般の施政刮目眞に見るべく、産業文化凡百の發展感々顯著なる今日とはなつた。善隣の我ら、鼓腹、實に欣快之れ堪へざるものがある。

國 土

廣茫、東部內蒙古を包括する大滿洲國。面積は滿洲が六萬七千方里、東部內蒙古が一萬三千方里、合計八萬方里に及び、實にわが國總面積の約二倍に當る。然して、之れに對しての人口は幾干といふに、約三千百萬人であつてわが國の約三分の一。廣茫眞に羨むべきの地。今後、着々たる資源の開發と建設事業の進捗とによる發展や寔に計り難きものがあらう。

氣 象

要約すれば大陸の酷烈な氣候で、冬季の寒威凜烈なるに反し夏季は暑熱甚だしく、その中間季節の春秋は極めて短い。が、寒波温波の轉換比較的規則正しく、殊に冬季に於いては一週間内外の周期を以て反覆する所謂「三寒四温」の變化を呈し、そのため案外凌ぎ易き氣候を呈するのである。

通 貨

滿洲從來の貨幣制度は、屢々それが整理統一を企圖せられたるにも拘らず、依然各地に各様の地方通貨あり、更らに金、銀本位の外來通貨が流通し、その稱呼、計算法或ひは相場用途を異にし、實に亂雜を極めたのである。然して滿洲國建國とともに幣制の統一を最大急務なりとし、新たに中央銀行を設けてその衝に充て

ることとなつた。大同元年七月一日から實施された舊貨幣整理辦によれば、東三省官銀號、吉林永衡官銀號、黑龍江省官銀號及び邊業銀行の發行せる現大洋票、奉天票、哈爾濱大洋票その他各種の紙幣は、辦法施行後二年間を限り一定の換算率により效力を保有し、又奉天省の十進銅元は五年間新貨幣一分青銅貨と同一效力を有し、中國、交通兩銀行の發行せる哈大洋は五年以内に回收する方針である。

現に滿洲國到る處で流通力を有する便利なもの、大洋錢、小洋錢、それに補助貨として銅元がある。

輸 出

輸出品中の主要なものは大豆、その他の豆類、粟、高粱、搾油用種子、豆粕、豆油、鹽、石炭、鐵等であるが、特に重要なのは大豆である。

大同元年中に於ける大豆輸出は四二三九萬八千擔、價格一億四三八五萬九千九百兩であつて、輸出總價格の三七・四%を占め、之れに大豆を原料とする製品——豆粕豆油の輸出額を加算すると價格二億三四六八萬二千兩に上り、輸出品總額(再輸を除く)の六一%を占める。之れを以て見るも大豆及びその製品が如何に重大な役割を演じつゝあるかを察知し得よう。然してその主要仕向國は、日本内地、中華民國、蘭印、ソ聯、英、獨、和、伊、埃及等である。

輸 入

輸入品の主なるものとしては、小麥粉、砂糖、煙草、燈油、綿花、綿織物及び糸、その他の織物、麻袋紙、鐵及び銅、機械工具類、車輛等が擧げ得られる。その首位に在る小麥粉は、大同元年に於いて總輸入高三九七萬六千擔、價格一五六八萬三千兩あり、輸入品總額の八・一%を占め、主要仕向地は、日本内地、中華民國、北米合衆國である。

滿洲國業界 品輸入稅率

番號	品名	單位	現行稅率	國幣
五三	一、棉花及綿製品 綿糸 コットン・スレッド 一、綿縫糸 (糸卷又は管に捲きたるもの) イ、二合又は三合糸 糸長五十碼以下 ロ、六合糸 糸長五十碼以下 ハ、その他の糸長は上記の割合による	一哥	0.140 0.130 0.140	0.140 0.130 0.140
六	三、毛及び毛製品 レース、トリミング、刺繡布その他裝飾用材料又は製品並びに之等を以て製せられたる物	從價	35%	35%
四九八	九、蠟燭、石鹼、油、脂蠟、護膜及樹脂類 オリブ油 大量包装のもの	ガロン	0.14	0.14
四九九	家庭用及洗濯用石鹼 藍色包装の有るものを含む	從價	(2.14) 改正10%	(2.14) 改正10%
五〇〇	石鹼 化粧用又は裝飾するもの	從價	(10%) 改正10%	(10%) 改正10%
五〇一	一、動物性產品及其製品類 ステアリン	一擔	11.400 11.0%	11.400 11.0%

滿洲の産業界一瞥【業界關係】

大豆油工業

滿洲に於ける油場工業は、日本農村の疲弊、硫安工業の勃興、歐洲製油工業の發達、特に獨逸の關稅政策により衰微の状態にある。滿鐵にては中央試驗所にて完成されたアルコール抽出法による小規模工場を大連市寺兒溝に建設しつゝある。大豆處理量一日百廳の工場である。この方法によつて製造される油は、從來のものに比して優良で、然も豆粕は從來のものと同様に異にし、純白で小麦粉に類似し食料用となる。なほその他に、醫藥用或ひは工業用として貴重なレシチンを副成する。これらの新副産物が適當に利用消費せられるならば、このアルコール抽出法は油房工業の探算を有利ならしめるであらう。同法の成功は斯業の行き詰りを打開するものではないが、大いに期待される。【九年版「化學工業年鑑」二二頁】

硬化油生産及び其需給表【千圓】

昭和	生産額	輸出	内地		國外	
			需要	供給		
2	25.9	1.1	24.8	18.8	3.8	2.1
3	29.5	5.2	24.3	18.2	4.1	2.0
4	33.4	5.6	27.7	19.9	5.6	2.2
5	40.0	12.3	27.7	20.2	5.2	2.3
6	45.8	13.5	32.3	26.0	4.3	2.0
7	52.8	17.0	35.8	27.4	5.3	3.1

油脂加工業

滿洲に於ける油脂加工業は、硬化油、石鹼、蠟燭、塗料等を擧げ得るが原料の豊富なるに比しては甚だ振はず、大正五年、滿鐵は大豆油を原料とする硬化油製造の目的を以て、資本金百萬圓の大連油脂工業株式會社

社(現在は資本金二十五萬圓に減資)を設立、同時にグリセリン、オレイン、ステアリン等の製造を開始し、これら事業の發達改良に多大の努力と犠牲とを拂つたが、母國に於ける新業保護策として、大正十年、内地輸入關稅増徴のため、内地輸入不可能に陥り、硬化油事業のみを残して他は休止するの已むなきに立ち至り、専ら硬化油の品質向上に力を致し、今日に於いては各種硬度の硬化油以外、食用脂製造をも開始し、社業次第に好轉しつゝある。

石鹼製造は、大連に前記大連油脂工業株式會社の外、専門製造者に萬玉洋行、滿洲石鹼株式會社、外、支那人小工場二、旅順に一、また關東州外に於いては撫順に一、奉天に五軒あり、化粧石鹼、洗濯石鹼、その他各種の石鹼を製造せるも、僅かに地方の需要を充すに過ぎず二三の外は家内工業の域を脱せず、最近奉天に開設せる振昌號一昭和五年六月開業、支那資本現洋二萬四千元一新中国造膜工廠一昭和六年五月開業、米支資本金二萬圓一は動力を使用し、近代的に化粧石鹼を製造してゐる。然し支那人工場には、往々にして市場に聲價ある石鹼の偽造をなすものがあるが、殊に昭和六年五月から化粧石鹼の支那輸入關稅が從價三割に増額のため、輸入石鹼は少からず打撃を受け、關東州外に於ける石鹼製造業は有利となり、生産力大いに増加の傾向がある。

蠟燭製造業は、大連に三、奉天に八軒の製造工場があつて、地方の需要を充してゐる。油性塗料の製造者は、大連に滿洲ペイント株式會社一、大正八年設立、資本金五十萬圓一があつて、各種ペイント、ニス、エナメル及び亜鉛華、光明丹等を製造し、その品質の優良なるため次第にその販路を擴張し、南清地方にも輸出し近年の財界の不況にも拘らず、昭和五年度の生産額は四十八萬圓に及んだ。

燻寸工業

五三	別號に掲げざる革製品、靴及財布等を含む	従價	二五%
五八	毛髮及同製品 イ、馬毛 ロ、馬尾毛 ハ、その他の毛髮 ニ、毛髮製品	一擔 同従價	八・四〇〇 一六・三八 二五・三五 一〇・〇〇 一五%
六九	一六、雜品 琥珀、珊瑚、鼈甲 眞正又は模造及同製品 イ、未加工品 ロ、その他	従價	一五%
六四	別號に掲げざる裝飾用材料及製品、箔散し、箔及箔練、金屬性トリミン等を含む	従價	四〇%
六三	寶石及裝飾品 イ、眞珠、金剛石その他の寶石(眞正又は模造)にて裝飾したるもの ロ、別號に掲げざる装身用品及家庭用裝飾品	従價	四〇%
六七	美爪器具一式又は部分品、白粉刷毛又は函、化粧品函	同	三〇%
六八	櫛、木製、安全、その他 イ、小箱入、縦二吋、横一吋、幅 $\frac{1}{2}$ 吋以下の箱 ロ、大箱入、縦二吋、横一吋、幅 $\frac{3}{4}$ 吋以下の箱 ハ、ロに掲ぐる容積を越ゆる箱入	従價	四〇%
六三	香水、コスメチック、鞣制用石鹼、化粧クリーム、煉齒磨、タルカム、その他の化粧品、頭髪強壯劑及その他總ての頭髪、口齒牙又は皮膚用品、化粧用器具、櫛、刷毛等	同	三〇%
六三	イ、高級品 ロ、その他	従價	三〇%
六四	別號に掲げざる玩具及び遊戯用具	同	二・五%

滿洲に於ける燐寸製造業は、明治三十九年十一月、新京内に資本金三萬圓を以て佐藤精一氏經營の日支合辦廣仁津火柴会社が濫觴をなし、同公司是年十月、日清燐寸株式會社に買収せられ、營業成績も順調に進んだが、燐寸業の有望なることが認められるや、大正二年、營口に關東、三明の二支那人工場、大正三年、吉林燐寸株式會社の設立されたが恰も歐洲大戰に遭遇して巨利を博するや、同業各地に簇生、更に支那側の利權回收、國產獎勵熱のため、支那人工場の濫設を見、遂に生産過剰を來し、滿洲に於ける一ヶ年三十五萬箱の燐寸需要に對し六十萬箱の生産能力を有するに至つた。

加ふるに、大正十四年より瑞典に本據を有する國際燐寸會社は東洋市場の統一を畫し、その巨大な資本を以て滿洲侵入となり、日清燐寸を始め吉林燐寸及び大連燐寸の三社を買収するに及び、滿洲燐寸界は純邦人系、瑞典系及び支那人系の三者鼎立して烈しき競争を演じ、遂ひに日支兩者は瑞系社のため壓迫され、支那人工場の休業するもの續出したるを以て、支那官憲は自國産業保護の見地を以て昭和六年より東北四省内に燐寸の專賣制を施行し、純邦人系及び支那人系工場を中心に東北燐寸同業聯合會を組織、省政府の委任を受け、各社協定比率によつて燐寸製造を行ひ、專賣局の定むる價格を以て日支同業者の出資に成る東北燐寸經理處なる機關の下に共同販賣をし、多年混亂せる滿洲燐寸界もやうやく平靜を得、專賣制とともに支那輸入關稅が從價四割に増額のため、外部より輸入は斷たれたれども銀安による商況不振と專賣とを見越しての思惑買と價格暴騰のため需要激減し各社とも多大の製品を擁して苦惱せる状態である。【以上二項、九年版「關東廳要覽」に據る】

豚 毛

現在、世界の文明國に飼育されつゝある豚の大部分

は肉用種で、工業製品たる剛毛の發生を見ざるのみならず、熱帶地方産の豚毛は殆ど用をなさざる結果、世界の需要に對する豚剛毛の供給國は支那、滿洲、ロシアその他二三の寒冷地帯に止り、然も支那及び滿洲がその首位を占め、年々海外に輸出さるゝ數量は約九百萬封度になり、全世界産毛量千六百萬封度の五六%を占め、中、滿洲産豚剛毛は約二百萬封度にしてその約四分の一に當つてゐる。

滿洲に於ける一年間の屠殺豚數はほぼその飼養頭數と同じく約八百五十萬頭と推定され、刷子用原料たる猪鬃量は一頭平均百五十瓦乃至二百六十瓦、平均二百二十瓦である。冬季の屠殺豚より生ずる猪鬃は強靱で光澤があり、尖端は深く裂けてゐるが、夏季の屠豚には之れが存在すだ少く、然も尖端の裂けてゐる程度が淺く且つ彈力を欠き光澤がないから、ブリツスルとしての價値に乏しい。

滿洲に於ける豚毛の大集散市場は奉天で、一年の集散猪鬃は約二百萬斤に上り、その相場は昭和七年百斤建、銀二百八十元を唱へた。札子にあつては銀二十五乃至三十五元で、猪鬃に比してその價格一割に過ぎない。

昭和六年に於ける滿洲三港から豚毛輸出は、精毛仕分せるもの六十三萬二千九百斤(百十九萬八千四百九十四海關兩)、仕分せざるもの九萬九千八百斤(八萬千六百七十八海關兩)、合計七十三萬二千七百斤(百二十八萬百七十二海關兩)で、全滿豚毛總輸出量の約二分の一に當る。それでこれの仕向先は、日、英、佛、白米、支等の諸國である。

なほ、大藏省の統計に從へば、大同元年に於ける滿洲の豚毛輸出數量は如左。

四、四八二擔 前年六、六〇三擔

滿洲に於ける東京商品

現在、日本の商品で、滿洲に行つてゐないものは殆ど無いといつて差支へない。外國品など、今は全く本邦品に壓倒されて問題にならない。

この點は非常に嬉しく且つ心強く思ふが、只、品物を持つてゆく日本人がその品物をまるで押賣的に捌いてくる……この點は甚だ香しからざる事實だと思ふ。その結果、どうしてもお互に無理が生じる。結局、日本商品の供給過多、これは争へない事實である。

かくして、在滿邦商は頗る苦境に陥る。いゝ品物が来た、相當にそれを仕入れる。と又次にそれに類似の格安品が来る、結局また仕入れ込む……こんな譯で、相場維持が非常に困難となる。——お互ひ考ふべきであらう。

實際、滿洲中どの町へ行つても、八九分の商品は日本品が占めてゐる状態だ。が、利率はといへば前述のやうな次第で實に薄いのもの。

で、滿洲の購買力はどうかといふに、御承知の如く昭和七年は非常に廣範な水害に續いての不況であつた。また八年はやゝ景氣恢復したものゝ、例の滿洲輸出品中の大宗——大豆が海外に出なくなつた、朝鮮か日本、乃至支那の一部以外には輸出禁止となつて了つた。こんな譯で

一般購買力は頗る衰へざるを得ない。

そして特産物大豆などの市價は頗るに下落し、地方によつてはそれを哈爾濱まで持つて行く運賃の方が却つて大豆そのものよりも高くつくつと云つた事情で、結局あつたら大豆を燃料にしてふ、といふ話もある位、兎も角大豆の相場はまるで下落して了つた。尤も最近ではぼつ／＼海外にも出るやうになつたが、まだ／＼お話にならない。

それから、昭和九年は各地とも大變雨が、その結果不作に陥つた。八年は豊作から来た飢饉年であつたが、九年は不作から来る眞の饑饉年であつた。農民の疲弊は想像されよう。一般に購買力の甚だしい減退を見たことも、極めて當然と言はう。

かくの如き事情であるにも拘らず、たゞ滿洲／＼と餘りに無茶な滿洲突貫、そして餘りに無統制な商品供給をやつた結果、お互ひが弱つてゐる。現状は、それであると私は思ふ。故に、景氣の良否といふ問題は商品自體からは何とも云へぬことながら、たゞ日本商品は關稅こそ高くも大手を振つて滿洲に臨めるといふことのみは確である。日本品の聲價は素晴らしいのである。

一般滿洲人は頗る民度が低いので、素より高級品は向かない。何でも安いものそれは彼等のねらひである。大阪品が歡迎されて東京品がさ程でないといふ所以はそこに在る。

又、距離の上から見ても、東京品は大阪品よりも自然高からう、高いものと

きめてかゝる彼等の先入感も手傳ふのであるが、事實は決してさう大した差のあるものではない。只、仕上げその他に優れた點があるので高い、さうした事實を彼等は考へない。この意味から、東京商品はまだ／＼徹底的に宣傳する必要があると考へる。

大體、大阪商人は非常に熱心で進取的な態度がある。見本市の如きも、恰も大阪の見本市かの感があつた。私は大阪商人の態度に敬意を表するとともに、東京商人の猛省を希ふものである。

最後に、滿洲人が一般に云つてわれ／＼日本人に對しては非常な好感を有つてゐるといふ事實である、それは寔に嬉しく思ふ。何事にまれ、總てを日本人に就いて習ひ、處したいと云ふ彼等の氣持。それだけ、われら日本人は大いに自重、その指導的立場に立たねばならぬことを痛感する。彼らがなつてゐる際、實に指導は今こそが好期なのである。この點滿洲へ行かれる方は充分留意せられむことを切望に堪へない。

實際、各地を旅行しても、日本人としての肩身の廣さを痛切に感じる。以前の一種不快な雰圍氣に包まれての滿洲旅行などを思ひ出す時、眞に感慨無量なものがある。【東京滿蒙輸出組合主事、山本太久藏氏談】

滿洲の業界

日本品も、滿洲へはもう大分入り過ぎてる。だから、新しく進出して一洒店

へ入れるといふことは却々困難である。特に新京方面は殆どもう行詰りの状態ゆゑ、先づ、小賣は別として、卸方面から云へば、どうしても奉天かハルビンといふことにならう。

外國品も、ハルビン邊へはチエツコ、ロシア等から相當いろ／＼なものが入つてくるが、値段の點で迎も日本品と競争は出来ない。

滿洲人經營の石鹼工場も無いぢやないが、皆僅かな資本のものばかりで、大きい工場は無い。然も洗濯石鹼程度のものでしか製つてゐないのだから、先づ問題にはならない。又、化粧品製造所も極めて小資本のものは相當あるが、一般によく賣れてゐるものゝ製造所は、大いに廣東香港方面にある。

現在最もよく賣れてゐる化粧料に双妹牌といふのがあるが、これも確か香港製だと思ふ。實際よく賣れてゐるが、その中でもローション花露水が一番よく賣れてゐるやうだ。大きな瓶入りで、二十錢位であるから、安いことも安い。

日本のクリームも、近頃は大分使ひ慣れレートやクラブは相當出てゐる。大體、滿洲ではベジリンとかポマードとかいふ頭髪用品は多く使はれない。それから白粉も、粉は別だが、固煉、水白粉となると殆ど賣れない。そして、先づ最もよく賣れるものはと云へば、クリームと石鹼なのである。

石鹼では、以前は大阪の九重が一番だつたが、今は矢張り大阪のピクトリアがその上位に立つやうになつた。それから

續いて花王だ。ミツワとなると一寸高級品に屬するから一般向きとは云へなくなる。上流階級の人になると寧ろ日本人以上の高級品を使ふが、先づ大體が安いの第一と謂へる。

滿洲市場は全く日本品の獨占といつても些の過言ではない。

その代り、よく模造品も飛び出す。例へば、齒磨にしる在來は大阪のクリーンといふのが一番よく賣れてゐたのだが、すると直ぐ模造品が飛び出した。又、レートの模造品も出て來た。奉天あたりで造つてゐるらしいが、三塔牌といふ品で香から包装から何までレートそっくりである。で、宣傳も何もしない、全くの無名品でありながら、實によく出てゐる。

宣傳といへば、向ふの宣傳は要するにチンドン屋式にやらねば駄目である。何しろ字の讀めぬ人が多いのだから、新聞廣告などは殆ど効果がない。花王の宣傳隊などは、この點で大成功であつた。賑やかに囃し立てながら實物見本を頒布する、全くこの式に限るのである。

で、滿洲人は一旦これと信用してしまへば、なか／＼それから離れない性向があるので、先づ現品を見せて、これならと信じさせることである。前述した三塔牌の場合が矢張りそれであつた。

それから、滿洲に於ける問屋だが、之れは内地よりも總じて堅實である。一時の不景氣ですつかり淘汰されて了ひ、そして残つたものばかりだから、堅實も當然と言へよう。各地に大抵一二店位つゝあるが、然し二流となるともう相當警

を要するやうな店が多くなる。

一流問屋では、先づ新京の金泰洋行。こゝは小賣兼業の店で、年に小賣百萬圓以上の賣上を示す程の有力店で、もう三十年餘の店歴を有つ。それから奉天では前田徳商店、これも三十年以上にならう九州から出、煙草の小賣から始めて今日の大をなした店で、手廣いといふ點では恐らく滿洲一であらう。敬服すべき成功者である。

ハルビンでは、中村商店。これも小賣兼業で、さう大きいといふのではないが堅實は堅實な店である。安東では川勝商店と富屋洋行であらう。富屋洋行の方は新京へも店を出してゐる。それから大連では寺島商店と小泉商店、わけても寺島商店は盛大なもの。又、小賣兼業の店では、浪華洋行も算へられよう。

先づ、これから新しく滿洲へ進出しようとする人は、よく向ふの事情を研究してからにしなければならぬ。既にもう大分行詰つてゐる状態なのだから、たゞ漫然と行つたのではしようがない。で、私などは考へるのだが、むしろ廣告などは二の次に、先づ品質本位といふこと、却つてその方が効果的なのではあるまいか。多田有平氏談

北滿の業界

北滿ではハルビンが中心でチ、ハルビ未だ問題ではない。チ、ハルは地形の關係上、商業地ではなく、すべてはハルビ

を第一としてゐる。

北滿にはいつてゐる化粧品はレート、クラブ、ウテナ、國産カッピ、タンゴ、ドーラン、美顔等て所謂有名品が主である。石鹼は、南滿では花王、ミツワ等が多いが、北滿では資生堂石鹼が喜ばれて居る。これは、水や氣候の影響等もあるであらう。

化粧品で一番よく出るものはクリームで、クラブでもレートでもクリームの賣行きが多い。齒磨はライオンが斷然多く邦人は、好き嫌ひなしにライオンときめてゐる者が多いようだ。しかし滿洲人は香ひの關係上、ライオンを餘り好まない傾向があり、却つて日本ではあまり見なくなつたクリンなどといふのが、喜ばれてゐるのである。

ハルビンのロシア人は、多く佛蘭西の化粧品を用ひてゐるが、品質は日本品と雖も決して劣つてゐるわけではない。たゞ意匠や香料が外國人の造つたものは外國人に向くと見えて、未だ日本のものを愛用する迄には至つてゐない。

滿洲人は一體に化粧品に對する智識が低く、安くてのりのよいものを好む傾向があるので、大阪式の鉛分の多いものが歓迎される。

しかし、化粧品でも頭飾品でも、滿洲人向き、ロシア人向きといふように特別な品を作ることは、私は不賛成である。現在でも既にさうであるが、すべてがどし／＼日本化されつゝあるのであるから日本人向きの品物ばかりをどし／＼送つて、滿洲人、ロシア人に日本の嗜好を注

文し、日本化させるようにしなければならぬ。目先の利益だけを考へるならば滿洲人向きのものを作つて賣り出せば儲かることは儲かる。しかし、國家百年の計を誤らないやうな商賣をするには、特別にそんなものを作る必要はない。どし／＼日本人向きの品を送つてそれを使ふやうに仕向けねばならないと思ふ。しかし、こゝに注意すべきは滿洲行きの品物だからといふので、程度を下げて粗悪品を送り込むことのないようにすると言ふことである。日本で眞面目な品を作つて出せば、これを喜んで使ふようになつて來てゐるのだ。事變前迄は、白人種だけが偉いように考へてゐたが、事變後は日本人を非常に偉く考へるようになり、日本人を眞似ることを以つて誇りとするようになつて來たのだから、此際、滿洲人相手だから粗製品でよいといふような謬つた觀念を捨て、良い品物を出して信用せしめるようにしなければならぬ。

私は、純然たる國粹主義者ですから、ハルビンに居ても、外國の商品は一品も取扱はないことにしてゐる。時々、外國の品で「……」は無いかと尋ねて來る日本人があると、こんな處まで來てゐながら、未だそんな頭では駄目だといつてやります。しかるに、ハルビンの有名な日本商館で、日本品にロシアのマークを貼つて賣つてゐるのがある。ロシア人その他在留外人相手にはその方がいゝかも知れぬが、情無いやり方だと思つてゐる。【八年十一月十一日號商報・哈爾濱中島支店村澤新作氏談】

滿洲人の嗜好

わが業界品も續々滿洲市場へと乗出し、今や同國內到る處、わが業界品の影を見ざる處なき迄の状態に立ち到つたが勿論この大市場の需要を完全に生かさむがためには單に在留邦人を對照とするに留らず、實に彼ら滿洲人を目標として、その趣味嗜好に適する如き業界品を製出するに非ざれば、到底大なる發展を期すべくもない。それには人種、習慣の異なるため、吾人の常識を以ては律することの出来ない種々な相違があるので、滿洲人を相手とする貿易品には、その名稱なり意匠等なりにも、よく彼ら國人に適し喜ばれるやうなものを十分研究、選擇することが必要であらう。そのよき參考資料として、東京商工獎勵館大連出張員山森義氏の報告を擧げて置きたい。

一、滿洲人の好む文字及び圖樣

先づ動物類ではどうか？

一、鳳凰 聖人が世に在る時、出現する靈鳥として尊敬され、梧桐など、配して好まれる。

二、鶴 高貴又は富貴を現はすものとして尊ばれる。

三、公鷄(牡鷄) 鷄冠を有するため、高官に陞任するとも謂ひ、又、天明を知らせる爲め警世の意にも用ひられる。之れに牡丹を配すれば榮達を意味し、公鷄三羽に牡丹を描いて、「三公一品」と云ひ、慶賀を意味する。

四、鶴(鳩) 信書を傳へるため信義厚き意味に用ひられ、又老人の杖の頭にその形を用ひ、老後の安泰を望む

意味とされてゐる。
五、蜂 豐、封等と同意にして封は直ち立身を現はし、縁喜よきものとされてゐる。

六、鶴 一名喜鶴と謂ひ目出度き鳥として喜ばれる。

七、蝙蝠 蝠は福に通じ、喜ばれる。

八、燕 安燕、燕喜等と云ひ、喜ばれる。

九、鯉魚 鯉は利に通じ、又老人鯉を抱へる圖を描き「漁魚得利」と稱して芽出たい圖とされてゐる。昔時、科擧時代より「鯉魚登龍門」といふ詞もある、これは立身の意に用ひられてゐる。

十、龍 龍は昇天するものと云はれ高貴の意を現はす。龍に五爪龍、四爪龍、三爪龍があり、昔時は、五爪龍にして全身を現はしたるものは王室に、四爪龍は親王家に限つて用ふるを許され、一般には三爪龍に限つて用ひるを許され、必ず一部分を雲でかくすものとされてゐた。

十一、鹿 不老長壽の意を持ち祿と同じ音なれば福祿等の一とされてをり、之に松柏を配すれば壽を意味するものとされてゐる。

十二、麒麟 鳳凰に同様。

十三、鴻雁 時季を遠へず來去するを以て信義ありとされてゐる。

十四、馬 疾走速かなるために珍重される。

十五、獅子 剛毅、醒世、進歩等の意を表はし、就中、近來は諸種の商標に用ひられる。

十六、胡蝶 猫に胡蝶を配して描き、「老毛老至」と云ひ暈はれてゐる。

十七、金魚 一面には吉祥の意、又一面には胡蝶とともに綺麗なるために珍重される。

十八、牛 太宰と云ひ、古來天地を祀祭する時には必ず用ひられ、吉と能の意を現はすものとされてゐる。

十九、孔雀 瑞鳥とされてゐる。次に植物類ではどんなものが好まれるかと云ふと、

一、桃 不老長壽等のものとされてゐる。

二、葫蘆(瓢單) 子澤山の意で目出たものとされる。

三、牡丹 富貴高貴を現はす。

四、蓮 君子の意を現はし、蓮葉と並らべて描き並顔蓮と稱し瑞花とされてゐる。

五、橘 音は吉に通じ福橘とも稱して好まれてゐる。

六、華 祀菊延年と稱し長壽の意を現はすものとされてゐる。

七、梅 百花の魁として珍重される。

八、松 常緑を賞し、長壽の意あるものとされる。

九、佛手柑 壽を現はすものとされる

十、桂花 西洋の月桂に似て花は日本の金木犀にちかく、昔科擧に級第した時用ひられたので、榮冠を得る意味とされてゐる。

十一、椿 他人の父親の壽を祝ふに用ひられる。

その他のものでは、太陽、月星の三つを三光と云ひ尊ぶ外、美人が一般に喜ばれ、斗も金斗滿と云ひ、豐年の意に用ひられてゐる。その他、配合して喜ばれるものには、

一、玉葉富貴 と云つて玉蘭牡丹、海棠愛好し。

二、三多 又は三仙と云つて石榴、桃、佛柑が喜ばれる。

三、三釋 と云つて桂花、竹、海棠を

好み。

四、羣花獻壽 と云つて、菊、臘梅、夜來香、僧鞋菊、王針等が描かれる。

五、九如 と云つて詩經にある日月、岡、陵、松、柏、南、山竹、山阜の文字も芽出たきものとされる。

六、棠上双白頭 と云つて海棠、双白頭翁もよく描かれ。

七、四靈 たる龍、鳳、鹿、麟も尊ばれてゐる。

更に文字のみとして悦ばれるものには福、壽、貴、慶、利、寶、晉、順、茂、發、財、昌、隆、和、泰、義、協、合、悅、喜、德、仁。

二、滿洲人の忌む文字及び圖樣

動物類では次の如きものが、凶惡、不吉のものとして忌まれてゐる。

兎、鬼、龜、鼈、梟、熊、鳥、鰐、狼、蝦蟇、蟹、鴨、蛇、蜈蚣(百足) 屋守、蜘蛛、蟻狗

植物で忌み嫌はれるものには柳があり、これらの中には、往々日本の習慣と反對のものがあるから注意を要する。

三、滿洲の宣傳燐寸

大衆的な商品は滿洲國の隅々まで廣告したいと思つても、滿洲人は内地人とは違つて新聞を讀めぬものが國民の大部分を占めてゐるのだから、各本舗とも宣傳の方法には可なり弱つてゐるやうである。所でこの必要を充すべく出現したのが、滿洲國に於ける燐寸專賣權を持つ滿洲火柴公賣承辦處の燐寸廣告である。二千四百個八百箱を單位として料金は四十八圓、九十二圓、百二十四圓となつて居る。

滿洲國主要國別輸出入額 【單位千海關兩】

國名	大同元年 1932年			前年			増		減	
	總額	輸出	輸入	總額	輸出	輸入	總額	輸出	輸入	
日本	225.747	121.624	104.122	246.461	159.192	87.269	△ 20.714	△ 37.568	16.853	
朝鮮	35.401	27.129	8.271	30.316	23.519	6.797	5.085	3.610	1.474	
中華民國	144.189	108.953	35.236	214.077	147.781	66.296	△ 69.888	△ 38.828	△ 31.060	
露西亞	26.033	21.657	4.375	59.953	45.480	14.473	△ 33.920	△ 23.823	△ 10.098	
香港	8.624	3.438	5.186	16.130	7.588	8.542	△ 7.506	△ 4.150	△ 3.356	
英領印度	13.156	1.361	11.795	6.265	264	6.001	6.891	1.097	5.794	
蘭領印度	3.609	3.471	137	8.092	6.741	1.351	△ 4.483	△ 3.270	△ 1.214	
英吉利	11.624	7.068	4.555	20.819	16.443	4.376	△ 9.195	△ 9.375	179	
佛蘭西	2.575	1.940	634	2.238	1.533	705	337	407	△ 17	
獨逸	51.099	47.401	3.698	10.472	5.588	4.883	40.627	41.813	△ 1.185	
白耳義	1.480	966	513	2.545	350	2.194	△ 1.065	616	△ 1.681	
和蘭	4.247	4.040	206	39.162	38.596	565	△ 34.915	△ 34.556	△ 359	
伊太利	1.474	1.389	85	3.661	3.018	643	△ 2.187	△ 1.629	△ 558	
北美合衆國	14.588	3.211	11.376	18.744	6.120	12.624	△ 4.156	△ 2.909	△ 1.248	

備考 日本は臺灣を含む・本表には再輸出を含まず・本表は千海關兩未滿を切捨てたため、計に符合せざるものあり。【滿洲國財政部報告から】

滿洲の頁

滿洲に於ける 宣傳の種々相

滿洲の商店は、古くより實物を擴大した看板を店頭に掲げて、自分の店が如何なるものを賣る店であるかを一般に知らせる爲め、例へば錢替店が一厘錢の大實物、靴屋が靴の大實物、魚屋が魚の原型を店頭に掲げてゐるのや、飲食店が圓筒にふさふさとした色紙を張附け、馬具屋が馬の張子を掲げて居るの等が、よく滿洲旅行者の目に映ずると思ひますが、あれは皆文字によらぬ實物の自店廣告であり、宣傳のあらはれであると思ひます。

又滿商が開店の際、自店の看板を立派な御輿のやうなものに載せ、それを先頭に、支那式の賑やかな樂隊を奏しつゝ、行列を作つて街頭を走り歩きますが、之れを古くよりある滿洲式宣傳の一つでありませう。最近に至つては新聞廣告をする滿商も現れて來ましたが、まだ利用少くなく、消極的でありまして、撒布するビラの如きは粗悪な裏紙に、不鮮明な印刷を以て誇張的に書いた藥の廣告等を辻で配布して居るのを時々見受けませんが、之れが主なる文字利用の廣告であります。

その他文字の廣告としては綿布屋が赤い文字で書いた幟の如きものを軒より吊してゐるのや、美しく街を飾つてゐるのや、内地各本舗の製品廣告ビラが、

壁や門や、窓枠にベタ／＼と、然かも雜然と張られてゐるのも、又一つの滿洲風景です。

飾窓には自店販賣の總ての商品を所狭き迄に、平凡に陳列して、アカ／＼と濃厚な色紙で飾り、金屬屋はあらゆる銀製品の如きや、陶器屋は金銀で飾られた各種の器を、化粧品屋はあらゆる粗悪な化粧品を陳列して、目を惹くべく力めて居ります。

最近大都會ではニュース寫眞を陳列窓の内に掲げたのを見られます。又ラヂオや蓄音器を利用して擴聲し客を呼んでゐる店も大部殖えて來ました。特賣日等になると、赤の原紙に「アカ／＼」と大廉賣、大投賣の誇大文字を列べて人心を引付けて居ります。

特賣も變つたものがありまして、一ヶ月間に一日は無代進呈と云ふ方法を探つて人氣を集めてゐる滿商もあります。之れは一ヶ月間の内、何日と云ふ日を抽籤で一ヶ月後に選び、その日に買った客には商品代價を全部返却してやるという、如何にも滿人の射倖心を捉へた面白い方法で、隨分人氣があるやうです。

その他の宣傳としては、滿商は最近、ホーロー看板に稍々あきが來た傾きがありますが、それでも自店の店頭に一べい、至る所〇〇商品のホーロー看板を掲げて喜んで居ります。之れは一才内地には見られぬ情景でありませう。

内地人、或ひは外國人が考へた宣傳の方法としては、滿洲家

屋や壁に大型ポスターを一ヶ所に幾つも張つたもの、或ひはペンキで商品名を煉瓦壁一べいに大文字で書き現はしたものが、街頭の何處にもよく見られます。鐵道沿線の看板は右の煉瓦壁にペンキで書いたものが主として見られますが未だ内地に見るホーロー看板の如きは、作物の被害大なる爲めか、餘り利用されて居りませぬ。

ネオンサインは、新京大連奉天等の大都會に於いて内地人によつて紹介せられ、是等大都市の内地人商店街は、赤や青のネオンの光が夜の街を飾り、大連奉天の如きは内地の大都會に敗こればやがて遠からず滿商にも利用せられる時が來ましよう。

電飾廣告に就いても亦、大體同様の状態にあると見られます。

滿洲には例のヒーヒーカンガシといふ賑やかな支那式の滿洲音樂がありますが、之れを宣傳に利用したのも初めは内地人商人の手によつてであつて、其の後滿洲商人にも大部利用せられて來ました。

又近時内地の化粧品本舗等が内地より連れて來た洋樂隊を先頭に街の街頭宣傳を行つたりして居ますが、之れは從來餘り見られなかつたもの丈に、滿洲人に歓迎せられて居ります。

【花玉石齋本舖矢内宗武・三木忠次】

滿洲の小間物化粧品藥種雜貨商

大連

雜貨	柳屋	宮本	壽之助	榮町四
同	三省	野依	繁雄	若狹町七二八
同	福田	福田	義納	大正通一六
同	現金	塚原	寅男	大正通一の六
同	スター	西山	昌作	大正通一の六
同	伊勢屋	瀧本	幸次郎	伊勢町五二
同	ラッパ	石田	ひろ	磐城町五二
同	まるしん	片山	晋一	浪速町一一三
同	イロキヤ	森安	スエ	聖徳街五の二
同	有磯	高山	スエ	仲町一九
同	横内	横内	只次	大正通一の六
同	浪華	赤松	常吉	榮町四
同	野崎	野崎	富士衛	浪速町五一
同	左右	左田	秋造	浪速町一一三
同	出口	出口	太平	伊勢町八〇
同	大黒	關田	勝利	信濃町市場外
同	小黒	荒牧	孝	仲町二七
同	今小	馬場	金助	吉野町五四
同	かど	弘中	彦助	浪速町一四六
同	華昌	家守	藏次	常磐町一一
同	丸岡	丸岡	菊次郎	榮町二の六
同	桔梗	太田	ミヨ	浪速町一五一
同	今中	今中	猪一郎	浪速町一五四
同	會社	橋本	己之次郎	大正通一
同	ふり	小泉	專治	元町六九
同	小泉	村上	正三郎	磐城町三一
同	京瀨	川上	松之助	榮町四
同	會社	宇津木	徳太郎	浪速町一〇五
同	順天	持田	徳太郎	大正通一
同	村上	村上	晋一	常磐町一
同	土田	土田	泰庸	同三八
同	同	同	同	聖徳街四の八
同	同	同	同	同〇

藥種	大連	支賣	竹内	精一	浪速町一四七
同	日連	支賣	菱川	みね	淡路町七
同	ワカ	サ	黒田	四郎	若狹町一六三
同	谷澤	正平	谷澤	増吉	薩摩町二三
同	小寺	藥房	小寺	シメ	但馬町一八
同	名越	商店	名越	高太郎	對馬町二二
同	浦川	健康堂	浦川	清	巴町四五
同	石川	誠光	石川	良三郎	大正通三一
同	順和	公司	谷口	善一郎	山縣通九一
同	上野	藥局	上野	甚郎	聖徳街三の七
同	會社	石川	萬壽堂	萬次郎	信濃町一二三
同	松澤	商店	松澤	さか	監部通二〇

雜貨	外山	洋行	外山	宗一	青葉町七二
同	フタ	バヤ	小路	先治	乃木町三の三
同	丸宮	商店	友西	正義	敦賀町三
同	友田	商店	友田	順	久木町三の七
同	藤井	洋品	藤井	寛逸	同三の〇
同	永田	商店	永田	喜燕	乃木町三の一
同	田中	商店	田中	德三郎	乃木町三の二
同	宮竹	藥舖	宮竹	清介	青葉町七二
同	萬代	號藥房	萬代	啓吉	同二七

大石橋

雜貨	かき	や	商店	加藤	強助	大石橋石橋大街一の四五
同	成和	公司	笹山	卯三郎	蓋平城内	蓋平城内
同	盛記	號	木村	國太郎	蓋平城内	蓋平城内
同	近藤	洋行	山崎	徳繁	宣武街二	宣武街二

營口

雜貨	平本	洋行	加高	ハナ	新市街南本街
同	重田	百貨店	重田	富七	花園街
同	熊谷	商店	熊谷	徳次郎	同
同	池内	商店	稻田	義久	同
同	田口	商店	田口	義久	同
同	ミク	ニ	宮野	好雄	同
同	回天	商店	圓尾	敬治	同
同	丸目	商店	丸目	豐吉	同

東京業界品對滿輸出高 (昭和八年)	
滿洲輸入組合東京出張所調	
品種	年額取引高
袋物・小間物	一、八五三、四四五
賣藥・化粧品	三、六三三、六〇〇
莫大小製品	一四、三三七、六〇〇
ゴム製品・防水布類	二、九三六、九〇〇
服裝附屬品	一、三三七、二六〇
石鹼	四、二〇〇、三三〇

滿洲輸入組合

滿洲輸入組合聯合會	大連市羽衣町一〇
大阪出張所	大阪市北區中の島
東京出張所	大坂市役所産業部内
東京出張所	東京市麴町區丸の内
東京出張所	府立東京商工獎勵館内
大連輸入組合	大連市羽衣町一〇
旅順輸入組合	旅順市青葉町七二
大石橋輸入組合	大石橋大街二八
營口輸入組合	營口新市街南本街
鞍山輸入組合	鞍山大正通二の七九
遼陽輸入組合	遼陽昭通
奉天輸入組合	奉天平安通一七の一
撫順輸入組合	撫順中央大街四二
本溪湖輸入組合	本溪湖滿鐵地方事務所内
安東輸入組合	安東縣五番通六の三
鐵嶺輸入組合	鐵嶺松島町
開原輸入組合	開原大街一四
四平街輸入組合	四平街中央通
公主嶺輸入組合	公主嶺朝日町一の六
新京輸入組合	新京三笠町一の二六
吉林輸入組合	吉林省城頭南街、裕泰號内
哈爾濱輸入組合	哈爾濱埠頭區地段街一二一

滿蒙輸出組合に關する資料

一、普及の狀態

雜貨 丸善洋品店 野尻 善雄 市場通四丁目
 同 小田洋品店 小田 太四郎 同 七丁目
 同 マツヤ子供服店 松本 銀藏 同 四丁目
 同 川勝商店 川勝 正三郎 市場通五丁目
 同 西小間物店 西 重藏 同 五丁目
 同 寺本小間物店 寺本 佐太 同 同
 同 井上誠昌堂 布村 久作 市場通七丁目
 同 會社 石田快泉堂 石田 且治 同 四丁目
 同 會社 一木藥房 一木 且治 同 八丁目
 同 西村藥店 西村 庄三郎 南三條通三日
 同 望月福藥局 望月 福太郎 大和橋通八日

鐵 鐵

雜貨 共進商會支店 川路 桂吉 大手町
 同 鹽田洋行 鹽田 重繼 松島町
 同 飯田商會 飯田 若松 甚四郎 同
 同 飯田商會 飯田 小伊志 同

開 原

雜貨 會社 上田洋行 上田 熊次郎 開原大街三三
 同 會社 森田洋行 森田 信正 福昌街一
 同 藥種 天壽堂藥房 村田 保之 拋鹿大街二五
 同 三茂洋行 山崎 松太郎 寶山街一七
 同 大吉堂 吉田 治祐 同 八
 同 大昌號 國弘 ミネ 同 一
 同 隆昌號 坂宮 成 海龍街一九

四 平 街

雜貨 大和洋行 桂 馨三 中央通
 同 信濃洋行 牛澤 善治 南三條通
 同 東澤洋行 高橋 卯兵衛 中央通
 同 米田商店 米田 福太郎 南四條通
 同 林洋行 加藤 留一 同
 同 鹿島洋行 沼川 猪之助 南二條通
 同 大連洋行支店 宇津木 藤吉 北四條通
 同 藥種 岸藥房 岸 久藏 南三條通
 同 養生堂 平片 友吉 同

公 主 嶽

雜貨 小松洋行 小松 繁太 花園町〇の一

雜貨 會社 高取商會 高取 惠市 柳町一丁目二
 同 會社 小久保商行 小久保 勇八 花園町五
 同 田中化粧品店 田中 義郎 櫻町一丁目一
 同 長崎商行 長崎 薰 朝日町二丁目三
 同 高橋商店 高橋 和吉 東雲町一丁目
 同 鴻橋商店 大口 靖太 市場町二丁目五
 同 山本公茂堂 山本 茂之丞 柳町一丁目〇

新 京

雜貨 平本洋行 岡田 小太郎 日本橋通三三
 同 金泰洋行 石黒 仙治郎 同 三九
 同 現代號 茅本 喜一 同 三一
 同 廣春洋行 吉田 廣盛 吉野町二の二
 同 河久商店 河村 久市 三笠町二の二
 同 十文字屋 赤垣 幾四郎 東二條通一四
 同 長春勸商場 梅田 梅太郎 東一條通
 同 赤木洋行 赤木 常盤 三笠町三の二
 同 大葉商店 大葉 宗善 大和通三一
 同 柳丸商店 宮本 壽之助 中央通一二
 同 丸力商店 垣内 善藏 吉野町二の六
 同 丸岩商店 岩室 誠 梅ヶ枝町二の三
 同 小化美乃出 高野 キョウ 吉野町二の六
 同 日乃出 山本 八十四郎 吉野町二の七
 同 會社 長春大和藥房 藤市 三助 吉野町二の七
 同 藤生堂 藤市 三助 吉野町二の七
 同 東亞藥房 川上 謹一 日本橋通二六
 同 西澤藥房 西澤 鹿太郎 三笠町三の二
 同 洪盛堂 宮崎 竹次郎 同 二の五
 同 中央藥房 安本 初 日本橋通二九
 同 東洋藥房 西山 庄吾 同 五三
 同 杏仁堂 峰 彪 祝町五丁目
 同 今井藥房 今井 覺太郎 吉野町二の四
 同 萬福堂 木名瀬 晋之助 祝町五の四
 同 太陽堂 野崎 靖久 東一條通
 同 安達藥局 山口 初次郎 大萬路六二號
 同 山口商店 山口 初次郎 老松町一番地

吉 林

雜貨 裕泰號 堀井 覺太郎 河南街

一ク 販賣株式會社 中山 豐三 京橋區橫町七の四
 井田 榮堂 井田 友平 本所區整川二の六

メリヤス雜貨商

澤 京 商店 澤 京 治郎 日本橋區堀留町一の七
 小杉合名會社 小杉 佐右衛門 同 二の四
 カネノ商店 松尾 喜七 日本橋區橫山町二の〇
 田島治助商店 田島 治助 日本橋區大傳馬町三の二
 橫山新七商店 橫山 次郎 吉 神田區佐久間町二の七

藥 種 商

玉置合名會社 玉置 金八 日橋本區本町一の九
 萬有製藥株式會社 藤 確 日本橋區室町二の六
 三明化學製品所 友成 龜雄 品川區東大崎五の三七
 金井仙次郎商店 金井 仙次郎 向島區寺島町四の九九

ゴム並び及びその製品

柴田好太郎商店 柴田 好太郎 日本橋區橫山町二の三
 今泉清商店 今泉 清九郎 淺草區瓦町二二
 村瀨ゴム商店 村瀨 榮重 神田區東福田町一二
 村田ゴム商店 村田 義次 神田區久右衛門町七
 ロイヤルセルロイド 石原 力兵衛 向島區寺島町四の八五

鞆袋物商

坪内廣喜堂 坪内 廣治郎 日本橋區馬喰町三丁目
 福本福太郎商店 福本 福太郎 日本橋區馬喰町四の二
 松崎東京營業所 堀川 榮一 淺草區旅籠町一の一六

服裝附屬品

寺田商店 寺田 銚三郎 日本橋區橫山町一の二
 伊藤商店 伊藤 彌三郎 日本橋區馬喰町二の八
 高瀬商店 高瀬 富三郎 荒川區日暮里三の七七

關東州輸入業界 品數量及價額國 別表

品名及國名	價額
化粧品	1,634,022
日中露イフドベイオテ北	2,182
日中露イフドベイオテ北	231,806
日中露イフドベイオテ北	22,264
日中露イフドベイオテ北	2,641
日中露イフドベイオテ北	2,933
日中露イフドベイオテ北	3,157
日中露イフドベイオテ北	17,829
日中露イフドベイオテ北	53
日中露イフドベイオテ北	26
日中露イフドベイオテ北	180
日中露イフドベイオテ北	614
日中露イフドベイオテ北	2,565
日中露イフドベイオテ北	1,920,272
油脂	3,251,281
日中露イフドベイオテ北	65,468
日中露イフドベイオテ北	875,674
日中露イフドベイオテ北	45,753
日中露イフドベイオテ北	409
日中露イフドベイオテ北	5,542
日中露イフドベイオテ北	27,057
日中露イフドベイオテ北	8,051
日中露イフドベイオテ北	12,171
日中露イフドベイオテ北	7,338
日中露イフドベイオテ北	491
日中露イフドベイオテ北	634
日中露イフドベイオテ北	589
日中露イフドベイオテ北	285,986
日中露イフドベイオテ北	432,903
日中露イフドベイオテ北	1,750
日中露イフドベイオテ北	2,044
日中露イフドベイオテ北	5,023,141
藥材及藥品	2,976,487
日中露イフドベイオテ北	137,681
日中露イフドベイオテ北	236,819
日中露イフドベイオテ北	289
日中露イフドベイオテ北	554,394
日中露イフドベイオテ北	633,791
日中露イフドベイオテ北	78,188
日中露イフドベイオテ北	5,461
日中露イフドベイオテ北	4,529
日中露イフドベイオテ北	224,703
日中露イフドベイオテ北	7,991
日中露イフドベイオテ北	152,074
日中露イフドベイオテ北	19,041
日中露イフドベイオテ北	3,108
日中露イフドベイオテ北	234,344
日中露イフドベイオテ北	742
日中露イフドベイオテ北	503
日中露イフドベイオテ北	315,273
日中露イフドベイオテ北	3,011
日中露イフドベイオテ北	41,839
日中露イフドベイオテ北	5,680,298

昭和七年・“關東州貿易統計”から
〔昭和八年十一月・關東廳刊〕

哈爾濱商品陳列館一覽

所在地 哈爾濱東經緯街
創立年月 大正七年四月三十日
經營者 日露協會
土地建物 敷地六八〇坪
建物延坪數五四九坪五合

事業內容
一、露滿蒙向商品及び參考品の展示並びに説明
二、露滿蒙重要産物の展示並びに説明
三、各種の調査報告並びに通信
四、商品の改良指導
五、展覽會、見本市等の斡旋援助
六、貿易及び企業に關する紹介及び仲介
七、その他貿易企業促進に資すべき施設
八、圖書及び陳列品目錄等の刊行配布

館長 川角忠雄
館員 九名

日滿電報の料金改正

滿洲電信電話株式會社の電報料は、九年四月一日より左の如く改正された。

一、和文電報の七字一語制を五字一語制に改め名宛一語の計算を二語とし一通の最低語數三語を五語とす

二、通常電報の一語料金を一般に左の通り減する

日滿間和文電報 官報六錢、私報八錢、
歐文電報 官報八錢、私報十錢
滿洲内又は滿鮮間和文電報 官私報六錢、歐文又は漢文電報官私報八錢

關東州
滿鐵附屬地
主要都邑人口一覽
(昭和八年十二月末日關東廳調査)

都邑名	人口	内地人	朝鮮人	滿洲街	計
大石橋	五、七五二	二、九〇八	一、九五	二、三八〇	八、三三二
警陽口	六、四六一	三、四五五	七九三	二〇五、八三三	二、二九四
遼陽	七、三三三	三、五七六	一九五	六、一四三	六、九七五
奉天	五、九五五	三、八〇〇	一、三〇〇	三、九四四	四、七五五
鐵嶺	四、五二七	二、七三四	二〇〇	四、五三三	四、八五五
新京	五、一三六	二、三七一	二、五六四	四、三三三	二、九三三
撫順	三、九二二	一、五二六	三、六三三	二、八八六	六、〇九七
安東	六、七〇二	二、五九九	二、三八九	一〇、八四〇	一、七五二

滿洲商標各國登録數

滿洲國政府が商標法を公布實施した昨年十一月廿日より今年同月同日に至る滿一ヶ年の各國別商標登録數は

▲日本一萬二千四百二 ▲英國千五百五十四 ▲米國九百六十三 ▲ドイツ千四百七十七 ▲フランス二百九十五 ▲支那七十三 ▲カナダ十一 ▲イタリー十五 ▲ポーランド一 ▲スウェーデン九十七 ▲スエーデン八 ▲ノルウェー一五 ▲オランダ廿八 ▲オーストリー二 ▲フィンランド五 ▲デンマーク十一 ▲ロシア十一 ▲チエツコ ▲スロヴァキア十八 ▲キューバ四 ▲リトニア二 ▲ギリシア一 ▲アビシニア二 ▲オーストラリア三 ▲無國籍五 ▲滿洲國二百一 ▲合計一萬六千四百六十四

以上の如く非常な成績をあげてゐるが、滿洲國政府の未承認國である英、米、佛、伊、獨等の諸國を初め中華民國までが通商關係においては滿洲國の法令を認めざるを得ずいづれも相當數の登録をしてゐるのには面白い。

出品種類 四、一五〇人
出品點數 二一、八三二點
商取引仲介件數(昭和八年度) 七、七五件 内成立六八七件
來館人數 昭和八年度 五、九六七人
邦人 四、八三三人
露人 二、六三七人
滿洲國人 四、八三三人
その他の外國人 二、六三七人
合計 一三、四八四人
刊行物 館報「露滿蒙時報」月刊
パンフレット 隨時

關東州	都邑名	人口	内地人	朝鮮人
旅順	二九、七三七	一一、九九	一一、九〇	二〇〇
大連	三〇七、八七一	二七、四三	一、六九	一、六九
金州	一七、三三三	一、四三	一、四三	一、四三

滿鐵附屬地